平成１９年度

子どもの男女共同参画に関する意識調査報告書

―「学校・家庭における経験や意識に関するアンケート調査」より―

豊田市

目次

調査結果の概要

Ⅰ. 調査の概要 1

1 調査の概要 1

1-1. 調査の目的 1

1-2. 調査項目 1

1-3. 調査方法 2

＜学校数と回答数＞ 2

2 回答者属性 3

2-1. 回答者属性 3

Ⅱ. 調査結果の分析－小学生 7

1 家庭生活について 7

1-1. 家庭における役割分担 7

1-2. 手伝いの内容 18

1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方 21

2 学校生活について 23

2-1. 学校の係等について 23

2-2. 学校の教科について 28

3 『女の子だから・男の子だから』と言われること 30

3-1. 『女の子だから・男の子だから』と言われた経験について 30

3-2. 『女の子だから・男の子だから』と言われた相手 32

4 将来の姿 36

4-1. どのような人になりたいか 36

4-2. 生まれ変わるとき 38

Ⅲ. 調査結果の分析－中学生 39

1 家庭生活 39

1-1. 家庭における役割分担 39

1-2. 手伝いの内容 48

1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方 51

2 男女の役割分担について 53

2-1. 将来の『男・女』の役割分担の考え方 53

2-2. 女性の働き方についての考え方 55

3　学校生活について 57
3-1.　学校の係等について 57
3-2.　学校の教科について 62
3-3.　進学の希望 64
4　『女の子だから・男の子だから』と言われること 65
4-1.　『女の子だから・男の子だから』と言われた経験について 65
4-2.　『女の子だから・男の子だから』と言われた相手 66
5　将来の姿 70
5-1.　どのような人になりたいか 70
5-2.　『男らしく・女らしく』についての考え方 71
6　ライフスタイル・ライフコースについての考え方 73
6-1.　仕事と家庭生活のバランスについて 73
6-2.　女性のライフコースについて 74
Ⅳ．調査結果の分析－高校生 77
1　家庭生活 77
1-1.　家庭における役割分担 77
1-2.　手伝いの内容 85
1-3.　勉強と手伝いの重きの置き方 89
2　男女の役割分担について 91
2-1.　将来の『男・女』の役割分担の考え方 91
2-2.　女性の働き方についての考え方 93
3　学校生活について 96
3-1.　学校の係等について 96
3-2.　学校の教科について 100
3-3.　進学の希望 102
4　『女の子・男の子だから』と言われること 103
4-1.　『女の子だから・男の子だから』と言われた経験について 103
4-2.　『女の子だから・男の子だから』といわれた相手 105
5　将来の姿 108
5-1.　どのような人になりたいか 108
5-2.　『男らしく・女らしく』についての考え方 110
6　ライフスタイル・ライフコースについての考え方 112
6-1.　仕事と家庭のバランスについて 112

6-2. 女性のライフコースについて 115
6-3. 両親の関係について 117
Ⅴ. 比較とまとめ 119
1 家庭生活 119
1-1. 家庭における役割分担 119
1-2. 手伝いの種類 125
1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方 125
2 男女の役割分担について 128
2-1. 将来の『男・女』の役割分担の考え方 128
2-2. 女性の働き方についての考え方 129
3 学校生活について 130
3-1. 学校の係等について 130
3-2. 進学の希望 134
4 『女の子だから・男の子だから』と言われること 135
4-1. 『女の子だから・男の子だから』と言われた経験について 135
4-2. 『女の子だから・男の子だから』といわれた相手 135
5 将来の姿 137
5-1. どのような人になりたいか 137
5-2. 『男らしく・女らしく』についての考え方 137
6 ライフスタイル・ライフコースについて 139
6-1. 仕事と家庭のバランスについて 139
6-2. 女性のライフコースについて 139
Ⅵ. 問題・課題と今後の取組の方向性 141
参考：「子どもの男女共同参画に関する意識調査」調査票

図表目次

図表 I-1 性別（小学生） 3
図表 I-2 性別（中学生） 3
図表 I-3 性別（高校生） 3
図表 I-4 家族構成 4
図表 I-5 家族構成 4
図表 I-6 家族構成 4
図表 I-7 父親の職業 5
図表 I-8 父親の職業 5
図表 I-9 父親の職業 5
図表 I-10 母親の職業 6
図表 I-11 母親の職業 6
図表 I-12 母親の職業 6

ー小学生

図表 II-1 家での役割 8
図表 II-2 家での役割:夕食のしたく 10
図表 II-3 家での役割:夕食のあとかたづけ 10
図表 II-4 家での役割:家の中のそうじ 11
図表 II-5 家での役割:せんたく・せんたく物を干すこと 11
図表 II-6 家での役割:せんたく物の取り入れ・たたむこと 11
図表 II-7 家での役割:普段の日の食事のかいもの 12
図表 II-8 家での役割:ごみ出し 12
図表 II-9 家での役割:学校行事への参加 12
図表 II-10 家での役割:地域の活動 13
図表 II-11 家での役割:風呂に一番先に入ること 13
図表 II-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ 13
図表 II-13 家での役割:夕食のしたく 15
図表 II-14 家での役割:夕食のあとかたづけ 15
図表 II-15 家での役割:家の中のそうじ 15
図表 II-16 家での役割:せんたく・せんたく物を干すこと 15
図表 II-17 家での役割:せんたく物の取り入れ・たたむこと 16
図表 II-18 家での役割:普段の日の食事のかいもの 16
図表 II-19 家での役割:ごみ出し 16
図表 II-20 家での役割:学校行事への参加 16
図表 II-21 家での役割:地域の活動 17
図表 II-22 家での役割: 風呂に一番先に入ること 17
図表 II-23 家での役割: 蛍光灯の取りかえ 17
図表 II-24 自分が家の中でやっている手つだい 19
図表 II-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数） 20
図表 II-26 家族の考え 21
図表 II-27 自分の考え 22
図表 II-28 学校での役割 24
図表 II-29 学校での役割:委員会の委員長 25
図表 II-30 学校での役割:委員会の副委員長 25
図表 II-31 学校での役割:運動会の応援団長 26
図表 II-32 学校での役割:学習グループのリーダーや班長 26
図表 II-33 学校での役割:重いものを運ぶこと 26
図表 II-34 学校での役割:整理整頓をすること 27
図表 II-35 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること 27
図表 II-36 名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと 27
図表 II-37 好きな教科・嫌いな教科 29
図表 II-38 得意な教科・苦手な教科 29
図表 II-39 『女の子だから・男の子のくせに』などといわれた経験 31
図表 II-40 だれから言われることが多いか 33
図表 II-41 どのようなときに言われたか 35
図表 II-42 どのような人になりたいか-上位5つ 36

図表 II-43 どのような人になりたいか 37
図表 II-44 生まれ変わるとしたらどちらがよいか 38

－中学生

図表 III-1 家での役割 40
図表 III-2 家での役割:夕食のしたく 41
図表 III-3 家での役割:夕食のあとかたづけ 41
図表 III-4 家での役割:家の中のそうじ 42
図表 III-5 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと 42
図表 III-6 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと 42
図表 III-7 家での役割:普段の日の食事の買い物 43
図表 III-8 家での役割:ごみ出し 43
図表 III-9 家での役割:学校行事への参加 43
図表 III-10 家での役割:地域の活動 44
図表 III-11 家での役割:風呂に一番先に入ること 44
図表 III-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ 44
図表 III-13 家での役割:夕食のしたく 45
図表 III-14 家での役割:夕食のあとかたづけ 45
図表 III-15 家での役割:家の中のそうじ 45
図表 III-16 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと 46
図表 III-17 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと 46
図表 III-18 家での役割:普段の日の食事の買い物 46
図表 III-19 家での役割:ごみ出し 46
図表 III-20 家での役割:学校行事への参加 47
図表 III-21 家での役割:地域の活動 47
図表 III-22 家での役割:風呂に一番先に入ること 47
図表 III-23 家での役割:蛍光灯の取りかえ 47
図表 III-24 自分が家の中でやっている手伝い 49
図表 III-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数） 50
図表 III-26 家族の考え 51
図表 III-27 自分の考え 52
図表 III-28 『男は仕事・女は家庭』という考え方について 54
図表 III-29 どのような夫婦になりたいか 56
図表 III-30 学校での役割 58
図表 III-31 学校での役割:生徒会や委員会の会長や委員長 59
図表 III-32 学校での役割:生徒会や委員会の副会長や副委員長 59
図表 III-33 学校での役割:運動会の応援団長 59
図表 III-34 学校での役割:学習グループのリーダーや班長 60
図表 III-35 学校での役割:重いものを運ぶこと 60
図表 III-36 学校での役割:整理整頓をすること 60
図表 III-37 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること 61
図表 III-38 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと 61
図表 III-39 好きな教科・嫌いな教科 63
図表 III-40 得意な苦手な教科教科 63
図表 III-41 どこまで進学を希望するか 64
図表 III-42 『女の子だから・男の子だから』などといわれた経験 66
図表 III-43 だれから言われることが多いか 67
図表 III-44 どのようなときに言われたか 69
図表 III-45 どのような人になりたいか-上位5つ 70
図表 III-46 どのような人になりたいか 71
図表 III-47 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方について 72
図表 III-48 将来、仕事とそれ以外の生活をどうしたいか 74
図表 III-49 女性の生き方としてどれが望ましいか 75

－高校生

図表 IV-1 家での役割 78
図表 IV-2 家での役割:夕食のしたく 79
図表 IV-3 家での役割:夕食のあとかたづけ 79

図表 Ⅳ-4 家での役割:家の中のそうじ 79
図表 Ⅳ-5 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと 80
図表 Ⅳ-6 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと 80
図表 Ⅳ-7 家での役割:普段の日の食事のかいもの 80
図表 Ⅳ-8 家での役割:ごみ出し 81
図表 Ⅳ-9 家での役割:学校行事への参加 81
図表 Ⅳ-10 家での役割:地域の活動 81
図表 Ⅳ-11 家での役割:風呂に一番先に入ること 82
図表 Ⅳ-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ 82
図表 Ⅳ-13 家での役割:夕食のしたく 83
図表 Ⅳ-14 家での役割:夕食のあとかたづけ 83
図表 Ⅳ-15 家での役割:家の中のそうじ 83
図表 Ⅳ-16 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと 83
図表 Ⅳ-17 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと 84
図表 Ⅳ-18 家での役割:普段の日の食事のかいもの 84
図表 Ⅳ-19 家での役割:ごみ出し 84
図表 Ⅳ-20 家での役割:学校行事への参加 84
図表 Ⅳ-21 家での役割:地域の活動 85
図表 Ⅳ-22 家での役割:風呂に一番先に入ること 85
図表 Ⅳ-23 家での役割:蛍光灯の取りかえ 85
図表 Ⅳ-24 自分が家の中でやっている手つだい 86
図表 Ⅳ-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数） 88
図表 Ⅳ-26 家族の考え 89
図表 Ⅳ-27 自分の考え 90
図表 Ⅳ-28 『男は仕事・女は家庭』という考え方について 92
図表 Ⅳ-29 どのような夫婦になりたいか 94
図表 Ⅳ-30 学校での役割 97
図表 Ⅳ-31 学校での役割:生徒会や委員会の会長や委員長 98
図表 Ⅳ-32 学校での役割:生徒会や委員会の副会長や副委員長 98
図表 Ⅳ-33 学校での役割:運動会の応援団長 98
図表 Ⅳ-34 学校での役割:学習グループのリーダーや班長 99
図表 Ⅳ-35 学校での役割:重いものを運ぶこと 99
図表 Ⅳ-36 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること 99
図表 Ⅳ-37 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと 100
図表 Ⅳ-38 好きな教科・嫌いな教科 101
図表 Ⅳ-39 得意な教科・苦手な教科 101
図表 Ⅳ-40 どこまで進学を希望するか 102
図表 Ⅳ-41 『女の子だから・男の子のくせに』などといわれた経験 104
図表 Ⅳ-42 だれから言われることが多いか 106
図表 Ⅳ-43 どのようなときに言われたか 107
図表 Ⅳ-44 どのような人になりたいか-上位5つ 108
図表 Ⅳ-45 どのような人になりたいか 109
図表 Ⅳ-46 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方について 111
図表 Ⅳ-47 将来、仕事とそれ以外の生活をどうしたいか 113
図表 Ⅳ-48 女性の生き方としてどれが望ましいか 115
図表 Ⅳ-49 自分の家庭であてはまるもの 118

－比較

図表 Ⅴ-1 家での役割:夕食のしたく 119
図表 Ⅴ-2 家での役割:夕食のあとかたづけ 120
図表 Ⅴ-3 家での役割:家の中のそうじ 120
図表 Ⅴ-4 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと 121
図表 Ⅴ-5 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと 121
図表 Ⅴ-6 家での役割:普段の日の食事の買い物 122
図表 Ⅴ-7 家での役割:ごみ出し 122
図表 Ⅴ-8 家での役割:学校行事への参加 123
図表 Ⅴ-9 家での役割:地域の活動 123

図表 V-10 家での役割:風呂に一番先に入ること 124
図表 V-11 家での役割:蛍光灯の取りかえ 124
図表 V-12 自分が家の中でやっている手つだい 125
図表 V-13 家族の考え 126
図表 V-14 自分の考え 127
図表 V-15 『男は仕事・女は家庭』という考え方について 128
図表 V-16 どのような夫婦になりたいか 129
図表 V-17 学校での役割:委員会の委員長 130
図表 V-18 学校での役割:委員会の副委員長 131
図表 V-19 学校での役割:運動会の応援団長 131
図表 V-20 学校での役割:学習グループのリーダーや班長 132
図表 V-21 学校での役割:重いものを運ぶこと 132
図表 V-22 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること 133
図表 V-23 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと 133
図表 V-24 どこまで進学を希望するか 134
図表 V-25 『女の子だから・男の子のくせに』などといわれた経験 135
図表 V-26 だれから言われることが多いか 136
図表 V-27 どのようなときに言われたか 136
図表 V-28 どのような人になりたいか 137
図表 V-29 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方について 138
図表 V-30 将来、仕事とそれ以外の生活をどうしたいか 139
図表 V-31 女性の生き方としてどれが望ましいか 140

調査結果の概要

子どもの男女共同参画に関する意識調査報告書 概要版

「学校・家庭における経験や意識に関するアンケート調査」より

平成20年3月　豊田市

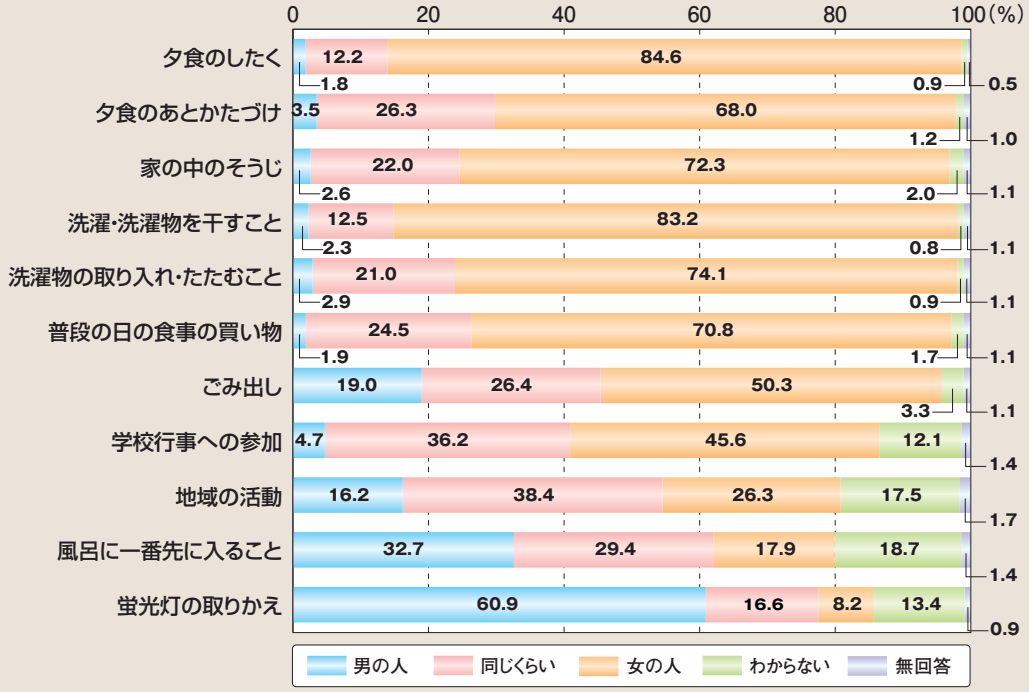
調査の概要

◎この調査は、平成19年9月に市内の小学校11校（5年生988人）、中学校9校（2年生950人）、高等学校5校（2年生995人）の児童・生徒のみなさんに学校や家庭における経験や意識について回答していただいた結果をとりまとめています。
◎家庭における家事の役割分担、学校での役割に対する男向きの仕事・女向きの仕事に対する考え方、『男らしく・女らしく』と言われた経験や将来どのような人になりたいと思うか、などを聞いています。
◎皆さんなら、どのように答えるでしょうか。また、回答の結果をみて、どのようなことが問題なのか、ご家族の皆さんも一緒に考えてください。

はじめに、家庭の仕事を男性と女性がどのように分担しているのかみてみましょう。

夕食のしたく、家の中のそうじ、洗濯、普段の買い物など、家事はほとんど女性が担っていることがわかります。では、男性は、家の中の仕事で何を担っているかみてください。『蛍光灯の取り替え』だけは、60%以上が男性の役割となっていますが、男性と女性が同じくらい分担している仕事の少ないことに驚きます。これは、女性が外で仕事をしている世帯においても同様の傾向がみられました。

■家庭における男女の役割分担（小中高校生合計）



昔は、『家事は女の仕事』と決めつけられているところがありました。そのために、今でも家の中の仕事の多くを女性が分担し、それは、女性が外に仕事をもっているかに係わらず、女性の役割となっているようです。

ポイント!　女性に家事が集中していることについて、見直してみませんか

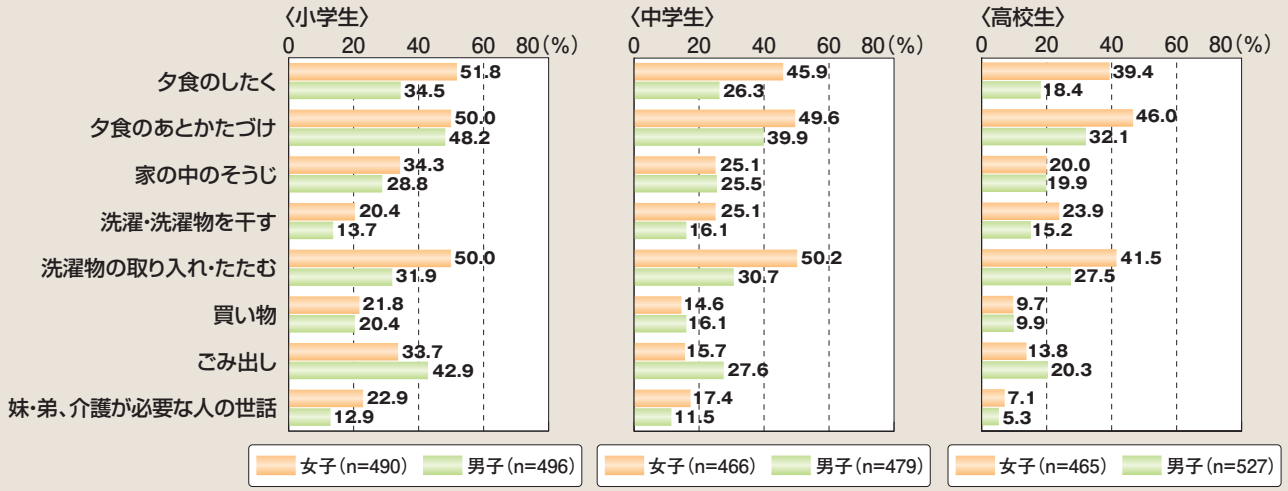
子どもたちが
家庭でどのような手伝いをしているのかみてみましょう。

まず、小学生の女子は、『夕食のしたく』や『あとかたづけ』『洗濯物の取り入れ』などの手伝いをよくしています。女子に比べるとわずかに低い割合ですが、男子も、『ごみ出し』のように女子より高い割合のものもみられます。

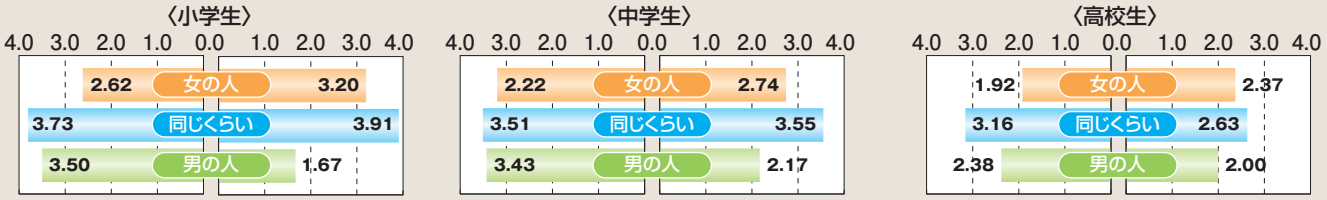
中学生になるとどうでしょうか。女子は小学生と同じくらいにお手伝いをしていますが、男子は女子に比べて手伝いの割合が低くなっているようです。しかも、小学生より中学生の男子の方が全体的に手伝いの割合が低くなっています。

高校生をみてみましょう。小学生や中学生と比べて全体的に低くなりますが、それでも女子は、『夕食のあとかたづけ』や『洗濯物の取り入れ』は40%を超えています。それに対して男子はどうでしょうか。小学生や中学生だけでなく、同年代の女子に比べても低くなっています。家の手伝いをする・しないは、家庭における男女の協力が影響しているようです。「夕食のしたく」をだれが主に分担しているかと子どもの手伝いの数をみてください。男の人も女の人も「同じくらい」夕食のしたくをする家庭の子どもは、「女の人」「や「男の人」のどちらか一方が多く分担している家庭の子どもより、家での手伝いの数が多く、家事への抵抗感があまりないことがうかがえます。

■家庭における男女の役割分担



■「夕食のしたく」の男女の役割分担と子どもの手伝いの数



※家庭において「夕食のしたく」の役割をだれが担っているか別に、子どもたちの手伝いの数の平均を求めたもの

なぜ、女子は男子よりも家の手伝いをよくしているのでしょうか。

従来から『女性は、家事をするのがあたりまえ』と考えられてきました。そのため、今でも、暗黙のうちに家事のほとんどが女性の役割になっているのです。

もちろん、夫が外で働き、妻は家事をするという分担もありますから、女性が家事をすることが悪いというわけではありません。ただし、子どもの手伝いは、夫婦の役割分担とは意味が違います。

子どもは男の子も女の子も平等で、将来に向けて同じ可能性をもっています。男の子だからといって家事をしなくてもよいということにはなりませんし、女の子だからといって、家事をしなければならないと決まっている訳ではありません。

重要なのは、女の子だから家事を手伝うべき、という偏った考え方ではなく、家族として協力するという態度や姿勢を身に付けることです。

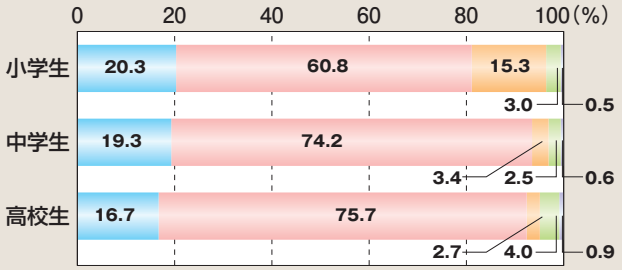
ポイント! **家族みんなで協力できるよう役割分担を考えてみましょう**

男女平等が最も浸透している
学校の委員会などの役割分担についてみてみましょう。

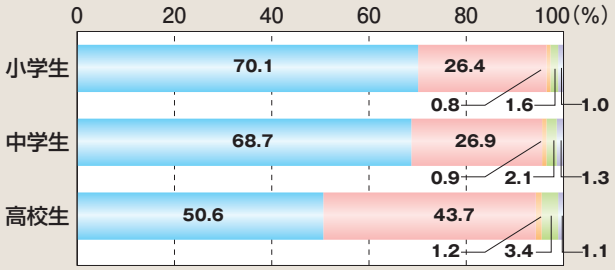
数年前まで、生徒会の委員長は男子、副委員長は女子という区分が普通でした。しかし、今はそのような役割区分はみられなくなってきています。アンケートでも委員長や副委員長、学習グループのリーダーや班長について、男女のどちらでもよいという回答が大半を占めるようになっています。

その一方で、「重い物を運ぶこと」や「運動会の応援団長」はどうでしょうか。これらについては、どちらかというと男子に向いていると考えられています。逆に、「下級生や新入生のめんどうをみること」は女子の方が向いているとみられる傾向があります。

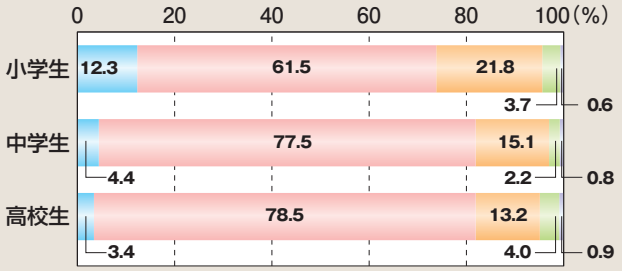
■委員会の委員長



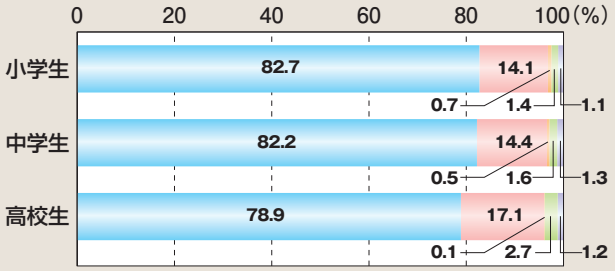
■運動会の応援団長



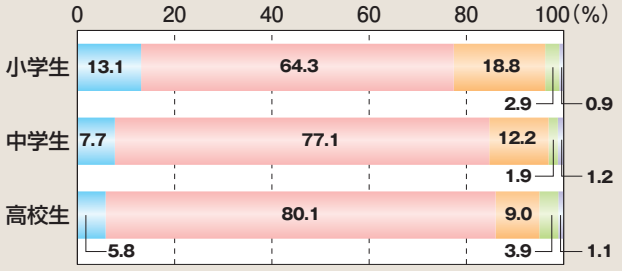
■委員会の副委員長



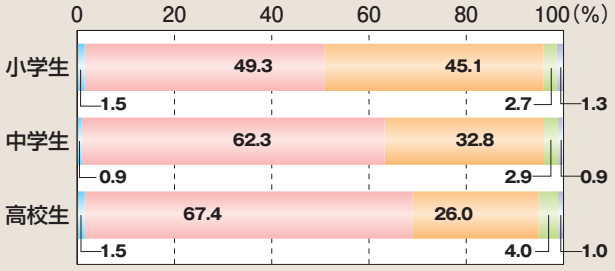
■重い物を運ぶこと



■学習のグループリーダーや班長



■下級生や新入生のめんどうをみること



重い物を持つことは男子向き、応援団長は男子向きと考えるのはなぜでしょうか。

男子は、『力があって、声が大きい』と決めつけられているため、力を出す仕事や声を張り上げる仕事は男子向きと区分されるのでしょう。しかし、男子だからといって力が強く、声が大きい人ばかりではありません。では、女子についてはどうでしょうか。『女性＝小さい子やお年寄りのめんどうをみる』という従来からの女性への役割意識があって、下級生のめんどうは女子向きの仕事と思われているのではないでしょうか。

一人ひとり人格も個性もみな違っています。

ポイント! **男子・女子という区分ではなく、人格や個性を尊重した役割分担を考えてみましょう**

「女の子だから～しなさい」「男のくせに～」
と言われた経験と相手についてみてみましょう。

小学生、中学生、高校生ともに、男子に比べて、女子は『女の子だから～』といわれる割合が高くなっています。

しかも、女子の場合、小学生の時より中学生になってからの方が『女の子だから～しなさい』と言われる割合が高くなっています。

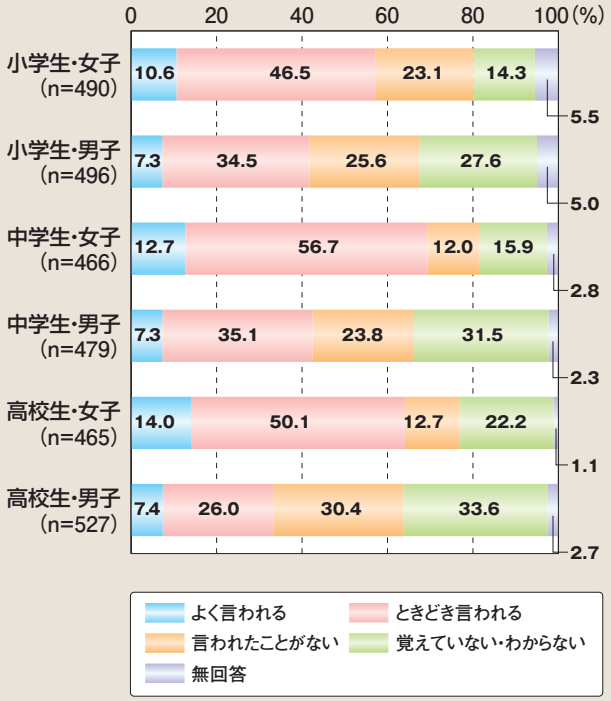
そして、小学生も中学生も高校生も、男子も女子も、最も多く言われる相手は、お母さんです。

その一つの理由は、通常母親の方が父親などと比較して、子どもと接する時間が長いため、『女の子だから、男の子だから』という頻度が高くなりがちであることは考えられますが、それだけでしょうか。

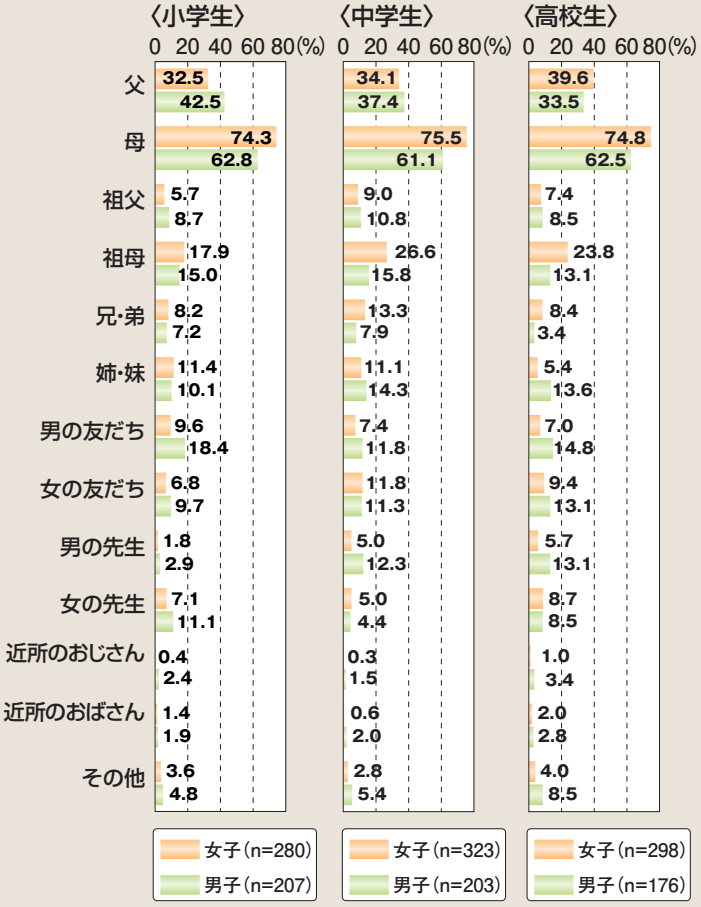
女性（母親）の方が『女の子・男の子』という区分意識を強くもっているとも考えられます。

また、父親についてみると、女子は、小学生より中学生、高校生となるほど高い割合となっています。父親にとって、年長の女子ほど、『女の子だから～しなさい』という意識を強くもつようになるのでしょうか。

■「女の子だから、男の子だから」と言われた経験



■「女の子だから、男の子だから」と言われる相手



なぜ、女子は、『女の子だから』と男子より強く言われるのでしょうか。

女子は生活する上で、『女の子だからしなければいけない』ことや『女の子だからしてはいけないこと』が男子よりも多くあるのでしょうか。このように、不用意に『女の子だから、男の子だから』と周囲が言うことは、生き方や選択の幅を狭めたり、行動や意志決定の自由を奪うことにもつながってしまいます。

人として身に付けるべき規範は、女・男という性別に関係ないものです。逆に、女・男に関わりなく、個性を発揮して、それを伸ばせるよう支えることが父親・母親や大人の責任です。

ポイント! **性別で行動を制約するよりも大人への道筋をつけてあげましょう**

どんな時に、「女の子だから、男の子だから」と言われているのかみてみましょう。

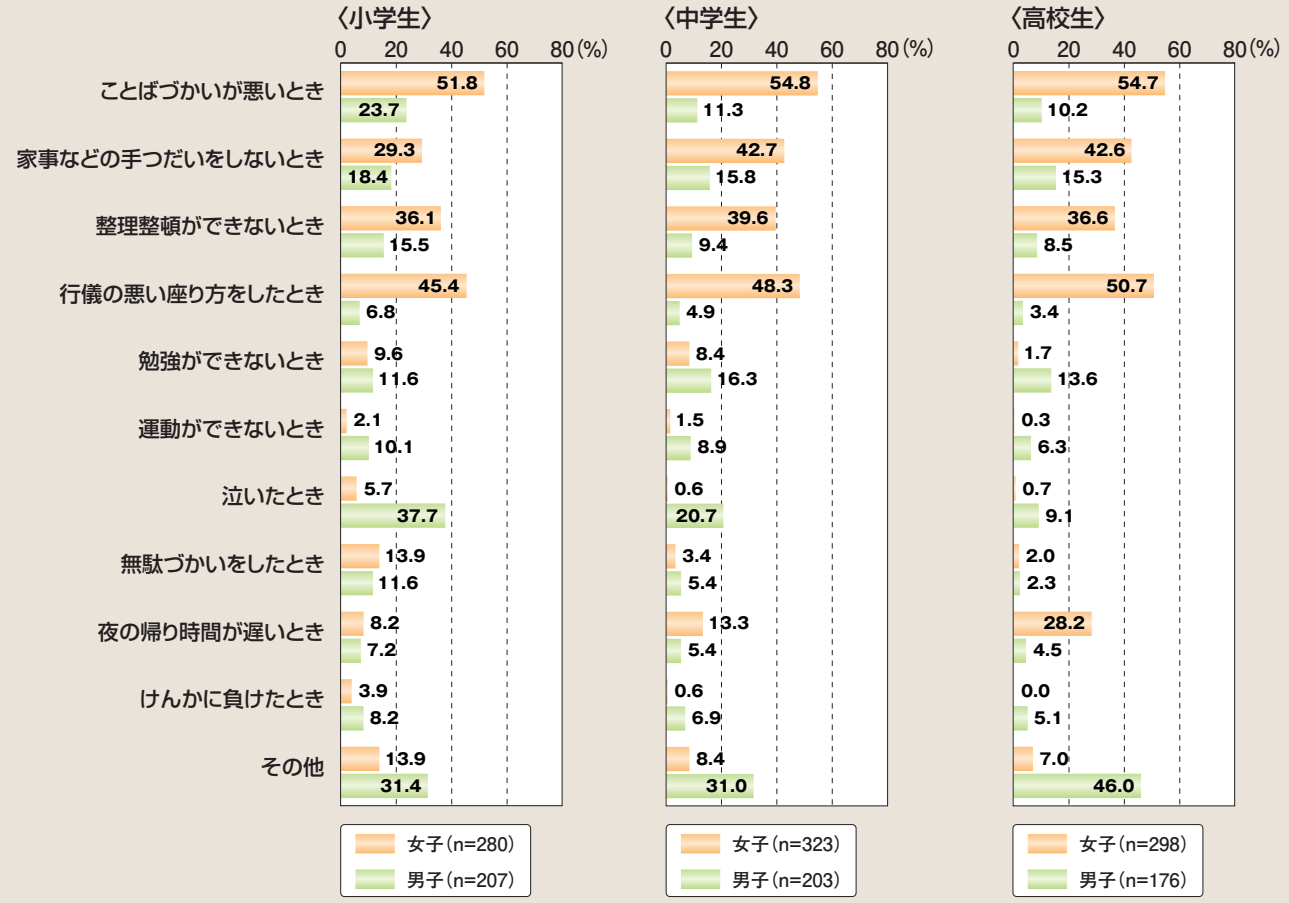
『ことばづかいが悪い』『家事などの手伝いをしない』『行儀が悪い』『整理整頓ができない』が女子の小学生、中学生、高校生で非常に高い割合となっています。

では、女子の方が、男子に比べて、ことばが乱暴で、手伝いをせず、整理整頓もしないし、行儀も悪いのでしょうか。

少なくとも家の手伝いについては、男子に比べて女子の方がよくやっていることはアンケート調査で明らかになっています。

逆に男子はどうでしょうか。小学生の男子では『泣いたとき』、中学生や高校生の男子では『勉強ができないとき』に『男のくせに～』と言われることがあるようです。

■「女の子だから、男の子だから」と言われる内容



『ことばづかい』『家事などの手伝い』『行儀』『整理整頓』は、なぜ女子の方が割合が高いのでしょうか。その根底には、女性は、やさしいことばづかいで、家事をこなすもの、という固定的な女性の捉え方があるのではないでしょうか。逆に、男の子が、『泣くこと』『勉強ができないこと』について、『男のくせに』と言われる背景には、男は泣かないもの、勉強ができて、リーダーシップをとるものという固定的な考え方があることがうかがえます。

ことばづかいや行儀、手伝いなど、男女の性別とは関係なく、身に付けるべきたしなみであり、規範です。泣くことは人間らしい感情の表れでもあり、人はみんな勉強をして成長していきます。

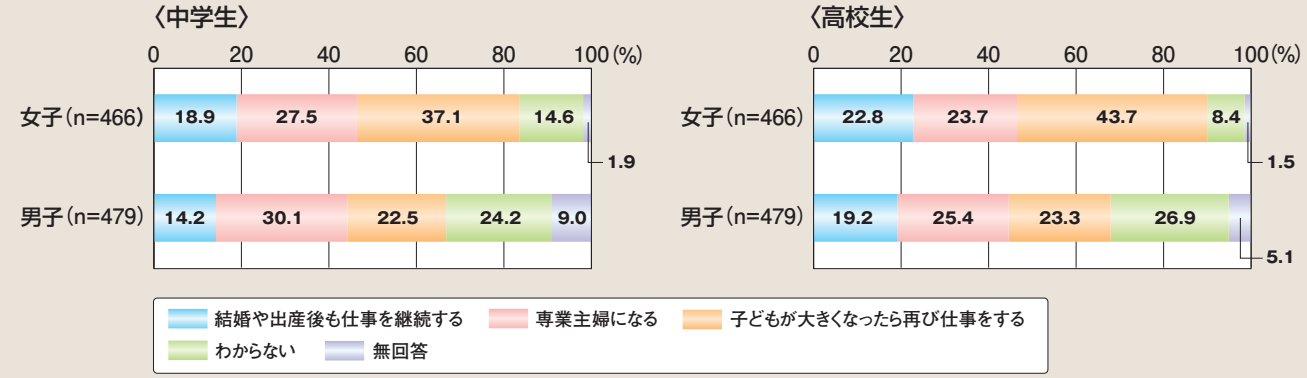
ポイント! **子ども一人ひとりの成長のためのことばをかけましょう**

女性が結婚や出産を経て、仕事をどのように継続していくのかという女性の

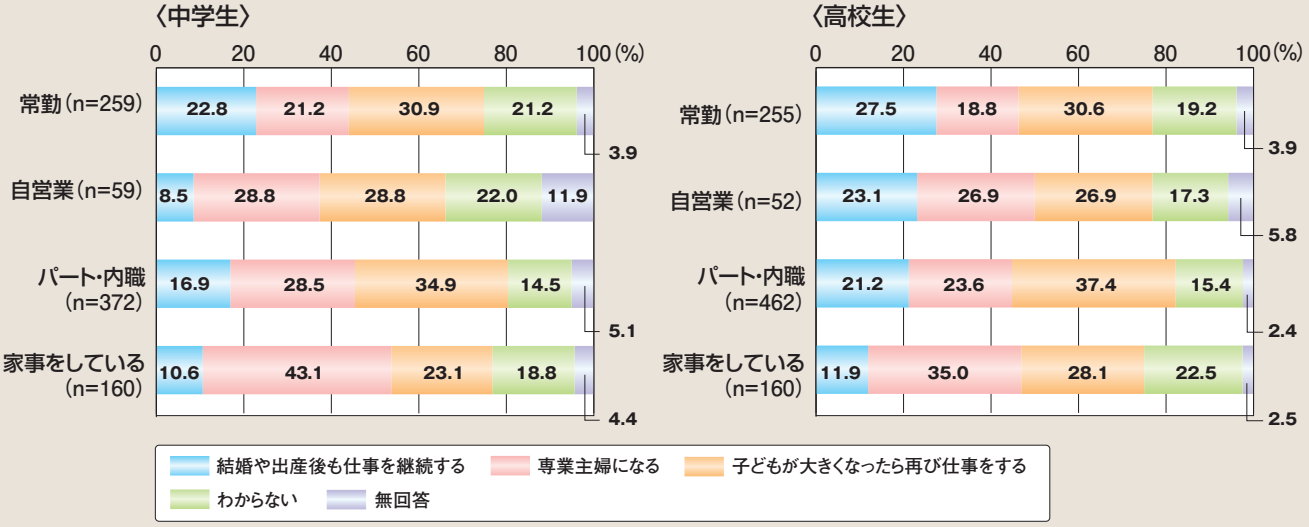
女子は、中学生も高校生も『再就職型』（子どもが大きくなったら再び仕事）が最も支持され、次いで『専業主婦』となっています。このライフコースに対する考え方を、母親の就労状況との関係からみると、母親が専業主婦の場合、専業主婦の志向割合が高く、母親が常勤で働いている子どもは、他と比べて仕事を継続する志向がみられます。

こうした女性のライフコースに対する志向は身近な大人である母親の影響を強く受けていると思われます。

■女性のライフコースに対する考え方



■母親の就労状況別ライフコースの考え方



子どもが自分のライフコースをどのように選択するのかは、子どもの自由であるべきです。

しかし、家事の手伝いの状況や『女の子だから』といわれる割合などをみると、女子には、従来からある『女は家庭』という固定的な女性役割への期待が感じられます。

さらに、子どもが描く将来のライフコースが、母親の就労状況に影響をうけている様子をみると、手本となる大人が、『男は仕事・女は家庭』という考え方を無意識に伝えているとも考えられます。

家庭などでの大人の無意識な言動や振る舞いは、子どものライフコースに影響を与えます。

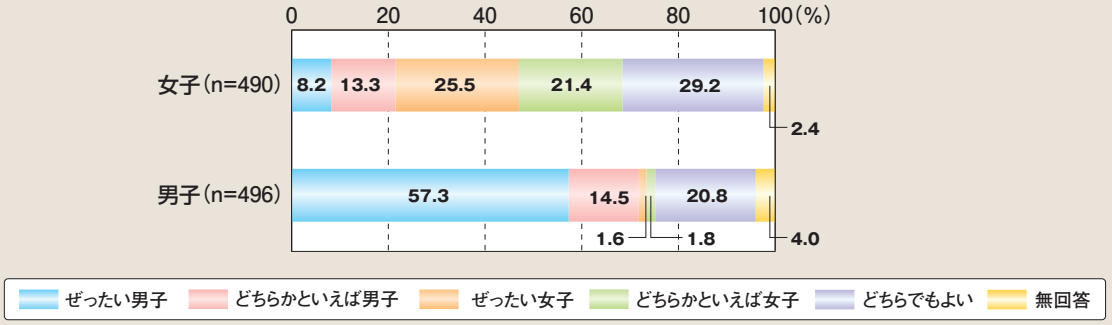
ポイント!

子どもが自分の望ましいライフコースを広い視野で自由に選択できるようにしましょう

ライフコースについての考え方などをみてみましょう。

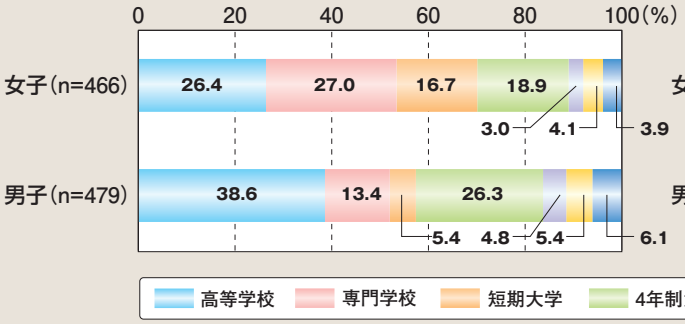
女子にとって、不利と感じさせる社会であっては、個性を生かすことはできません。
性別に関わりなく個性を発揮し、活躍できる社会をつくることは大人の使命です。

■生まれ変わるとしたらどちらがよいか（小学生）

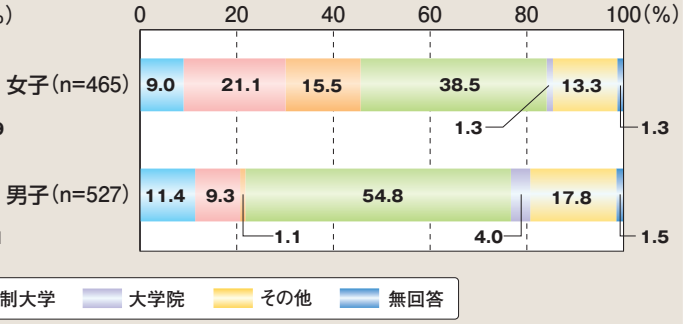


女子の方が、4年制大学への進学希望が低いのはなぜでしょうか。
これまで、男子は4年制、女子は専門学校や短期大学という選択がなされてきました。
その背景には、女性が仕事につくことは、結婚の前の腰掛けという位置づけであり、将来家事をするために専門的学問を修めることの必要性が低いと捉えられていたからです。
一方男子はどうでしょうか。
本人の学びへの志向とは異なり4年制大学進学に対する周囲からの精神的な圧力があるのかもしれません。

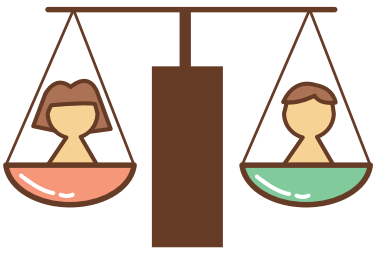
■進学の希望（中学生）



■進学の希望（高校生）



男女に能力の差はありません。男女がそれぞれの個性と能力を発揮しつつ、共同で社会をつくっていく上で必要な学力を身に付けようとする意志を阻害しないことは、大人の責任でもあります。



ポイント!

子どもが自分の進路・将来を考えるとき、女・男という性別にとらわれず、個性と能力に応じた道を選択してほしいものです。

子どもたちは、親など大人の姿を手本として育ちます。子どもたちが男女共同参画に関する正しい知識が持てるよう、大人自身が自らの考え方や行動について、女・男という従来からの固定的な役割分業を見直していくことが必要です。そして、子どもたちが家庭や学校での生活や将来に向け、あらゆる選択をするときには性別にとらわれず、個性と能力に応じた進路を選択してほしいものです。

男女共同参画プランにおける現在の取組

子ども

ジェンダーに敏感な視点を持った児童・生徒の育成に努めます

- 男女共同参画副読本の活用指導
- ジェンダーマンガの発行・配布
- 人権講演会の開催
- イベントの開催 など

大 人

子どもを育む大人への男女共同参画の理解を進めます

- 情報誌（クローバー）の発行
- 情報発信（FM放送、ホームページ）
- 男女共同参画講座・イベントの開催
- 教職員に対する男女共同参画研修の実施　など

今後の取組の方向性

市民・行政みんなで取り組みましょう

1. 性別による固定的な役割分業を見直し、男女共同参画の理解を進めましょう
2. 生物的性差と社会的性差、適性など、女・男の違いについての理解を進めましょう
3. たしなみ・社会的ルールは、性別に関係なく身につけましょう
4. 多様な生き方、ライフコースの選択があることを知り、子どもが自立的に進路選択をできるようしましょう
5. 家事の女性への偏りを家庭で見直し、協力できるようにしましょう
6. 性別によって不利と感じさせる通念や慣習などを見直し、改善しましょう

キラリ☆輝く子どもたちの将来のために！

※各グラフの合計値は四捨五入により100%にならない場合があります。

子どもの男女共同参画に関する意識調査報告書【概要版】　平成20年3月発行

とよた男女共同参画センター キラッ☆とよた
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター2階（月曜休館）
TEL.0565-31-7780　FAX.0565-31-3270
Eメール　clover@city.toyota.aichi.jp　URL　http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/

Ⅰ．調査の概要

Ⅰ.　調査の概要

1　調査の概要

1-1. 調査の目的

性別による固定的な役割分業意識は、幼いときからのしつけや生活習慣、教育などを通じて無意識のうちに形成される。そして、それぞれの家庭における生活習慣や教育姿勢などが子どもの男女共同参画意識の形成に強い影響を与えることから、家庭・学校・地域における実態を子どもの視線から把握し、性別役割分業意識が子どもの意識にどの程度浸透しているのかを把握することとする。

1-2. 調査項目

調査項目は、以下のとおりであり、小学生、中学生、高校生共通の設問と、年代によって異なる設問を設けている。

		小学校 5年生	中学校 2年生	高校 2年生
属性	性別	問1	問1	問1
	家族構成	問2	問2	問2
	両親の仕事	問3	問3	問3
家庭生活	家庭での男女の役割分担	問4　a～k	問4a～k	問4　a～k
	家庭における子どもの役割	問5　1～9	問5　1～9	問5　1～9
	勉強と家の手伝いの重要性	問6　a,b	問6　a,b	問6　a,b
	『男は仕事・女は家庭』という考え方への賛否		問7	問7
	将来の夫婦役割分担に対する考え方		問8	問8
学校生活	学校役割の性別による向き不向きの考え方	問7　a～h	問9　a～h	問9　a～g
	教科の好き・嫌い・得意・苦手	問8	問 10	問 10
	進学希望		問 11	問 11
日常の経験	「男だから、女だから」と言われた経験の有無	問9	問 12	問 12
	「男だから、女だから」と言われる相手	問 10	問 13	問 13
	「男だから、女だから」と言われる理由	問 11	問 14	問 14
	どのような人間になりたいか	問 12	問 15	問 15
	「男らし〈する、女らし〈する」ことへの賛否		問 16	問 16
	女と男とどちらに生まれたいか	問 13		
	将来のライフワークバランスの考え方		問 17	問 17
	将来のライフコース（女性の生き方）の志向		問 18	問 18
	家庭におけるＤＶ見聞きの経験			問 19

1-3. 調査方法

■ 配布方法：各校に調査票を配布し、クラス単位に配布。回答の後、封筒にいれて、クラス担任経由で回収。

■ 対象：小学校５年生、中学校２年生、高等学校２年生

＜学校数と回答数＞

学校数	女子	男子	無回答	計
小学校:11 校	490	496	2	988
学校数	女子	男子	無回答	計
中学校:9校	466	479	5	950
学校数	女子	男子	無回答	計
高等学校:5校	465	527	3	995

2　回答者属性

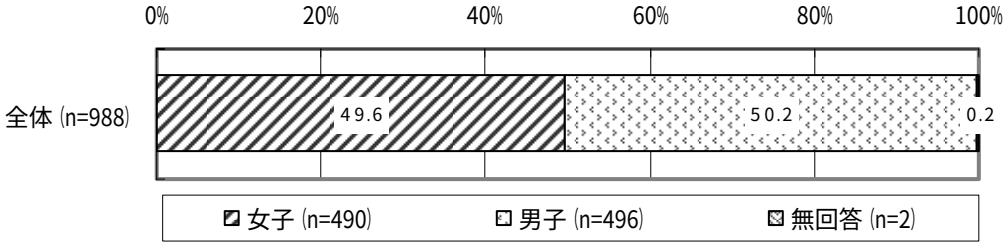
2-1. 回答者属性

回答者属性は、以下のとおりである。

（1） 年齢

■小学生

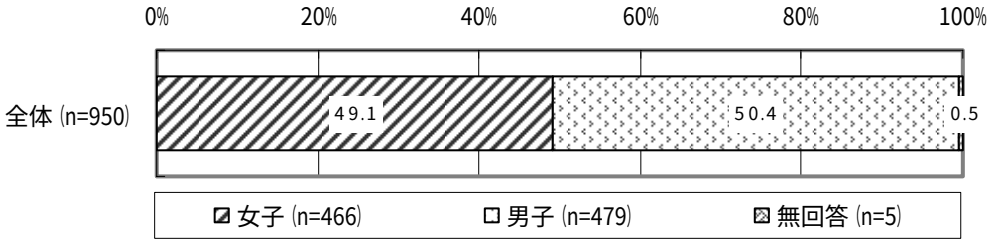
図表 **I-1** 性別（小学生）



注）ｎとは、データ数を表す（以下省略）
なお、各グラフの合計値は四捨五入により 100%にならない場合がある。（以下省略）

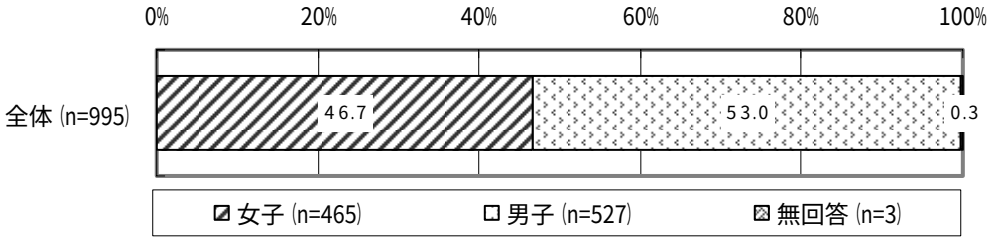
■中学生

図表 **I-2** 性別（中学生）



■高校生

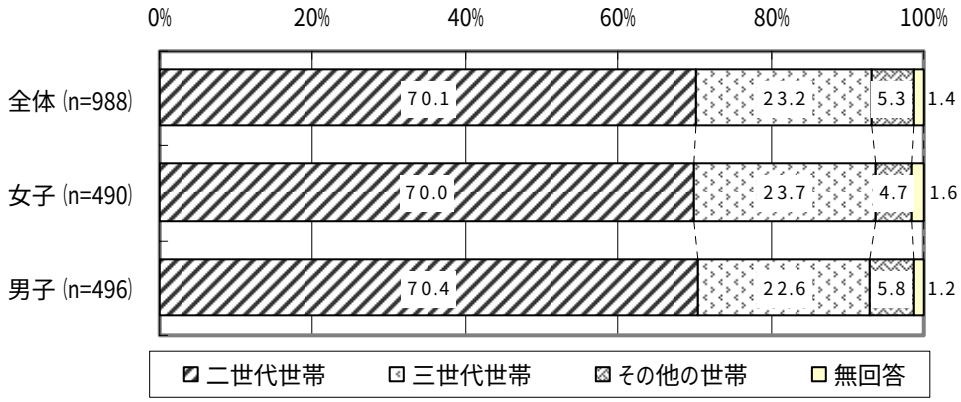
図表 **I-3** 性別（高校生）



（2） 家族構成

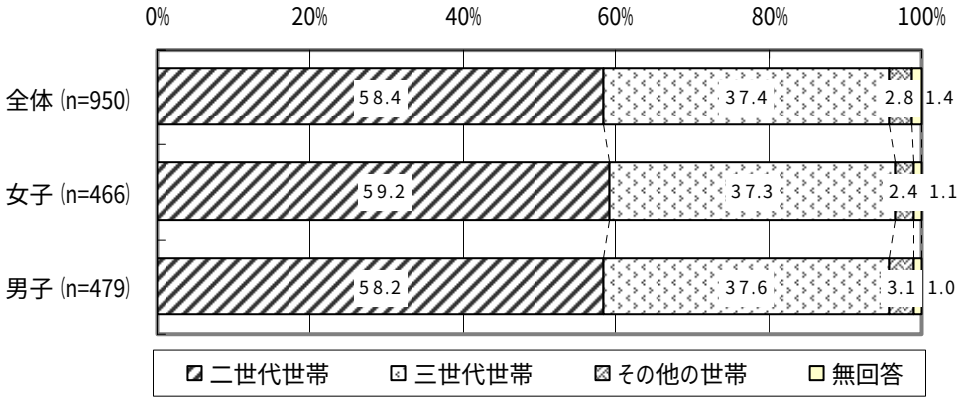
■小学生

図表 **I-4** 家族構成



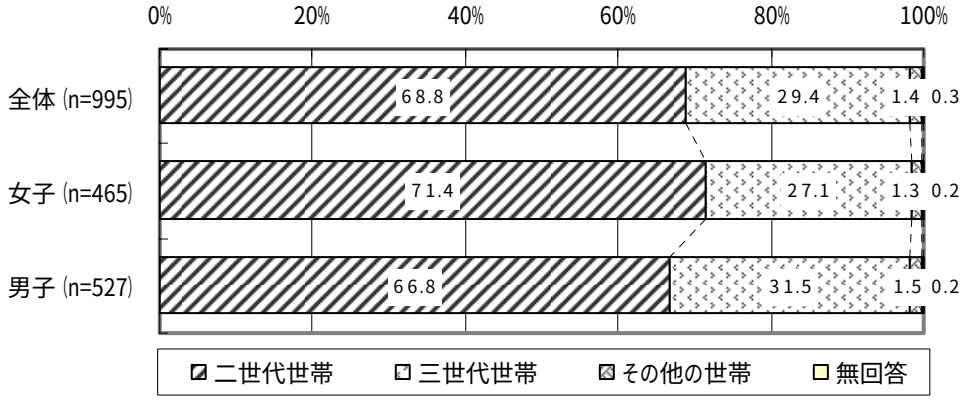
■中学生

図表 **I-5** 家族構成



■高校生

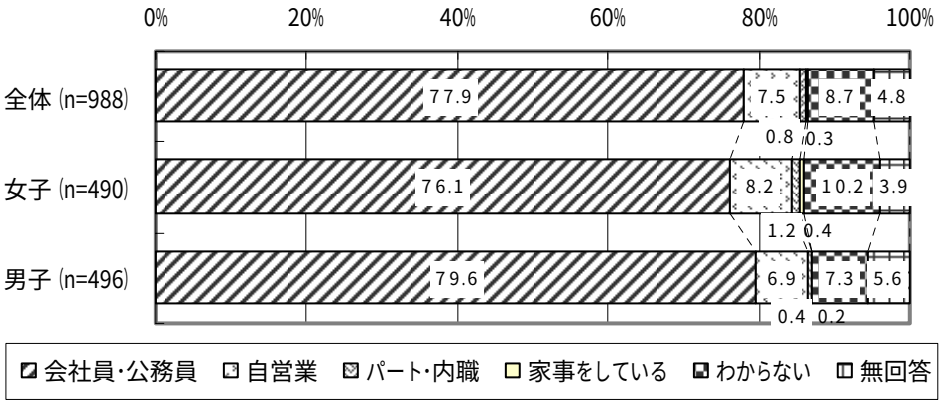
図表 **I-6** 家族構成



（3） 父親の職業

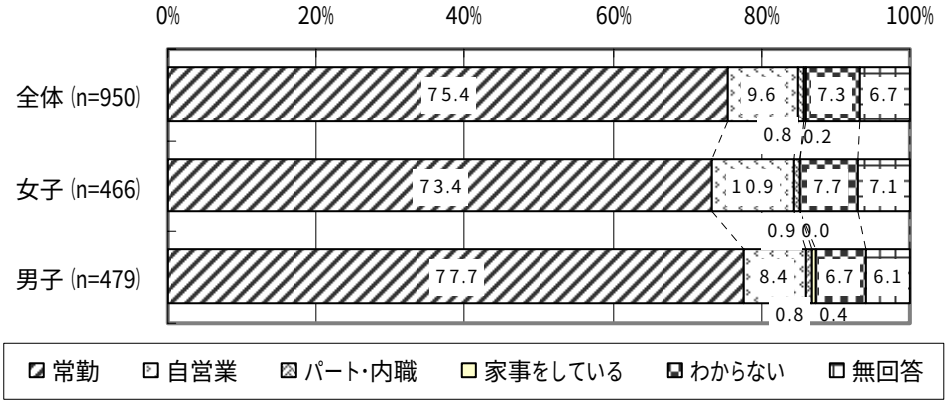
■小学生

図表 **I-7** 父親の職業



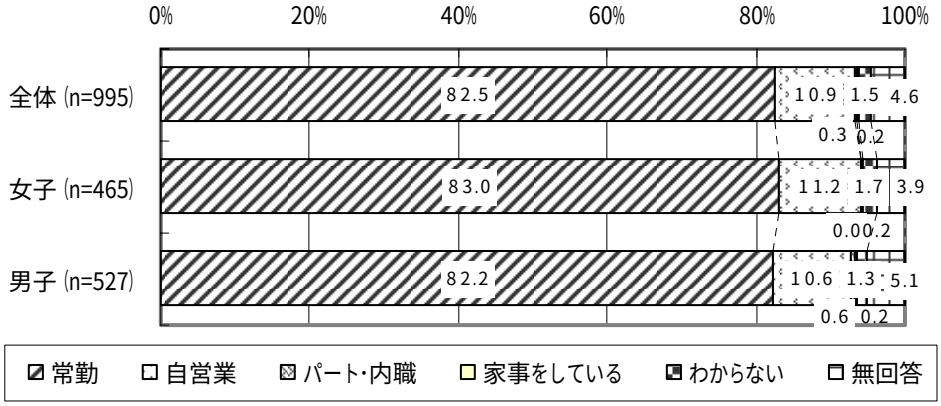
■中学生

図表 **I-8** 父親の職業



■高校生

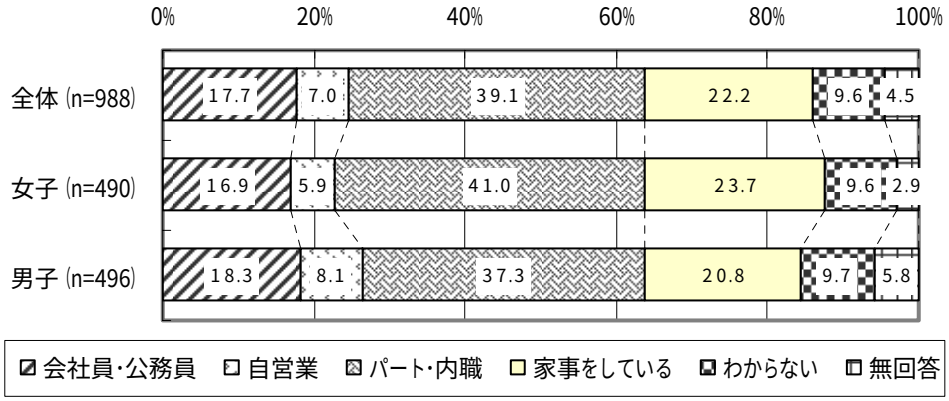
図表 **I-9** 父親の職業



（4） 母親の仕事

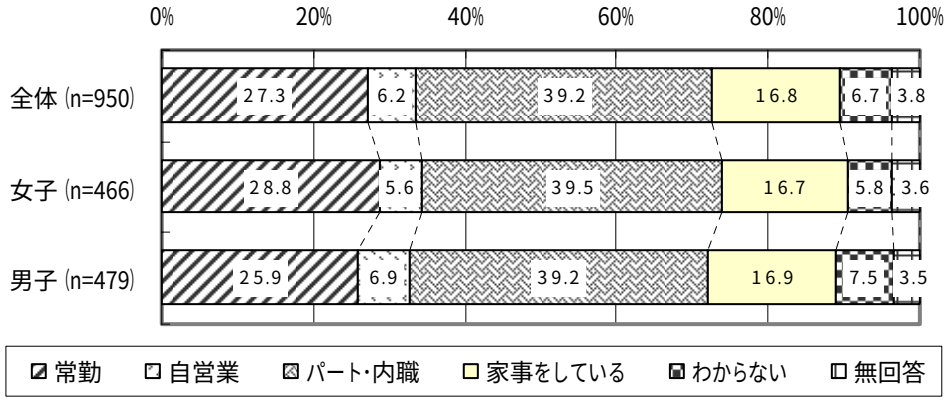
■小学生

図表 **I-10** 母親の職業



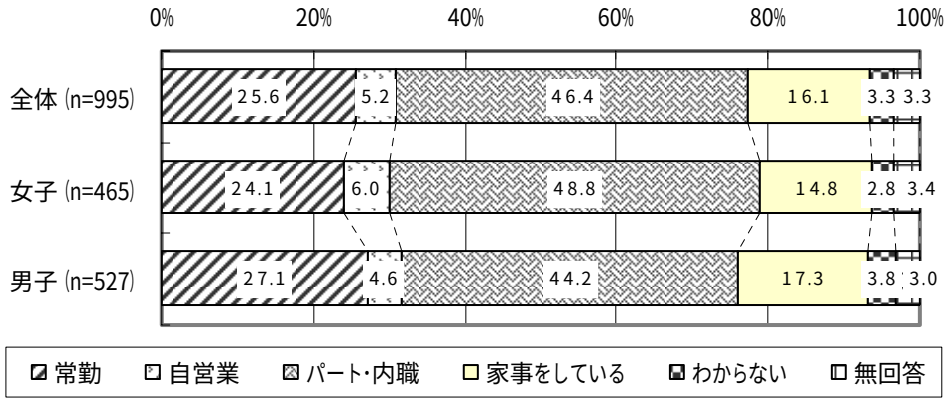
■中学生

図表 **I-11** 母親の職業



■高校生

図表 **I-12** 母親の職業



Ⅱ．調査結果の分析

Ⅱ. 調査結果の分析－小学生

1　家庭生活について

☺　家庭における役割分担について、「女の人」がしている家庭の仕事は、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」など、主な家事はほとんどが女性であり、他にも「ごみ出し」「学校行事への参加」が半数程度、「地域の活動」で３分の１程度が女性の仕事である。「男の人」が担っているのは「蛍光灯の取りかえ」のみである。

☺　小学生が家庭内で行っている手伝いには、男女の違いがみられ、小学生の段階ですでに、女の子には女性役割としての家事の手伝いをさせる傾向がみられる。

☺　二世代より三世代世帯の方が女性が担っている割合が高く、また、子どもが手伝いをする割合は低くなる傾向にある。

☺　家庭における勉強と手伝いについては男女とも「勉強も家の仕事も両立する」と教育されていることがうかがえる。また、自分自身も勉強と家の仕事を両立するのがよいと考えている。

1-1. 家庭における役割分担

問4　あなたの家では、次のことはだれが主(おも)にしていますか。(a～kのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

	男の人	男の人も女の人も同じくらい	女の人	わからない
a　夕食のしたく	1	2	3	4
b　夕食のあとかたづけ	1	2	3	4
c　家の中のそうじ	1	2	3	4
d　せんたく・せんたく物を干すこと	1	2	3	4
e　せんたく物の取り入れ・たたむこと	1	2	3	4
f　普段の日の食事のかいもの	1	2	3	4
g　ごみ出し	1	2	3	4
h　学校行事への参加	1	2	3	4
i　地域の活動	1	2	3	4
j　風呂に一番先に入ること	1	2	3	4
k　蛍光灯の取りかえ	1	2	3	4

(1)　全体的傾向

「女の人」がしている家庭の仕事は、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「せんたく・せんたく物を干すこと」「せんたく物の取り入れ・たたむこと」「普段の日の食事のかいもの」となっており、主な家事は、ほとんど女性の仕事となっていることがわかる。

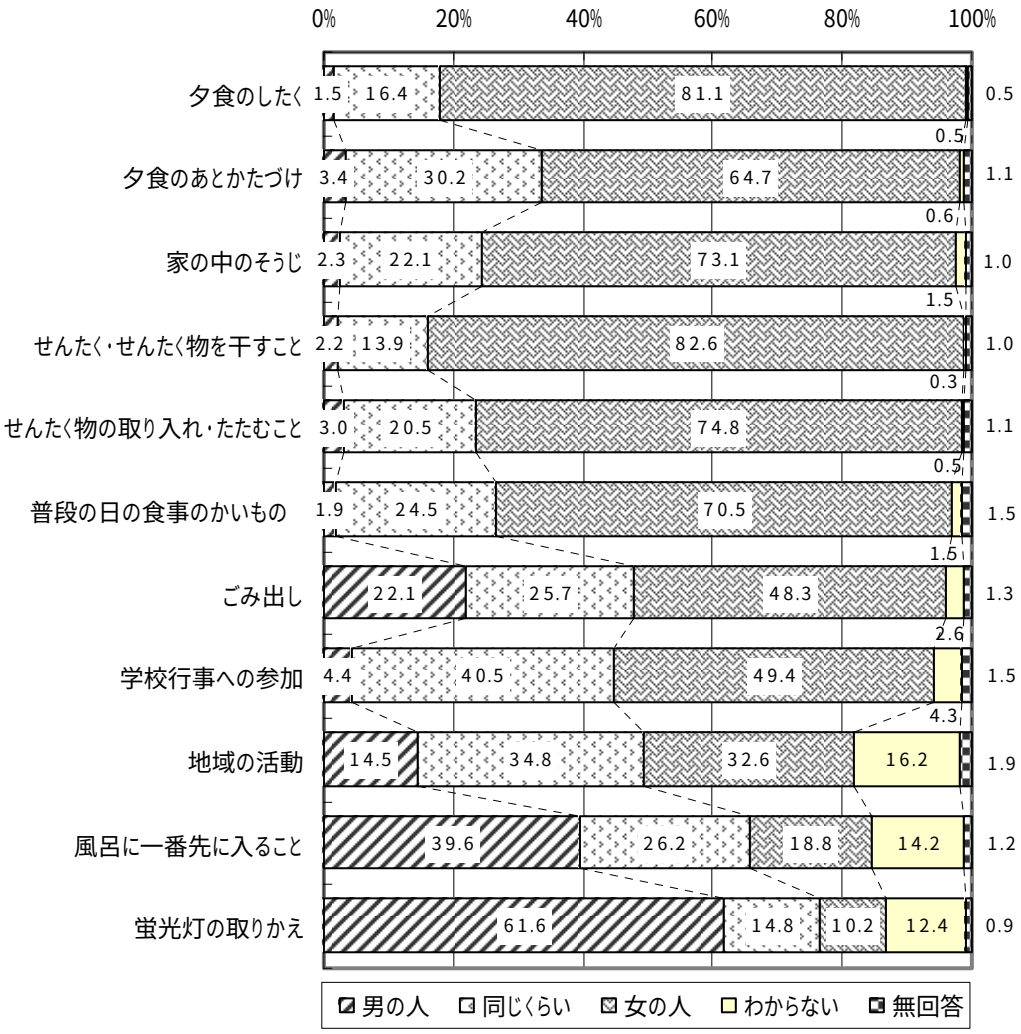
「ごみ出し」「学校行事への参加」は、女性がしている割合は半数程度、「地域の活動」で３分の１程度に減少し、「男の人も女の人も同じくらい」している割合が、他と比較して高くなる。

これらに対して「風呂に一番先に入ること」「蛍光灯の取りかえ」は、「男の人」がしている割合が高く、特に「蛍光灯の取りかえ」は男性が６割を超える。

男女が同じくらいしている家庭内の役割として「学校行事への参加」「地域の活動」「夕食のあとかたづけ」があるが、学校行事で４割、地域活動と夕食の後片付けで３割から３割強であり、男女の共同というほどの協力関係にはいたっていない。

家庭内の仕事の役割分担は、学校行事や地域活動などに男女の共同傾向がみられるものの、家事にあたる仕事は全般的に女性が担っている場合が多く、逆に、古くからある一番風呂には男性が入る、という慣習は未だに残っていることがわかる。

図表 Ⅱ-1 家での役割(n=988)



＜参考＞

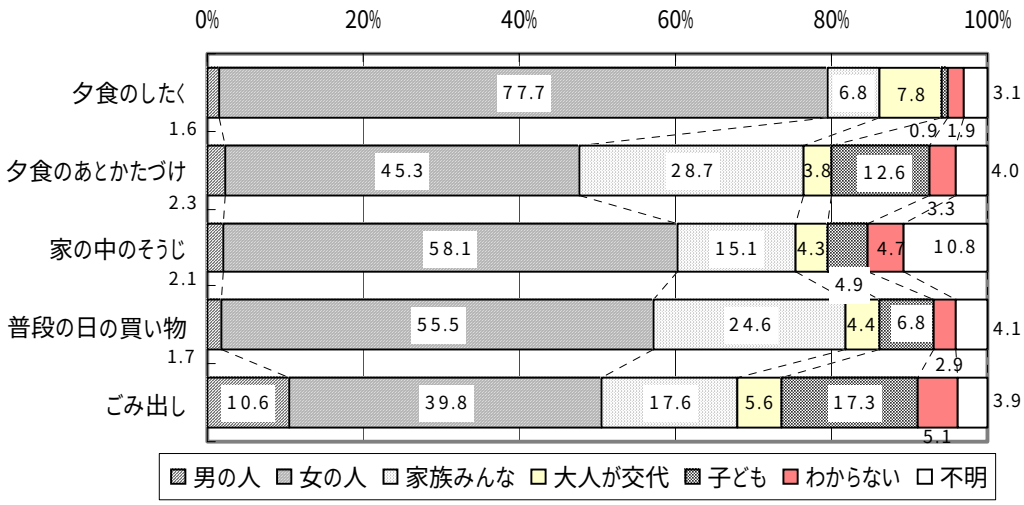
「児童および市民意識調査～教育現場における男女平等の推進をめざして～報告書」

（2004 年、財団法人松山市男女共同参画推進財団）

調査対象：松山市内７小学校３年生 942 名。６年生 921 名（合計 1,863 名）
調査期間：平成 14 年９月～10 月
調査方法：各学校において調査票を配布、回収
回収数：小学校３年生 795 名（84.4%）、小学校６年生 804 名（87.3%）

問　あなたの家では次のことは主に誰がしていますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はひとつだけ）

＜参考：家庭における男女の役割分担（松山市）＞



・選択肢が本調査と異なるため単純に比較はできないが、同調査と比較して、豊田市の結果では、「女の人」が主にしていると回答している割合がいずれも高い。

・同市と比較して豊田市の方が女性が家庭の仕事を担っている割合が高いと考えられる。

（2） 属性別傾向

①　男女別傾向

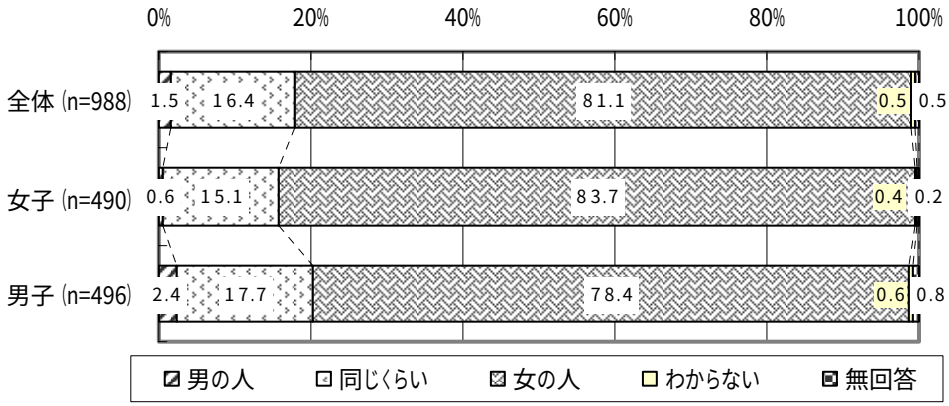
男女別に家庭における役割分担をみると、男女ともほぼ同様の傾向となっているが、「蛍光灯の取りかえ」を除き、他の項目全て、女子が「女の人」がしていると回答した割合が高い。

女子にとっては、家庭内の仕事はほとんど「女の人」が担っていると認識されていることがうかがえる。逆に男子が「男の人」がしていると認識している役割には、「蛍光灯の取りかえ」（62.4%）、「ごみ出し」（27.2%）があるが、小学生にとって、家庭内の仕事の役割

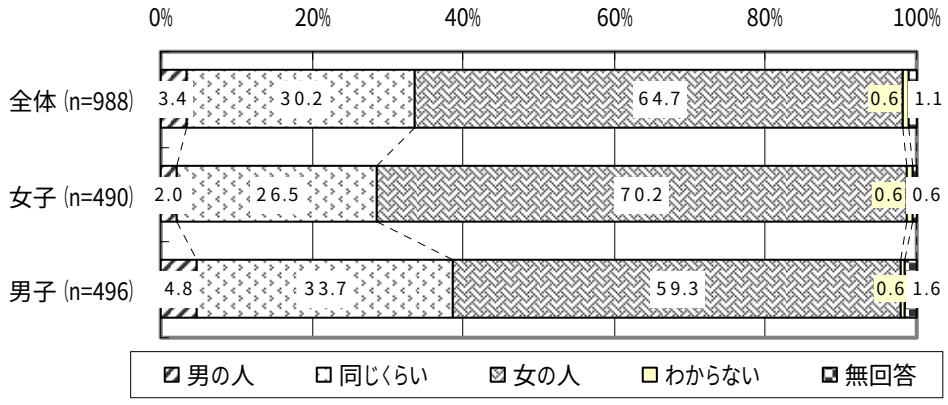
分担は、男女に極端な違いがあると認識されていることがわかる。

男女の認識格差が大きい項目に「風呂に一番先に入ること」がある。男子は「男の人」と回答した割合が 52%であるのに対して、女子は「女の人」と回答した割合が 27%である。男子は、従来から一番風呂は男という既成概念があるため、実際以上に、「男の人」が先に入っていると認識していると考えられる。

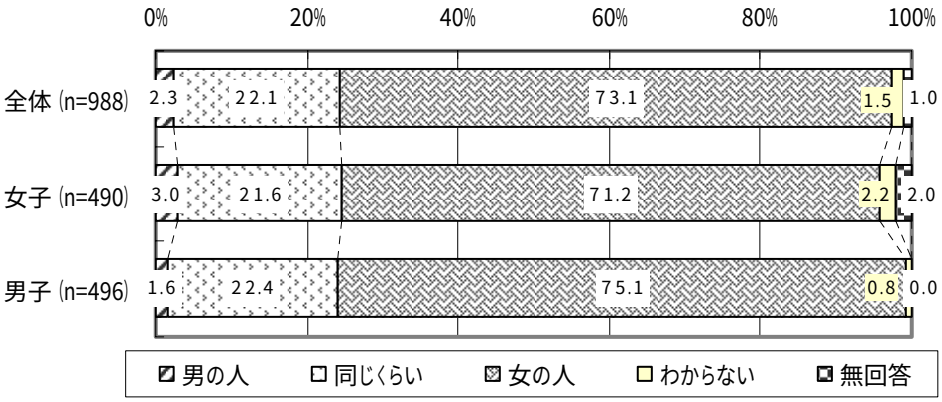
図表 Ⅱ-2 家での役割:夕食のしたく



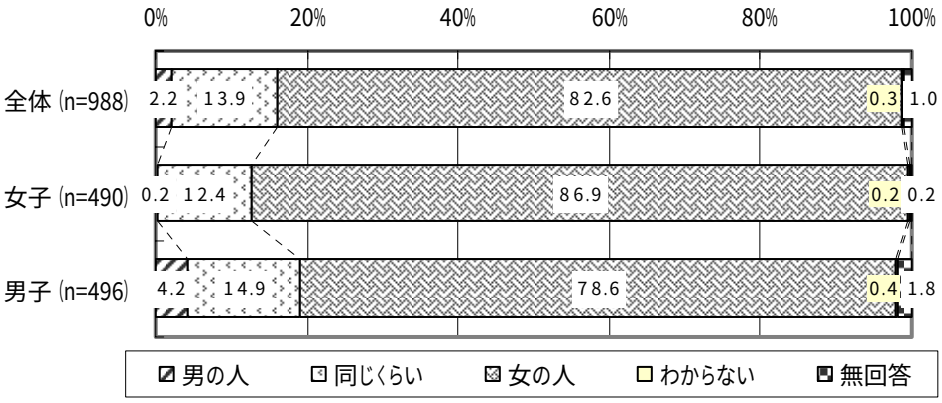
図表 Ⅱ-3 家での役割:夕食のあとかたづけ



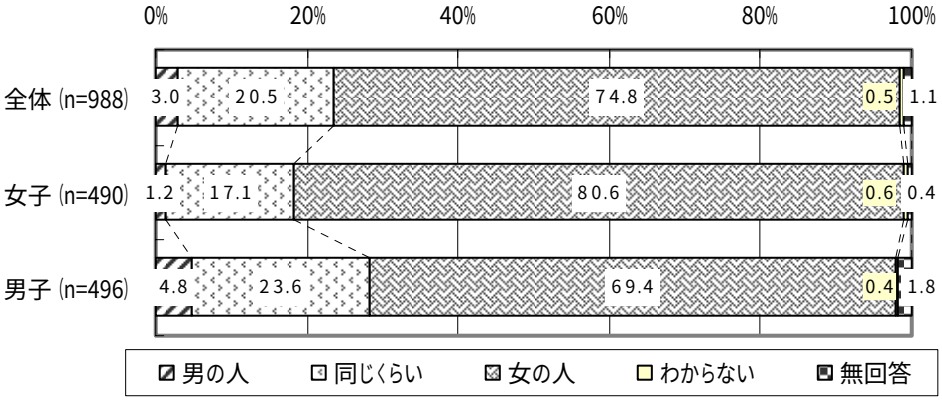
図表 Ⅱ-4 家での役割:家の中のそうじ



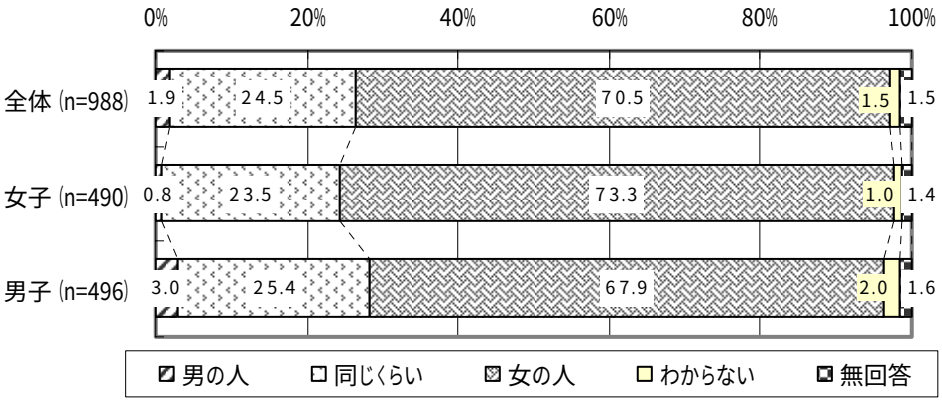
図表 Ⅱ-5 家での役割:せんたく・せんたく物を干すこと



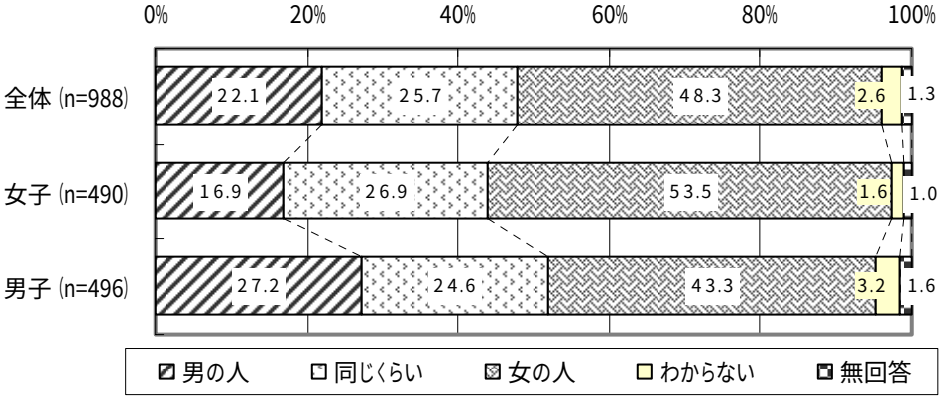
図表 Ⅱ-6 家での役割:せんたく物の取り入れ・たたむこと



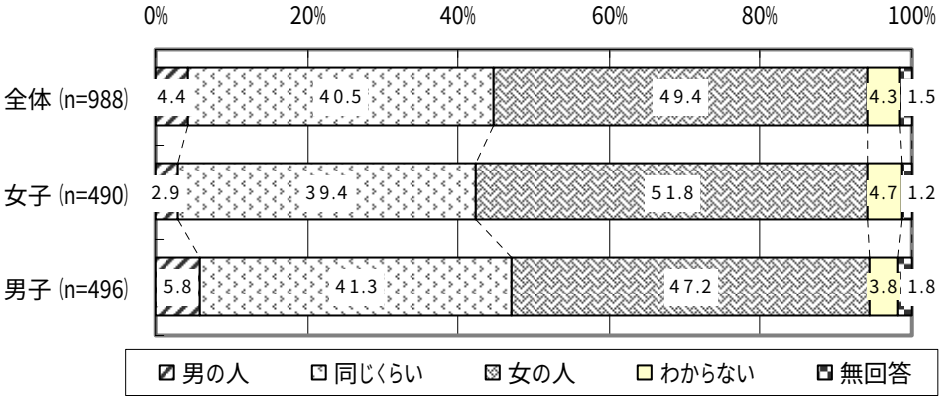
図表 Ⅱ-7 家での役割:普段の日の食事のかいもの



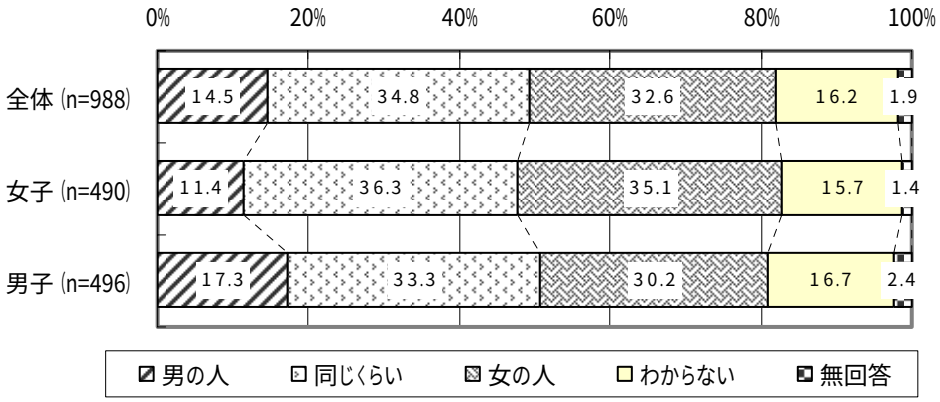
図表 Ⅱ-8 家での役割:ごみ出し



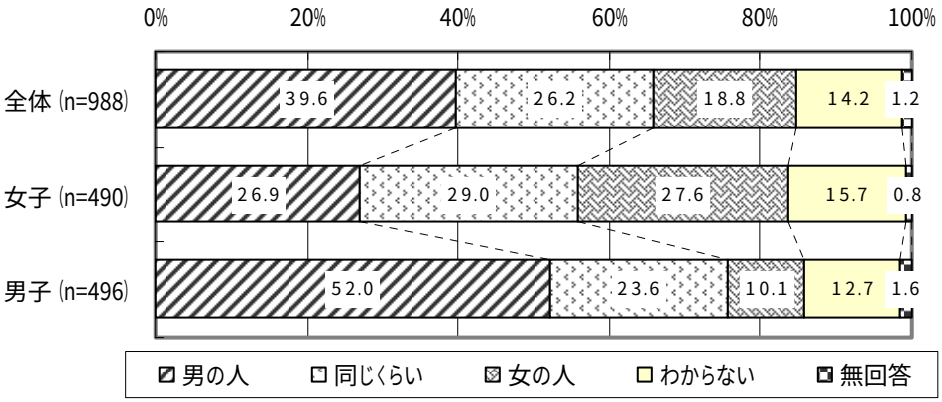
図表 Ⅱ-9 家での役割:学校行事への参加



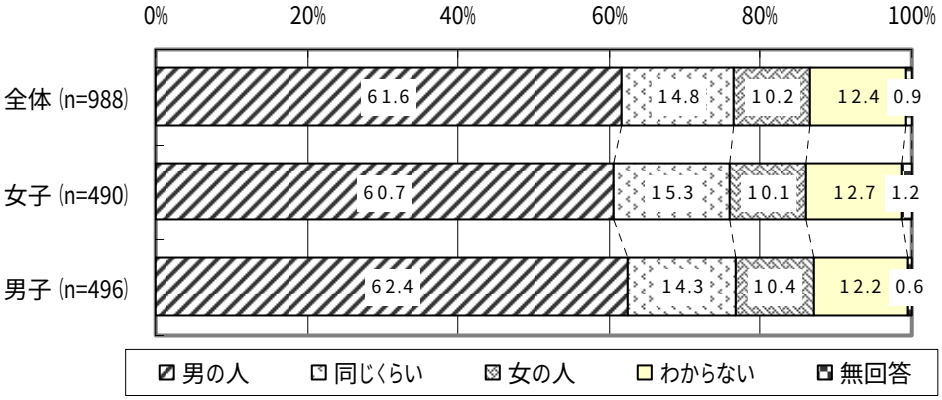
図表 Ⅱ-10 家での役割:地域の活動



図表 Ⅱ-11 家での役割:風呂に一番先に入ること



図表 Ⅱ-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ



② 家族構成・母親の就労状況別傾向

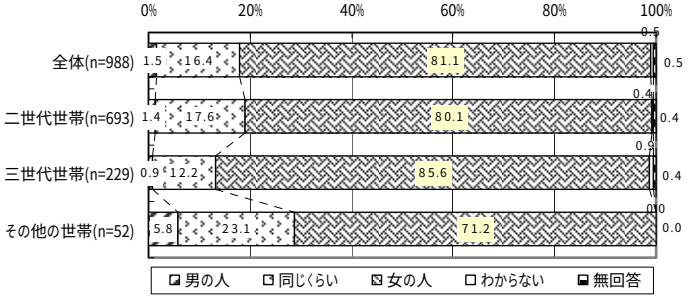
二世代・三世代別に家庭における男女の役割分担の現状をみると、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「せんたく・せんたくものを干すこと」「せんたく物のとり入れ・たたむこと」「ごみ出し」の各項目について、二世代世帯より三世代世帯の方が、女性が分担している割合が高い結果となった。

その理由として、三世代であることから、母親・祖母の 2 人の女性がいる世帯が多く、女性の担い手があることから、女性が家庭内の役割を分担する割合が高くなることが考えられる。さらに、年齢が高いほど男女の固定的役割分業にこだわったり、慣習にとらわれる傾向があり、高齢世代の同居が、家庭の仕事は女性がやるべきであることを慣習化していることも考えられる。

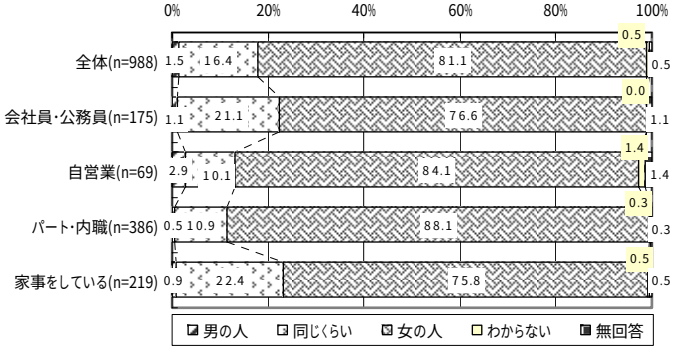
なお、母親の就労状況別による役割分担の違いは特にみられない。

図表 Ⅱ-13 家での役割:夕食のしたく

＜家族構成＞

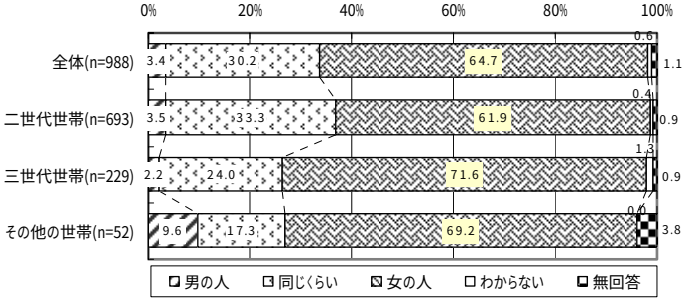


＜母親の就労状況＞

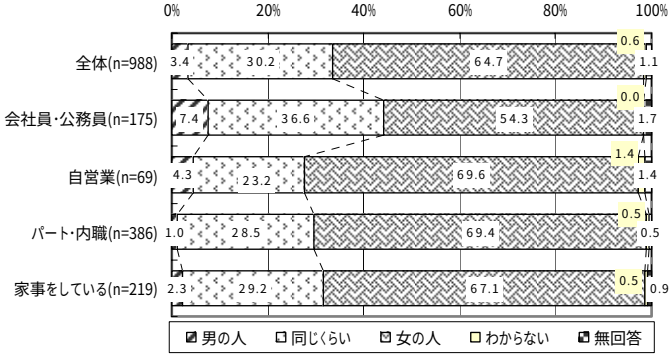


図表 Ⅱ-14 家での役割:夕食のあとかたづけ

＜家族構成＞

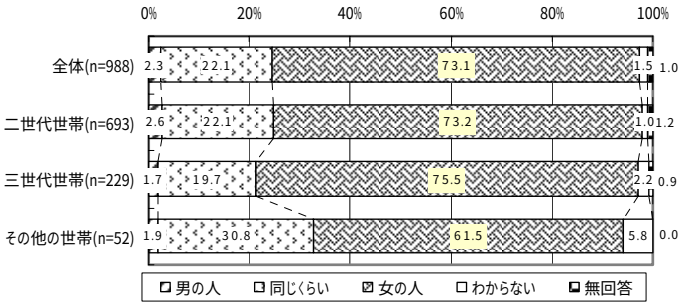


＜母親の就労状況＞

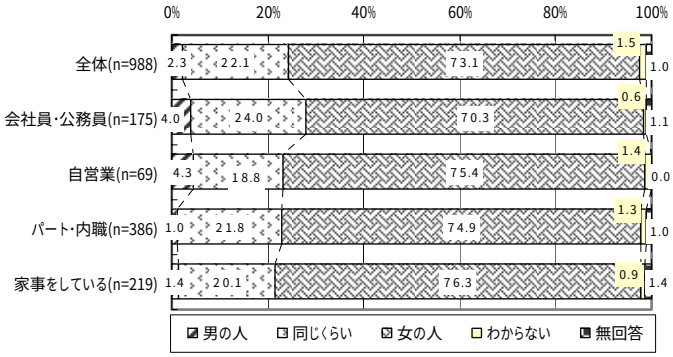


図表 Ⅱ-15 家での役割:家の中のそうじ

＜家族構成＞

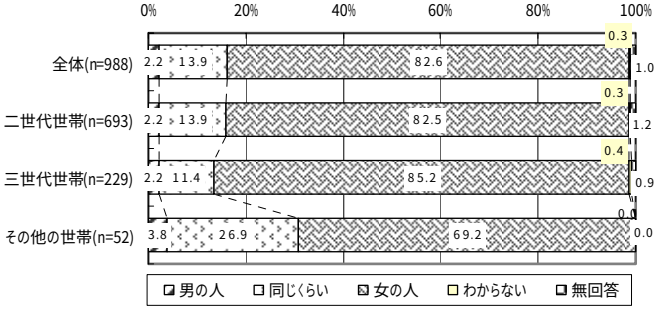


＜母親の就労状況＞

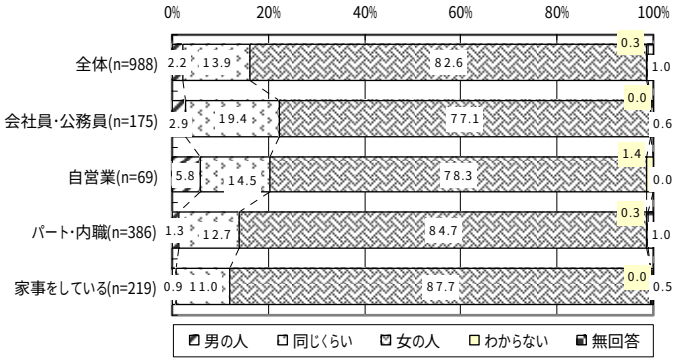


図表 Ⅱ-16 家での役割:せんたく･せんたく物を干すこと

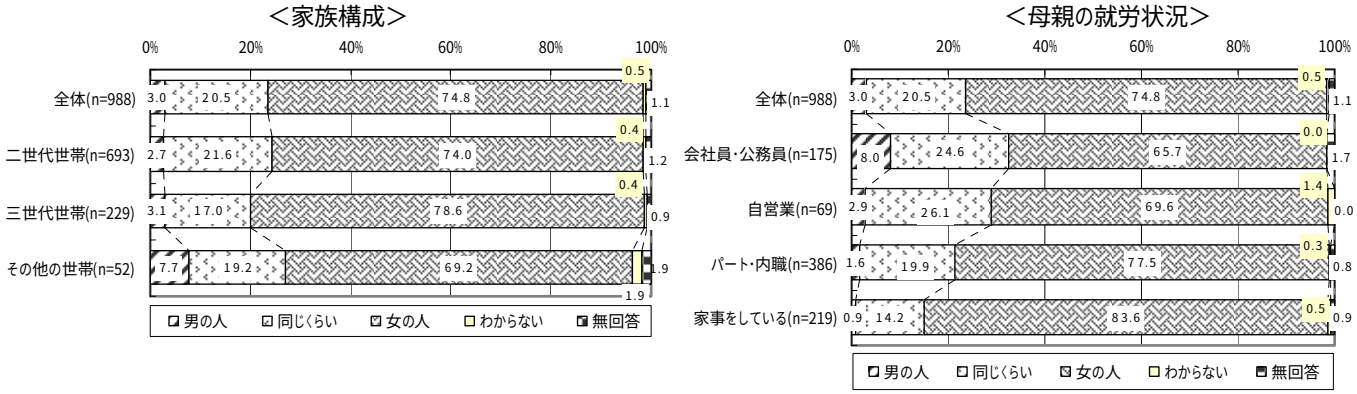
＜家族構成＞



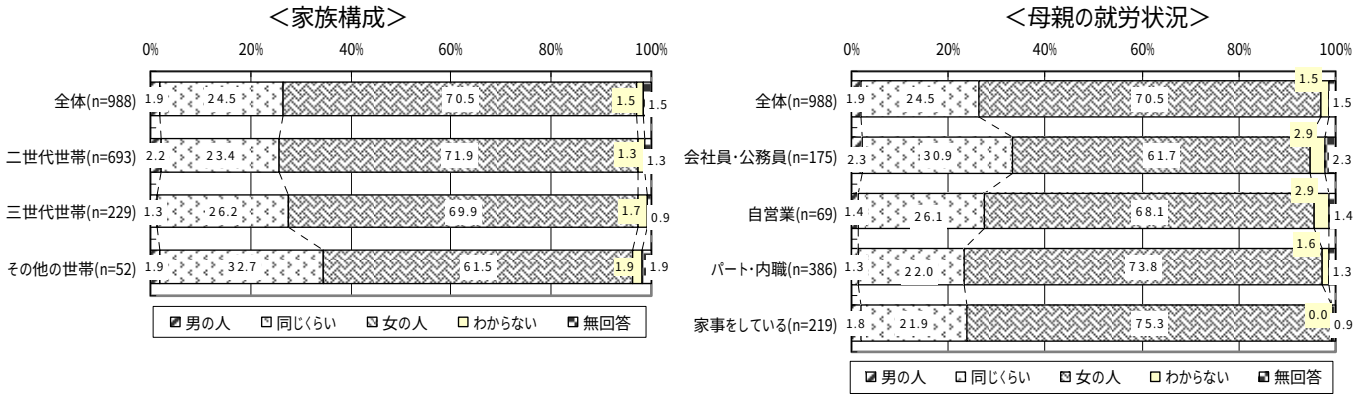
＜母親の就労状況＞



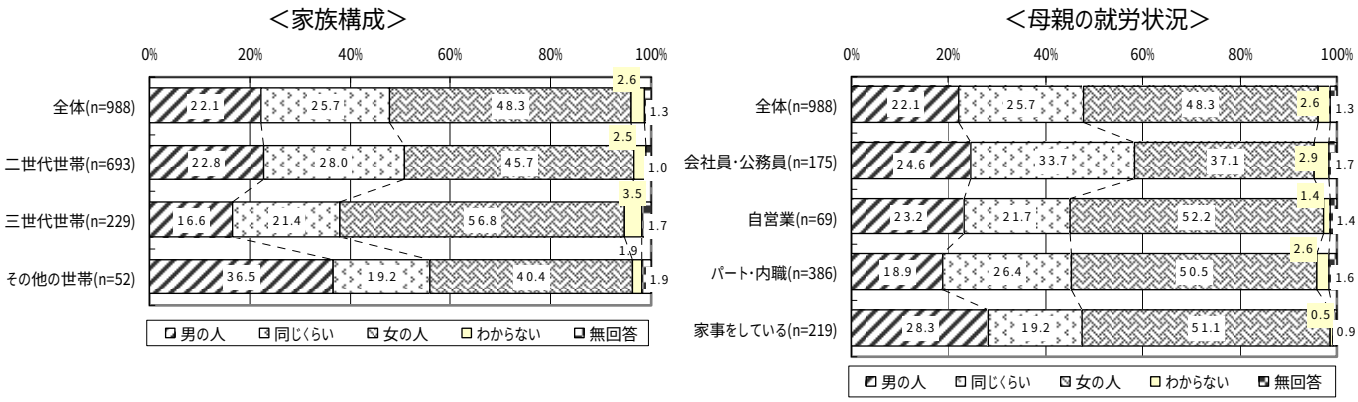
図表 Ⅱ-17 家での役割:せんたく物の取り入れ・たたむこと



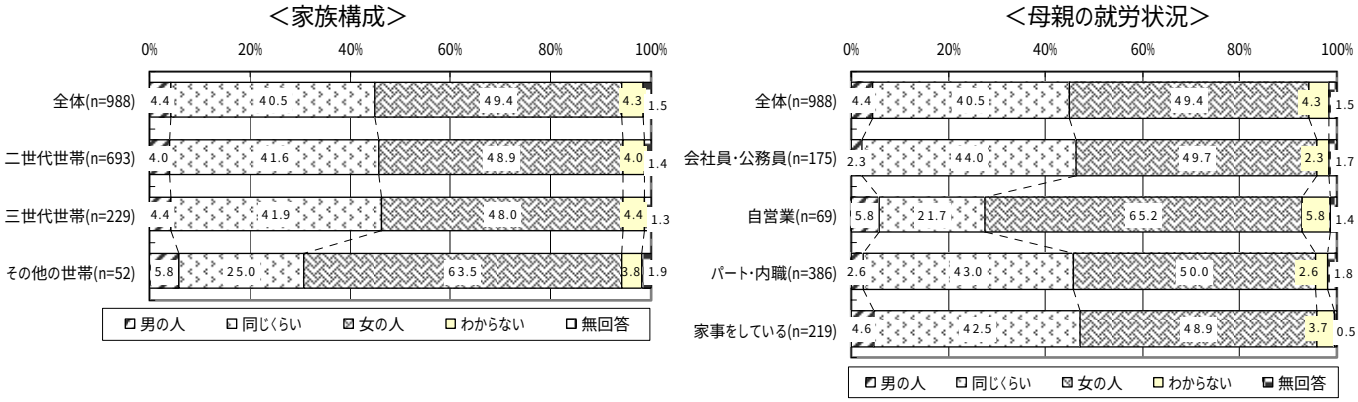
図表 Ⅱ-18 家での役割:普段の日の食事のかいもの



図表 Ⅱ-19 家での役割:ごみ出し

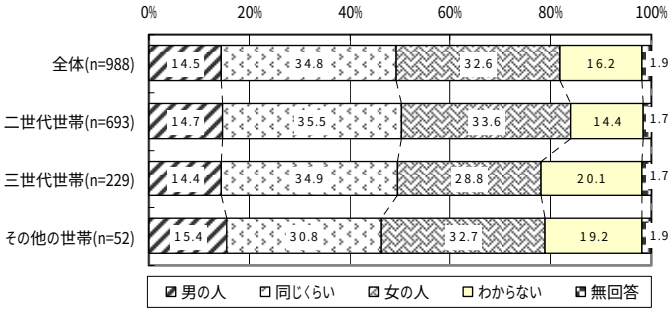


図表 Ⅱ-20 家での役割:学校行事への参加

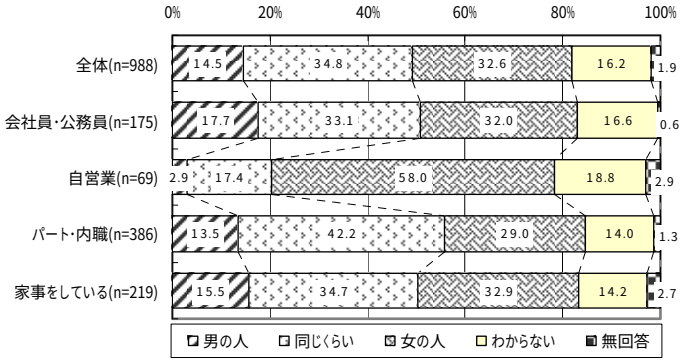


図表 Ⅱ-21 家での役割:地域の活動

＜家族構成＞

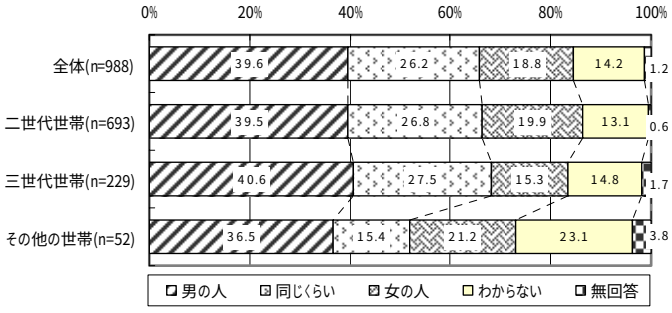


＜母親の就労状況＞

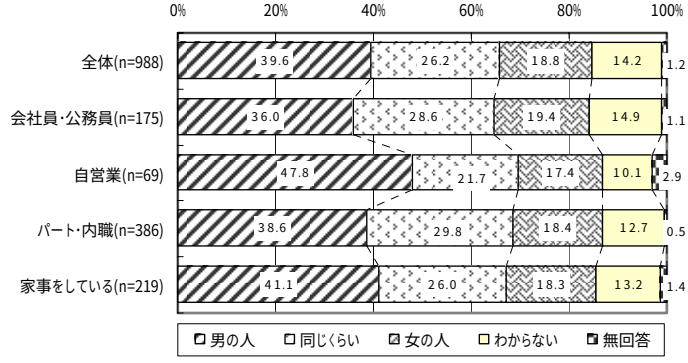


図表 Ⅱ-22 家での役割: 風呂に一番先に入ること

＜家族構成＞

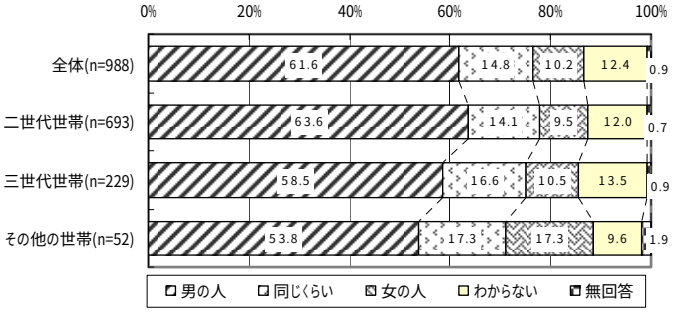


＜母親の就労状況＞

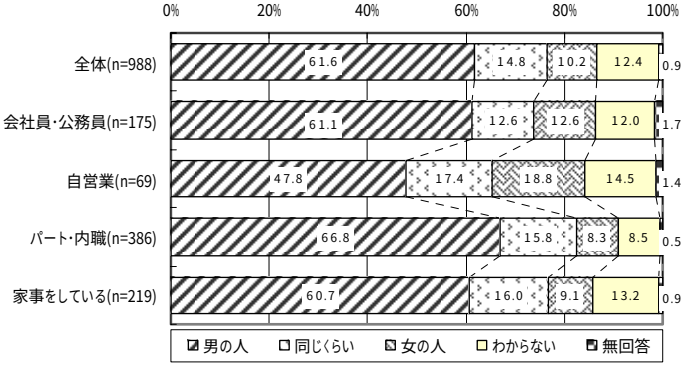


図表 Ⅱ-23 家での役割: 蛍光灯の取りかえ

＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



1-2. 手伝いの内容

問５ あなたが、家の中でやっている手つだいはどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

１ 夕食のしたく	**２ 夕食のあとかたづけ**
３ 家の中のそうじ（自分の部屋以外）	**４ せんたく・せんたく物を干す**
５ せんたく物の取り入れ・たたむ	**６ 買い物（家族といっしょの場合を除く）**
７ ごみ出し	**８ 妹・弟、または介護を必要とする人の世話**
９ その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）	

（1） 手伝いの種類

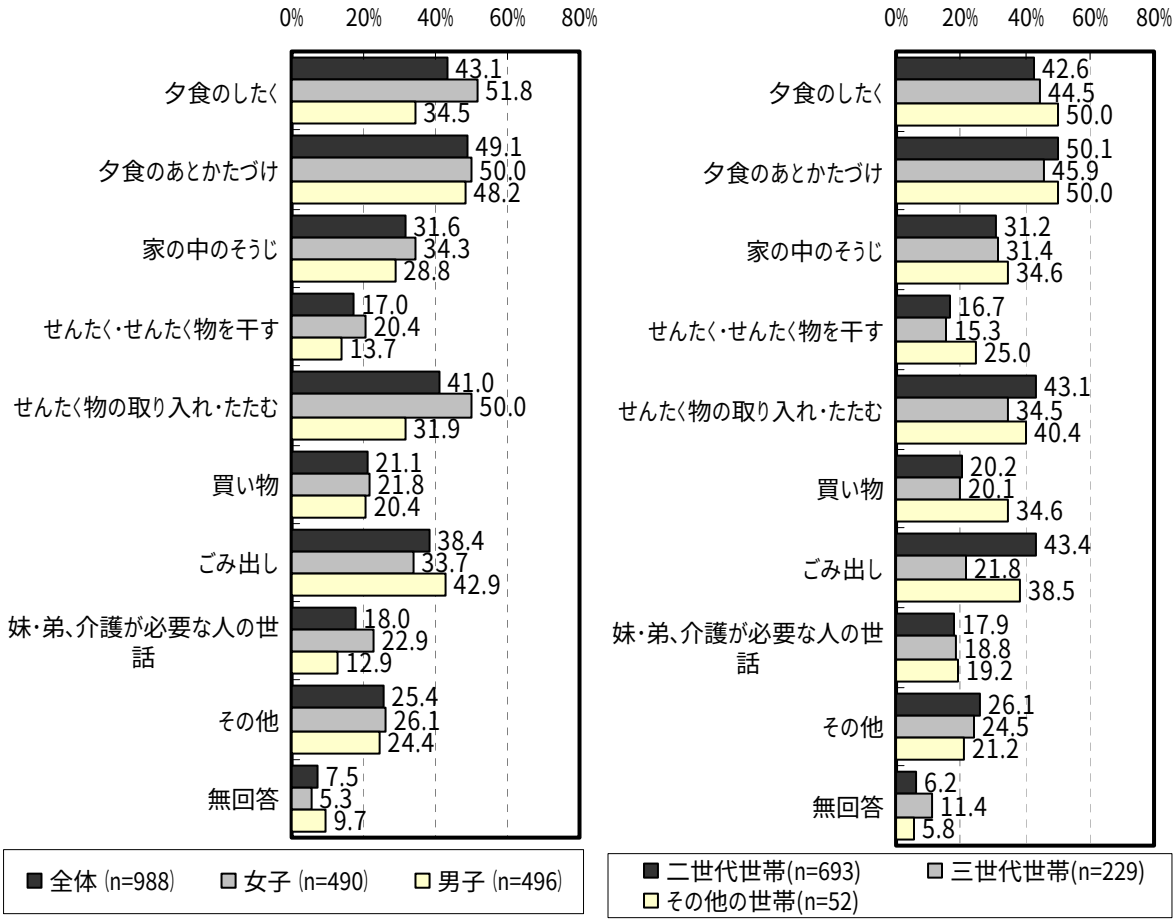
小学生が家庭内で行っている手伝いは、「夕食のあとかたづけ」が最も多く 49.1%であり、「夕食のしたく」（43.1%）、「せんたく物の取り入れ・たたむ」(41.0%)が続く。

男女別に手伝いの内容をみると、男子に比べ、女子の方が手伝っている割合が高い傾向がみられる。女子では、50%を超える手伝いとして「夕食のしたく」（51.8%）、「夕食のあとかたづけ」（50.0%）、「せんたく物の取り入れ・たたむ」（50.0%）があるのに対して、男子は、「夕食のあとかたづけ」（48.2%）、「ごみ出し」（42.9%）が 40%を超えるのみであり、男子が女子を上回るのは「ごみ出し」のみである。

また、家族構成別に手伝いの内容を比較すると、全体的にみて二世代世帯の方が、三世代世帯よりも手伝いをしている割合が高くなっている。家庭内の仕事を分担する家族が多く、子どもの役割が少ないこと、特に、前出の家庭内の仕事の男女の役割分担と比較して考えれば、母親や祖母など女性が家庭内の仕事をこなしており、子どもへの役割分担が軽くなる傾向にあるものと考えられる。

このように、家庭の手伝いであっても、男女の違いが顕著にみられ、小学生の段階ですでに、女の子には女性役割としての家事の手伝いをさせる傾向にある。また、家事等の担い手が多い三世代世帯では、女性の担い手が家庭内の仕事をこなしてしまい、子どもの役割分担が軽い傾向がみられる。このような家庭内における子どもへの役割分担の違いは、『女の子は家庭の仕事をすべき』『家に女性がいれば、家の仕事は女性が担う』など、大人から子どもへの性別役割分業の刷り込みになることから、家庭での手伝いが、性別にこだわらずに行うことができるよう指導していくことが必要といえる。

図表 Ⅱ-24 自分が家の中でやっている手つだい（複数回答）



（2） 家族の役割分担と手伝いの種類

家でやっている手伝いの種類（やっている手伝いとして回答のあった数）の平均は、男子2.85種類、女子3.28種類であり、女子の方が平均的に多くの手伝いをしている。

家庭における男女の役割分担と手伝いの種類（数）の関係をみると、家事等を「男の人」と「女の人」が「同じくらい」していると回答した子どもが家でやっている手伝いの種類（数）は、「男の人」「女の人」と回答している子どもより、全体的に多いことがわかる。

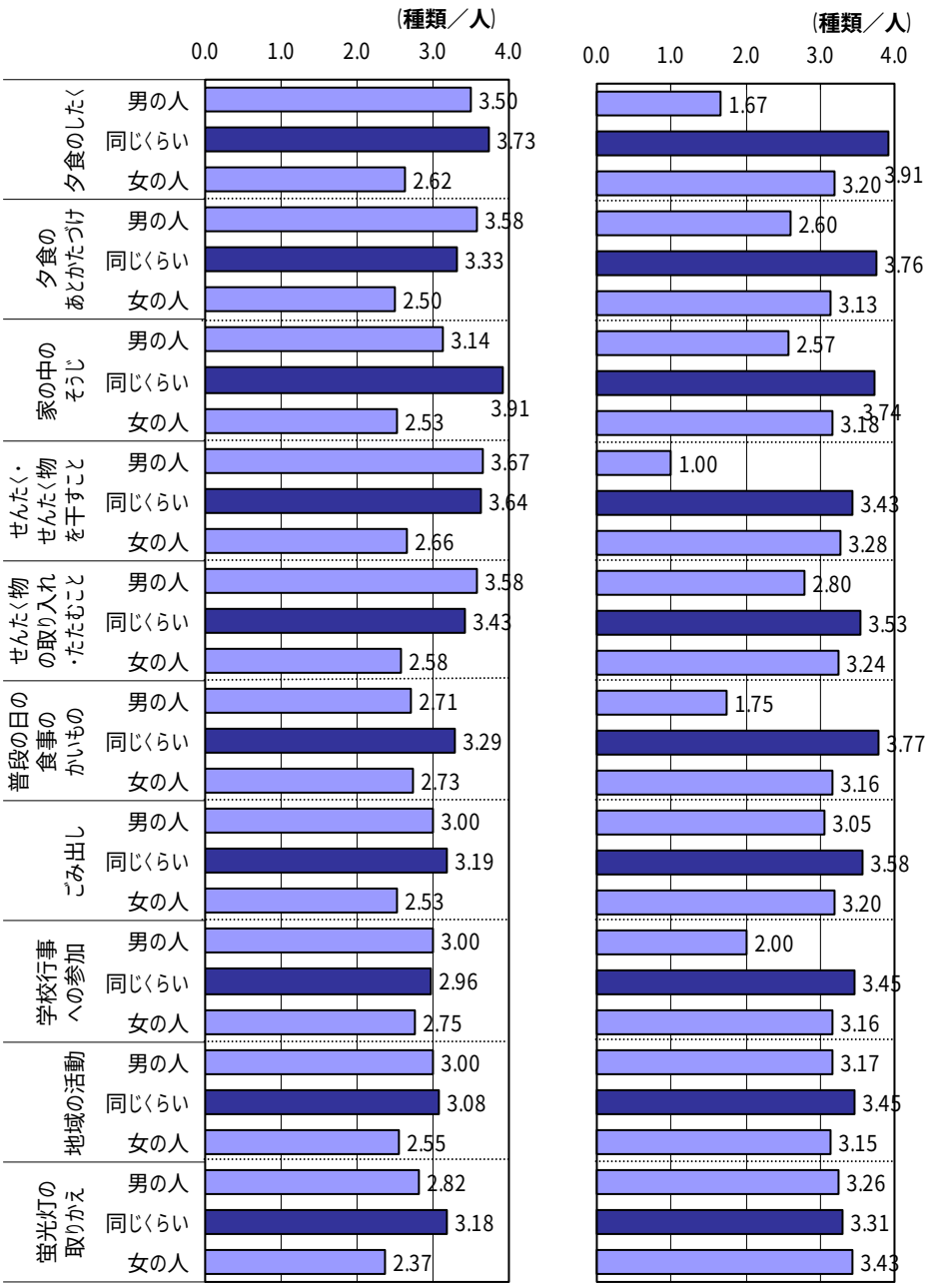
例えば、「夕食のしたく」を「男の人」も「女の人」も「同じくらい」していると回答した男子の手伝い種類（数）は3.73であり、女子は3.91となっており、「男の人」「女の人」と回答したものよりも多い。これは、男女が家の仕事を「同じくらい」している家庭では、家族が協力して家事等をするために、子どもの手伝い件数も多くなるとみることができる。

一方、「女の人」が主に家事をしているという男子の手伝いの種類（数）をみると、「男の人」「同じくらい」と比較して全体的に低い。例えば、「夕食のしたく」を「男の人」がしていると回答した男子の家での手伝い種類（数）は 3.50、「同じくらい」の男子は 3.73

であるのに対して、「女の人」と回答した男子の手伝い種類（数）は、2.62 となっている。

すなわち、『女性が家事をする』ので、『男性はあまり手伝いをしなくてもよい』という家庭における男女の関係がつくられていると考えられる。こうした家庭における男女の役割分担は、結果として『男は仕事・女は家庭』という固定的な意識を形成する遠因となっていくものと考えられる。

図表 II-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数）



1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方

問 6　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号
b　自分の考えの番号

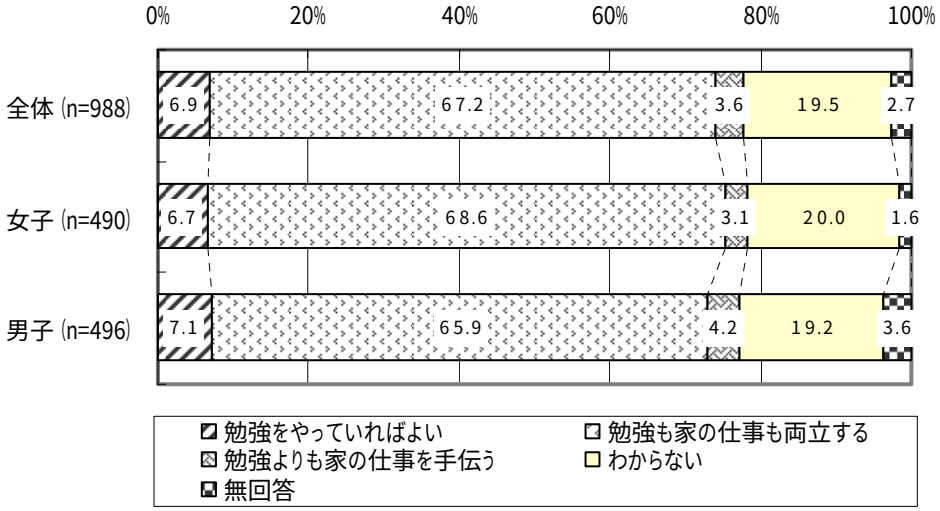
1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手つだうべきだ
4　わからない

(1)　家族の考え方

勉強と手伝いに関する家族の考え方は、若干男子より女子の方が「勉強も家の仕事も両立する」割合が高く、男子は「勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい」の割合が女子より高いものの、全体的に、男女とも「勉強も家の仕事も両立する」の割合が 60%を超えて高い。

家庭では、女子・男子とも、家の手伝いもすることが指導されていることがうかがえる。

図表 Ⅱ-26　家族の考え



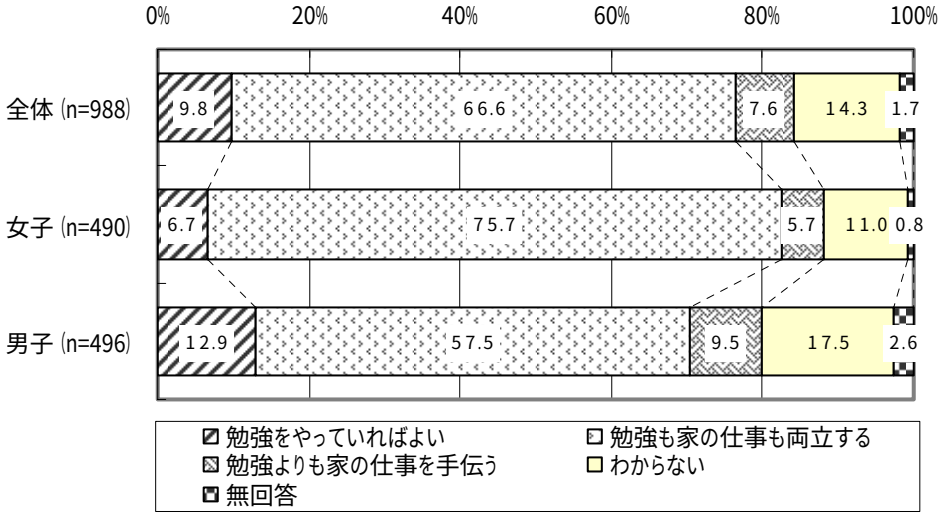
(2)　自分の考え方

勉強と手伝いに関する自分の考え方では、男女とも「勉強も家の仕事も両立する」が高い割合である。しかし、女子は男子に比べ、「勉強も家の仕事も両立する」割合が 18.2 ポイントも高く、小学生の段階で、勉強も家の手伝いも両立するという意識を持つよう教育されていることがうかがえる。

一方男子をみると、「勉強をやっていればよい」「勉強より家の仕事を手つだう」の割合が女子より各々、6.2 ポイント、3.8 ポイント高い。

男子は、将来家族を養う一家の大黒柱として収入を得るためにしっかり勉強すること、あるいは、自営業の跡取りとして家業を手伝うことを無意識のうちに伝えられていることがうかがえる。

図表 Ⅱ-27 自分の考え



2　学校生活について

☺　学校の行事や係等における性別役割分業に関する考え方では、「重いものを運ぶこと」「運動会の応援団長」は「男子に向いている」役割であり、「整理整頓すること」「下級生や新入生のめんどうをみること」は「女子に向いている」役割と捉えられている。

☺　男子は「委員会の委員長」は、「男子に向いている」とする割合が高く、委員長や班長などリーダーシップの発揮が求められる役割は男子向き、という傾向がみられる。逆に女子は、「下級生や新入生のめんどうをみる」の割合が男子よりも高く、下級生など弱者のめんどうをみる役割意識が女子の方に強く伝えられていることがうかがえる。

☺　好きな教科は男子が体育、女子は家庭科、嫌いな教科は男子が国語、女子は算数である。また、得意な教科は男子が体育、算数に対して、女子は家庭科、音楽であり、男女の違いがみられる。

2-1. 学校の係等について

問７　学校の行事や係･委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。(a～hのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a　委員会の委員長	1	2	3	4
b　委員会の副委員長	1	2	3	4
c　運動会の応援団長	1	2	3	4
d　学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e　重いものを運ぶこと	1	2	3	4
f　整理整頓をすること	1	2	3	4
g　下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
h　名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

(1)　全体的傾向

学校の行事や係等における性別役割分業に関する考え方をみると、「重いものを運ぶこと」（82.7%）、「運動会の応援団長」（70.1%）は「男子に向いている」役割であり、「整理整頓すること」（63.1%）、「下級生や新入生のめんどうをみること」（45.1%）は「女子に向いている」役割と捉えられている。

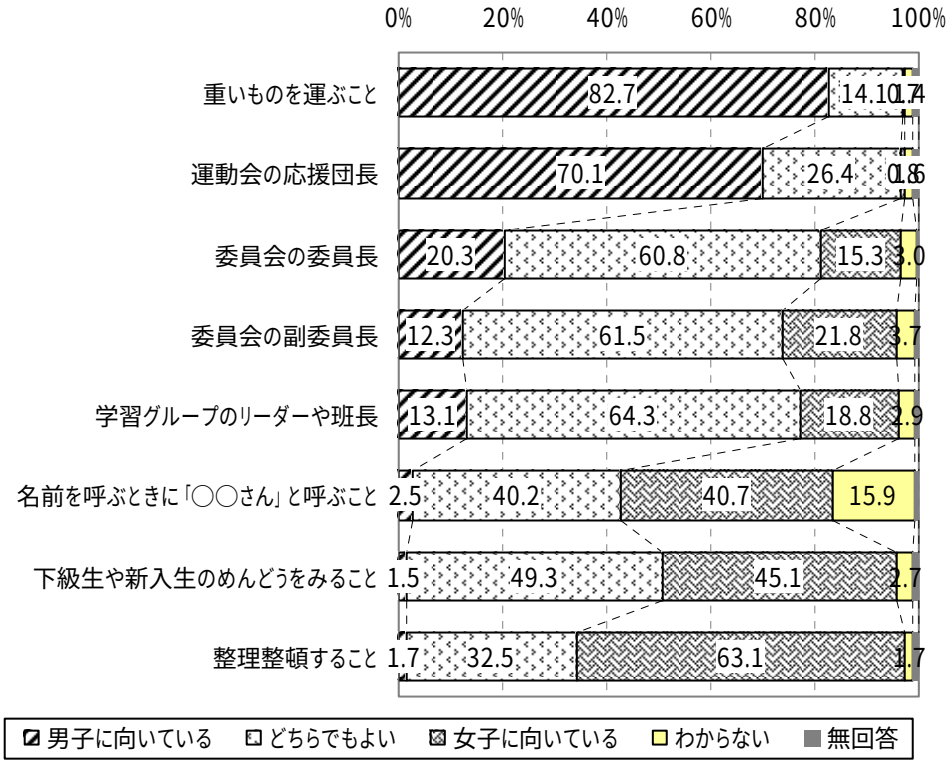
男子には重い物を運ぶような力を必要とすることや応援団長のようなリーダーシップが期

待されていること、逆に女子には、掃除や下級生などの面倒をみることが期待されており、小学校の行事等においても、男女が各々性別による役割分業意識をもって、互いの役割を期待していることがわかる。

また、「委員会の委員長」「委員会の副委員長」についてみると、委員長は、「男子に向いている」が「女子に向いている」に比べ５ポイント高く、副委員長は逆に「女子に向いている」が 9.5 ポイント高い。しかし、「どちらでもよい」が 60%を超えており、フラットな意識になってきていることがうかがえる。

以上より、性別役割分業による子どもの意識が、係の分担などに若干残っているものの、全体的にみると男女平等の意識に向かいつつあるといえる。

図表 Ⅱ-28 学校での役割



（2） 男女別傾向

男女別に学校の係等の役割についての考え方をみると、「委員会の委員長」「学習グループのリーダーや班長」「下級生や新入生のめんどうをみること」の３項目で、男子･女子による考え方が異なっている。

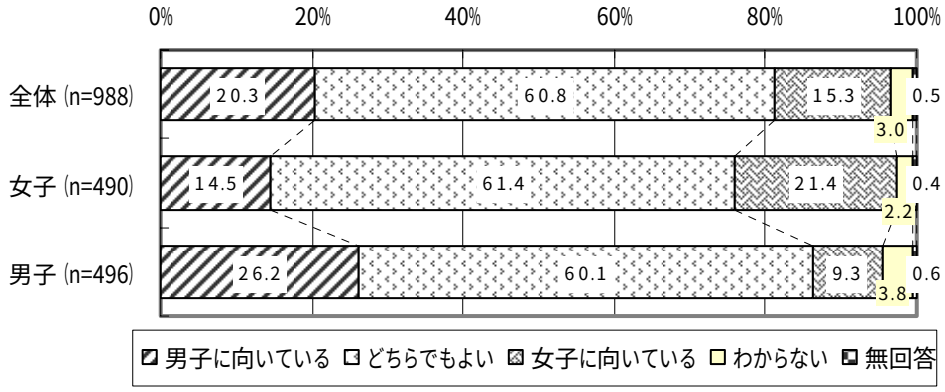
「委員会の委員長」は、男子は「男子に向いている」が26.2%であるのに対して女子は、「男子に向いている」が14.5%と11.7ポイント差となっている。また、「学習グループのリーダーや班長」でも、男子は「男子に向いている」が19.4%であるのに対して、女子は「男子に向いている」が6.7%で、12.7ポイントの差があり、男子の方が、リーダーは男という考え方をも

っていることがわかる。

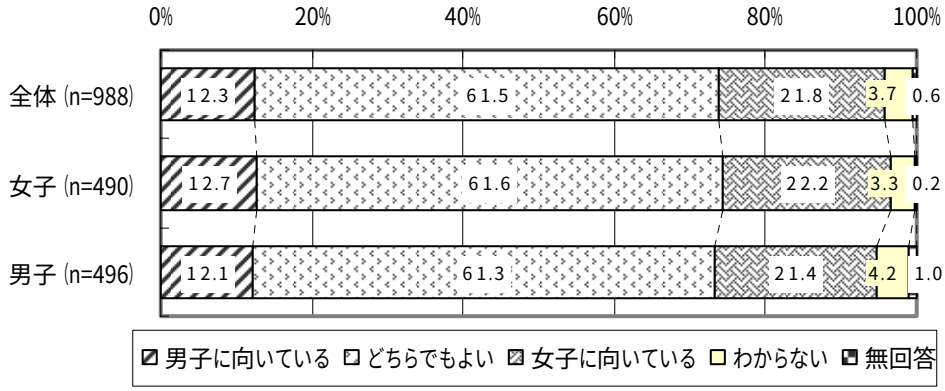
委員長や班長などリーダーシップを発揮するような役割は、従来の男女の役割分業意識の考え方であれば男子の役割と捉えられがちである。その意味で男子は、家庭等の生活の中で、男子としての役割意識を教えられている傾向がみられる。一方、女子についてみると「下級生や新入生のめんどうをみる」を「女子に向いている」とする割合が男子よりもわずかではあるが高く、女子自身にも、成長の過程で女性として、子どもや老人などのめんどうをみる役割意識が伝えられていることがうかがえる。

家庭での手伝いにみられる男女の差、学校での係の役割などにおける男女の意識の差をみると、成長過程や日常生活のなかで、男女の性別役割分業に基づく男女の役割分担を体験したり、親などの大人から子どもへ無意識に伝えられていることも否めない。

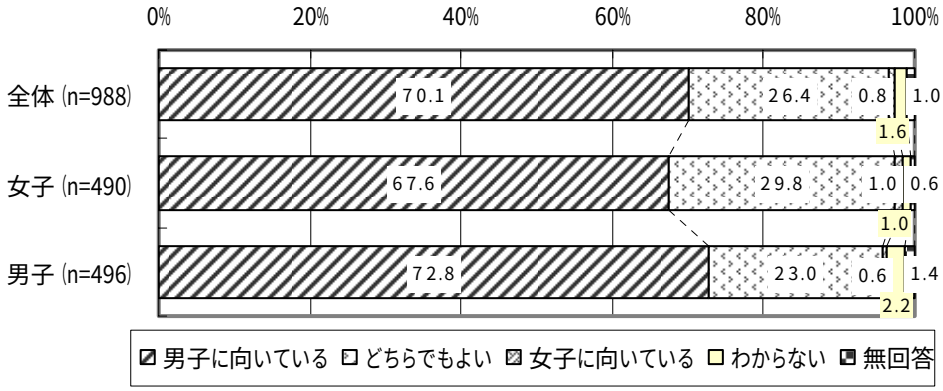
図表 II-29 学校での役割:委員会の委員長



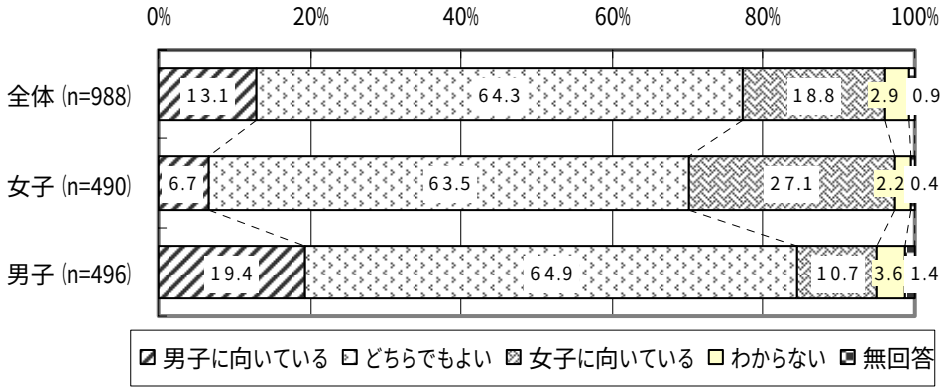
図表 II-30 学校での役割:委員会の副委員長



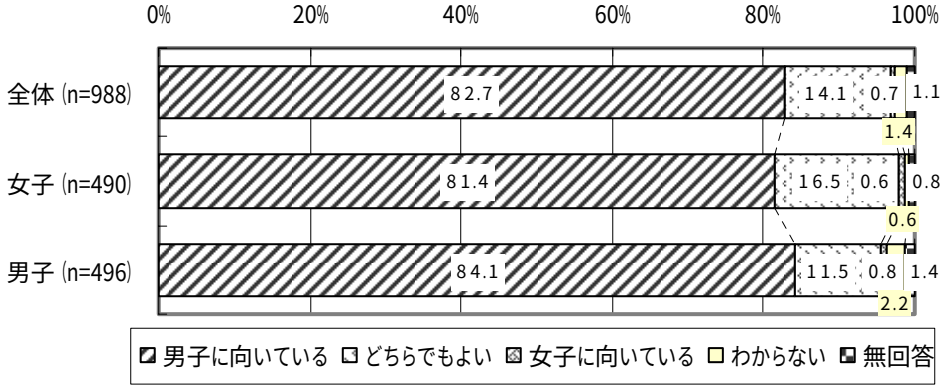
図表 Ⅱ-31 学校での役割:運動会の応援団長



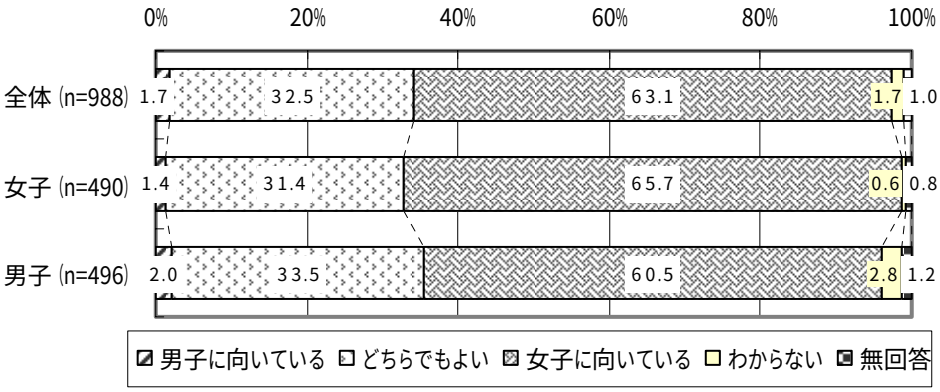
図表 Ⅱ-32 学校での役割:学習グループのリーダーや班長



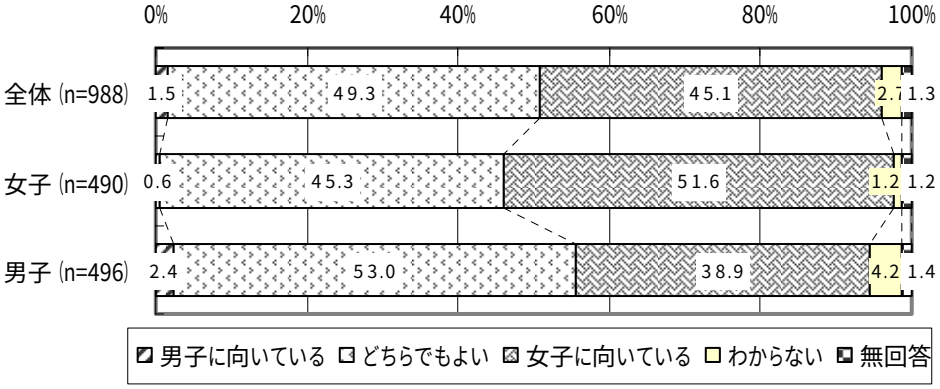
図表 Ⅱ-33 学校での役割:重いものを運ぶこと



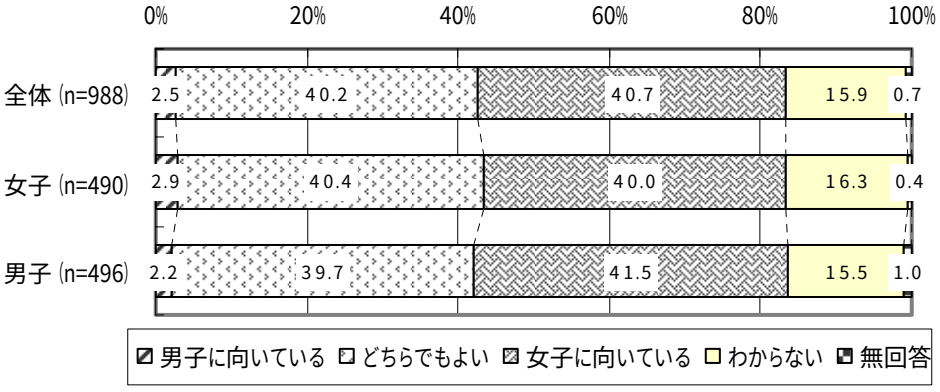
図表 Ⅱ-34 学校での役割:整理整頓をすること



図表 Ⅱ-35 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること



図表 Ⅱ-36 名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと



2-2. 学校の教科について

問 8　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ3つ以内で答えてください。

a 好きな教科の番号			
b 嫌いな教科の番号			
c 得意な教科の番号			
d 苦手な教科の番号			

1　国語	**2　社会**	**3　算数**
4　理科	**5　音楽**	**6　図画工作**
7　体育	**8　家庭科**	

従来から、学校の教科についても、男子は理系、女子は文系という男女の性別により、無意識に区分される傾向があると言われる。

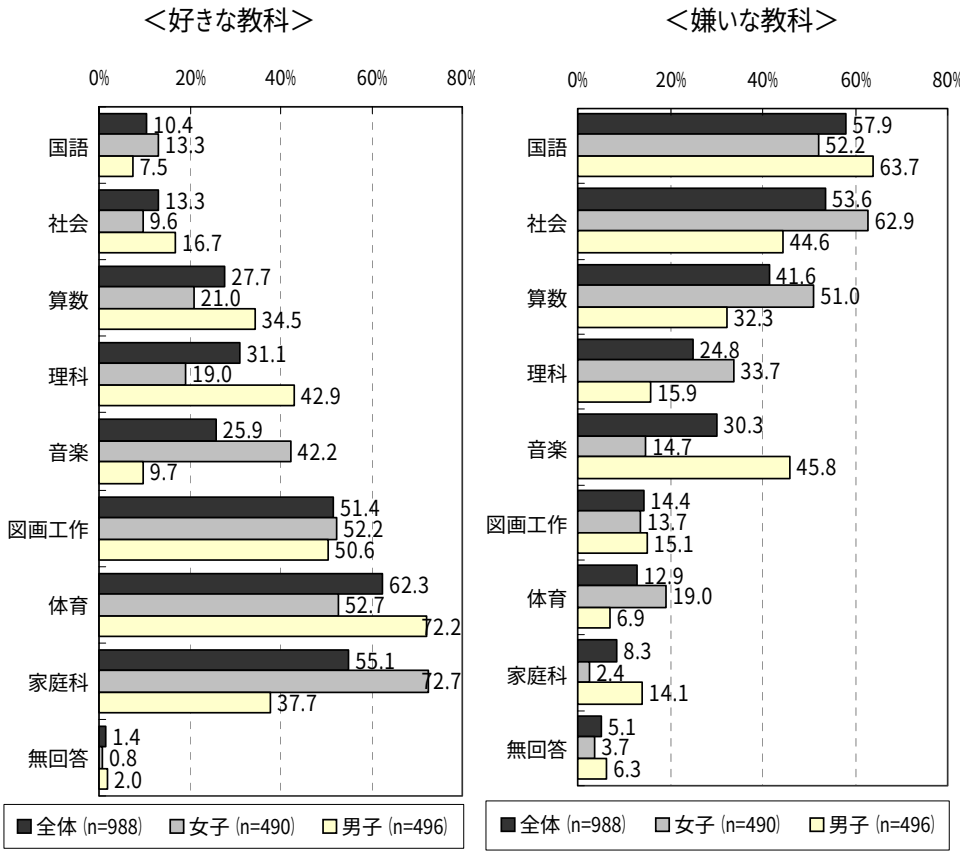
小学生の学科の好きな教科、嫌いな教科についてみると、「体育」「図画工作」は全体的に好きな教科であり、「国語」「社会」は嫌いな教科となっている。しかし、「図画工作」が好きな割合は、男女ほぼ同程度であるが、「体育」は、男子の 72.2%が好きとしているのに対して女子は、52.7%と開きが大きい。また「家庭科」についても、女子が好きと回答した割合が、72.7%であるのに対して、男子は 37.7%と顕著な違いがみられる。

「体育」のように身体を動かす活動的な授業については男子が好む傾向にあり、「家庭科」のように家事を想像させる家庭的な授業は女子が好む傾向にあるが、これは、子どもの個性ということ以上に、親から子どもに日常的に教えられた男女の性別による教育やしつけの影響とも考えられる。

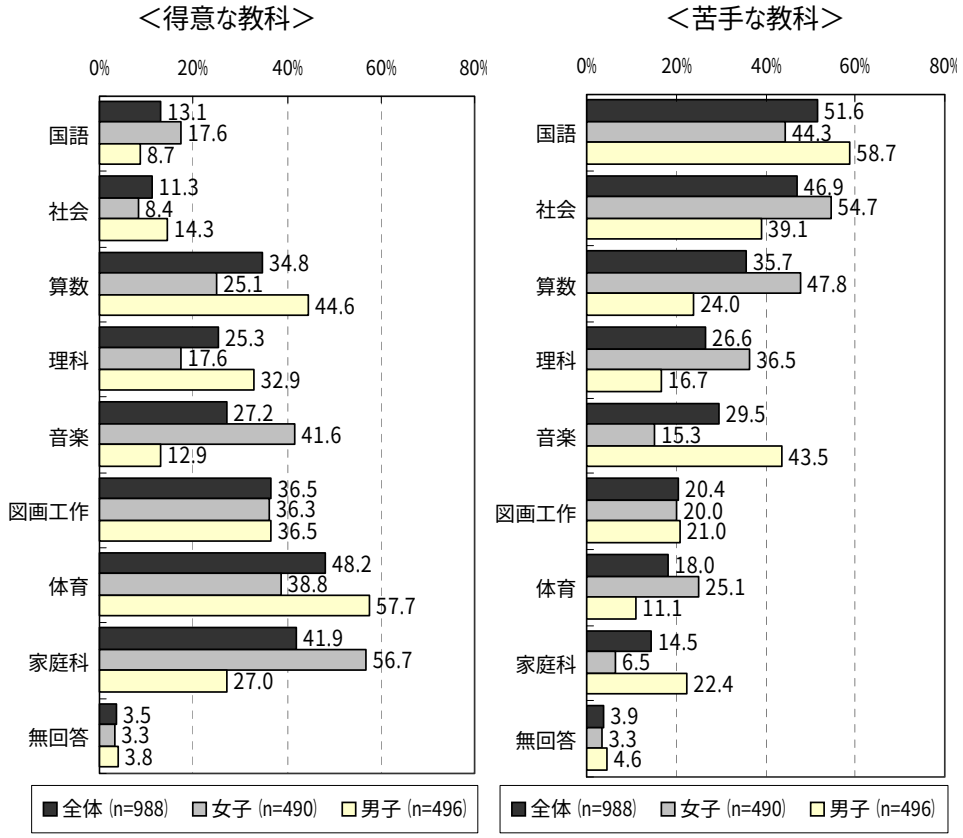
得意・苦手の教科についてみると、「図画工作」は、得意・苦手とも男女による差はみられないが、他の教科についてはいずれも男女差が大きい。

男子が得意とした教科は「体育」「算数」であり、苦手は「国語」「音楽」である。それに対して女子は、得意な教科が「家庭科」「音楽」、苦手な教科は「社会」「算数」となっている。これらをみると、男子は、感性的な教科を不得意とする傾向にあり、女子は、逆に理論的な教科を苦手とする傾向がよみとれる。

図表 Ⅱ-37 好きな教科･嫌いな教科 (複数回答)



図表 Ⅱ-38 得意な教科･苦手な教科 (複数回答)



3 『女の子だから･男の子だから』と言われること

☺ 『女の子だから・男の子だから』と言われた経験は、男子の４割（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）に対して、女子は６割で女子の方が高い。

☺ 言われる相手は、「お母さん」「お父さん」が多い。「お母さん」は、女子で７割を超え、男子で６割と高い割合である。

☺ 祖父母と同居する三世代世帯の子どもと二世代世帯の子どもが『女の子だから・男の子だから』と言われる差はほとんどみられない。

☺ 言われる内容は、女子では「ことばづかいが悪いとき」「行儀が悪い座り方をしたとき」「整理整頓ができないとき」「家事などの手つだいをしないとき」がいずれも３割を超える。男子で３割を超えるのは「泣いたとき」のみである。

3-1.『女の子だから･男の子だから』と言われた経験について

問 9 あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「女の子だから○○しなさい」「女の子の〈せに○○」「男の子だから○○しなさい」「男の子〈せに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号1つに○）

1 よく言われる
2 ときどき言われる
→「１」「２」と答えた人は、問１０に進んでください。

3 言われたことがない
4 覚えていない・わからない
→「３」「４」と答えた人は、問１２に進んでください。

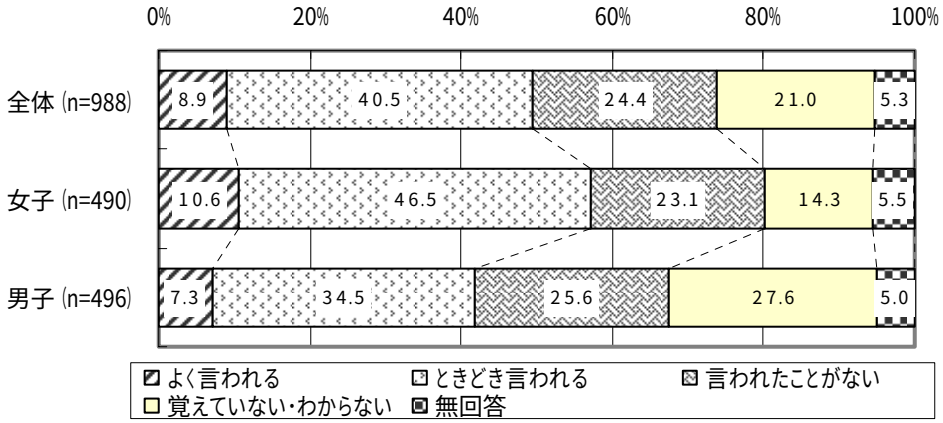
『女の子だから・男の子だから』と言われた経験についてみると、男子は、41.3%（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）に対して、女子は 57.1%であり、男子より女子が高い割合となっている。

『女の子だから○○しなさい』は、手伝いや礼儀･作法などのしつけの点で使いやすい言葉であるために、比較的女子に向けて多用される傾向があるものと考えられる。

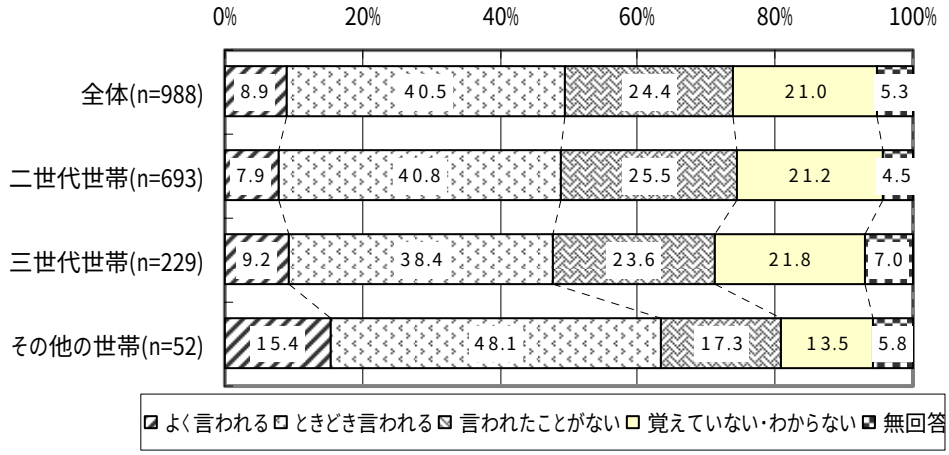
一方、祖父母が同居している三世代世帯と二世代世帯別にみると、差がほとんどみられないことから、『女の子だから・男の子だから』という考え方は、祖父母が同居することによる固定的考え方の押しつけというよりも、女の子としてのしつけや立ち居振る舞に対して一般的に使われているものと考えられる。

図表 Ⅱ-39 『女の子だから・男の子の〈せに』などといわれた経験

＜男女別＞



＜家族構成別＞



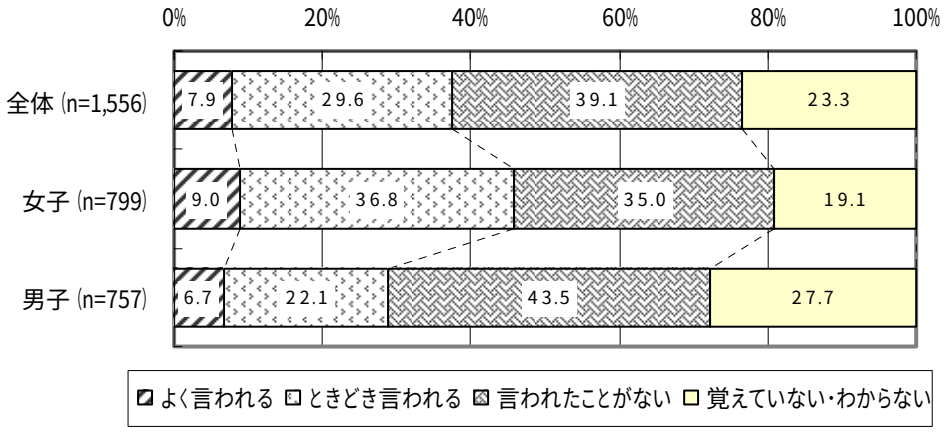
＜参考＞

「児童および市民意識調査～教育現場における男女平等の推進をめざして～報告書」

（2004 年、財団法人松山市男女共同参画推進財団）

問　あなたは人から「女だから○○しなさい」や「男だから○○しなさい」と言われたことがありますか。（○はひとつだけ）

＜参考：『女だから～、男だから～』と言われた経験＞



・『女だから・男だから』と言われた経験について、前出の松山市で実施した調査結果をみると、「よく言われる」は豊田市調査と同程度であるが、「ときどき言われる」は、豊田市の方が 10 ポイント程度高く、「言われたことがない」は、女子で約 12 ポイント、男子では 18 ポイント豊田市が下回っている。

・豊田市では大人から子どもへ『女だから～、男だから～』と言われる割合が全般的に高い。

3-2.『女の子だから･男の子だから』と言われた相手

「1　よく言われる」「2　ときどき言われる」と答えた人は次の質問に答えてください。

問 10　問 9 で「1　よく言われる」「2　ときどき言われる」と答えた人にお聞きします。
だれから言われることが多いですか。（あてはまる番号すべてに○）

1　お父さん	**2　お母さん**	**3　おじいさん**	**4　おばあさん**
5　兄・弟	**6　姉・妹**	**7　男の友だち**	**8　女の友だち**
9　男の先生	**10　女の先生**	**11　近所のおじさん**	**12 近所のおばさん**
13　その他			

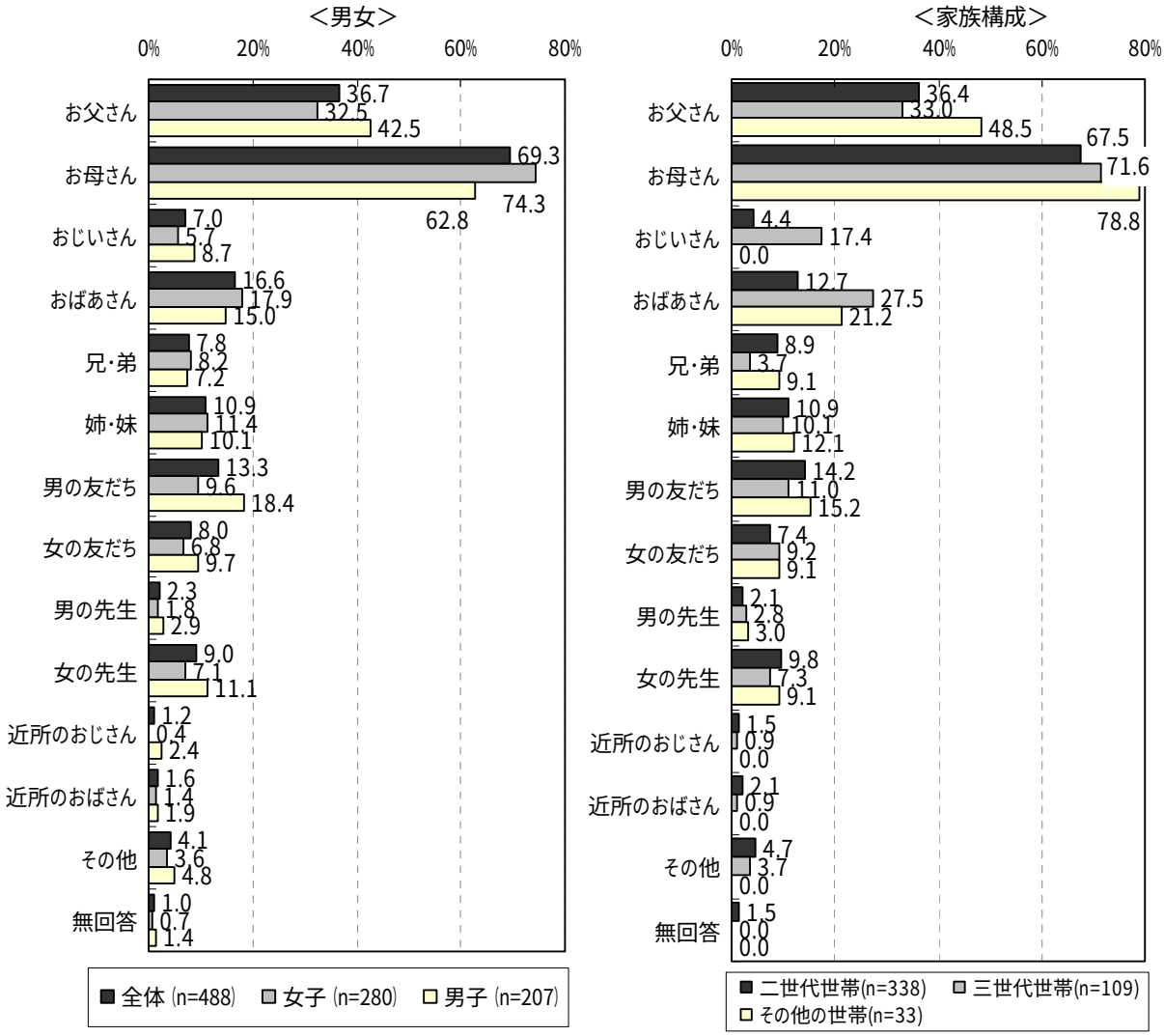
誰から『女の子だから・男の子だから』と言われることが多いかをみると、「お母さん」と回答した割合が、女子の 74.3%、男子の 62.8%と高く、日常生活で一緒にいる時間が長い母

親から言われることが多いことがわかる。母親の次に「お父さん」で、女子が 32.5%、男子が 42.5%となっている。また、特に注目できる点は、男子は父親から言われる割合が女子より高く、女子は、母親から言われる割合が男子より高いという点である。

これらより、男子に対しては父親が『男らしさ』を、女子に対しては、母親が『女らしさ』を教える傾向があることがうかがえる。

また、祖父母が同居する三世代世帯と同居していない二世代世帯別にみると、三世代世帯では「おじいさん」「おばあさん」から言われる割合が高い。しかし、前出のとおり二世代世帯と三世代世帯で経験の差がほとんどなかったことを考えると、祖父母から口うるさく言われるということではなく、日常的に顔を合わせる機会があるため、「おじいさん」「おばあさん」から言われる割合を押し上げているものと考えられる。

図表 Ⅱ-40 だれから言われることが多いか（複数回答）



問 11　**問 9 で「1　よく言われる」「2　ときどき言われる」**と答えた人にお聞きします。

どのようなときに言われましたか。（あてはまる番号すべてに○）

1　ことばづかいが悪いとき	**2　家事などの手つだいをしないとき**
3　整理整頓（せいりせいとん）ができないとき	**4　あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき**
5　勉強ができないとき	**6　運動ができないとき**
7　泣いたとき	**8　無駄（むだ）づかいをしたとき**
9　夜の帰り時間が遅いとき	**10　けんかに負けたとき**
11　その他	

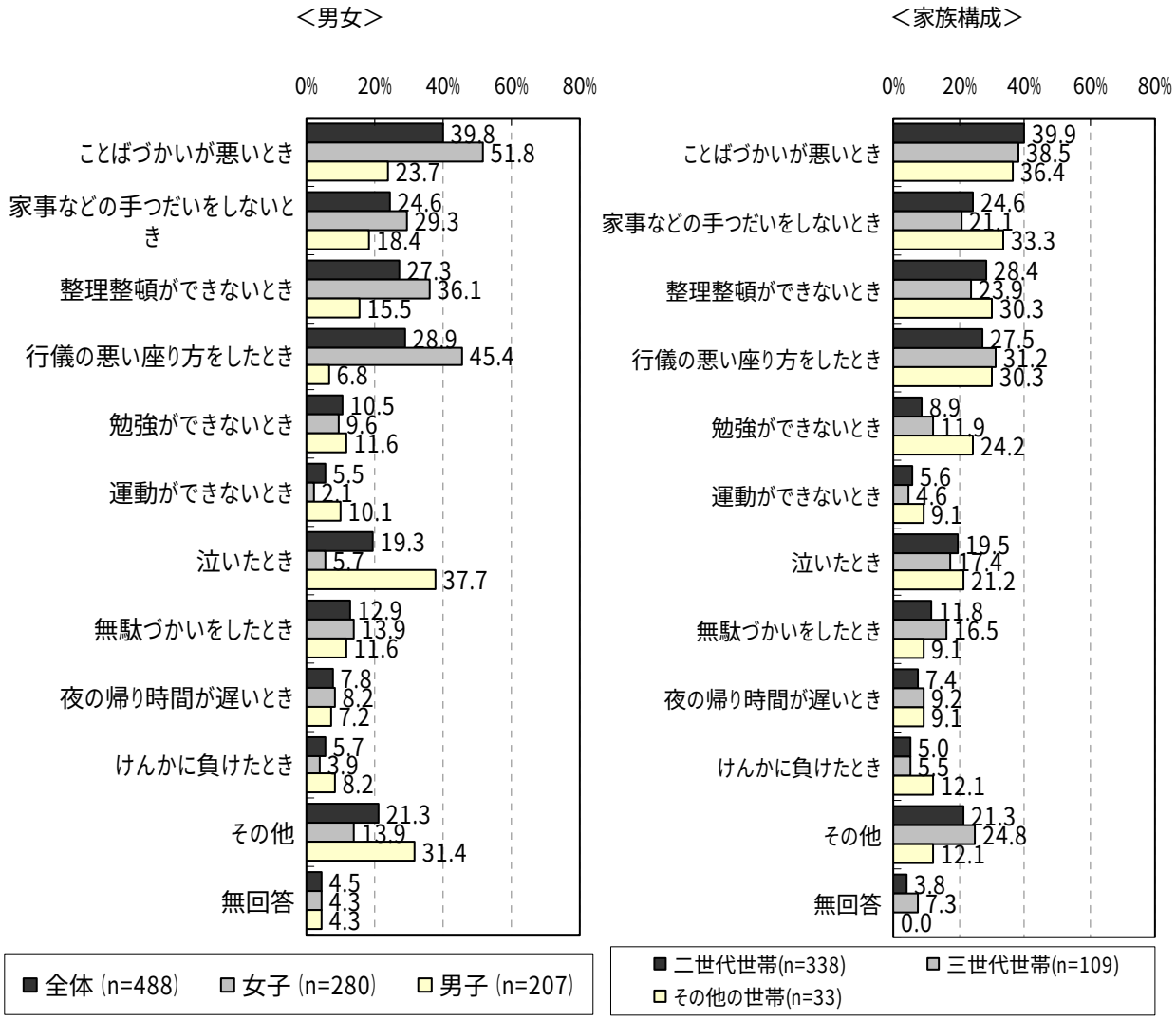
どのような時に『女の子だから・男の子だから』と言われるかをみると、「ことばづかいが悪いとき」（39.8%）が最も高い割合であり、「行儀の悪い座り方をしたとき」（28.9%）、「整理整頓ができないとき」（27.3%）、「家事などの手伝いをしないとき」（24.6%）が続く。しかし、これらはいずれも男女差が大きい。

男女別にみると、女子は「ことばづかいが悪いとき」（51.8%）、「行儀の悪い座り方をしたとき」（45.4%）、「整理整頓ができないとき」（36.1%）、「家事などの手つだいをしないとき」（29.3%）が高い割合であるのに対して、男子は「泣いたとき」のみが３割を超え、女子が 5.7%であるのに対して男子は、37.7%と高い割合となっている。

また、二世代と三世代世帯を比較すると、全体的にみて二世代世帯の方が、わずかではあるが『女の子だから・男の子だから』と言われる割合が高い傾向にある。祖父母との同居は『女の子だから・男の子だから』と口うるさく言われることにはつながっていない。

これらより、ことばづかいや行儀が『女の子らしさ』の上で重要であること、泣くことは『男の子らしくない』ことと捉えられていることがわかる。一方、固定的な性別役割分業意識が強いと考えられる高年齢者が同居する三世代世帯が特別に『女の子だから・男の子だから』という固定的な考え方を押しつけられているわけではないこともわかる。

図表 Ⅱ-41 どのようなときに言われたか（複数回答）



4 将来の姿

☺ 女子の将来の自分像は、やさしくて、明るい人と捉えられている。男子は、運動ができるやさしい人である。

☺ 生まれ変わる時の性別については、男子は「ぜったい男子」と「どちらかといえば男子」を合わせると、再び男子に生まれ変わりたいと回答している割合は７割を超える。これに対して、女子は、再び女子と回答した割合は５割を切る。小学生にも意識の中での男女の格差観が浸透しており、男子より女子は不利と捉えられ、女子が女子の性別を否定する傾向にあることがうかがえる。

4-1. どのような人になりたいか

問 12 **全員にお聞きします。**あなたは、どのような人になりたいと思いますか。(◯は5つまで)

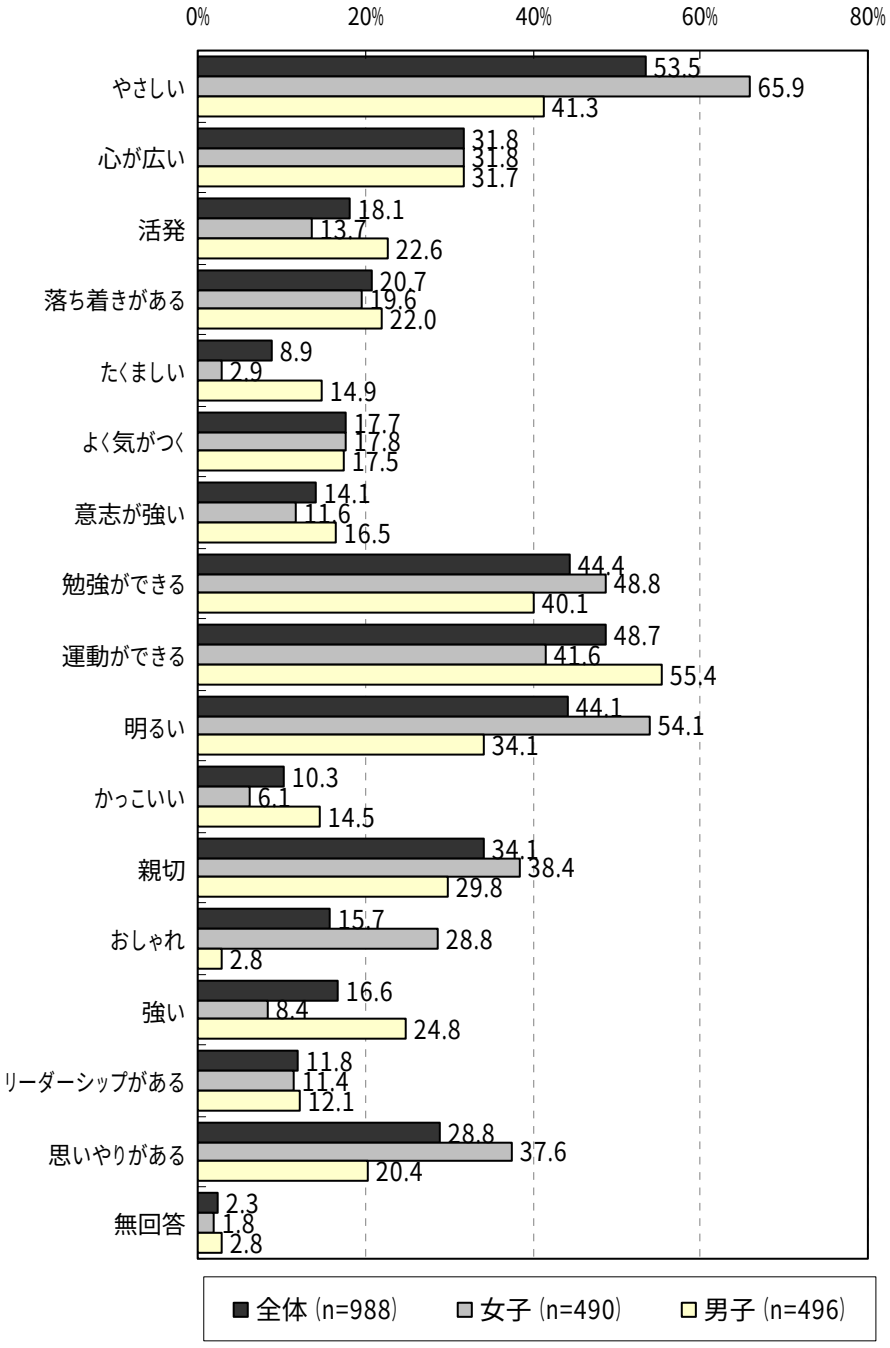
1 やさしい	2 心が広い	3 活発(かっぱつ)
4 落ち着きがある	5 たくましい	6 よく気がつく
7 意思(いし)が強い	8 勉強ができる	9 運動ができる
10 明るい	11 かっこいい	13 親切(しんせつ)
14 おしゃれ	15 強い	16 リーダーシップがある
17 思いやりがある		

どのような人になりたいかは、男女とも共通して、「勉強ができる」「運動ができる」などをあげている一方で、男女による違いも大きい。

女子は、第１位が「やさしい」であり 65.9%に達し、次に「明るい」が 54.1%となっており、女子の自分像は、やさしくて、明るい人と捉えられている。一方男子は、「運動ができる」が 55.4%と高く、「やさしい」が 41.3%となっている。男子の自分像は、運動ができるやさしい人ということになる。

図表 Ⅱ-42 どのような人になりたいか-上位5つ(複数回答)

図表 Ⅱ-43 どのような人になりたいか（複数回答）



4-2. 生まれ変わるとき

問 13　あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。

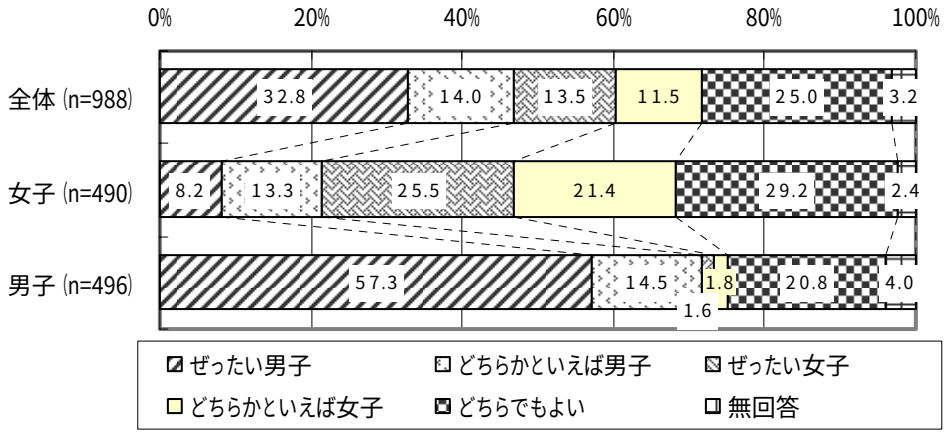
1　ぜったい男子	2　どちらかといえば男子	
3　ぜったい女子	4　どちらかといえば女子	5　どちらでもよい

自らの性別を、不利と捉えるか、肯定するかによって、生まれ変わったときの男女の選択が異なるものと考えられる。従って、現状ではまだ女子が不利なことが多いと考えられている場合には、女子は生まれ変わっても女子がいいと考える割合が低くなり、男子を選択することになる。

回答結果をみると、男子は「ぜったい男子」と回答している割合が 57.3%と高く、「どちらかといえば男子」も合わせると、71.8%が再び男子に生まれ変わりたいと回答している。これに対して、女子は、「ぜったい女子」と回答した割合は 25.5%にとどまり、「どちらかといえば女子」の 21.4%と合わせても、46.9%であり、女子が再び女子として生まれたいと回答した割合は半数に満たない。また、女子では「ぜったい男子」「どちらかといえば男子」が 21.5%であり、女子が女子より男子に生まれ変わりたいとする割合が高いことも注目できる。

以上より、小学生の子どもに男女の格差観は浸透しており、男子より女子は不利と捉えられ、女子が女子の性別を否定する傾向にあることがうかがえる。

図表 Ⅱ-44　生まれ変わるとしたらどちらがよいか



Ⅲ.　調査結果の分析－中学生

1　家庭生活

☺　家庭内の仕事のうち、夕食のしたくや片付け、掃除や洗濯など、家事に関することはほとんど女性の役割となっている。「男の人」が主にしていることは「蛍光灯の取りかえ」のみである。また、一番風呂も「男の人」が先の傾向がある。また、二世代世帯より三世代世帯の方が女性が分担している割合が高く、家事等の担い手としての女性が多いこと、高齢世帯の同居により、家事は女性という役割意識が慣習化していると考えられる。

☺　男女別に手伝いの内容をみると、女子は夕食のしたくや片付けなど家事関係の手伝いが全体的に高いのに対して、男子は「夕食のあとかたづけ」と「洗濯物の取り入れ・たたむ」のみが３割を超える。

☺　中学生の男子が、小学生の男子と比較して、手伝いの種類・割合とも減少しているのに対して、女子は、小学生の女子と同程度である。この根底には、家事は女性がするものであり、女の子として家事の手伝いくらいはすべきであるという大人の意識があると考えられる。

☺　勉強と家の仕事のバランスに関する家族の考え方については、「勉強も家の仕事も両立する」が５割を超える。男女別にみても全体的な傾向は同じであるが、男子の方が「勉強をやっていればよい」の割合が高く、勉強に対する家族からの期待が意識されるようになっている。

1-1. 家庭における役割分担

問4　あなたの家では、次のことはだれが主にしていますか。（a～kのそれぞれについてあてはまる番号1つに○）

	男の人	男の人も女の人も同じくらい	女の人	わからない
a　夕食のしたく	1	2	3	4
b　夕食のあとかたづけ	1	2	3	4
c　家の中のそうじ	1	2	3	4
d　洗濯・洗濯物を干すこと	1	2	3	4
e　洗濯物の取り入れ・たたむこと	1	2	3	4
f　普段の日の食事の買い物	1	2	3	4
g　ごみ出し	1	2	3	4
h　学校行事への参加	1	2	3	4
i　地域の活動	1	2	3	4
j　風呂に一番先に入ること	1	2	3	4
k　蛍光灯の取りかえ	1	2	3	4

(1) 全体的傾向

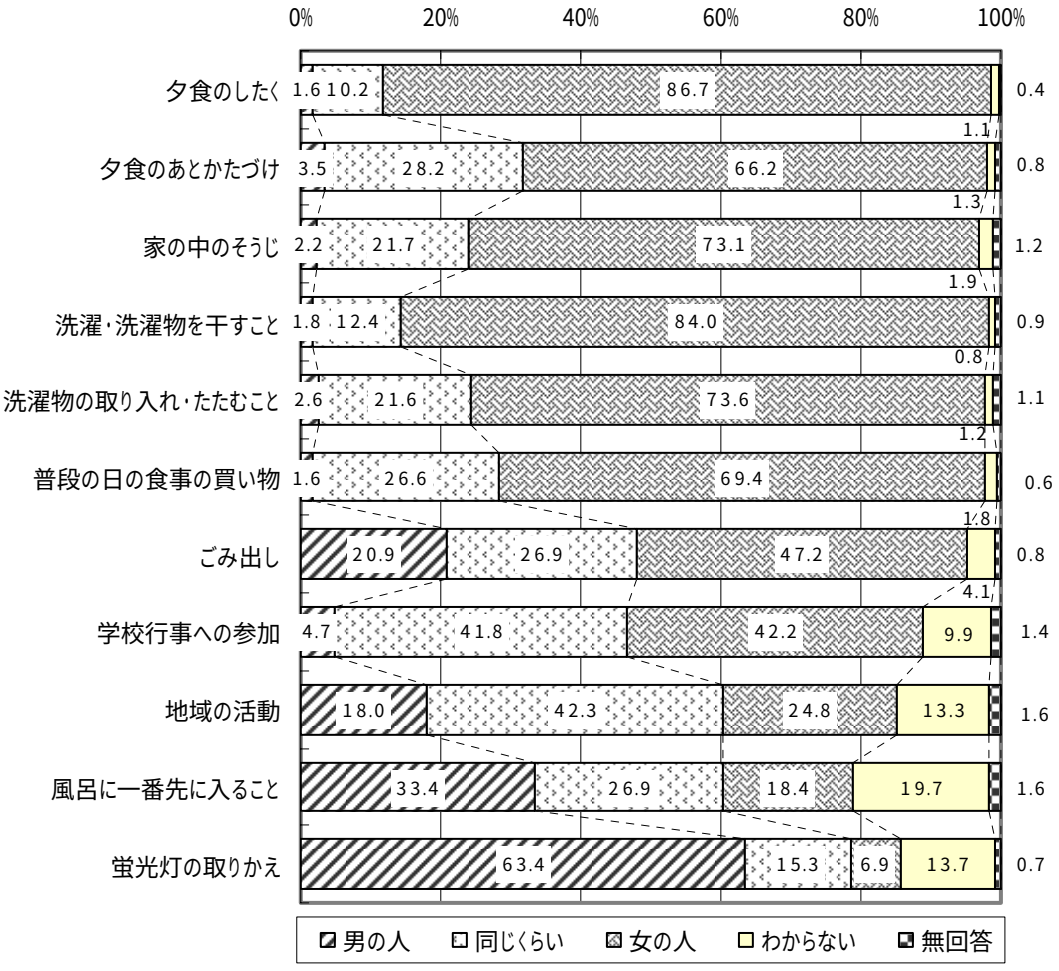
家庭内の仕事のうち、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干すこと」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「普段の日の食事の買い物」は、「女の人」が主にしており、掃除、洗濯、買物、食事の支度と後片付けは、ほとんど女性の役割となっていることがわかる。

「男の人」が主にしていることは「蛍光灯の取りかえ」であり、63.4%と高い割合であり、「女の人」がしている割合は、6.9%と極めて低い。

多くの家庭で、家事に属する仕事は女性が分担し、家の修理に関わるようなことは男性が分担していることがわかる。

「学校行事への参加」「地域の活動」は、「男の人も女の人も同じくらい」している割合が高く、各々41.8%、42.3%となっている。また、「ごみ出し」や「夕食のあとかたづけ」も男の人が参加する傾向がみられる。一方、「風呂に一番先に入ること」については、「女の人」が 18.4%であるのに対して、男性は 33.4%であり、一番風呂に男性が入るという慣習は根強く残っていることもうかがえる。

図表 Ⅲ-1 家での役割

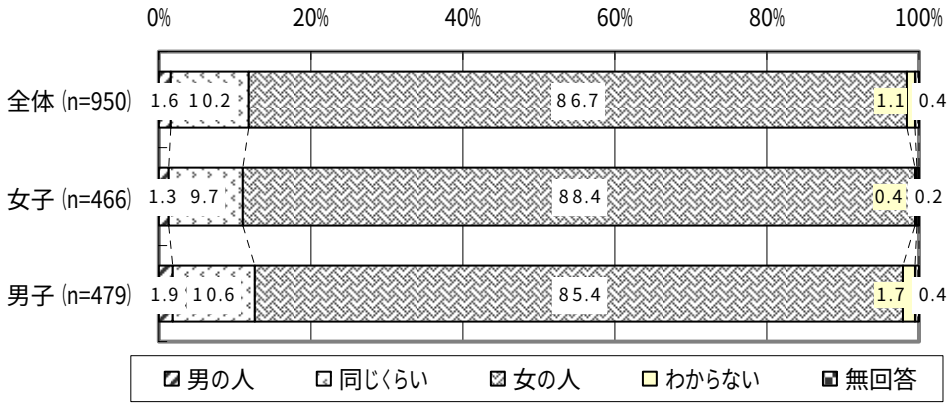


（2） 属性別傾向

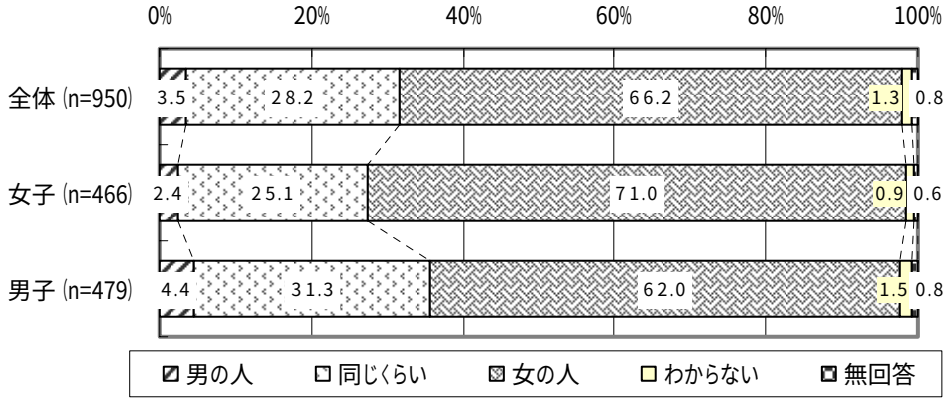
① 男女別傾向

男女別に家庭での役割分担をみると「夕食のあとかたづけ」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「学校行事への参加」などについて、女子の方がわずかに「女の人」がしていると回答しているが、男子・女子による大きな差はみられない。ただし、「風呂に一番先に入ること」については、女子は「女の人」の割合が 28.1%であるのに対して、男子は「男の人」が 42.4%となっており、男子と女子の認識格差がみられる。小学生でもこれと同様な傾向がみられたが、男子には一番風呂は男が入るという意識が先行し、現実以上に「男の人」がしていると認識していることが推察される。

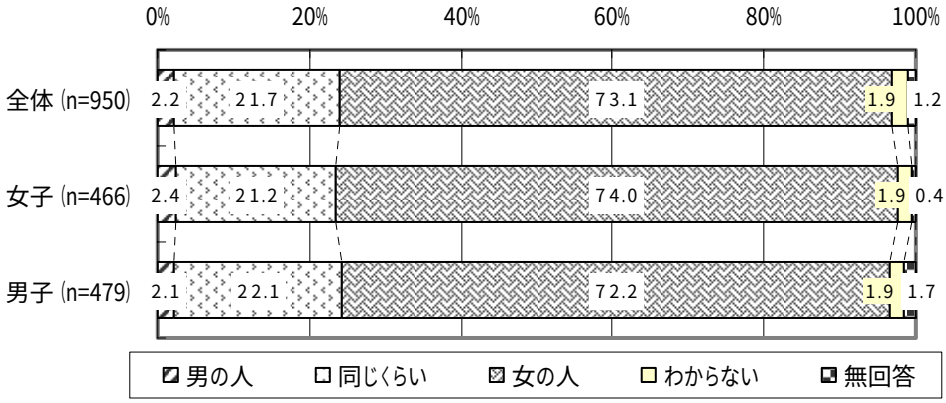
図表 III-2 家での役割:夕食のしたく



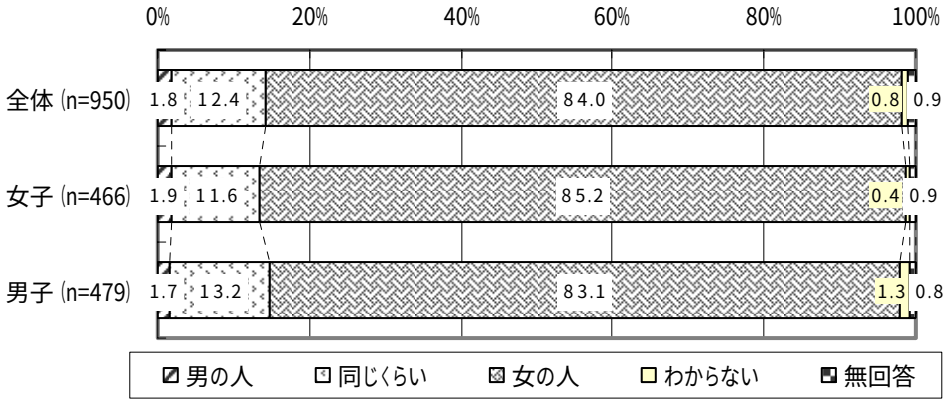
図表 III-3 家での役割:夕食のあとかたづけ



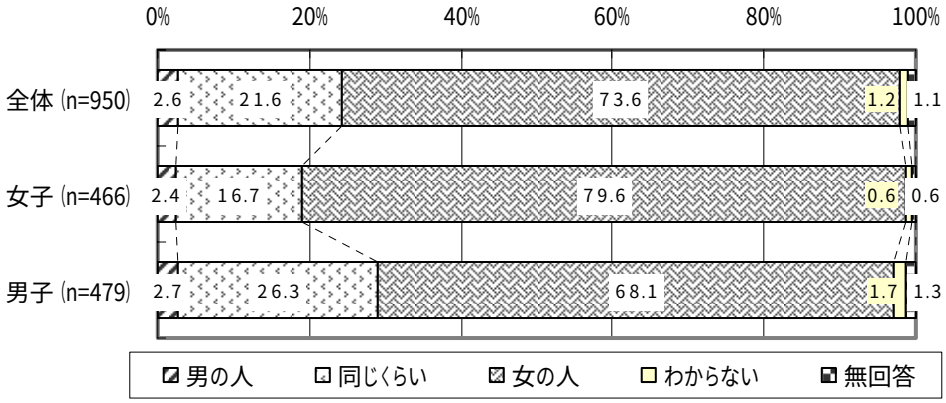
図表 Ⅲ-4 家での役割:家の中のそうじ



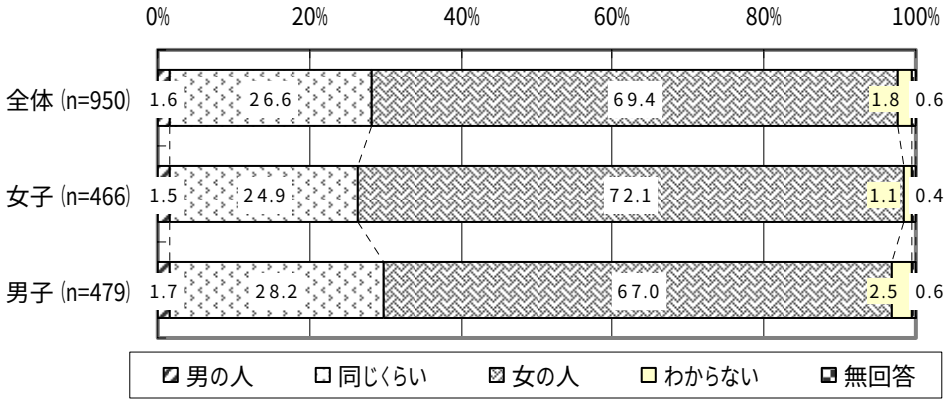
図表 Ⅲ-5 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと



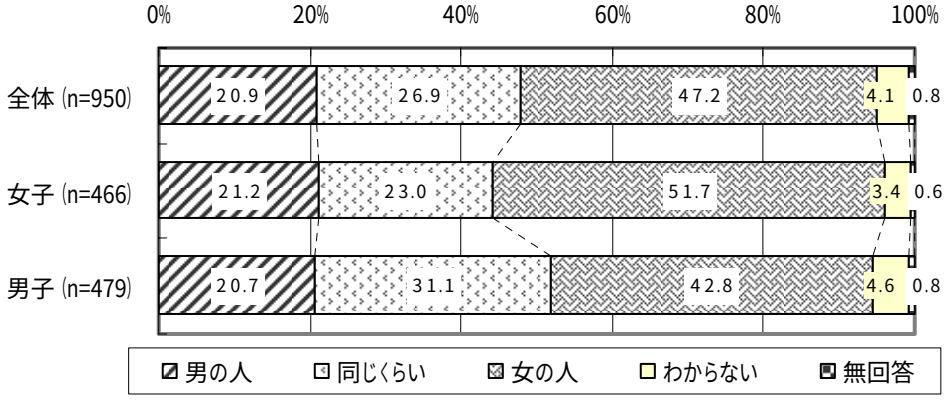
図表 Ⅲ-6 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと



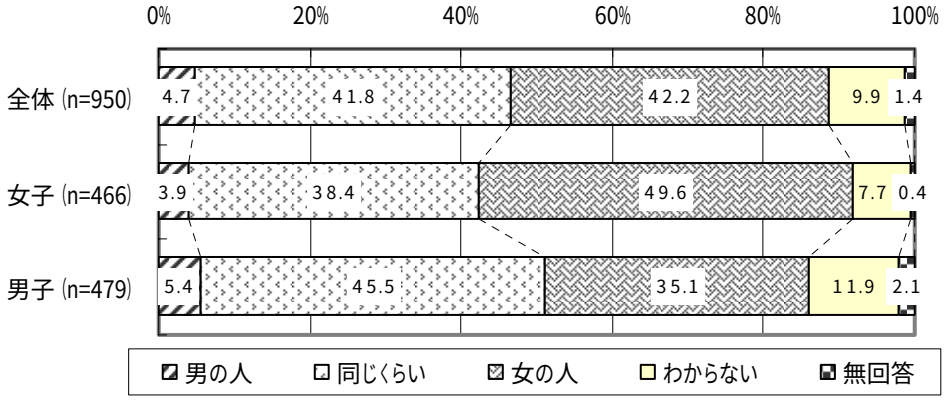
図表 III-7 家での役割:普段の日の食事の買い物



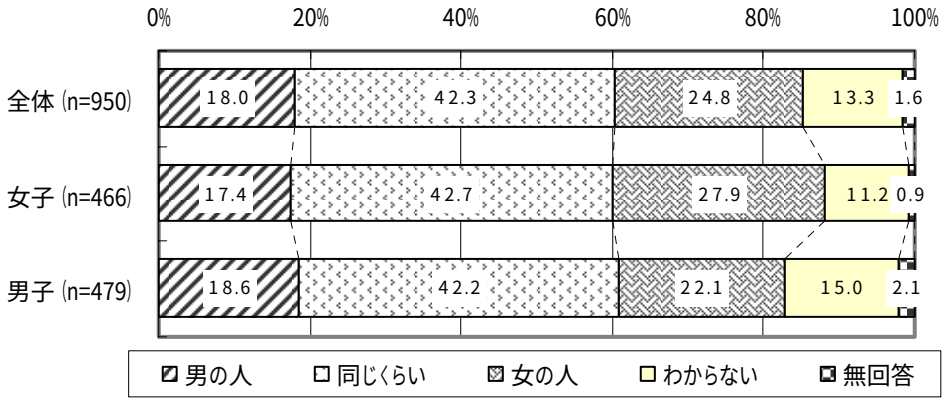
図表 III-8 家での役割:ごみ出し



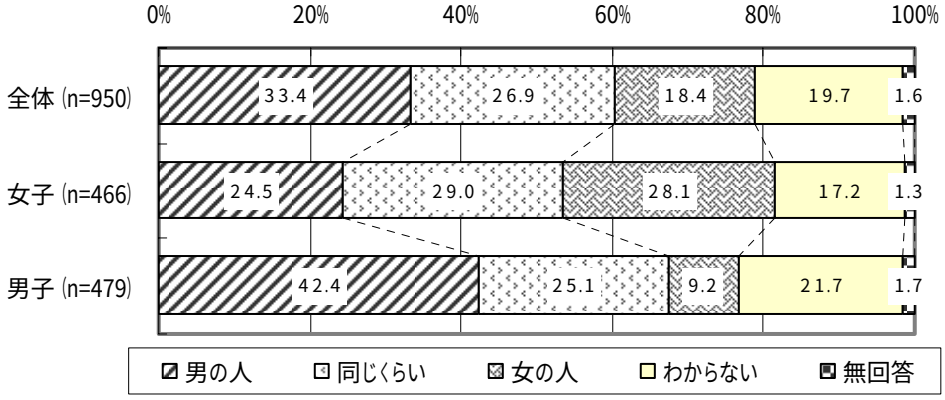
図表 III-9 家での役割:学校行事への参加



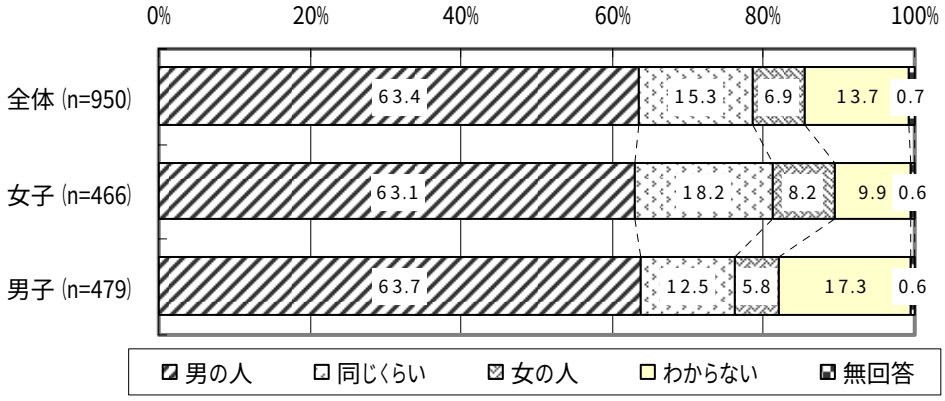
図表 Ⅲ-10 家での役割:地域の活動



図表 Ⅲ-11 家での役割:風呂に一番先に入ること



図表 Ⅲ-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ



② 家族構成・母親の就労状況別傾向

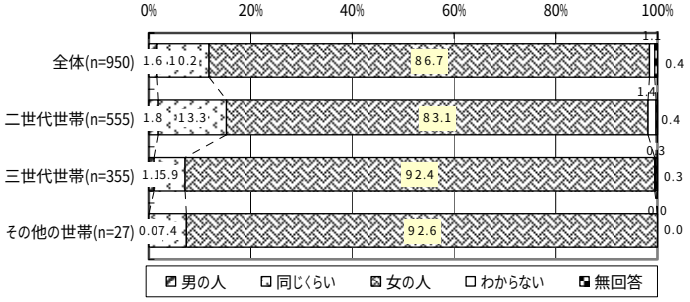
二世代・三世代世帯別に家庭における男女の役割分担の現状をみると、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干すこと」「洗濯物のとり入れ・たたむこと」「ごみ出し」の各項目について、二世代世帯より三世代世帯の方が、女性が分担している割合が高い結果となった。

三世代世帯では、母親・祖母の 2 人の女性がいる世帯が多く、家庭内の仕事を分担できる女性の担い手があることから、女性の役割分担の割合が高くなることが考えられる。さらに、年齢が高いほど男女の固定的役割分業にこだわったり、慣習にとらわれる傾向があり、高齢世代の同居が、家庭の仕事は女性がやるべきであることを慣習化していることも考えられる。

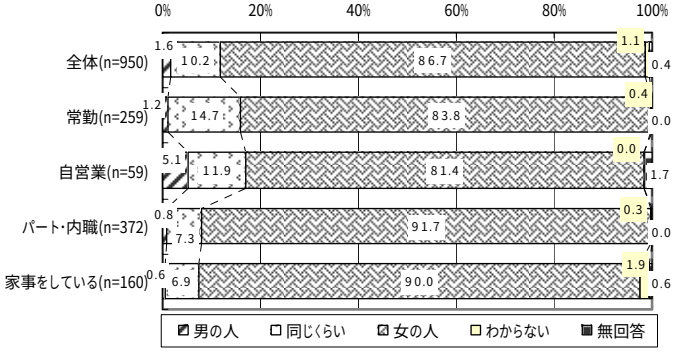
なお、母親の就労状況別による役割分担の違いは特にみられない。

図表 III-13 家での役割:夕食のしたく

＜家族構成＞

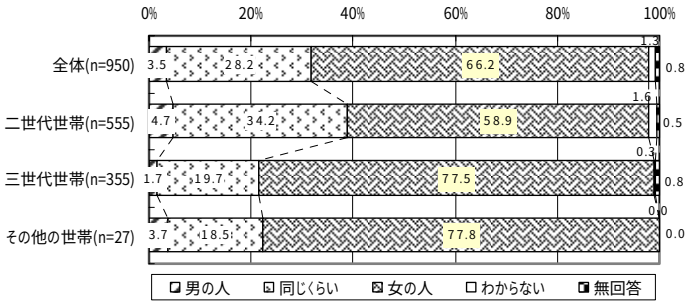


＜母親の就労状況＞

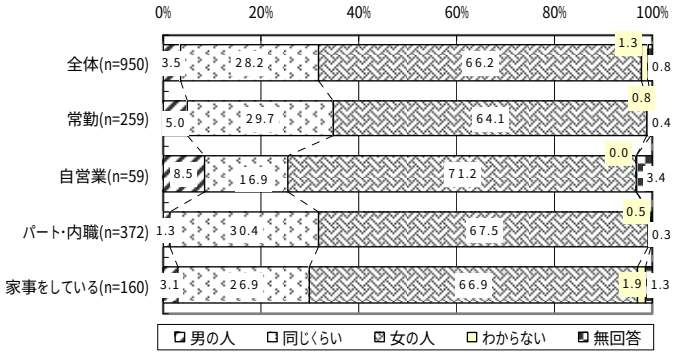


図表 III-14 家での役割:夕食のあとかたづけ

＜家族構成＞

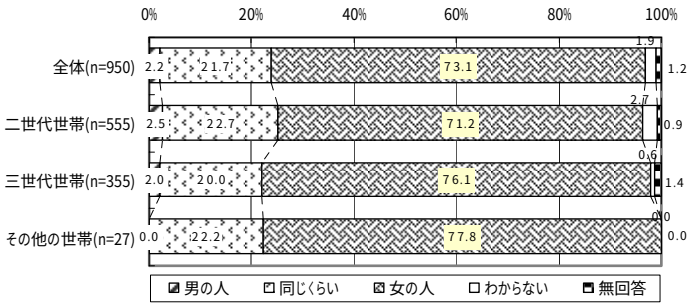


＜母親の就労状況＞

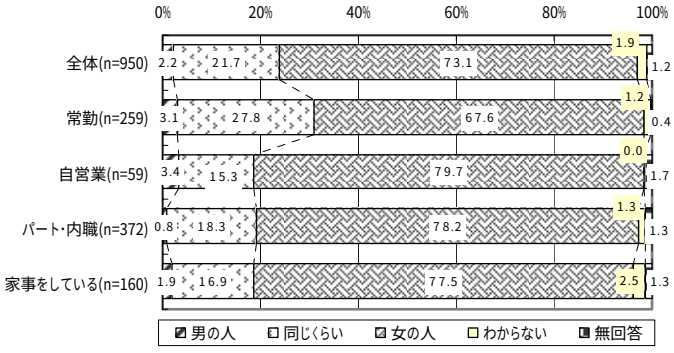


図表 III-15 家での役割:家の中のそうじ

＜家族構成＞

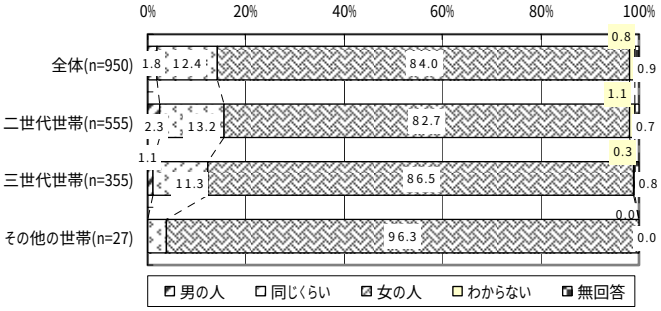


＜母親の就労状況＞

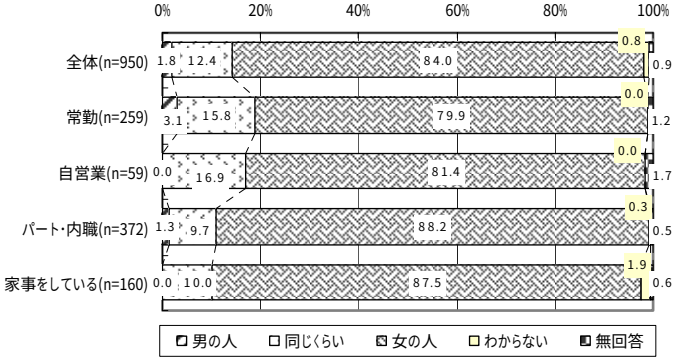


図表 III-16 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと

＜家族構成＞

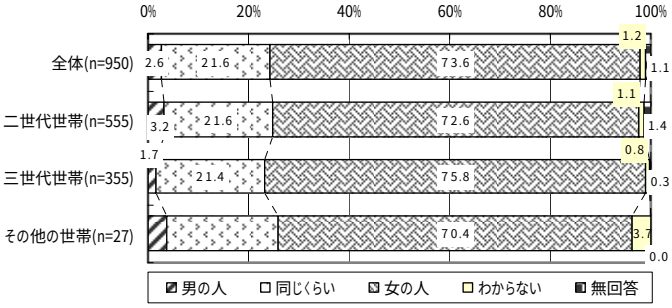


＜母親の就労状況＞

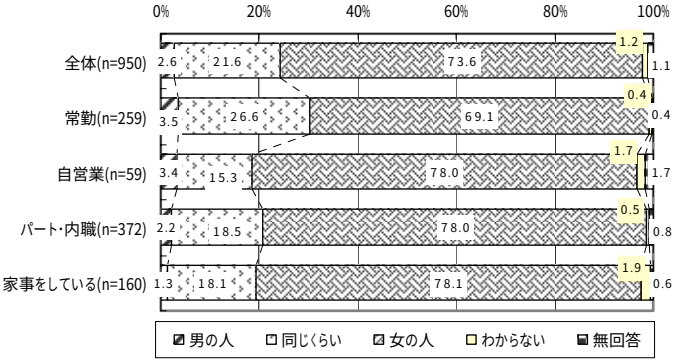


図表 III-17 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと

＜家族構成＞

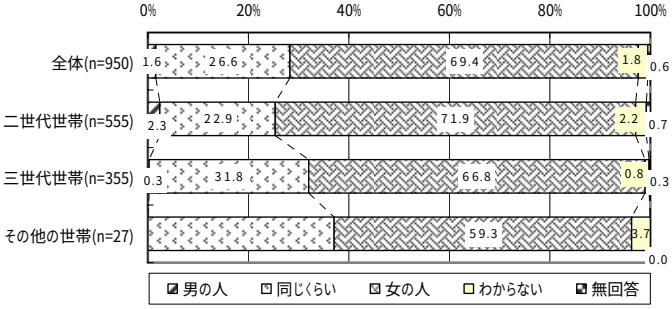


＜母親の就労状況＞

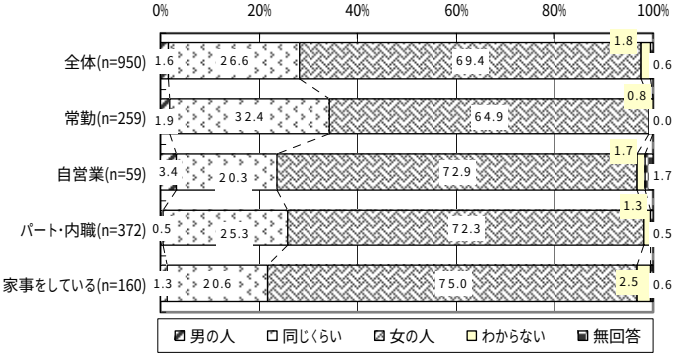


図表 III-18 家での役割:普段の日の食事の買い物

＜家族構成＞

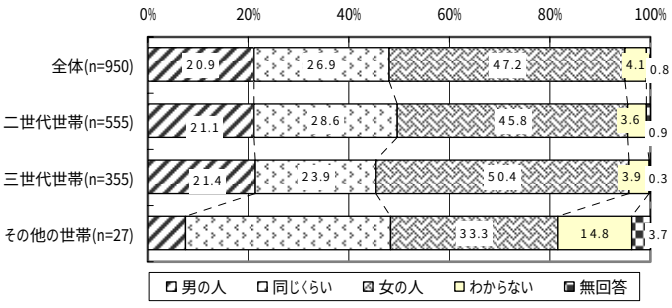


母親の就労状況＞

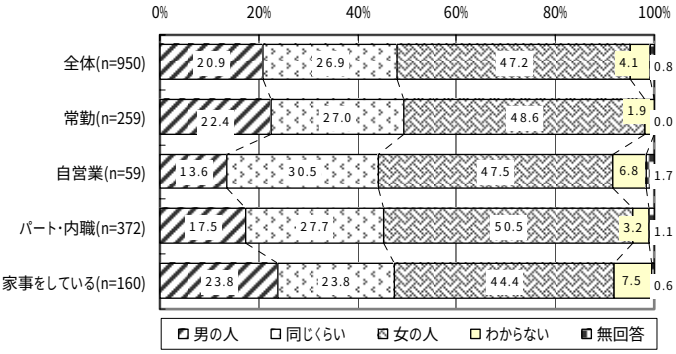


図表 III-19 家での役割:ごみ出し

＜家族構成＞

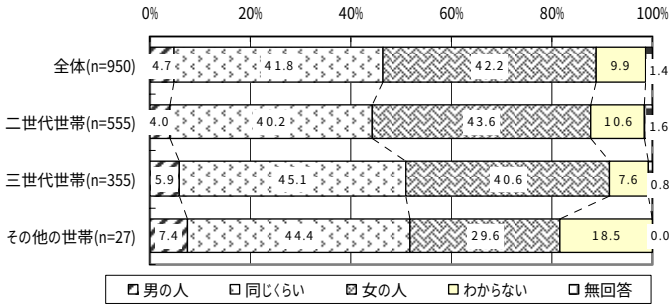


＜母親の就労状況＞

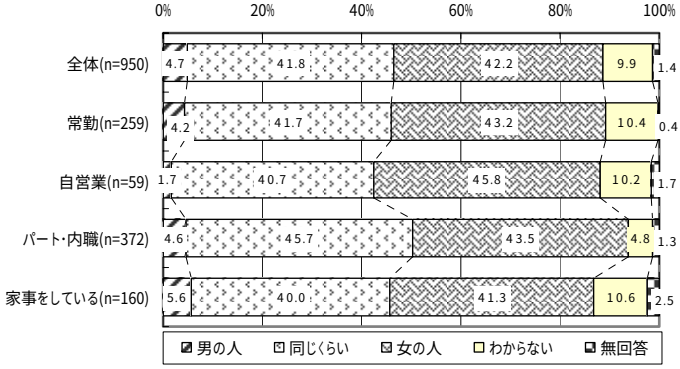


図表 III-20 家での役割:学校行事への参加

＜家族構成＞

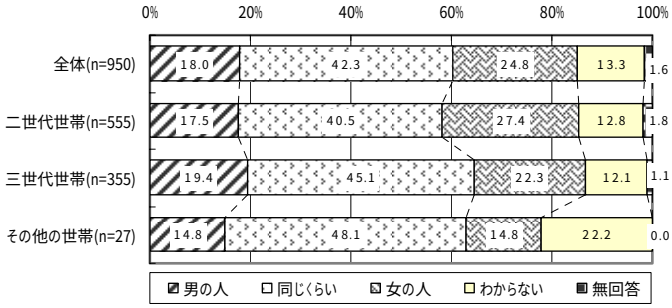


＜母親の就労状況＞

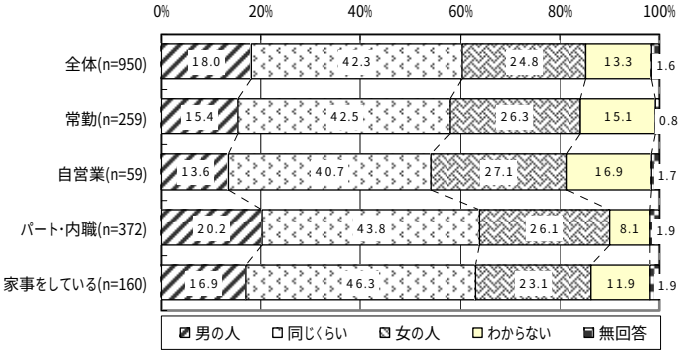


図表 III-21 家での役割:地域の活動

＜家族構成＞

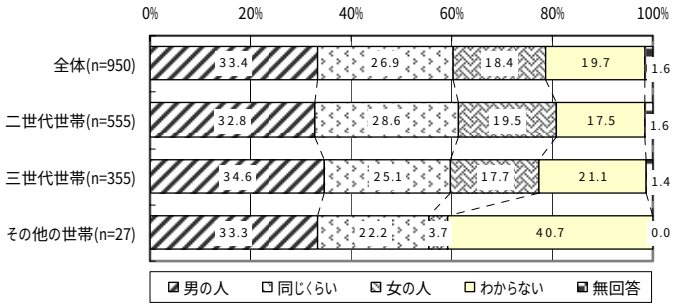


＜母親の就労状況＞

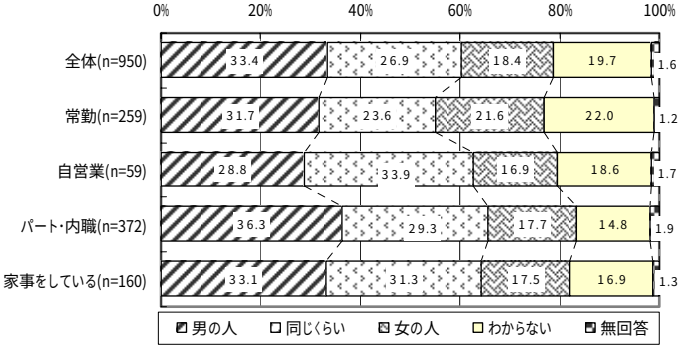


図表 III-22 家での役割:風呂に一番先に入ること

＜家族構成＞

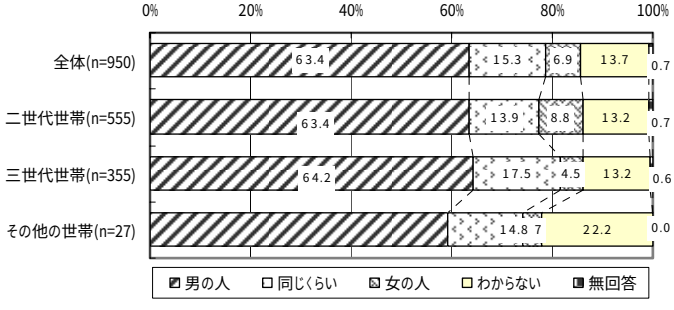


＜母親の就労状況＞

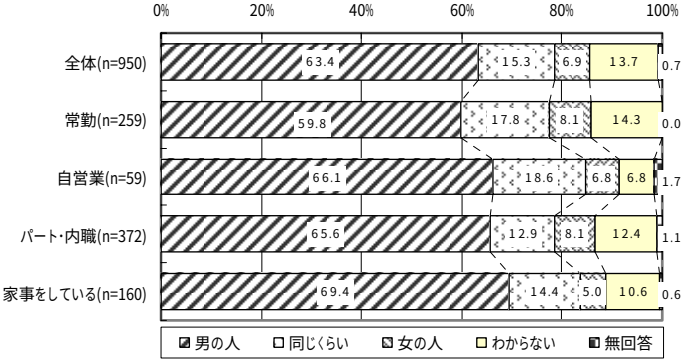


図表 III-23 家での役割:蛍光灯の取りかえ

＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



1-2. 手伝いの内容

問 5　あなたが、家の中でやっている手つだいはどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1　夕食のしたく	2　夕食のあとかたづけ
3　家の中のそうじ（自分の部屋以外）	4　洗濯・洗濯物を干す
5　洗濯物の取り入れ・たたむ	6　買い物（家族といっしょの場合を除く）
7　ごみ出し	8　妹・弟、または介護を必要とする人の世話
9　その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）	

(1)　手伝いの種類

中学生の家庭内での手伝いは「夕食のあとかたづけ」が最も多く 44.5%であり、「洗濯物の取り入れ・たたむ」が 40.2%、「夕食のしたく」が 35.8%と続く。それ以外の手伝いはいずれも 30%を切っており、小学生よりも全般的に家庭での手伝いをする割合が低い。

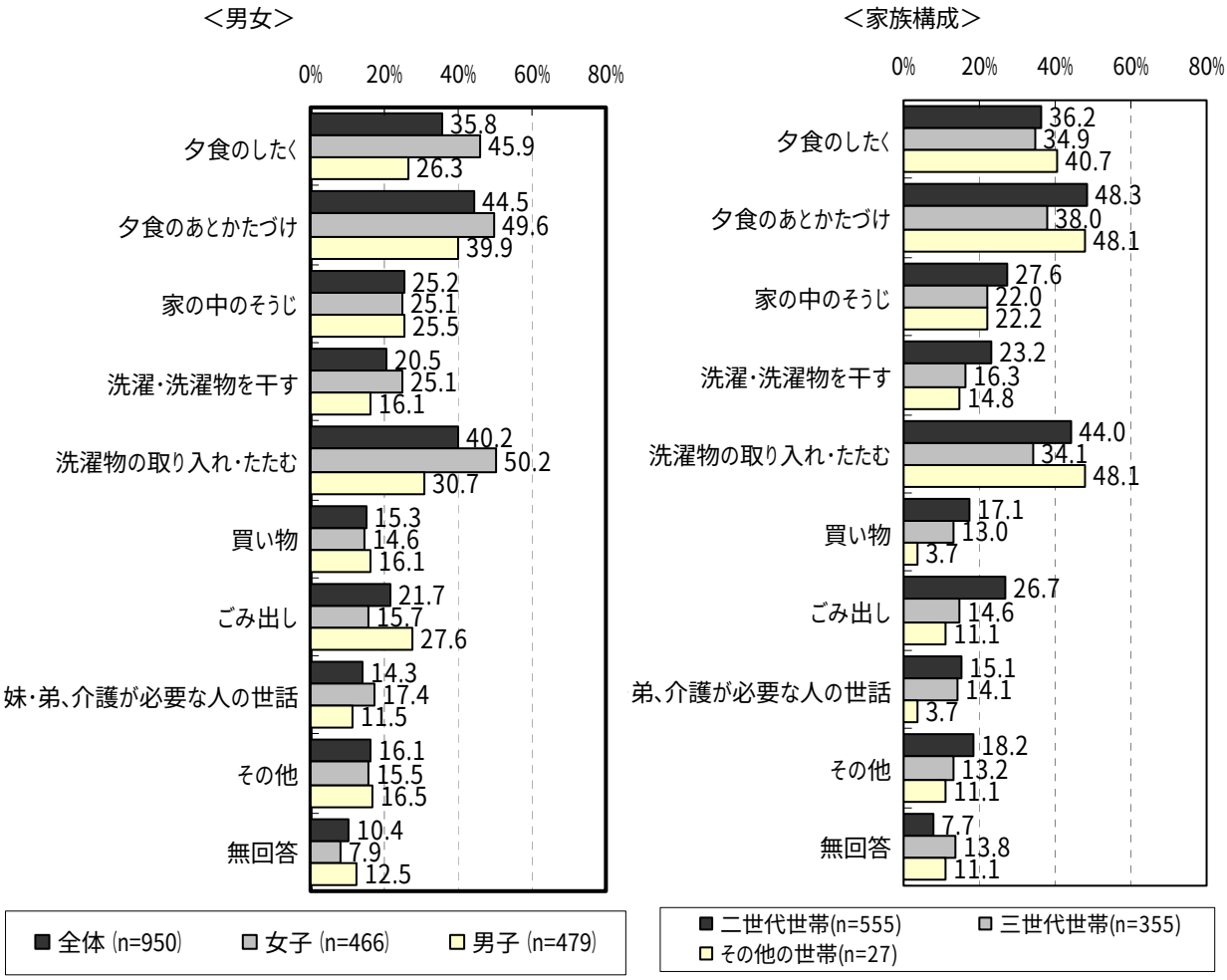
男女別に手伝いの内容をみると、女子は「洗濯物の取り入れ・たたむ」が 50.2%、「夕食のあとかたづけ」が 49.6%、さらに「夕食のしたく」が 45.9%と高いのに対して、男子は「夕食のあとかたづけ」が 39.9%、「洗濯物の取り入れ・たたむ」が 30.7%である以外はいずれも 30%を下回る。

中学生は、学校で過ごす時間が長くなり、家庭の手伝いをする時間が少なくなるとはいえ、特に中学生の男子については、小学生の男子と比較して、手伝いの種類・割合とも著しく減少している。

中学生になった段階で、女子は、小学生の女子と同じ程度に家庭の手伝いをしていても、男子は手伝いが減少する傾向にあることは、家事は女性がするものという意識が根底にあることに起因するものと考えられる。

また、二世代と三世代世帯別の家庭での手伝いについてみると、二世代に比べ三世代世帯の子どもは家庭での手伝いの割合が低い傾向にある。特に「夕食のあとかたづけ」「洗濯物の取り入れ・たたむ」は三世代世帯の子どもの方が約 10 ポイント下回っており、子どもの役割分担として高い割合であるこれらの仕事も大人が担っている状況がわかる。三世代は二世代世帯に比較して家事等の担い手が多いため、子どもの仕事が少ないことが考えられるが、それだけでなく、家事は女性という考え方によって、母親や祖母が仕事の多くを担い、子どもの役割が少ないことも推察できる。

図表 Ⅲ-24 自分が家の中でやっている手伝い（複数回答）



（2） 家族の役割分担と手伝いの種類

家でやっている手伝いの種類（やっている手伝いとして回答のあった数）の平均は、男子2.40種類、女子2.81種類であり、女子の方が男子より若干多くの手伝いをしている。

家庭における男女の役割分担と手伝いの種類（数）の関係をみると、家事等を「男の人」と「女の人」が「同じくらい」していると回答した子どもが家でやっている手伝いの種類（数）は、「男の人」「女の人」と回答している子どもより、全体的に多いことがわかる。

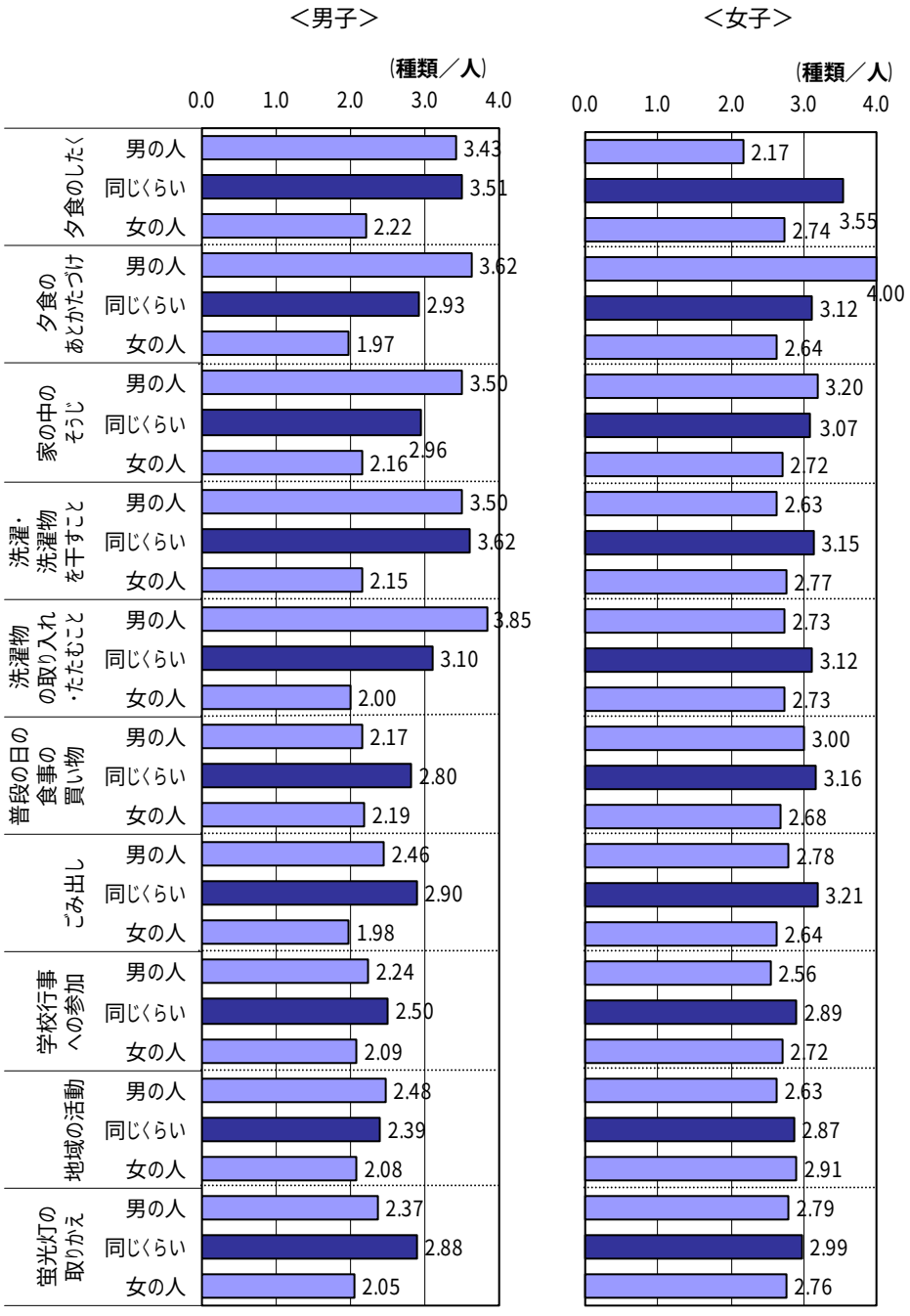
例えば、「夕食のしたく」を「男の人」も「女の人」も「同じくらい」していると回答した男子の手伝い種類（数）は3.51であり、女子は3.55となっており、「男の人」「女の人」と回答したものよりも多い。これは、男女が家の仕事を「同じくらい」している家庭では、家族が協力して家事等をするために、子どもの手伝い件数も多くなるとみることができる。

一方、「女の人」が主に家事をしているという手伝いの種類（数）をみると、男女ともに「男の人」「同じくらい」と比較して全体的に低い。例えば、「夕食のしたく」を「男の人」がしていると回答した男子の家での手伝い種類（数）は3.43、「同じくらい」の男子は3.51であるのに対して、「女の人」と回答した男子の手伝い種類（数）は、2.22となっている。

女子も同様に、「同じくらい」に比べて、「男の人」「女の人」と回答した女子の家での手伝い種類（数）は少ない。すなわち、『女性が家事をする』ので、家族はあまり手伝いをしなくてもよいという関係がつくられていると考えられる。

一方、「女の人」と回答した男女の手伝いの種類（数）をみると、全体的に低く、女性が主に家事を分担している家庭においては、子どもはあまり手伝いをしないという傾向がみられ、こうした家庭における男女の役割分担や家族の協力形態は、結果として『家事は女の仕事』という固定的な役割意識を形成する遠因となっていくものと考えられる。

図表 Ⅲ-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数）



1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方

問 6　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号

b　自分の考えの番号

1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手伝うべきだ
4　わからない

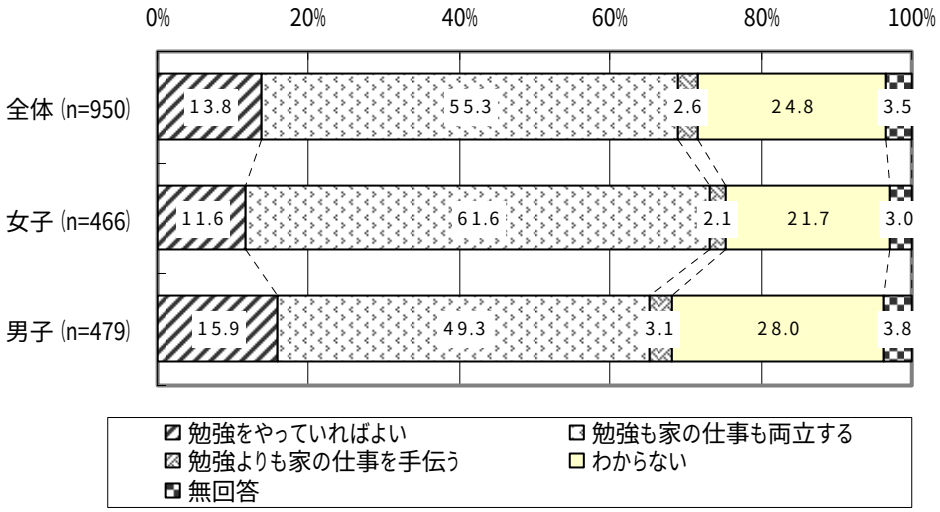
(1)　家族の考え方

勉強と家の仕事のバランスに関する家族の考え方については、「勉強も家の仕事も両立する」の割合が 55.3%であり、「勉強をやっていればよい」（13.8%）、「勉強より家の仕事を手伝う」（2.6%）と比べて圧倒的に高い割合である。

男女別にみると、「勉強をやっていればよい」の割合は、女子よりも男子は 4.3 ポイント高く、女子以上に男子は家族から勉強をすることを期待されていると認識していることがうかがえる。

「勉強をやっていればよい」とする割合は、小学生男子（7.1%）と比べてその割合が大きくなっていることからも、中学生男子は、家族による勉強への期待が強く意識されるようになっていることがわかる。

図表 III-26　家族の考え

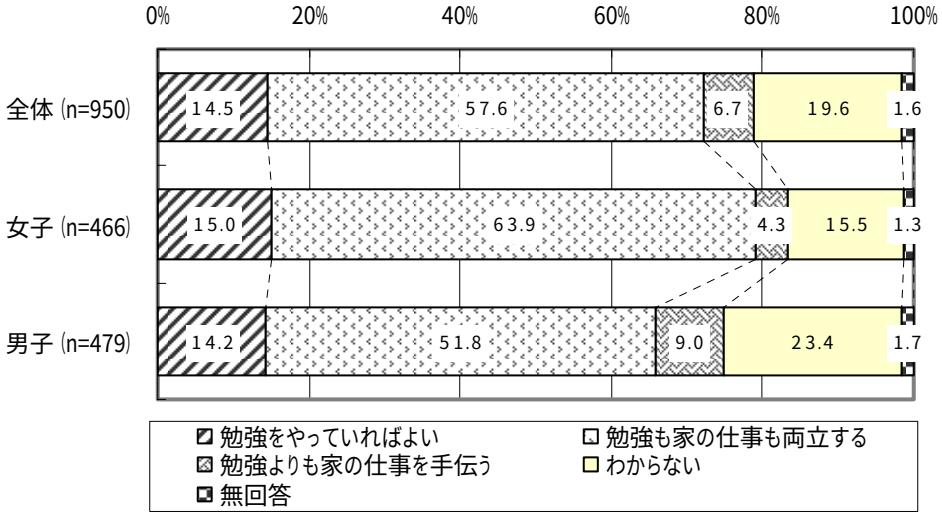


（2） 自分の考え方

勉強と手伝いに関する自分の考え方についてみると、男女とも「勉強も家の仕事も両立する」の割合が高い点で共通している。しかし、家族の考え方では男子は「勉強をやっていればよい」の割合が女子より高い傾向がみられたが、自分の考え方では、「勉強をやっていればよい」の割合は男子が 14.2%に対して、女子は 15.0%となって女子の方が高い。

従来は、男子に比べ、女子に対する勉強への期待は薄いと考えられ、家庭でも男子は勉強に重きを置くことが許容される傾向にあったと考えられた。「勉強をやっていればよい」の割合が高まっていることの是非を除き考えれば、勉強に対する男女の重きの置き方の認識格差はなくなってきているともいえる。

図表 III-27 自分の考え



2　男女の役割分担について

☺　『男は仕事・女は家庭』という考え方については、「よいと思う」が 20.7%、「どちらかというとよいと思う」が 32.4%で、全体の５割以上の中学生が賛成している。ただし、男子の方が女子よりも賛成する傾向は強い。一方、女子は、抵抗感（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」）を抱く割合が３割を超えており、性別役割分業に対する男女の意識格差がうかがえる。

☺　将来の夫婦の役割分担についての考え方は、「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」が約４割、「共働きで育児・家事も共同で行う」が３割超である。女子は、「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」が約５割、「夫が働き、妻は育児・家事に専念」も３割弱であり、専業主婦志向、再就職志向が強い。ただし、母親が常勤世帯の女子の場合、共働き志向が強く、母親のライフスタイルを手本としていると考えられる。

2-1. 将来の『男・女』の役割分担の考え方

問 7　『男性が外で仕事をして収入を得て、女性は家庭にいて、育児や家事などを分担する』という考え方があります。
あなたは、こういう考え方をどう思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　よいと思う（賛成）
2　どちらかというとよいと思う（どちらかというと賛成）
3　あまりそう思わない（どちらかというと反対）
4　まったくそう思わない（反対）
5　どちらでも

『男は仕事・女は家庭』という考え方についてみると、「よいと思う」が 20.7%、「どちらかというとよいと思う」が 32.4%で、全体の５割以上の中学生が賛成していることになる。

男女別にみると、男子は「よいと思う」の割合が女子に比べて 6.4 ポイント高く、女子は、「あまりそう思わない」の割合が男子に比べて 7.3 ポイント高い。

これらより、男女とも『男は仕事・女は家庭』という役割分担について概ね賛成する傾向にあるが、男子の方が女子よりも固定的な性別役割分業意識が強いことがうかがえる。一方、女子は、抵抗感（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」）を抱く割合が３割を超えており、現状の固定的な性別役割分業意識に対する男女差がうかがえる。

祖父母と同居する三世代世帯と両親のみの二世代世帯との比較をみると、『男は仕事・女は家庭』に賛成する割合（「よいと思う」「どちらかというとよいと思う」の合計）は、三世代（56.3%）が、二世代（51.5%）より高く、逆に、反対する割合（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計）は、二世代（27.9%）の方が三世代（23.9%）より高い。

全体的にみて、三世代の子どもは固定的な性別役割分業に賛成傾向が強く、前出の家庭で

の仕事の多くを女性が担う傾向が強いことからみても、三世代世帯においては、従来からの男女の固定的な性別役割分業が容認され、子どもはそれを普通のことと捉えていると考えられる。

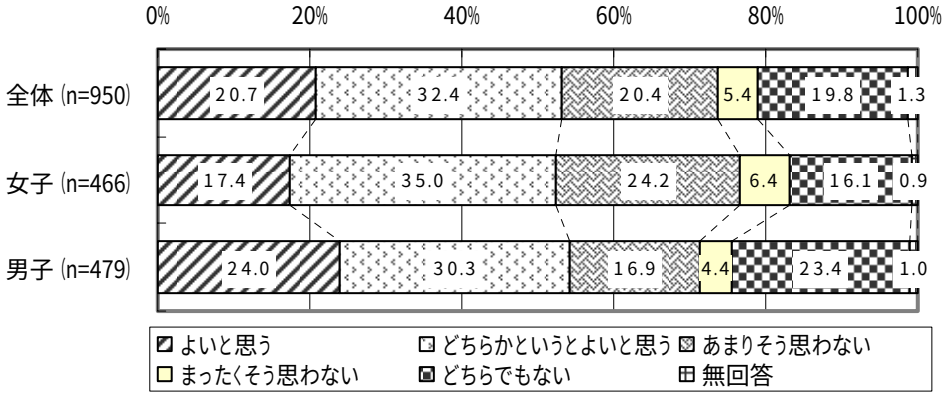
さらに、母親の就労状況別に『男は仕事・女は家庭』への賛成・反対の傾向をみると、母親が「家事をしている」「自営業」の家庭では、賛成傾向が強く、特に専業主婦世帯では、66.9%が賛成（反対は 14.4%）となっている。これに対して、常勤の世帯では、賛成 42.9%、反対が 33.2%で賛成に比べ、反対の割合が高いのが特徴である。

母親が専業主婦であり、父親が仕事をしている家庭で育った子どもにとって、『男は仕事・女は家庭』という役割分担は普通のこととして受け入れられており、逆に母親が外で仕事をもっている場合には、『男は仕事・女は家庭』という考え方に対して反対の気持ちを抱く傾向がみられる。

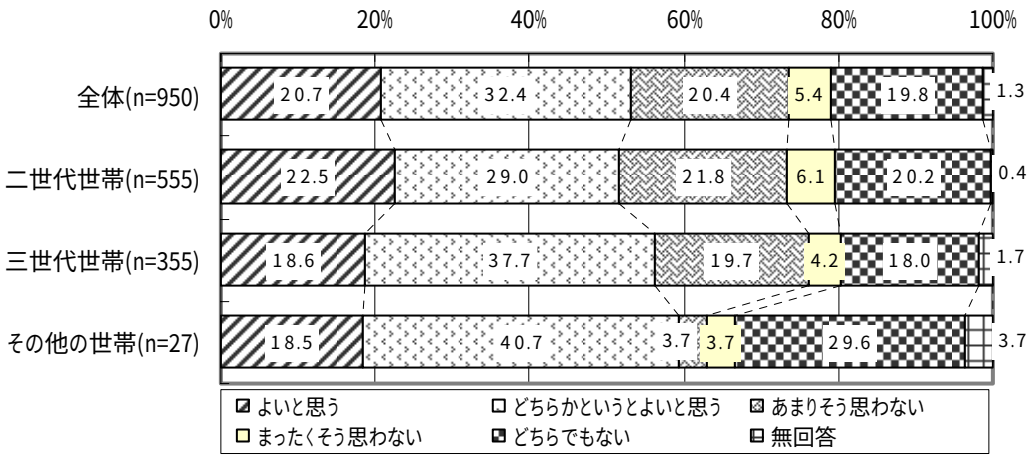
このように、両親・家族の考え方や生き方は、子どもの生き方に影響を与えると考えられ、幼少の頃から『女は家庭』という意識を刷り込むことは、子どもの可能性を縮小させることにつながることを大人が理解し、家庭での教育に留意することが望まれる。

図表 III-28 『男は仕事・女は家庭』という考え方について

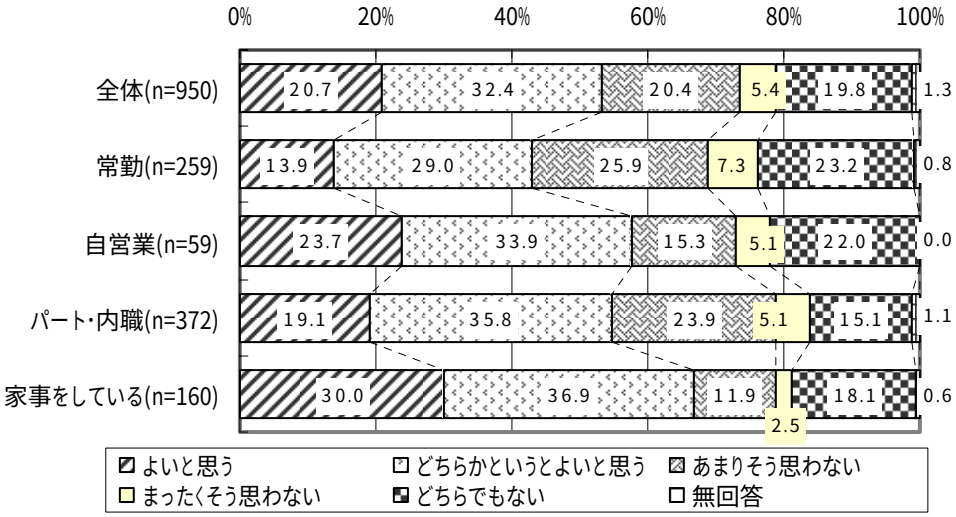
＜男女＞



＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



2-2. 女性の働き方についての考え方

問８　あなたは将来、結婚した場合にはどのような夫婦になりたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

１　二人とも働きながら、育児や家事なども共同で行う
２　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなっても育児・家事に専念する
３　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る
４　妻が外で働き、夫が育児・家事を行う
５　その他

将来の夫婦の役割分担についての考え方をみると、「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」が 39.1%と高い割合であり、「共働きで育児・家事も共同で行う」（32.8%）を超えている。

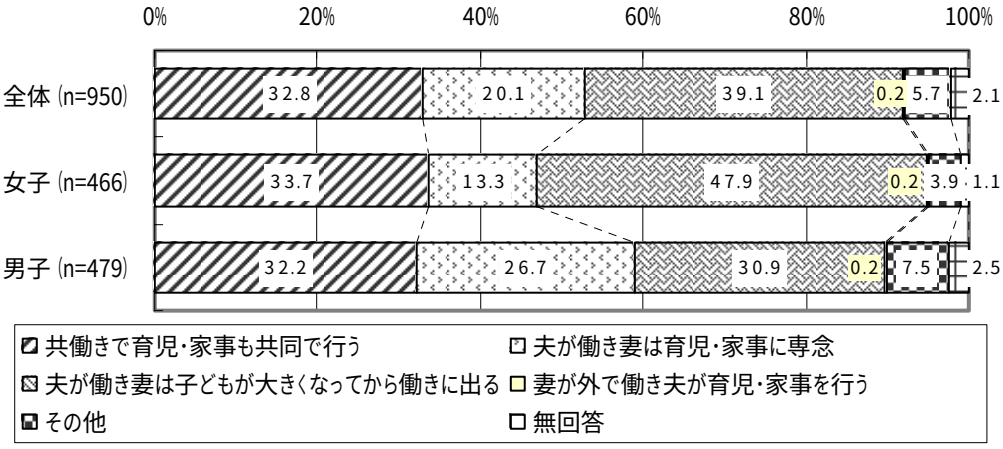
特に女子は、「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」というライフコースを選択する割合が高く、男子が３割程度であるのに対して、女子は 47.8%と半数近い。また、男子は女子に比べ「夫が働き、妻は育児・家事に専念」の割合が高く 26.7%と女子のほぼ２倍となっている。

母親の就労状況と女性の働き方に対する考え方をみると、母親が常勤世帯の子どもは「共働きで育児・家事も共同で行う」割合が 45.9%であるのに対して、母親が家事をしている世帯の子どもは「夫が外で働き妻は育児・家事に専念」が 36.9%と高い。

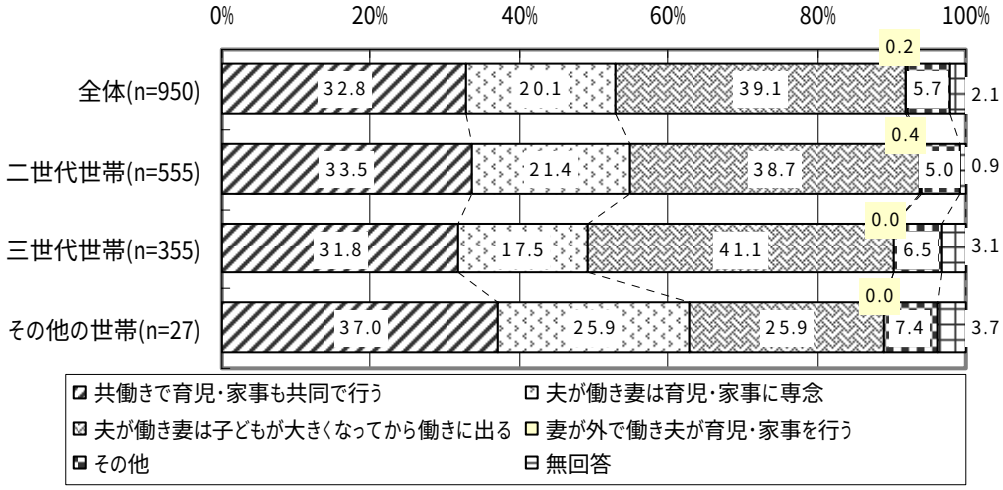
これらの傾向は、最も身近な両親のライフコースを手本としていることが考えられるとともに、『男は仕事・女は家庭』という従来からの男女の性別役割分業意識も影響していると考えられる。女子は育児や家事に専念する、あるいは子どもが大きくなってから働きに出るというライフコースを中学生の段階で描かせてしまう社会環境は、中学生の将来にむけた多様な可能性を摘むことに他ならない。

図表 III-29 どのような夫婦になりたいか

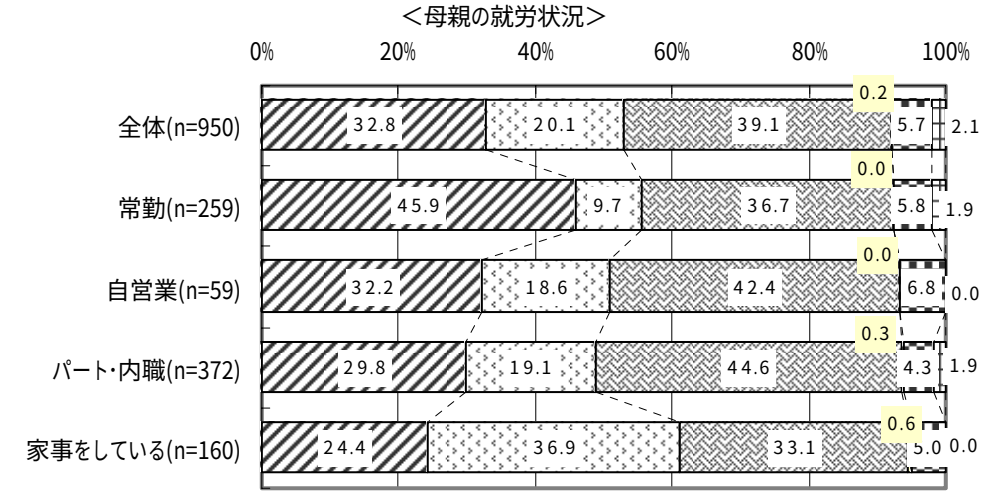
＜男女＞



＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



3　学校生活について

☺　学校行事や係等における男子向き・女子向きに対する考え方は、「重いものを運ぶ」「運動会の応援団長」は「男子に向いている」役割、「整理整頓をすること」「下級生や新入生のめんどうをみること」は女子向きの役割と考えられている。学校の役割についても、力を出す仕事やリーダーシップが期待される役割は男子、家庭的役割は女子と考えられる傾向がある。

☺　中学生が好きな教科については、保健体育や音楽を除けば、女子は文系、男子は理系を好む傾向がみられる。また、嫌い･苦手、好き・得意教科をみても同様な傾向が見られており、社会通念による個人の進路への影響が懸念される。

☺　進学の希望については、男子は「高等学校」「４年制大学」、女子は「専門学校」「高等学校」の順となっており、女子が専門学校までの進学を希望する割合が高いのが特徴である。

3-1. 学校の係等について

問 9　学校の行事や係･委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。(a～h のそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a　生徒会や委員会の会長や委員長	1	2	3	4
b　生徒会や委員会の副会長や副委員長	1	2	3	4
c　運動会の応援団長	1	2	3	4
d　学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e　重いものを運ぶこと	1	2	3	4
f　整理整頓をすること	1	2	3	4
g　下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
h　名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

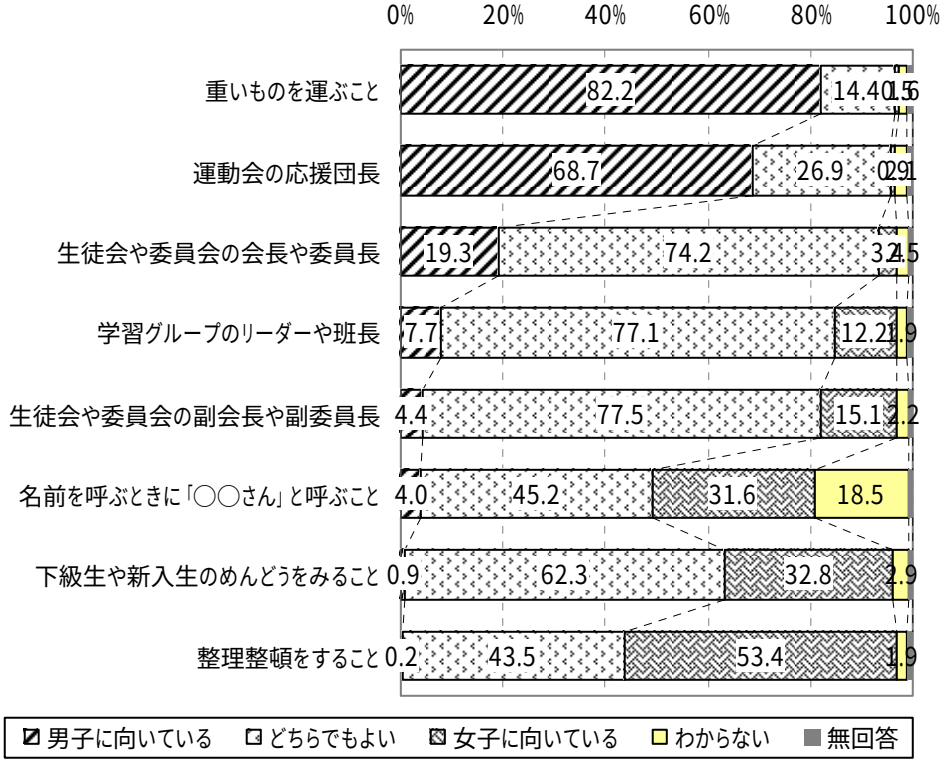
(1)　全体的傾向

学校行事や係等における男子向き・女子向きに対する考え方は、「重いものを運ぶ」（82.2%）、「運動会の応援団長」（68.7%）については「男子に向いている」役割と捉えられており、「整理整頓をすること」（53.4%）、「下級生や新入生のめんどうをみること」（32.8%）は女子向きの役割と考えられている。この結果は、小学生と全く同様であり、力を出す仕事やリーダーシップが期待される役割は男子向き、掃除や年少者のめんどうをみるな

ど家庭的役割については女子向きという意識が強く、性別による役割分業意識が強くうかがえる。

近年、生徒会長や班長など、女子が就くことが多いといわれており、考え方でも「生徒会や委員会の会長や委員長」「学習グループのリーダーや班長」「生徒会や委員会の副会長や副委員長」については「どちらでもよい」の割合が７割を超えて高い。

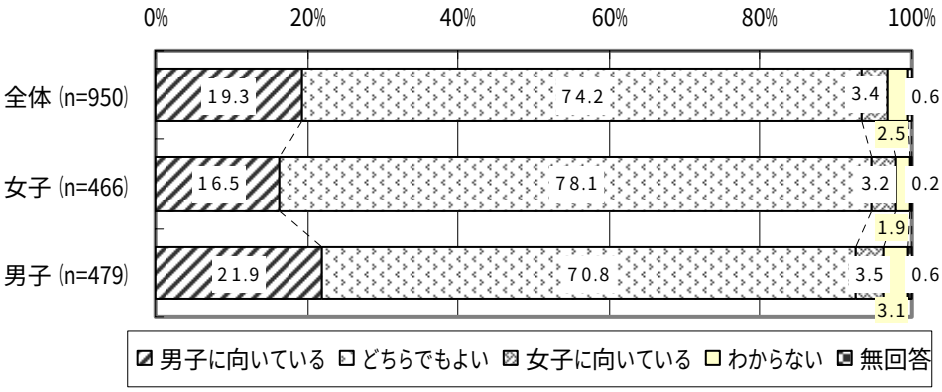
図表 Ⅲ-30 学校での役割



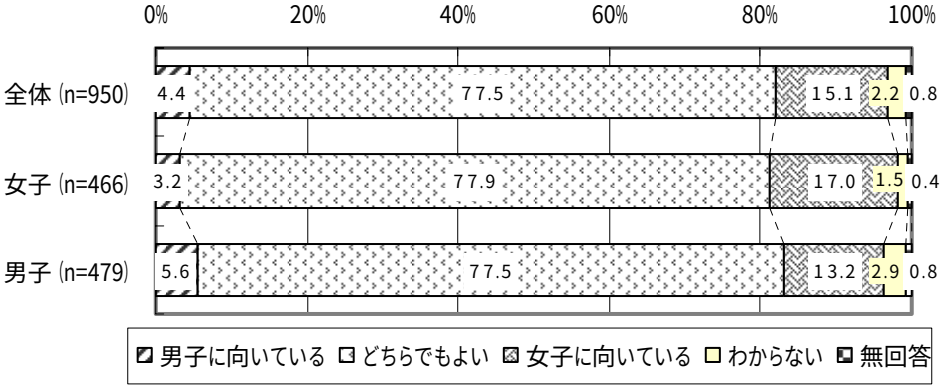
（2） 男女別傾向

男女別に学校の係等役割についての考え方をみると、ほとんどの項目で男女の差はみられない。わずかではあるが、「委員会の委員長」について「男子に向いている」とした割合が、男子が 21.9%であるのに対して、女子は 16.5%とやや低く、また「学習グループのリーダーや班長」についても、「男子に向いている」とした割合が、男子 11.1%に対して、女子は 4.1%であり、女子より男子の方が、男子のリーダーシップの発揮を期待する傾向がみられる。

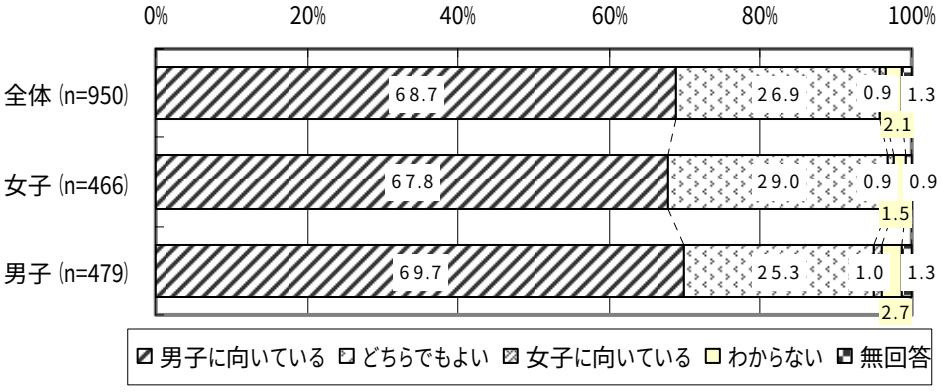
図表 Ⅲ-31 学校での役割:生徒会や委員会の会長や委員長



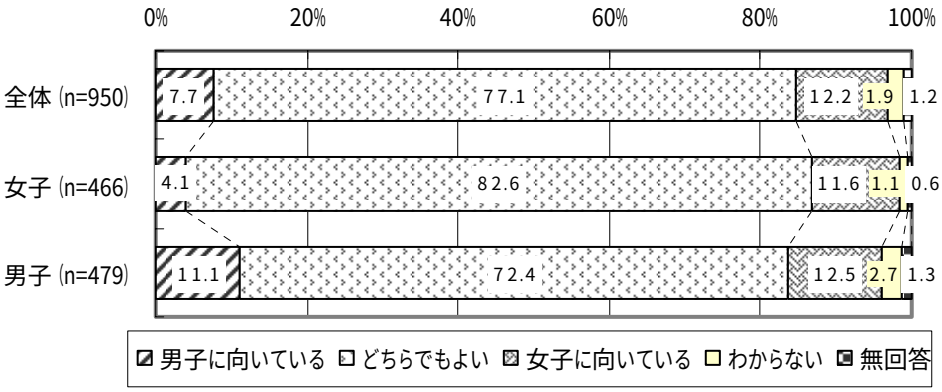
図表 Ⅲ-32 学校での役割:生徒会や委員会の副会長や副委員長



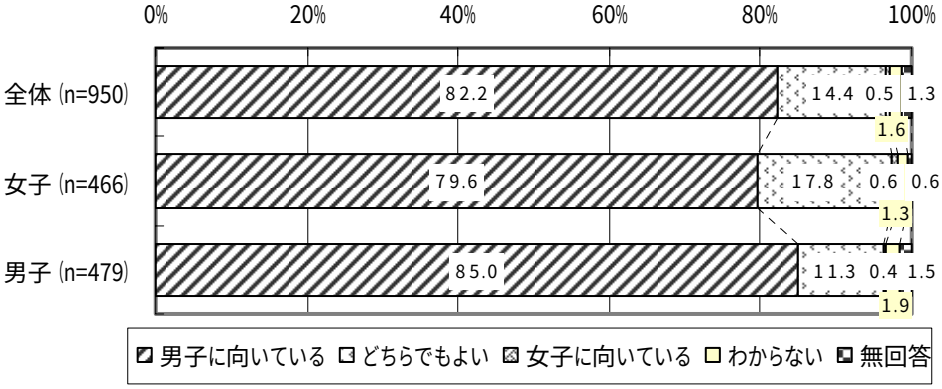
図表 Ⅲ-33 学校での役割:運動会の応援団長



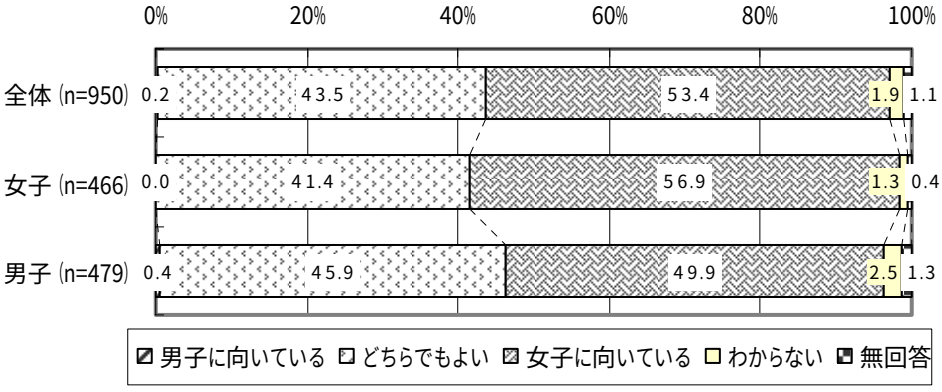
図表 III-34 学校での役割:学習グループのリーダーや班長



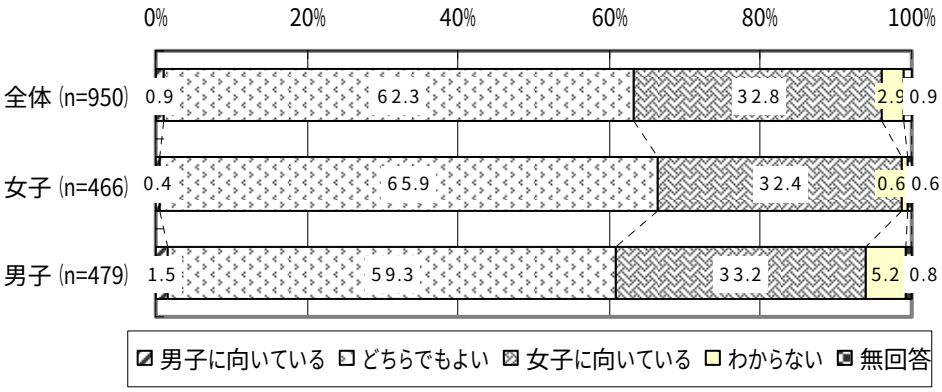
図表 III-35 学校での役割:重いものを運ぶこと



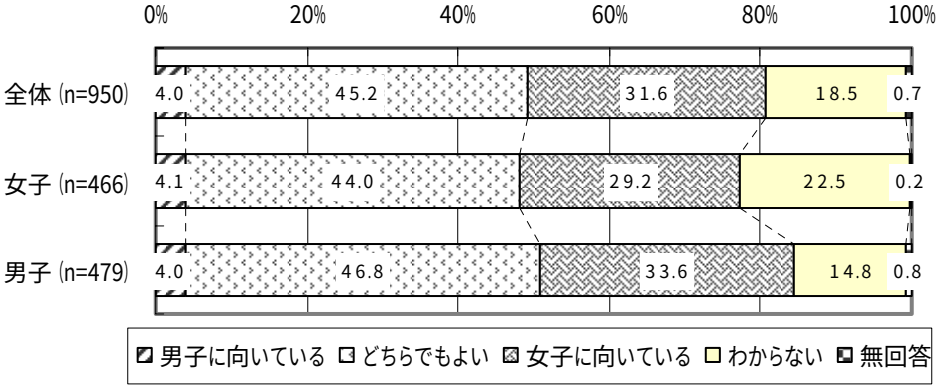
図表 III-36 学校での役割:整理整頓をすること



図表 Ⅲ-37 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること



図表 Ⅲ-38 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと



3-2. 学校の教科について

問 10　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ3つ以内で答えてください。

a　好きな教科の番号			
b　嫌いな教科の番号			
c　得意な教科の番号			
d　苦手な教科の番号			

1　国語	**2　社会**	**3　数学**
4　理科	**5　英語**	**6　音楽**
7　美術	**8　保健体育**	**9　技術・家庭科**

中学生の好きな教科についてみると、女子は「音楽」（49.1%）、「保健体育」（48.9%）、「国語」（31.8%）が続く。これに対して、男子は「保健体育」（69.9%）、「数学」（35.5%）、「理科」（32.2%）となっており、保健体育や音楽を除けば、女子は文系、男子は理系を好む傾向が顕著に現われている。

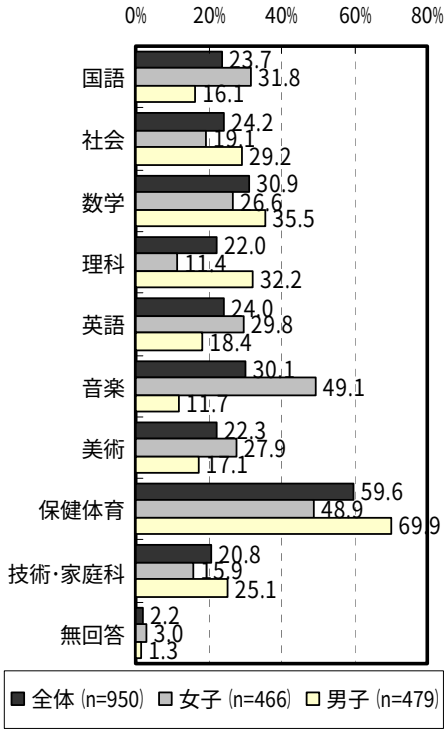
また、嫌いな教科では、女子が「理科」（50.2%）、「社会」（44.2%）、「数学」（43.3%）であるのに対して、男子は、「英語」（48.2%）、「数学」（33.8%）、「国語」（33.2%）である。女子は理科・数学、男子は英語・国語が嫌いな教科の上位となっており、嫌いな教科でも、男子と女子の違いが顕著に見られる。

得意な教科と苦手な教科については、女子は「音楽」（34.5%）、「国語」（32.0%）、「英語」（29.2%）、男子は「保健体育」（44.3%）、「数学」（39.5%）、「社会」（36.1%）である。

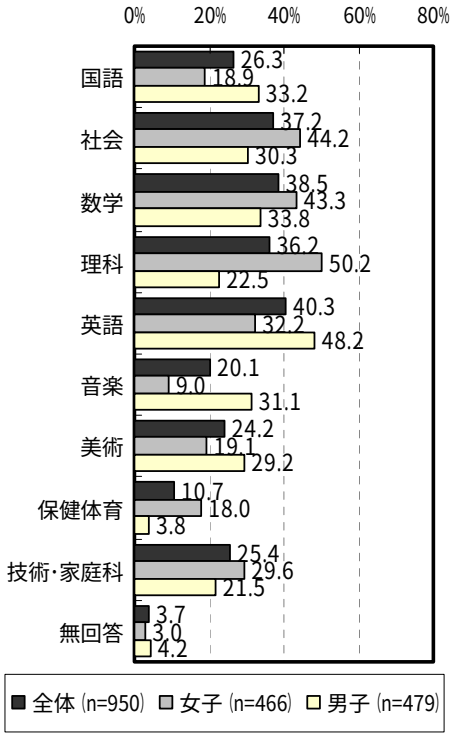
好き･嫌いな教科、得意･苦手な教科を全体的にみて、女子は文系、男子は理系という傾向がみられ、これらが性別による特有のものであるのか、男女の性に対する社会的通念によって無意識のうちにコントロールされているのかは明確ではない。しかし、社会的通念によって個人の進路に影響が与えられることがあってはならない。

図表 Ⅲ-39 好きな教科･嫌いな教科（複数回答）

＜好きな教科＞

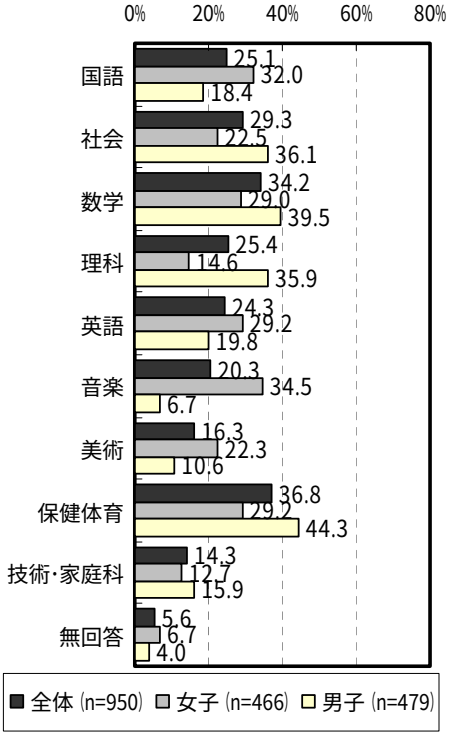


＜嫌いな教科＞

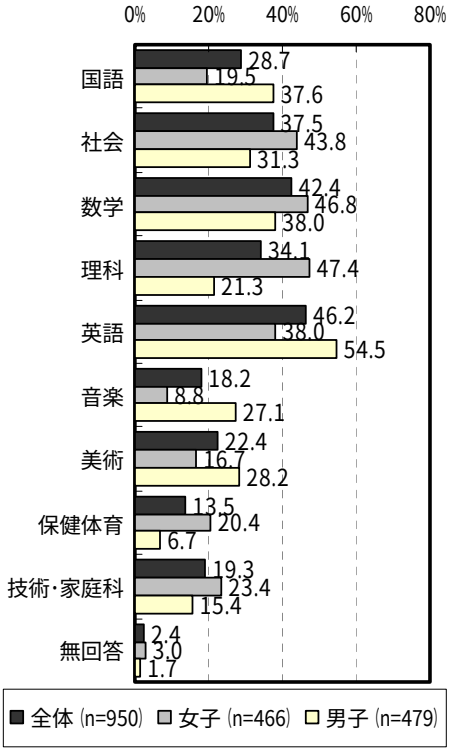


図表 Ⅲ-40 得意な苦手な教科教科（複数回答）

＜得意な教科＞



＜苦手な教科＞



3-3. 進学の希望

問 11　あなたは、次のうちどこまで進学したいと思っていますか。(あてはまる番号1つに○)

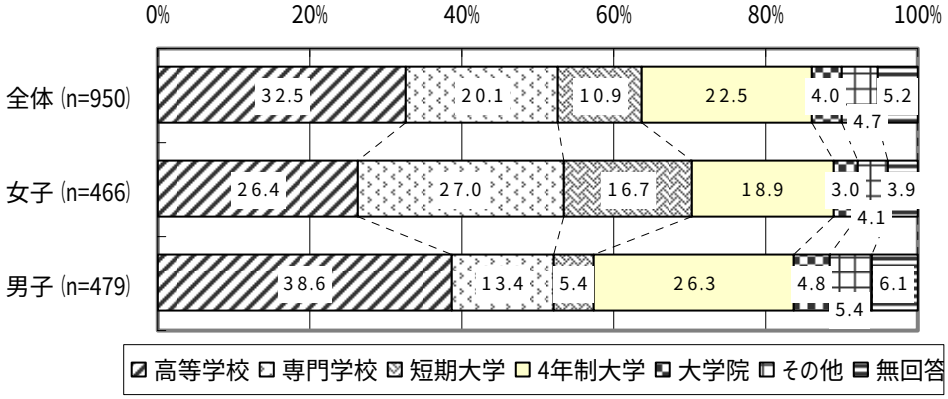
1　高等学校	2　専門学校（高卒後の専門学校）	3　短期大学
4　4年制大学	5　大学院	6　その他

進学の希望についてみると、「高等学校」までと回答した割合は、男子の方が高く、38.6%、女子は 26.4%であり、通常の高校卒業者の就職率が男子の方が高い（平成 19 年度学校基本調査では、高校卒業者の就職率は男子 21.2%、女子 15.8%）ことからみて想定できる結果である。

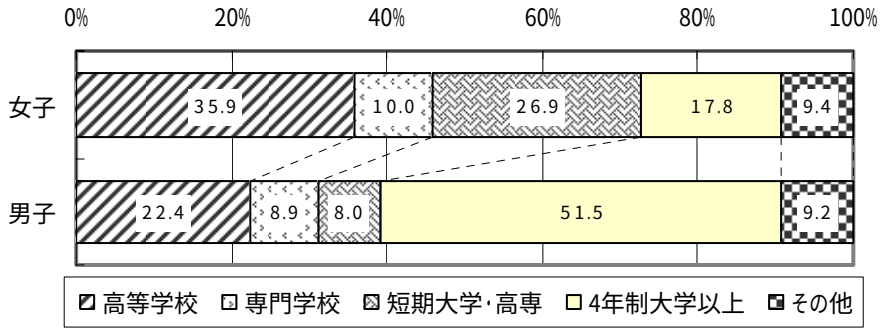
また専門学校への進学希望率は女子が 27.0%、男子 13.4%と女子の方が高いが、大学等（短期大学・4年制大学・大学院）への進学希望では、女子 38.6%、男子 36.5%とほぼ同程度となっている。ただし、女子の大学等への進学希望者のうち約 43%が短期大学への進学を希望している点が特徴である。

なお、平成 10 年度に実施した男女共同参画に関する意識調査（20 歳以上の市民対象）において、子どもの最終学歴への意向を聞いている。ここでは男子は 4 年制大学、女子は短大という結果を得ており、このような大人の意向が子どもの進路や生き方の選択に影響を与えないよう配慮することが必要である。

図表 Ⅲ-41　どこまで進学を希望するか



＜参考：平成 10 年度　豊田市男女共同参画に関する意識調査＞



4　『女の子だから･男の子だから』と言われること

☺　『女の子だから・男の子だから』と言われた経験についてみると、男子が 42.4%（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）であるのに対して女子は 69.4%である。この結果を小学生と比較すると、男子は変わらないが、女子は言われることが増加しており、女らしいふるまいについて、年長になるほど増えていくことが考えられる。

☺　『女の子だから・男の子だから』と言われる相手の全体的傾向は小学生と同様であり「母」「父」が多く、女子では「祖母」も比較的高い。

☺　どのような時に『女の子だから・男の子だから』と言われるかは、女子は「ことばづかいが悪いとき」「行儀の悪い座り方をしたとき」「家事などの手伝いをしないとき」「整理整頓ができないとき」など、ふるまいに関すること、家事など家庭的役割に関することである点が特徴である。

4-1.『女の子だから･男の子だから』と言われた経験について

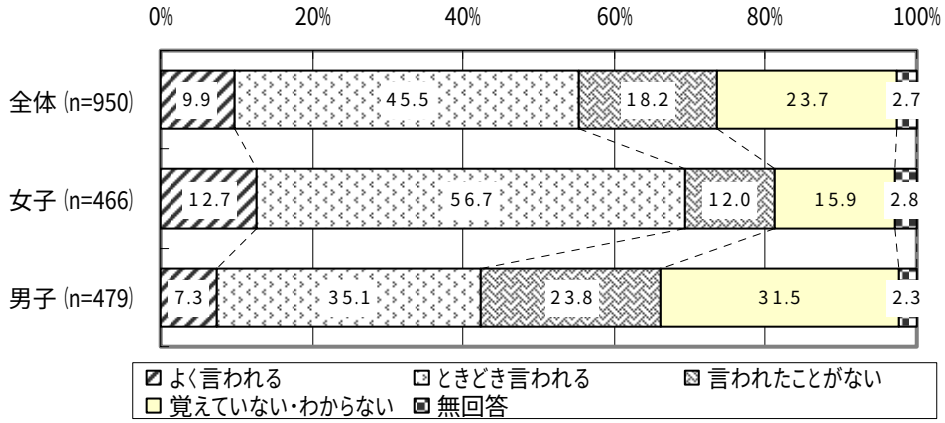
問 12　あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「男の子だから○○しなさい」「男の子のくせに○○」「女の子だから○○しなさい」「女の子のくせに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号1つに○）

1　よく言われる **2　ときどき言われる**	**→「1」「2」と答えた人は、問１３に進んでください。**
3　言われたことがない **4　覚えていない・わからない**	**→「3」「4」と答えた人は、問１５に進んでください。**

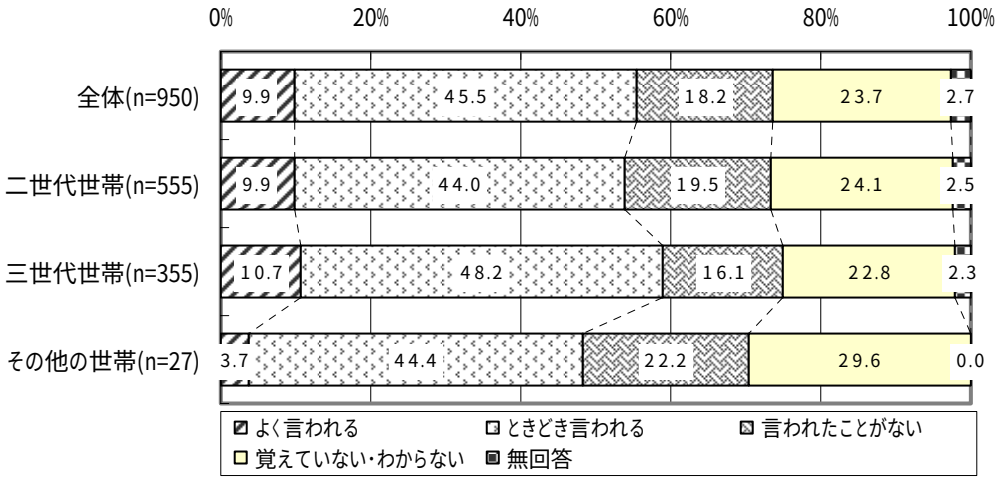
『女の子だから・男の子だから』と言われた経験についてみると、男子が 42.4%（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）であるのに対して女子は、69.4%となっている。これらの結果を小学生と比較すると、男子はほとんど変わらないが、女子は、57.1%から 69.4%へと 12.3 ポイント増えており、年齢が上がったことにより、女らしいふるまい等について、周囲から言われる割合が高まっていることがわかる。

図表 III-42 『女の子だから・男の子だから』などといわれた経験

＜男女＞



＜家族構成＞



4-2.『女の子だから・男の子だから』と言われた相手

問 13 問 12で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」と回答した人におたずねします。だれから言われることが多いですか。(あてはまる番号全てに○)

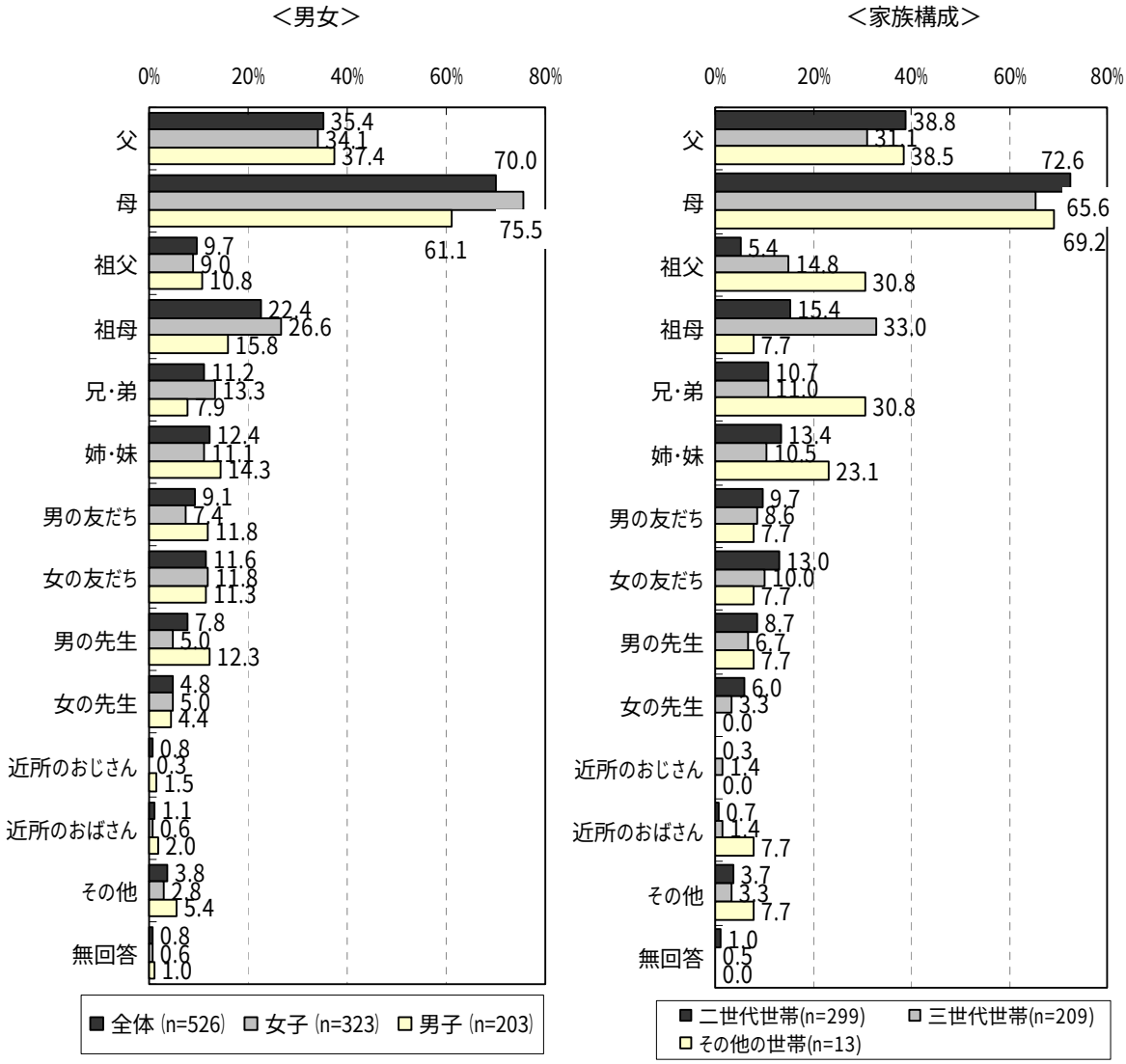
1 父	**2 母**	**3 祖父**	**4 祖母**
5 兄・弟	**6 姉・妹**	**7 男の友だち**	**8 女の友だち**
9 男の先生	**10 女の先生**	**11 近所のおじさん**	**12 近所のおばさん**
13 その他			

『女の子だから・男の子だから』と言われた相手をみると、「母」と回答した割合が、女子の 75.5%、男子の 61.1%と高い。母親に次いて「父」となっており、女子が 34.1%、男子が

37.4%となっている。さらに「祖母」も女子の 26.6%と比較的高く、全体的にみて、小学生が言われる相手と傾向は同様である。

中学生の特徴としては、女子が母親から言われる割合が、小学生のそれより高くなっている点、また、男子は父親から言われる割合が女子より高く、女子は、母親から言われる割合が男子より高い点、また、三世代世帯では祖母から言われる割合が高いという点があげられる。

図表 Ⅲ-43 だれから言われることが多いか（複数回答）



問 14 **問 13 で「1　よく言われる」「2　ときどき言われる」と回答した人**におたずねします。どのようなときに言われましたか。(あてはまる番号全てに○)

1　ことばづかいが悪いとき	**2　家事などの手つだいをしないとき**
3　整理整頓(せいりせいとん)ができないとき	**4　あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき**
5　勉強ができないとき	**6　運動ができないとき**
7　泣いたとき	**8　無駄(むだ)づかいをしたとき**
9　夜の帰り時間が遅いとき	**10　けんかに負けたとき**
11　その他	

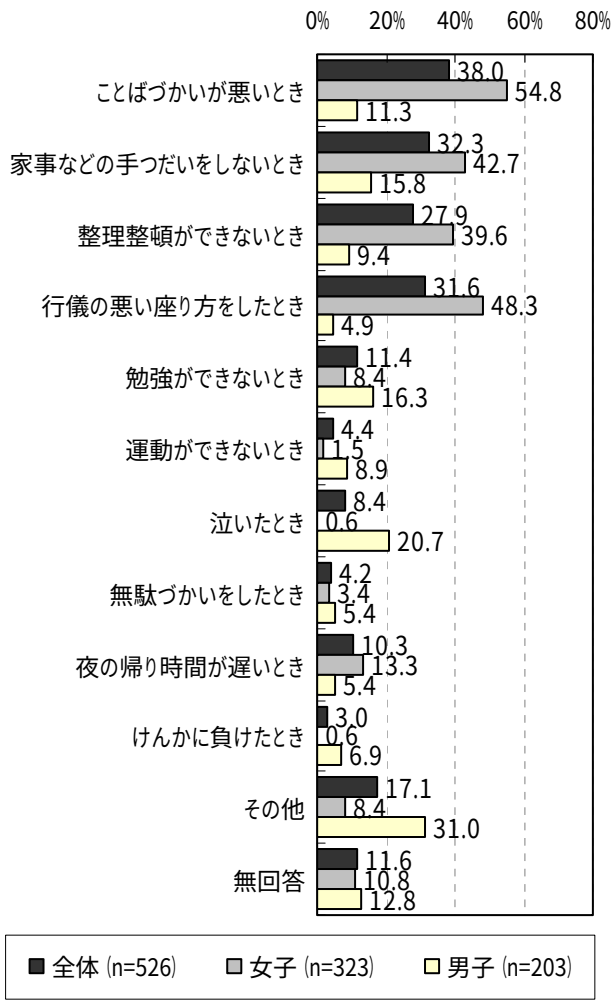
どのような時に『女の子だから・男の子だから』と言われたかをみると、「ことばづかいが悪いとき」(38.0%)が最も高い割合であり、「家事などの手伝いができないとき」(32.3%)、「行儀の悪い座り方をしたとき」(31.6%)、「整理整頓ができないとき」(27.9%)が続く。

しかし、これらはいずれも男女差が大きく、「ことばづかいが悪いとき」については、女子が 54.8%と高いのに対して、男子は 11.3%と男女差が大きい。また、「行儀の悪い座り方をしたとき」についても、男女差は 43.4 ポイントにおよぶ。この男女差は、小学生より大きく、男子に比べ女子は『女だから』をことさらに言われていることがわかる。一方で男子は、「泣いたとき」が 20.7%、「勉強ができないとき」が 16.3%あり、女子に比較して割合が高い。

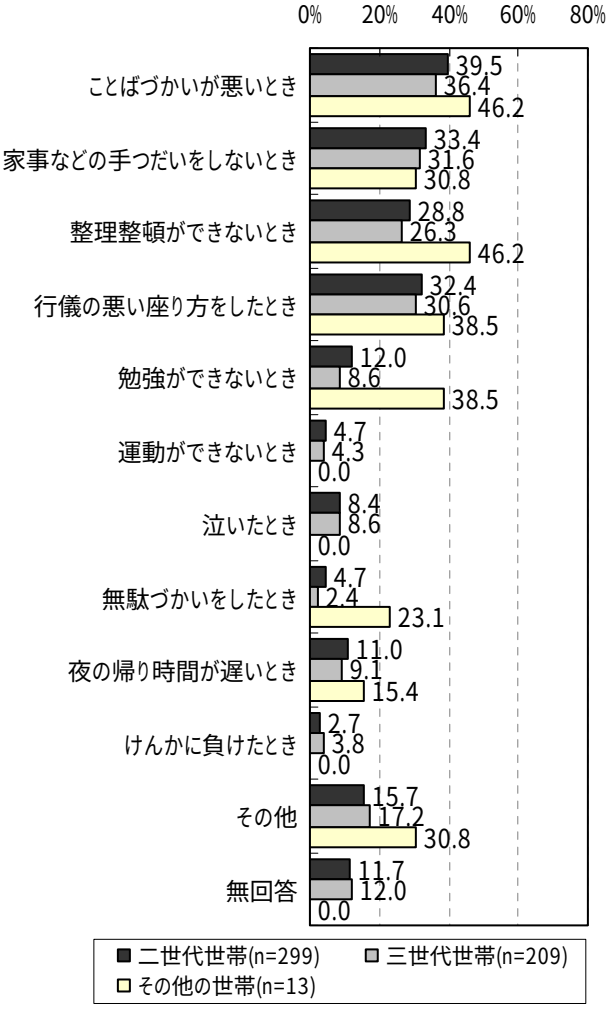
これらより、大人にとって、ことばづかいや手伝い、行儀等が年長になるにしたがって『女の子らしさ』の上で重要と認識されていること、「泣くこと」や「勉強ができないこと」は男らしくないことと捉えられていることがわかる。

図表 Ⅲ-44 どのようなときに言われたか（複数回答）

＜男女＞



＜家族構成＞



5　将来の姿

☺　どのような人になりたいかについては、男女とも「やさしい」「明るい」「心が広い」「思いやりがある」としている。

☺　『男は男らしく･女は女らしく』という考え方に対しては、賛成傾向（「そのとおりだと思う」「そうかもしれないと思う」の合計）が 49.1%で、反対傾向（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計）より多い。しかし、男女別にみると、男子は、賛成傾向が強いが、女子は賛成・反対傾向がほぼ同程度であり、日常生活において、女子の方が固定的な性別役割分業による男女差を経験することが多いことが影響していると考えられる。

5-1. どのような人になりたいか

問 15　全員にお聞きします。あなたは、どのような人になりたいと思いますか。(◯は5つまで)

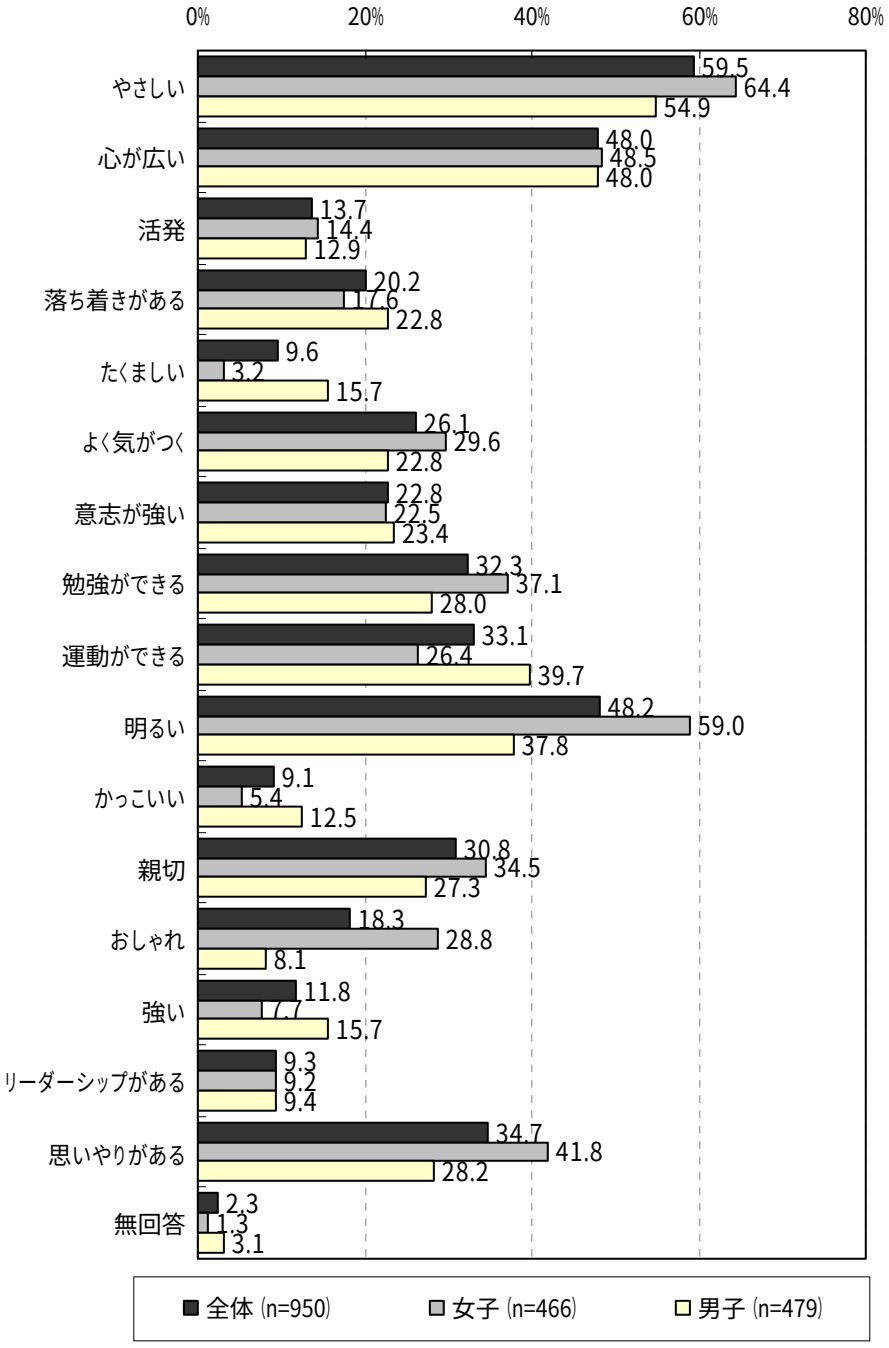
1　やさしい	2　心が広い	3　活発
4　落ち着きがある	5　たくましい	6　よく気がつく
7　意思が強い	8　勉強ができる	9　運動ができる
10　明るい	11　かっこいい	13　親切
14　おしゃれ	15　強い	16　リーダーシップがある
17　思いやりがある		

どのような人になりたいかは、男女に大きな違いはみられず、男女とも第１位には「やさしい」をあげ、女子の第２位に「明るい」（59.0%）、第３位に「心が広い」（48.5%）、第４位「思いやりがある」（41.8%）に対して、男子は第２位「心が広い」（48.0%）、第４位「明るい」（37.8%）、第５位「思いやりがある」(28.2%)となっている。

男女とも「やさしい」「明るい」「心が広い」「思いやりがある」を将来の望ましい姿として認識している。

図表 Ⅲ-45　どのような人になりたいか-上位5つ (複数回答)

図表 Ⅲ-46 どのような人になりたいか



5-2.『男らしく・女らしく』についての考え方

問 16 「男は男らしくする・女は女らしくする」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1 まったく、そのとおりだと思う	**2 まあ、そうかもしれないと思う**
3 あまりそう思わない	**4 まったくそう思わない**
5 どちらでもない	

『男は男らしく･女は女らしく』という考え方についてみると、全体では賛成傾向（「そのとおりだと思う」「そうかもしれないと思う」の合計）が 49.1%であるのに対して、反対傾向（あまりそう思わない）「全くそう思わない」の合計）（38.5%）より多い。

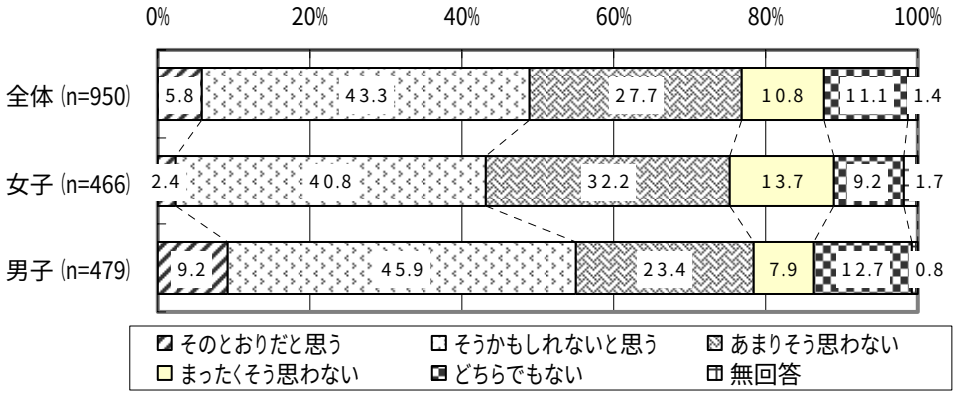
しかし男女別にみると、女子は賛成傾向が 43.2%に対して、反対傾向は 45.9%とほぼ同程度であるのに対して、男子は、賛成傾向が 55.1%、反対傾向が 31.3%であり、賛成傾向が強い。

中学生であっても『男らしく･女らしく』の考え方へのこだわりがみられるが、特に男子はその傾向が強く、逆に女子は半数程度が賛成していない。

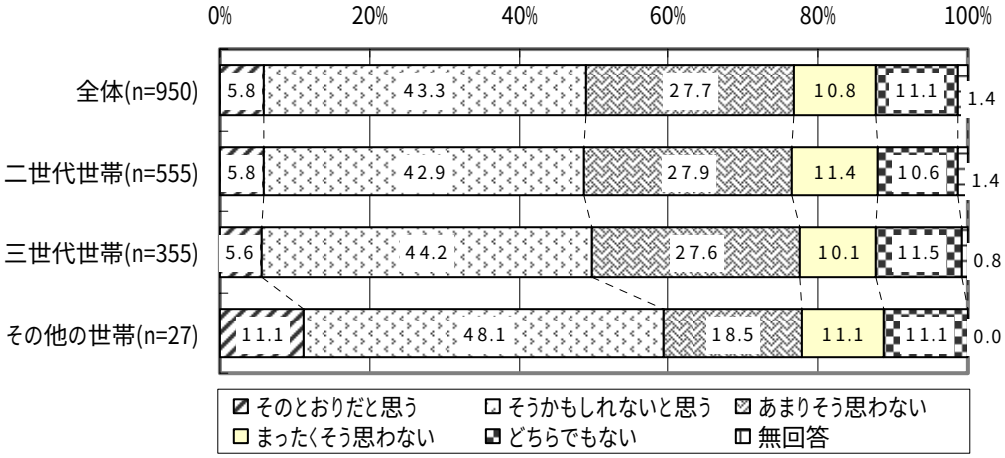
その背景には、女子の場合、例えば家庭において手伝いをする割合が高いこと、日常の行動において『女だから』と言われることが男子に比べて圧倒的に多いことなど、固定的な性別役割分業による男女差を経験することが影響していると考えられる。

図表 Ⅲ-47 『男は男らしく･女は女らしく』という考え方について

＜男女＞



＜家族構成＞



6　ライフスタイル・ライフコースについての考え方

☺　中学生の仕事と家庭生活のバランスに対する考え方をみると、男女とも「仕事と家庭のバランスがとれた生活」をしたいと考える傾向が強い。しかし、女子は「家庭や家族を重視した生活」も３割程度あり、自らの生活よりも家庭や家族を中心として生きるというライフコース意識が浸透していることがうかがえる。

☺　女性の生き方に対する考え方についてみると、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」が 29.7%と最も高く、『専業主婦となる』（「結婚したら専業主婦となる」「子どもができたら専業主婦となる」の合計）が 28.8%であり、再就職コース、専業主婦コースが支持されている。また、専業主婦コースは男子より女子にその志向性が高いことが特徴である。

☺　女子のライフコースやライフスタイルの志向性は、専業主婦やパートなどで働きながら、家庭や家族を大切にした生き方であり、それは身近な母親等に影響を受けていることが考えられる。

6-1. 仕事と家庭生活のバランスについて

問 17　結婚したという前提で答えてください。あなたは将来、仕事とそれ以外の生活をどのようにしたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　仕事を中心とした生活
2　仕事と家庭のバランスがとれた生活
3　仕事は生活できる程度にして、家庭や家族と過ごすことを重視した生活
4　家事を中心とした生活
5　その他

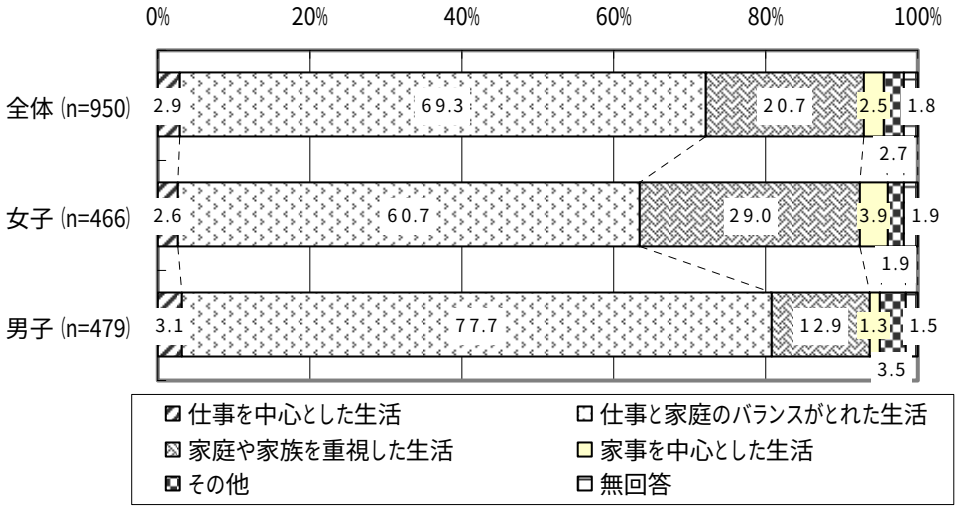
中学生の仕事と家庭生活のバランスに対する考え方をみると、「仕事と家庭のバランスがとれた生活」が性別・母親の就労状況に関わり無く強い傾向にあり、両親世代のような男性は仕事中心、女性は家庭中心という生活への賛成傾向は強くはみられない。特に「仕事を中心とした生活」については男女とも賛成する割合が極端に少ない。

しかし、「家庭や家族を重視した生活」については、男子が 12.9%であるのに対して、女子は 29.0%と高い。女子は、先の夫婦の役割分担における仕事の考え方でも「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」を選択した割合が 47.9%と高かったことと合わせ考えても、将来的には、家庭や家族を中心として生きるというライフコース意識が浸透していることがうかがえる。

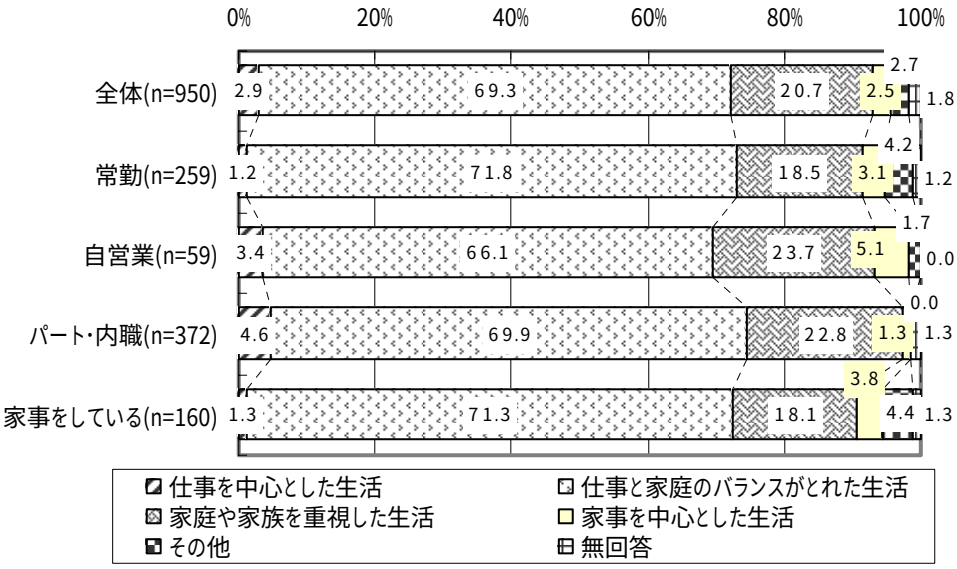
なお、母親の就労状況による意識の違いは特にみられない。仕事と家庭生活のバランスについては、母親よりむしろ、父親の働き方からの影響があることが推察される。

図表 III-48 将来、仕事とそれ以外の生活をどうしたいか

＜男女＞



＜母親の就労状況＞



6-2. 女性のライフコースについて

問 18 結婚して子どもができるという前提で答えてください。あなたは、女性の生き方として、どれが望ましいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1 結婚や出産などがあっても、仕事も継続していく生き方
2 結婚するまで仕事をするが、結婚したら家庭にはいって専業主婦となる生き方
3 結婚しても仕事は続けるが、子どもができたら家庭にはいって専業主婦となる生き方
4 結婚したり、子どもができたりしたら仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする生き方
5 わからない

女性の生き方に対する考え方についてみると、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」が 29.7%と最も高く、『専業主婦となる』（「結婚したら専業主婦となる」「子どもができたら専業主婦となる」の合計）が 28.8%、「結婚や出産後も仕事を継続する」は 16.4%であり、女性のライフコースとしては、結婚や出産を機に、仕事を中断し、その後専業主婦（専業主婦型）を継続するか、もしくは子どもが大きくなったら再び仕事をする(再就職型)という生き方が支持されている。

男女別にライフコースの考え方をみると、専業主婦を志向する割合（「結婚したら専業主婦となる」「子どもができたら専業主婦となる」の合計）は男女とも３割弱であるが、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」という考え方は、女子で 37.1%に達し、男子よりも女子にその割合が高いことが特徴である。

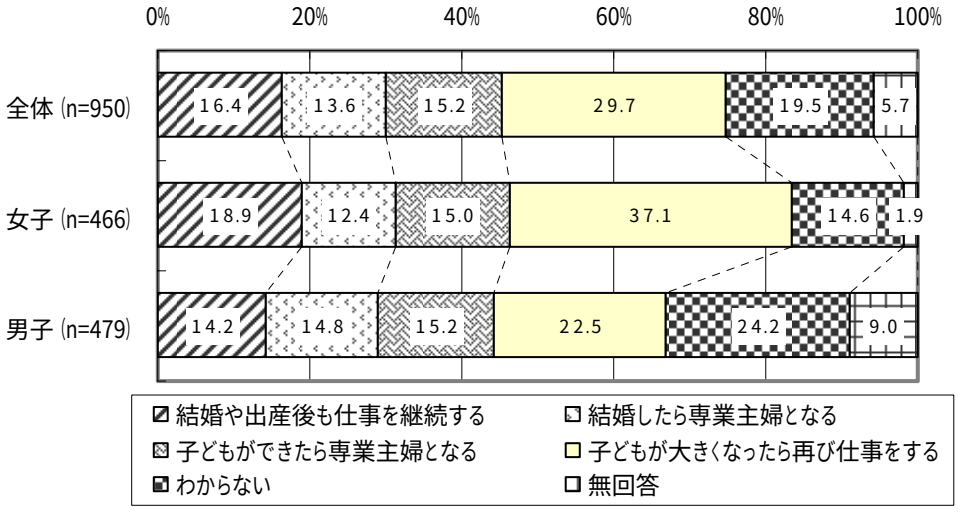
前出の設問の望ましい夫婦の役割分担に対する考え方で、「共働きで育児・家事を共同で行う」割合が３割を超えているが、女性の望ましいライフコースについては、継続的に仕事をすることの支持率は低く、むしろ専業主婦が望まれる傾向がみられた。

これらの結果をみると、女子は、自らの生き方としては、何らかの形で仕事をすることを想定しながらも、望ましい女性のライフコースとしては、専業主婦やパートなどで働く主婦として、家庭や家族を重視した生活を送る、という考え方が根底にあることがうかがえる。

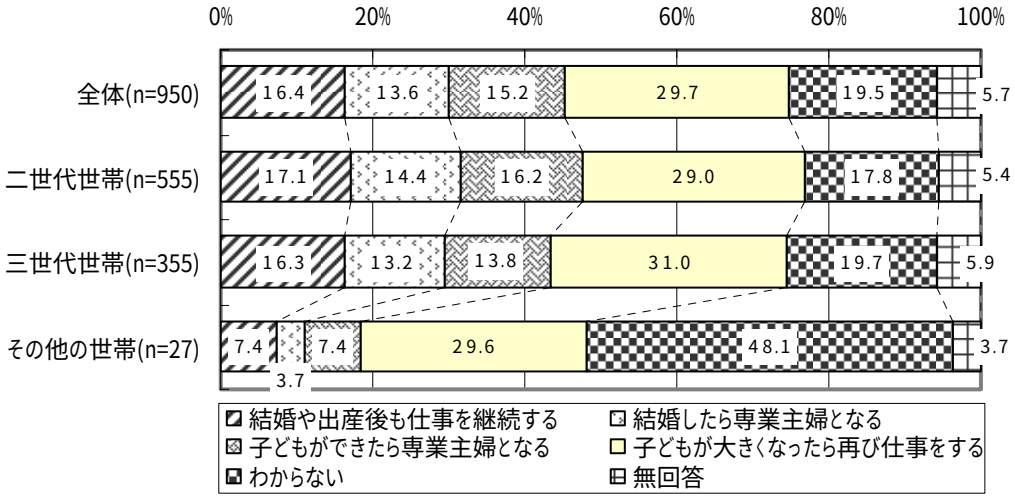
このようなライフコースの選択と家族構成や母親の就労状況との関係をみると、三世代世帯と二世代世帯という家族構成による違いは顕著ではないが、母親の就労状況別にみると、母親が常勤の場合、「結婚や出産後も仕事を継続する」の割合が 22.8%と高い。これに対して、母親が主に家事をしている場合には、「子どもができたら専業主婦となる」が 22.5%と高く、子どものライフコースの決定に、母親の仕事の状況が少なからず影響を与えると考えられる。

図表 Ⅲ-49 女性の生き方としてどれが望ましいか

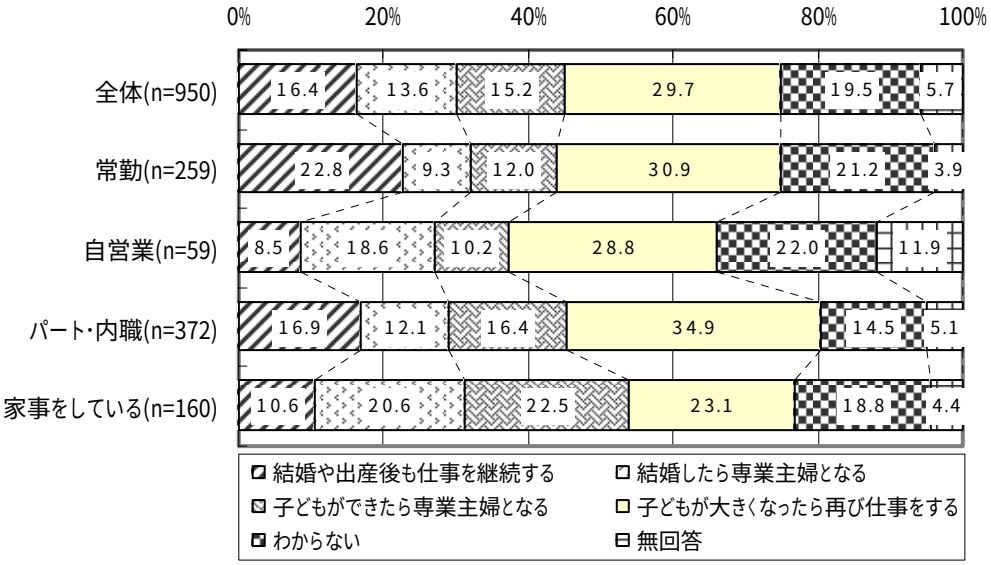
＜男女＞



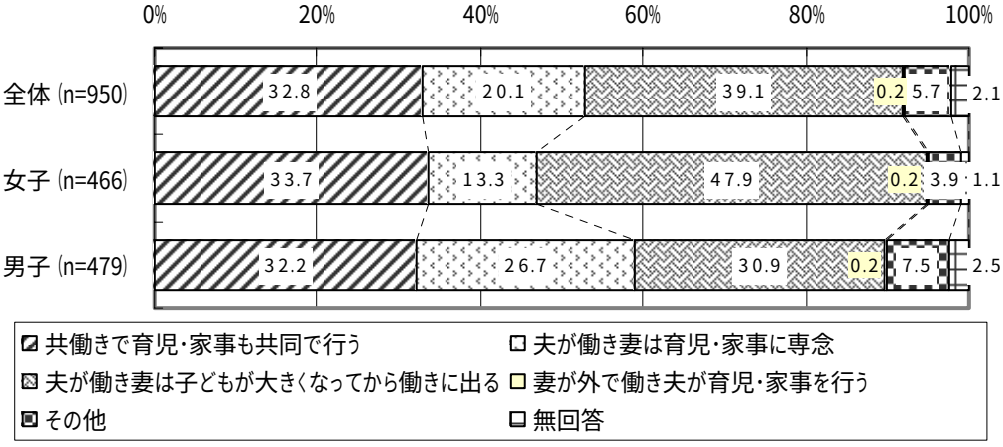
＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



(再掲：参考図表　どのような夫婦になりたいか)



Ⅳ.　調査結果の分析－高校生

1　家庭生活

☺　家庭内の仕事のうち、掃除、洗濯、買物、食事の支度と後片付けは、ほとんど女性の役割となっており、「ごみ出し」「地域活動」「学校行事への参加」では「男の人」も役割を担い、「男の人」が主にしていることは「蛍光灯の取りかえ」のみであり、この傾向は、小学生･中学生と全く同様である。

☺　高校生の家庭内での手伝いは、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「洗濯物の取り入れ・たたむ」などがあるが、いずれも小学生、中学生より割合が低く、年長になるにしたがって家庭での手伝いをしいている割合が減少している。その傾向は特に男子で顕著である。

☺　勉強と手伝いのバランスについての家族の考え方は、「勉強も家の仕事も両立する」が半数を超えて高く、自分自身も勉強と手伝いの両方をするのがよいと考えており、勉強への偏りなどはみられない。

1-1. 家庭における役割分担

問4　あなたの家では、次のことはだれが主にしていますか。(a～kのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

	男の人	男の人も女の人も同じくらい	女の人	わからない
a　夕食のしたく	1	2	3	4
b　夕食のあとかたづけ	1	2	3	4
c　家の中のそうじ	1	2	3	4
d　洗濯・洗濯物を干すこと	1	2	3	4
e　洗濯物の取り入れ・たたむこと	1	2	3	4
f　普段の日の食事のかいもの	1	2	3	4
g　ごみ出し	1	2	3	4
h　学校行事への参加	1	2	3	4
i　地域の活動	1	2	3	4
j　風呂に一番先に入ること	1	2	3	4
k　蛍光灯の取りかえ	1	2	3	4

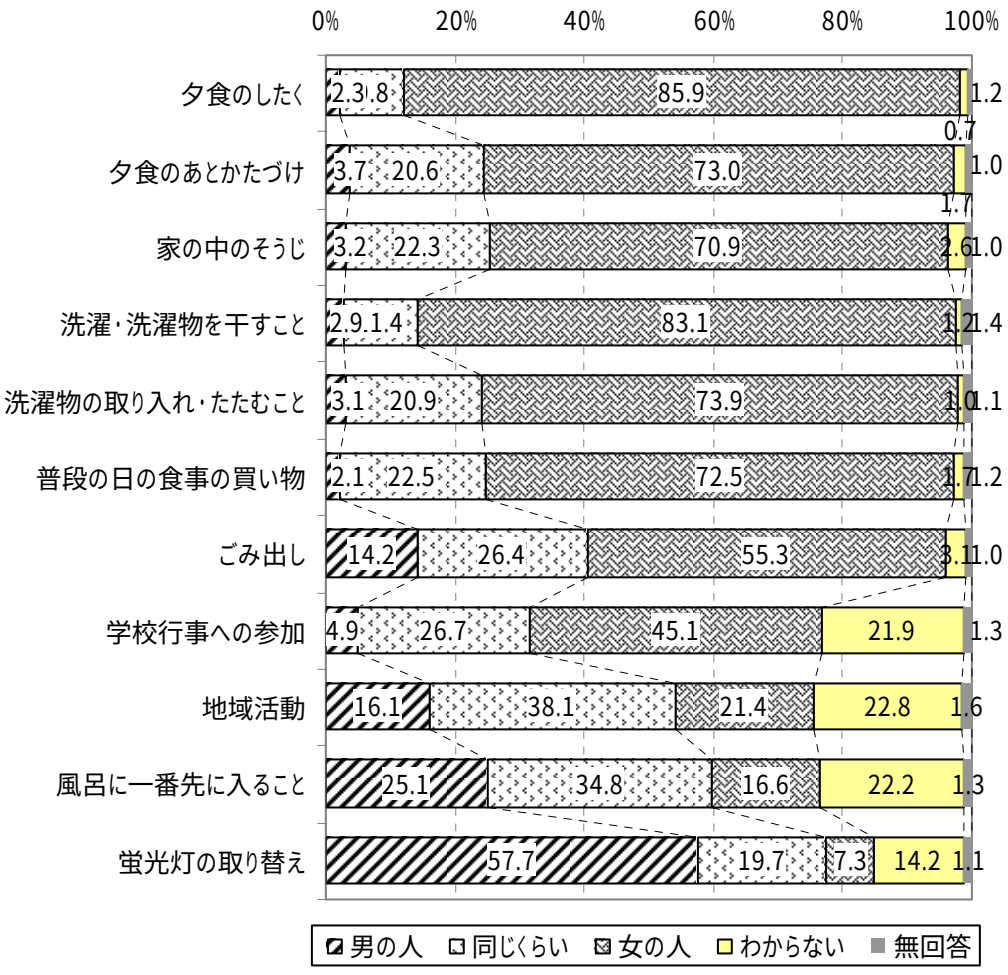
(1)　全体的傾向

家庭内の仕事のうち、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干すこと」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「普段の日の食事の買い物」は、「女の人」が主にしており、掃除、洗濯、買物、食事の支度と後片付けは、ほとんど女性の役割となっている。この傾向は、小学生･中学生と全く同様である。

「ごみ出し」「地域活動」「学校行事への参加」では「男の人」も役割を担っているが、「男の人」が主にしていることは「蛍光灯の取りかえ」のみであり、57.7%となっている。

「学校行事への参加」の「男の人」の参加（「男の人」「男の人も女の人も同じくらい」の合計）は、小学生で 44.9%、中学生で 46.5%と半数近かったが、高校生になると 31.6%に減少する。また、「ごみ出し」も、小学生や中学生の家庭よりも、「男の人」が担っている割合が減少しており、子どもが高校生の家庭では、男性の家事をはじめとした家の仕事への参加が少なくなる傾向がみられる。

図表 Ⅳ-1 家での役割



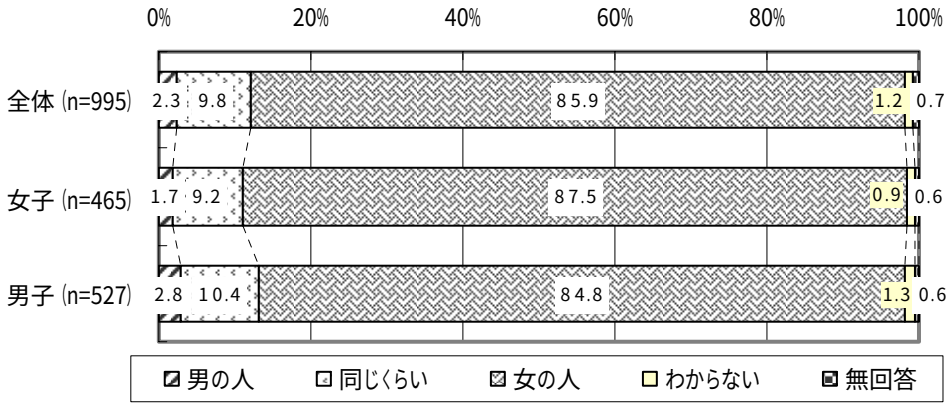
(2) 属性別傾向

① 男女別傾向

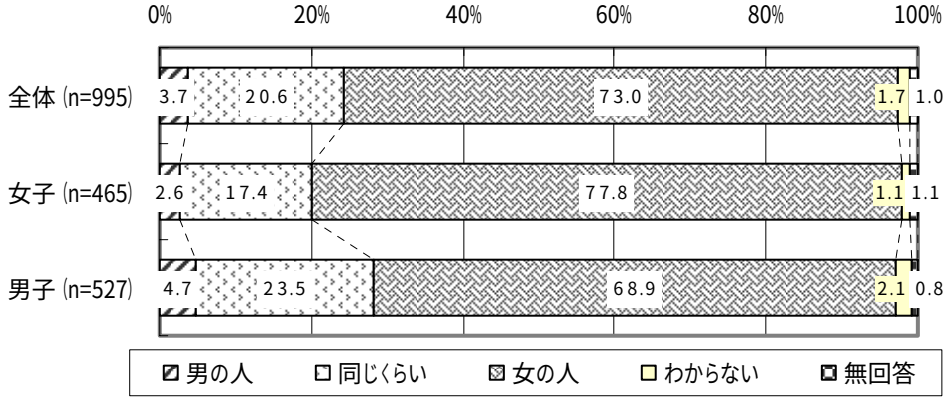
家庭での役割分担を男女別にみると、「夕食のあとかたづけ」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「ごみ出し」「学校行事への参加」については、女子の方が「女の人」がしていると回答している割合が高いが、他の項目については男女の差はみられない。ただし、「風呂に一番先に入ること」については、小学生、中学生と同様で、「女の人」の割合が女子は高

く、男子は「男の人」の割合が高い。

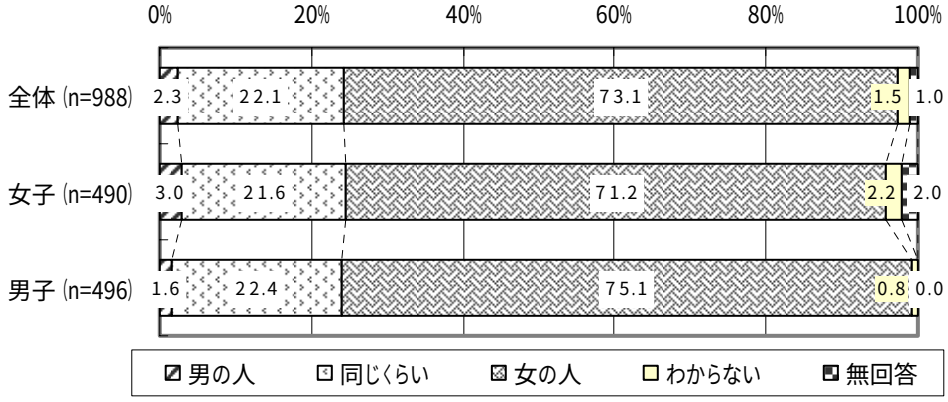
図表 Ⅳ-2 家での役割:夕食のしたく



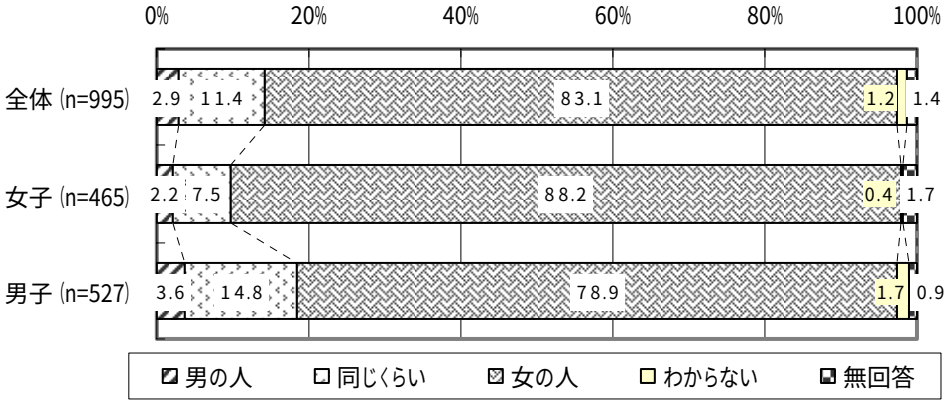
図表 Ⅳ-3 家での役割:夕食のあとかたづけ



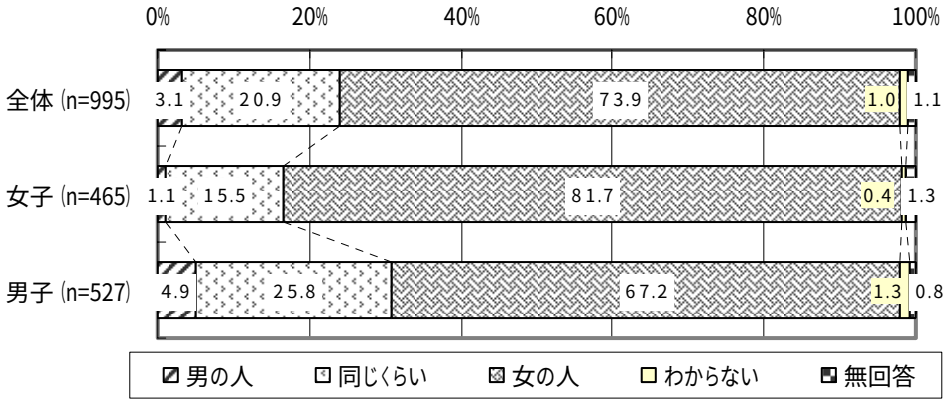
図表 Ⅳ-4 家での役割:家の中のそうじ



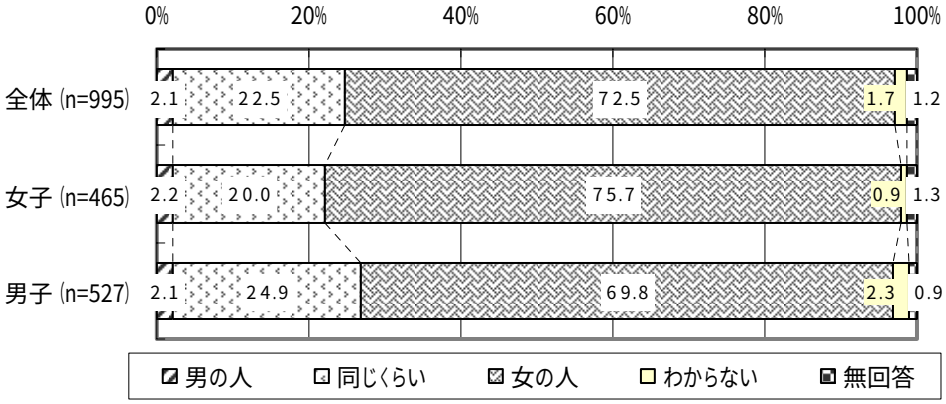
図表 Ⅳ-5 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと



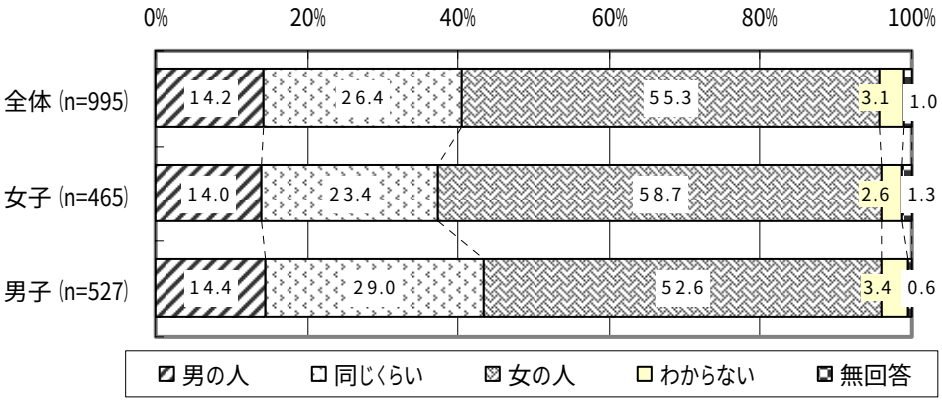
図表 Ⅳ-6 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと



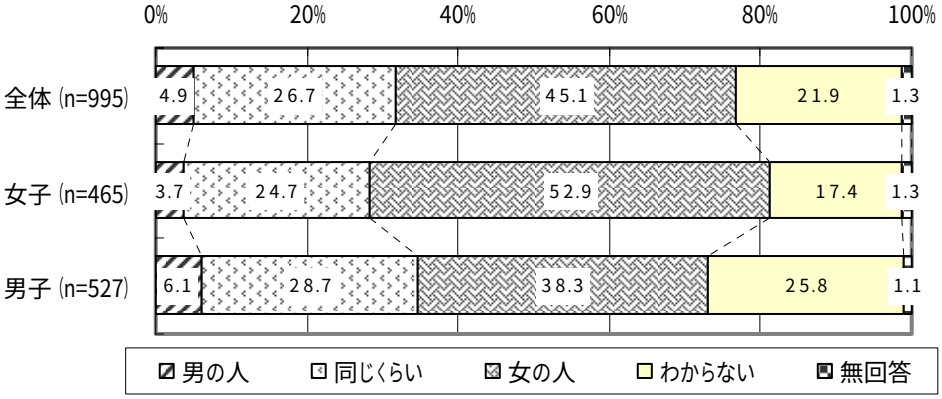
図表 Ⅳ-7 家での役割:普段の日の食事のかいもの



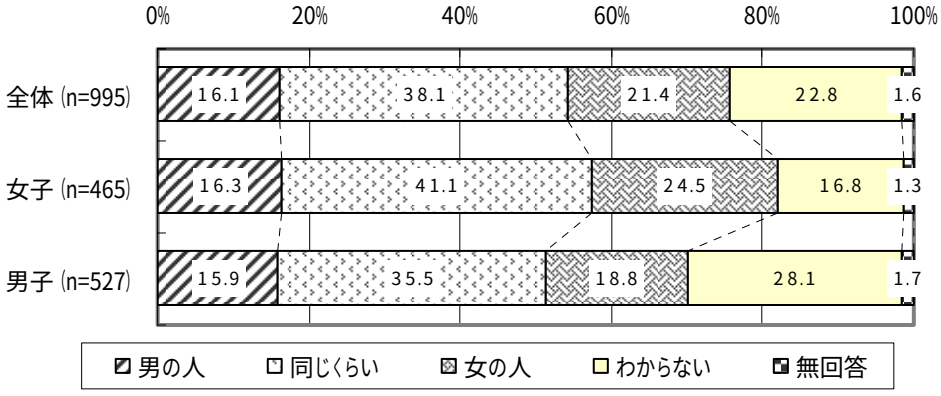
図表 Ⅳ-8 家での役割:ごみ出し



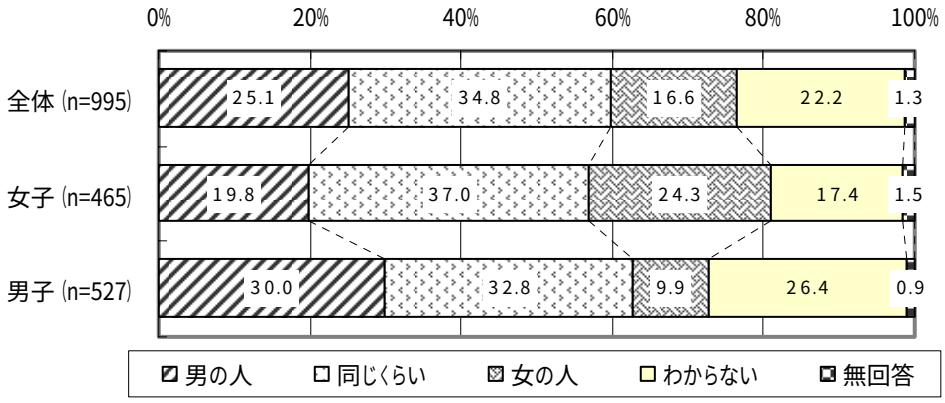
図表 Ⅳ-9 家での役割:学校行事への参加



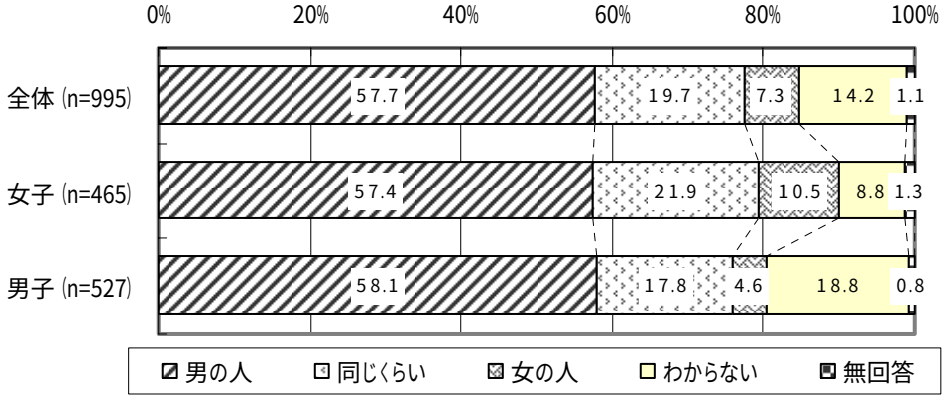
図表 Ⅳ-10 家での役割:地域の活動



図表 Ⅳ-11 家での役割:風呂に一番先に入ること



図表 Ⅳ-12 家での役割:蛍光灯の取りかえ



② 家族構成・母親の就労状況別傾向

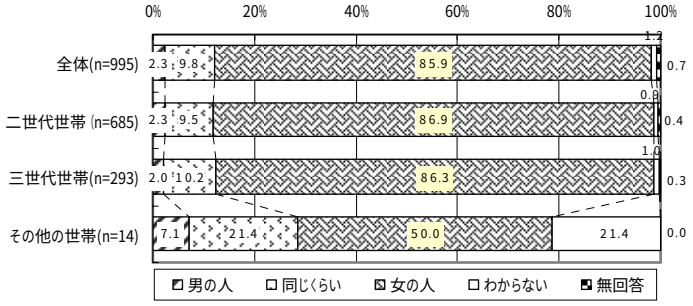
高校生の家庭においても、小学生・中学生と同様、「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干すこと」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「ごみ出し」の各項目について、二世代世帯より三世代世帯の方が、女性が分担している割合が高い結果となった。

家庭内の仕事の担い手が多いこと、また、高齢世代の同居によって、性別による固定的な役割分業意識が根強く残っていることがうかがえる。

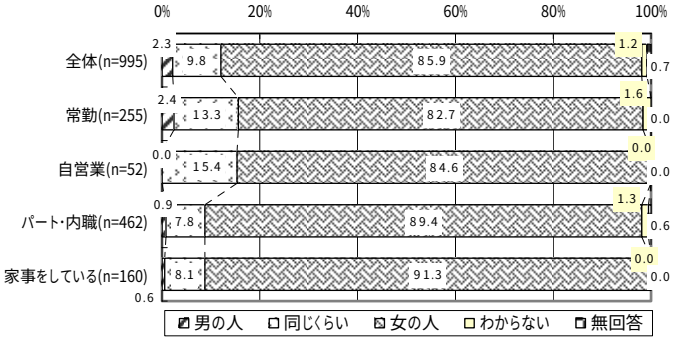
また、母親の就労状況と家庭の仕事の役割分担をみると、専業主婦世帯では、「夕食のしたく」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干すこと」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」のような家事については80%以上を女性が担っていること、母親が常勤世帯においては、男の人がわずかではあるが、他世帯と比較して家事を担っている割合が高く、さらに、男女が同じくらいに分担している割合が若干高い傾向がみられる。しかし、全般的にみて女性の就労状況にかかわらず女性が多くの仕事を担っており、家庭の仕事の共同は、途に着いたばかりといえる。

図表 Ⅳ-13 家での役割:夕食のしたく

＜家族構成＞

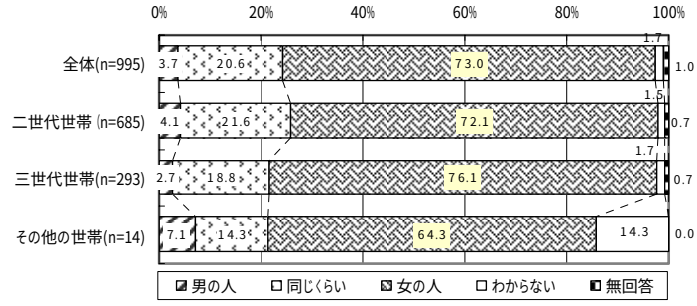


＜母親の就労状況＞

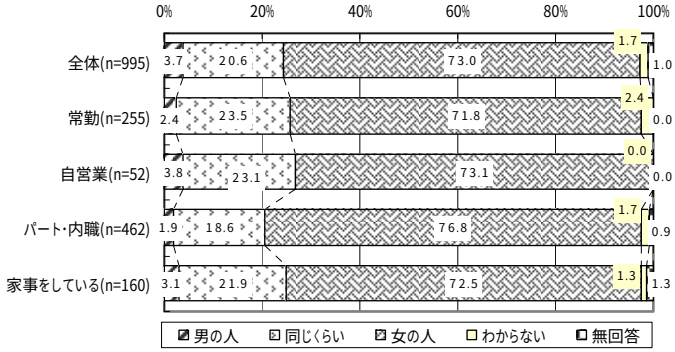


図表 Ⅳ-14 家での役割:夕食のあとかたづけ

＜家族構成＞

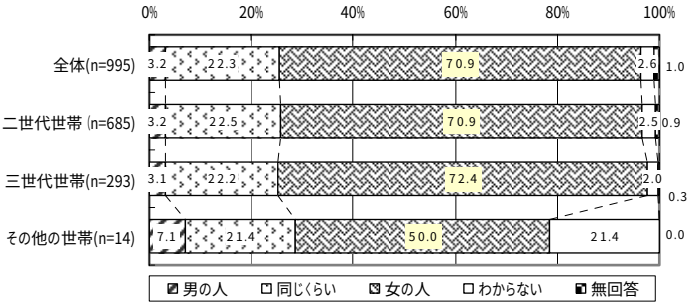


＜母親の就労状況＞

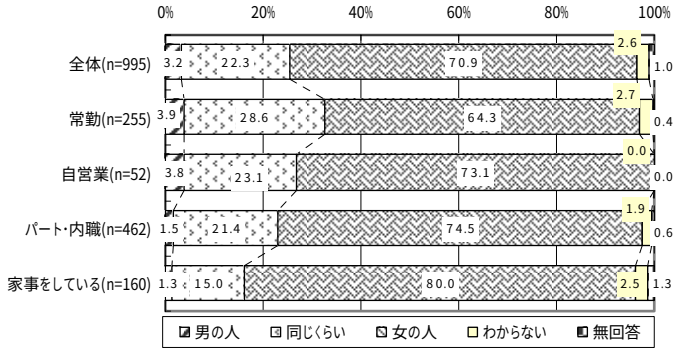


図表 Ⅳ-15 家での役割:家の中のそうじ

＜家族構成＞

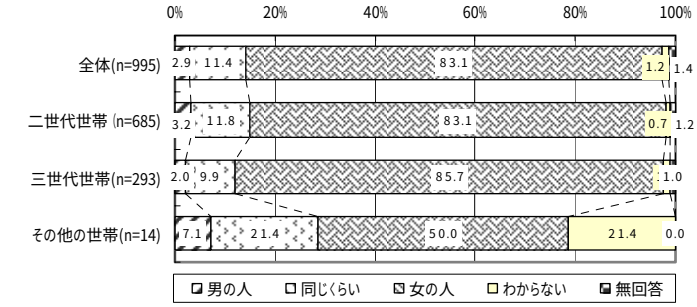


＜母親の就労状況＞

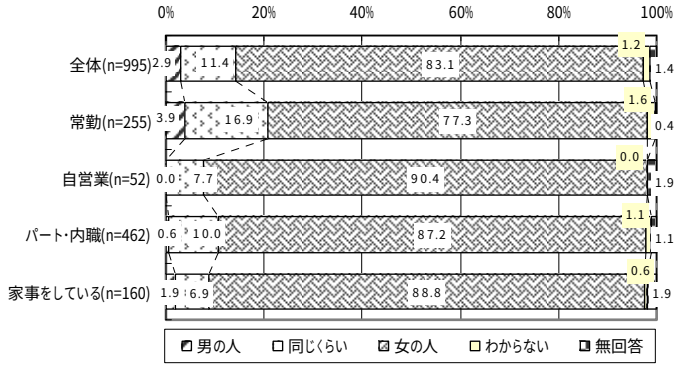


図表 Ⅳ-16 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと

＜家族構成＞

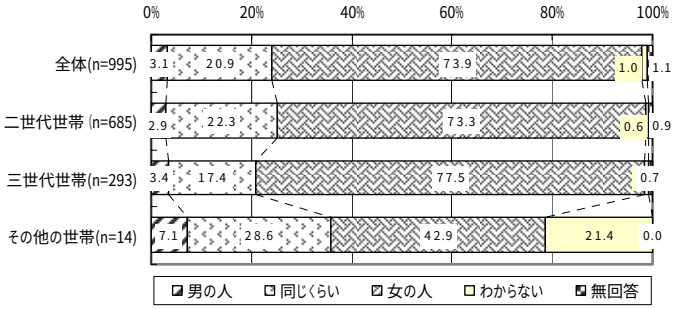


＜母親の就労状況＞

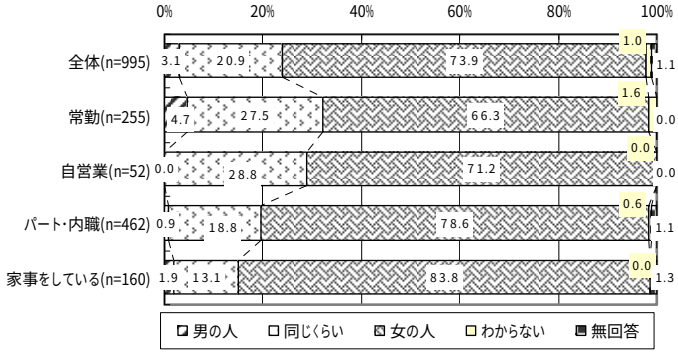


図表 Ⅳ-17 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと

＜家族構成＞

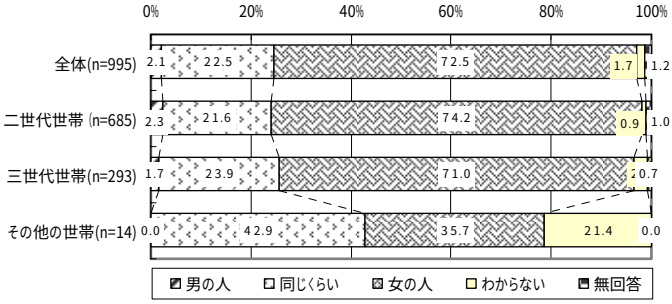


＜母親の就労状況＞

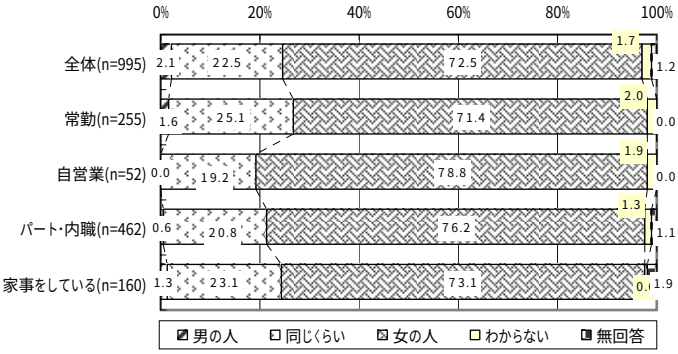


図表 Ⅳ-18 家での役割:普段の日の食事のかいもの

＜家族構成＞

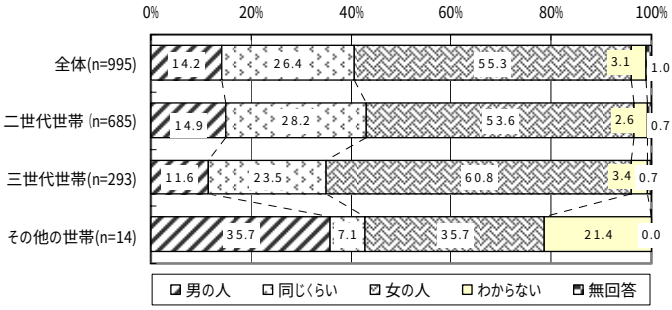


＜母親の就労状況＞

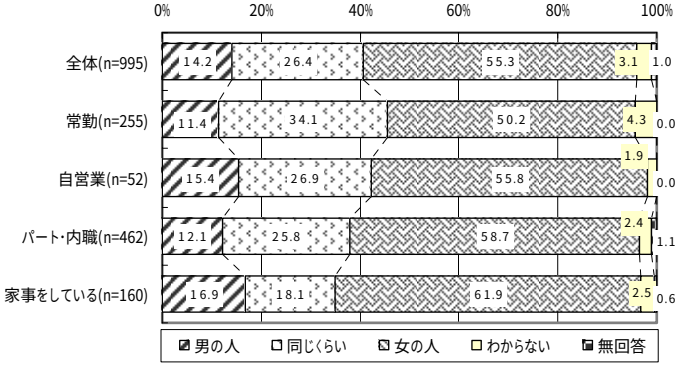


図表 Ⅳ-19 家での役割:ごみ出し

＜家族構成＞

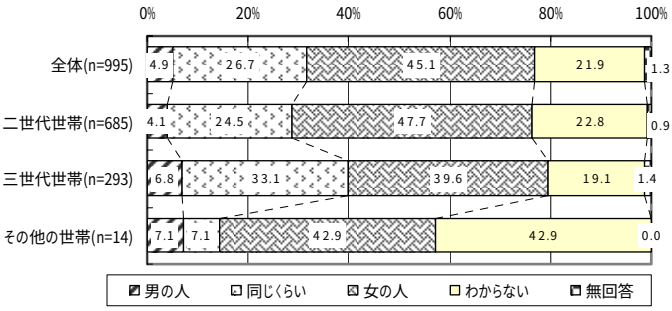


＜母親の就労状況＞

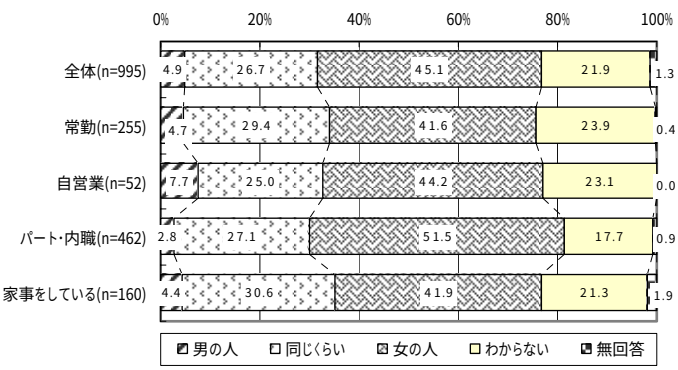


図表 Ⅳ-20 家での役割:学校行事への参加

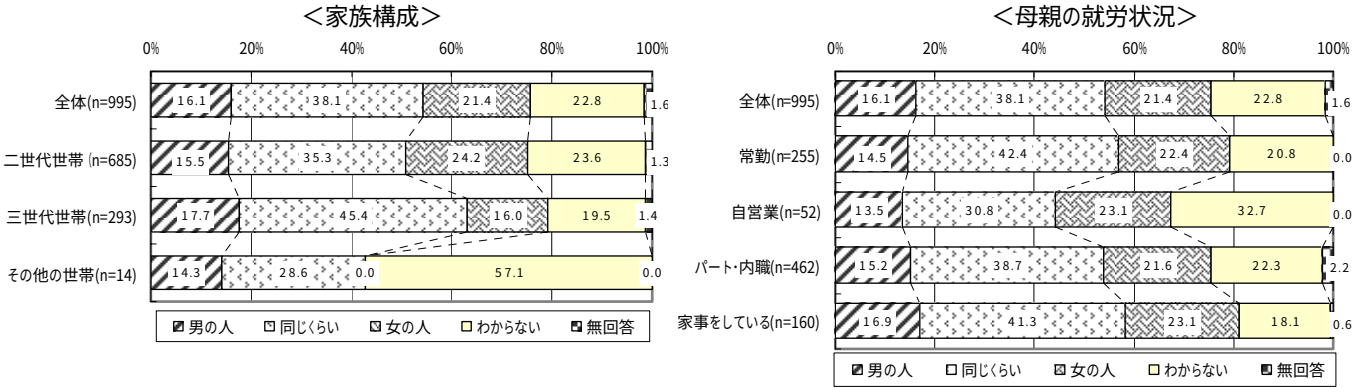
＜家族構成＞



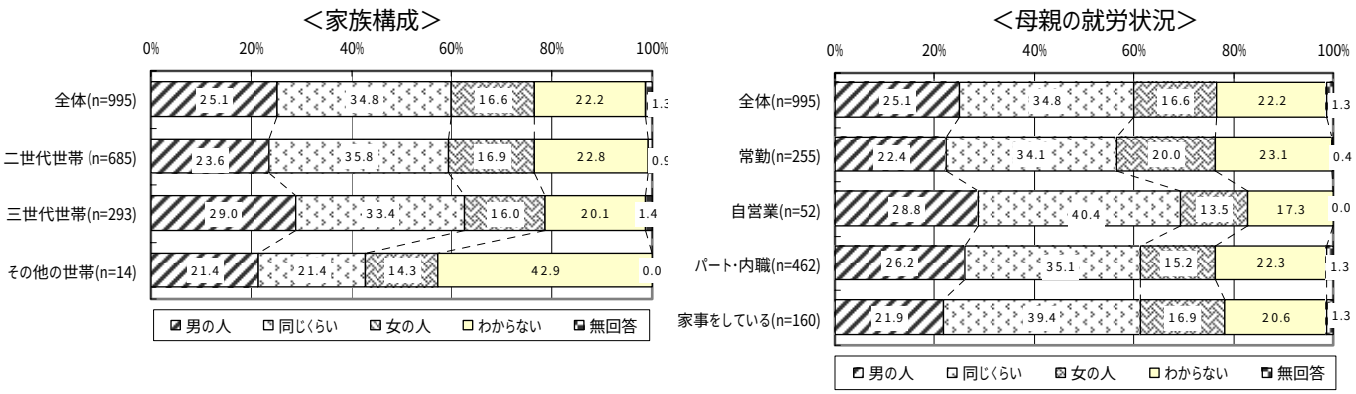
＜母親の就労状況＞



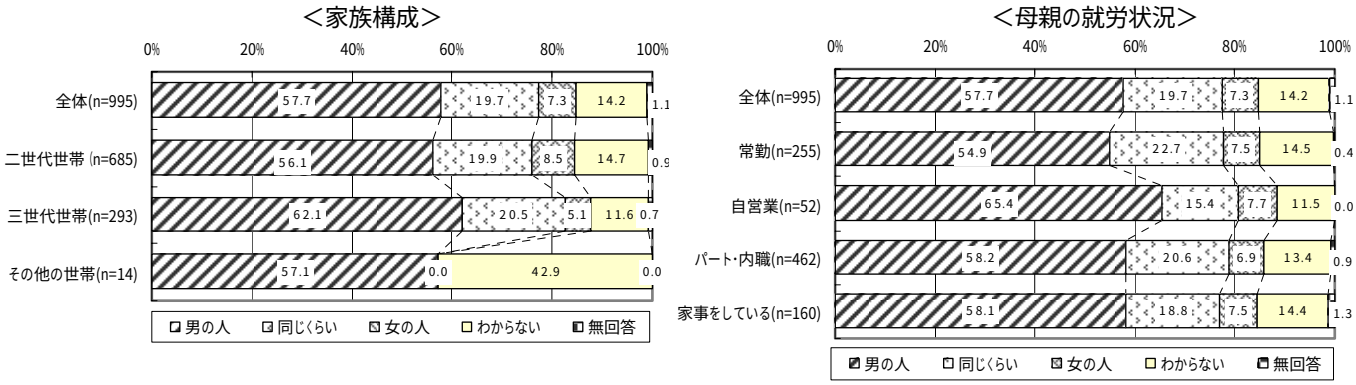
図表 Ⅳ-21 家での役割:地域の活動



図表 Ⅳ-22 家での役割:風呂に一番先に入ること



図表 Ⅳ-23 家での役割:蛍光灯の取りかえ



1-2. 手伝いの内容

問５ あなたが、家の中でやっている手つだいはどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 夕食のしたく
2 夕食のあとかたづけ
3 家の中のそうじ（自分の部屋以外）
4 洗濯・洗濯物を干す
5 洗濯物の取り入れ・たたむ
6 買い物（家族といっしょの場合を除く）
7 ごみ出し
8 妹・弟、または介護を必要とする人の世話
9 その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）

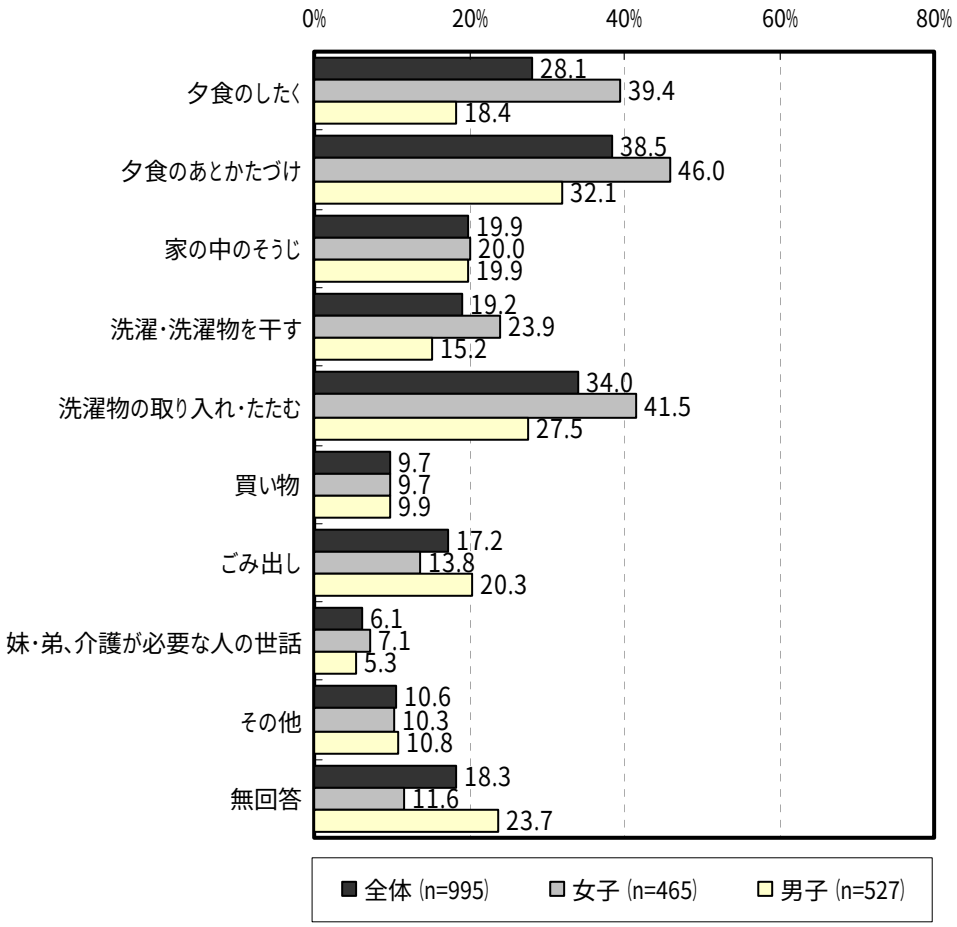
（1） 手伝いの種類

高校生の家庭内での手伝いは、「夕食のあとかたづけ」（38.5%）、「洗濯物の取り入れ・たたむ」（34.0%）、「夕食のしたく」（28.1%）となっている以外はいずれも 20%を切っており、小学生、中学生、高校生と年長になるにしたがって家庭での手伝いをしている割合が減少している。

また、これらの手伝いの男女差も大きく、女子は「夕食のあとかたづけ」が 46.0%、「洗濯物の取り入れ・たたむ」が 41.5%、「夕食のしたく」が 39.4%であるのに対して、男子は「夕食のあとかたづけ」が 32.1%以外で 30%を上回るものがなく、「洗濯物の取り入れ・たたむ」（27.5%）、「ごみ出し」（20.3%）を除けば、他の手伝いはほとんどしていない。

小学生から中学生、高校生となる段階で通学時間や学習時間が長くなったり、クラブ活動や塾等、家庭で過ごす時間が短くなることが想定される。しかし、女子の家庭内の手伝いに比べ、男子の手伝いが極めて少なく、女子は手伝うのが当たり前でも、男子の場合には、手伝わなくても止むを得ないと考えられているとすれば、それが、性別役割分業意識を刷り込んでいることにつながっていく。

図表 Ⅳ-24 自分が家の中でやっている手つだい（複数回答）



（2） 家族の役割分担と手伝いの種類

家でやっている手伝いの種類（やっている手伝いとして回答のあった数）の平均は、男子2.09種類、女子2.30種類であり、小学生男子2.85、小学生女子3.28と比較して男女とも手伝いの種類（数）が少なくなっている。

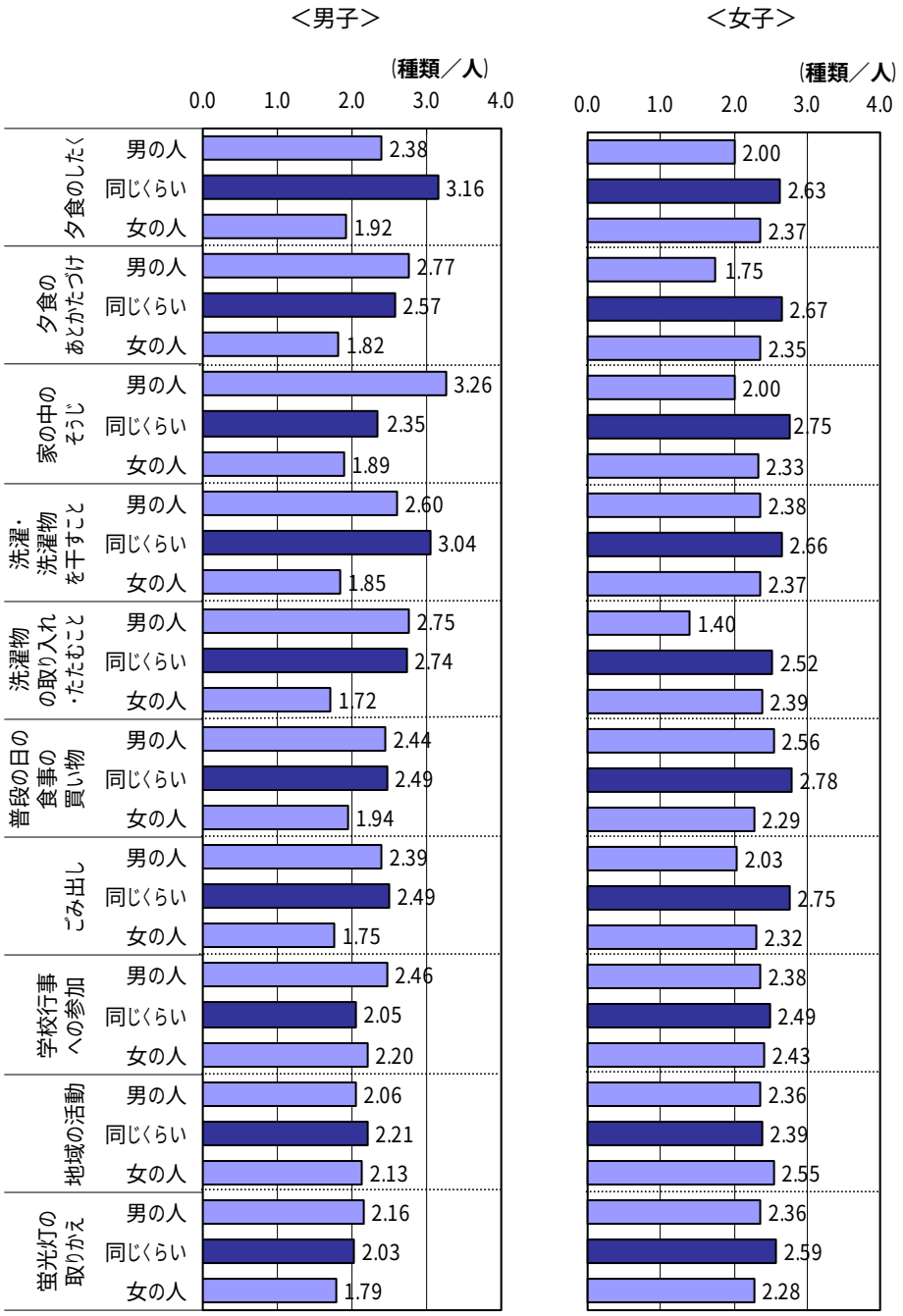
家庭における男女の役割分担と手伝いの種類（数）の関係をみると、家事等を「男の人」と「女の人」が「同じくらい」していると回答した子どもが家でやっている手伝いの種類（数）は、「男の人」「女の人」と回答している子どもより多い傾向にある。

例えば、「夕食のしたく」を「男の人」も「女の人」も「同じくらい」していると回答した男子の手伝い種類（数）は3.16であり、女子は2.63となっており、「男の人」「女の人」と回答したものよりも多い。これは、男女が家の仕事を「同じくらい」している家庭では、家族が協力して家事等をするために、子どもの手伝い件数も多くなるとみることができる。

一方、「女の人」が主に家事をしているという男子の手伝いの種類（数）をみると、「男の人」「同じくらい」と比較して、全体的に低い。ここには、『女性が家事をする』ので、『男性はあまり手伝いをしなくてもよい』という関係がうかがえる。

また、「女の人」と回答した男女の手伝いの種類（数）をみると全体的に低く、女性が主に家事を分担している家庭においては、子どもはあまり手伝いをしないという傾向がみられる。こうした家庭における役割分担は、結果として『家事は女の仕事』という固定的な役割意識を形成する遠因となっていくものと考えられる。

図表 Ⅳ-25 家庭の役割分担と子どもの手伝い種類（数）



1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方

問 6　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号

b　自分の考えの番号

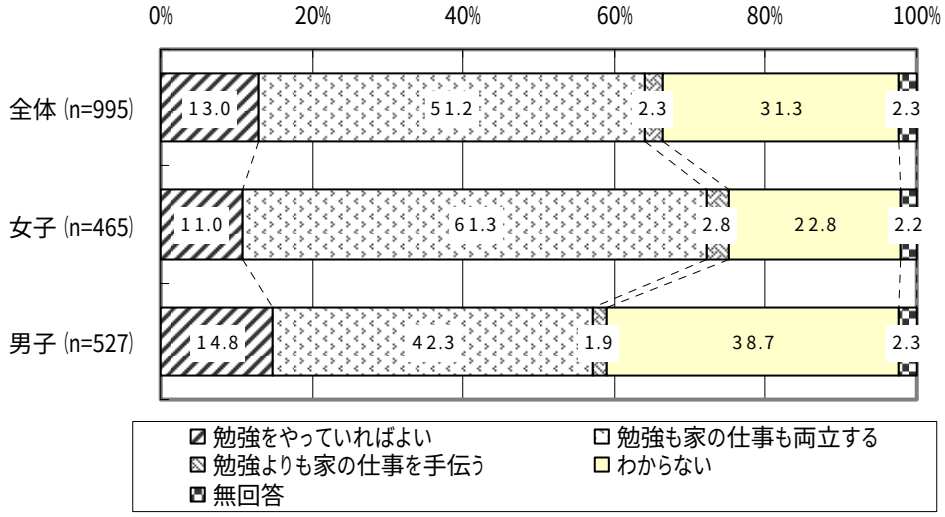
1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手伝うべきだ
4　わからない

(1)　家族の考え方

勉強と家の仕事のバランスに関する家族の考え方については、「勉強も家の仕事も両立する」の割合が 51.2%であり、「勉強をやっていればよい」（13.9%）、「勉強よりも家の仕事を手伝う」（2.3%）を大きく上回っている。この結果は小学生、中学生と同様の結果である。

また、男女別にみると、「勉強をやっていればよい」の割合が、男子は女子を 3.8 ポイント上回っているが、学年が年長になったことに伴う勉強に対する家族の考え方が極端に偏ることはなく、また、男女による違いもほとんどみられない。

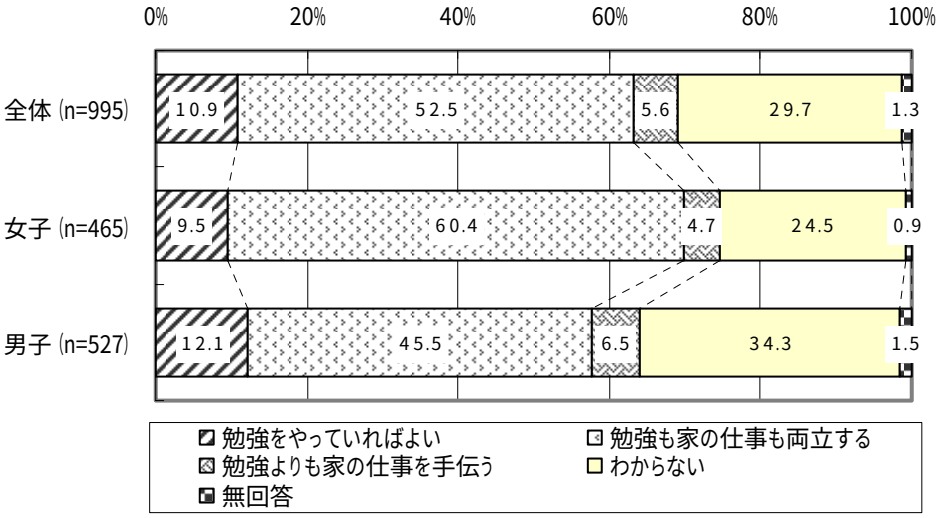
図表 Ⅳ-26　家族の考え



(2)　自分の考え方

勉強と手伝いに関する自分の考え方についてみると、男女とも「勉強も家の仕事も両立する」の割合が高い。また、「勉強をやっていればよい」については、男子 12.1%、女子 9.5%であり、家族の考え方では「勉強をやっていればよい」としたものが男子 14.8%、女子 11.0%であり、家族の考え方よりわずかに低い。家族は勉強を重視していても、自分の考え方では勉強をやっていればいいと思わないものが少なからずいることがわかる。

図表 Ⅳ-27 自分の考え


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 (n=995)
10.9
52.5
5.6
29.7
1.3
女子 (n=465)
9.5
60.4
4.7
24.5
0.9
男子 (n=527)
12.1
45.5
6.5
34.3
1.5
勉強をやっていればよい
勉強も家の仕事も両立する
勉強よりも家の仕事を手伝う
わからない
無回答

2　男女の役割分担について

☺　『男は仕事・女は家庭』という考え方について全体の４割以上の高校生が賛成し、特に男子は女子よりも固定的な性別役割分業意識が強いことがうかがえる。

☺　将来の夫婦の役割分担については、「夫が働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る」と、「共働きで育児・家事も共同で行う」がほぼ同程度となっている。男女別では特に女子は、子どもが大きくなってから働くという割合が高い。

2-1. 将来の『男･女』の役割分担の考え方

問 7　『男性が外で仕事をして収入を得て、女性は家庭にいて、育児や家事などを分担する』という考え方があります。
あなたは、こういう考え方をどう思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　よいと思う（賛成）
2　どちらかというとよいと思う（どちらかというと賛成）
3　あまりそう思わない（どちらかというと反対）
4　まったくそう思わない（反対）
5　どちらでも

『男は仕事・女は家庭』という考え方についての賛否をみると、「よいと思う」が 18.2%、「どちらかというとよいと思う」が 24.4%で、全体の４割以上の高校生が賛成していることになる。一方、反対する傾向は、29.0%（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計）であることから、全体的な傾向は賛成の側にあるといえる。

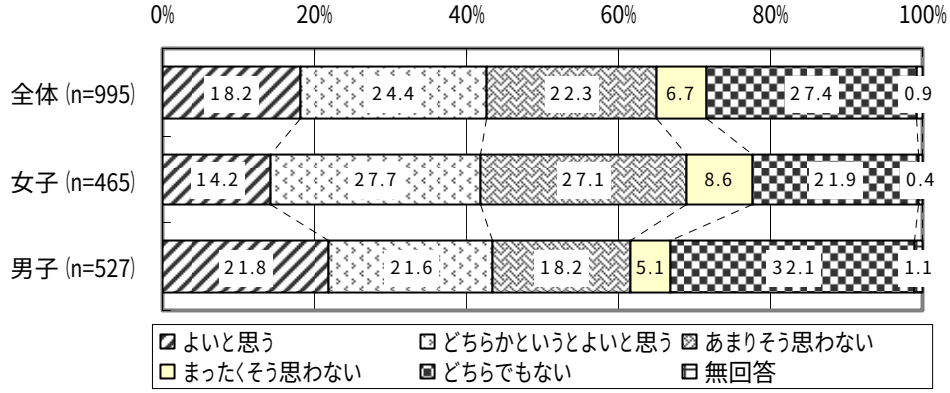
男女別にみると、男子は「よいと思う」割合が女子に比べて 7.6 ポイント高く、女子は、「あまりそう思わない」の割合が男子に比べて 8.9 ポイント高い。また、賛成する傾向と反対する傾向をみると、女子は、賛成：反対＝41.9：35.7 であるのに対して、男子は賛成：反対＝43.4：23.3 であり、男子の方が女子よりも固定的な性別役割分業意識が強いことがうかがえる。

『男は仕事・女は家庭』という役割分担について中学生と比較すると、中学生女子は賛成:反対＝52.4：30.6、男子は賛成：反対＝54.3:21.3 であったことから、中学生より高校生の方が固定的な役割分業に対しては反対する傾向が強いといえる。

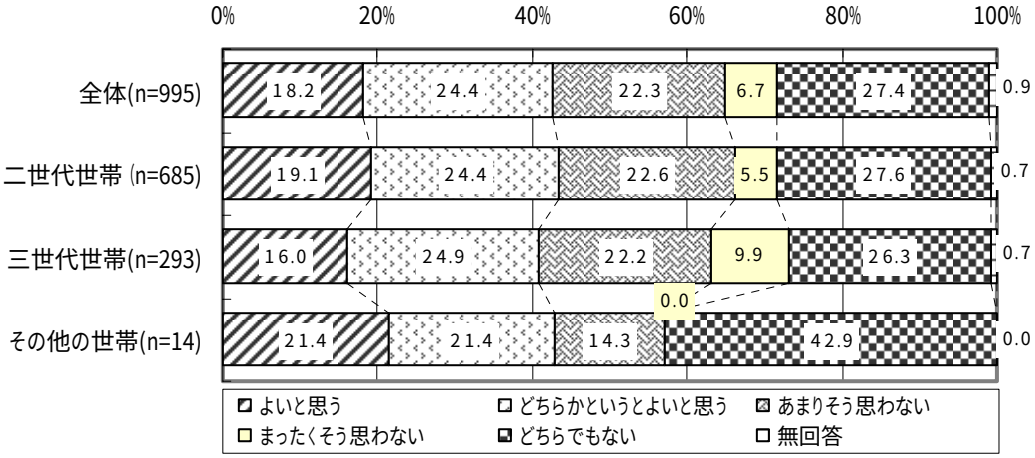
男女の固定的役割分業意識と家族構成や母親の就業状況との関係をみると、二世代・三世代世帯の別、母親の就労状況別の差は中学生ほどに顕著ではない。高校生では、家庭や母親からの影響だけでなく、自分自身の考え方を持てるようになっていると考えられる。したがって、高校生になるまでに、固定的な性別役割分業の考え方に縛られない選択ができるような指導・教育が必要といえる。

図表 Ⅳ-28 『男は仕事・女は家庭』という考え方について

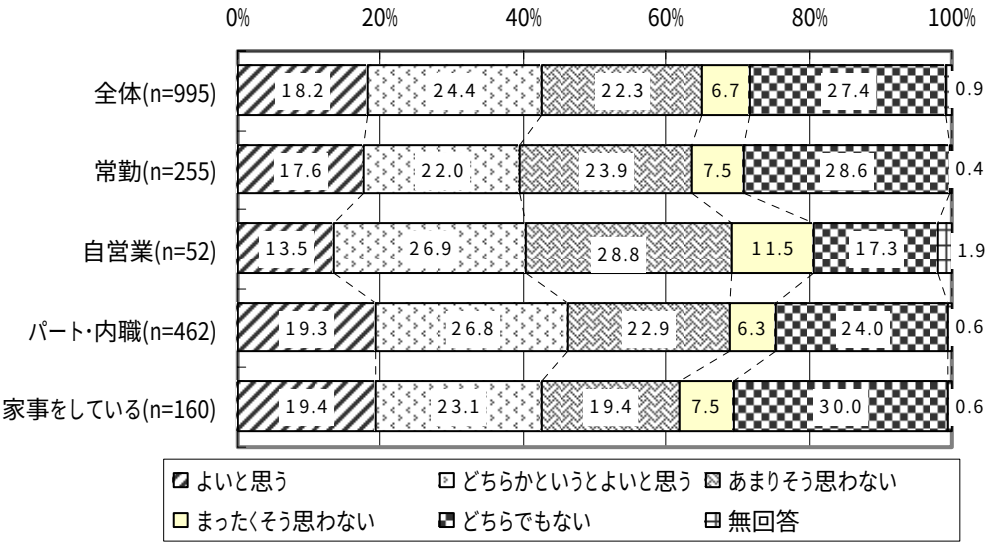
＜男女＞



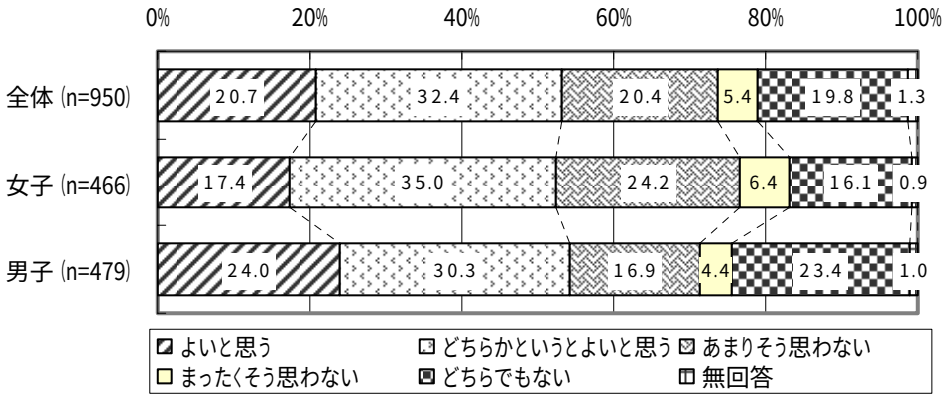
＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



（再掲：参考図表　中学生の『男は仕事・女は家庭』という考え方についての回答）



2-2. 女性の働き方についての考え方

問８　あなたは将来、結婚した場合にはどのような夫婦になりたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

１　二人とも働きながら、育児や家事なども共同で行う
２　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなっても育児・家事に専念する
３　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る
４　妻が外で働き、夫が育児・家事を行う
５　その他

将来の夫婦の役割分担についての考え方をみると、「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」（36.8%）と、「共働きで育児・家事も共同で行う」（35.3%）がほぼ同程度となっている。

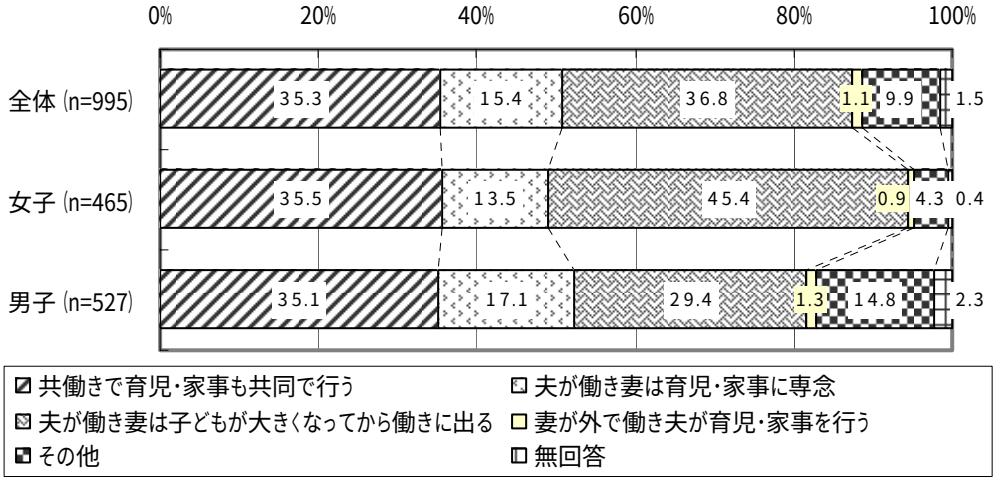
男女別にみると、女子は、「夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る」というライフコースを選択する割合が高く、男子が３割程度であるのに対して、女子は 45.4%と半数近い。また、「夫が外で働き、妻は子どもが大きくなっても育児・家事に専念する」の割合は、男子は女子に比べわずかに高い。

中学生の回答と比較すると、中学生男子は、共働き型や再就職型が３割を超えるものの、専業主婦を望ましいと考える傾向がみられたが、高校生になると、専業主婦型は減少し、共働き型が増加する傾向にある。これに対して女子は、わずかに共働き型が増えてはいるものの、共働き・再就職・専業主婦の各々の割合はあまり変わらない。

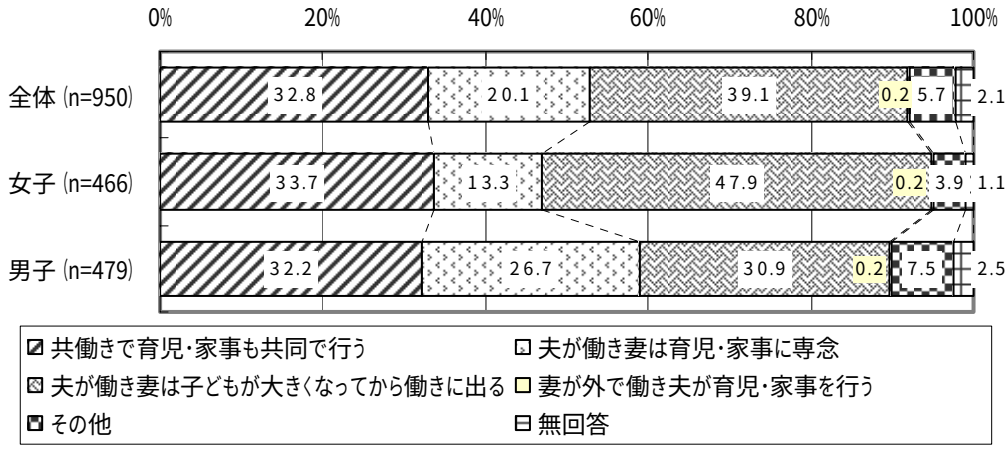
このような働き方に対する考え方と家族構成、母親の就労状況との関係をみると、家族構成による影響はあまりみられないが、母親の就労状況との関係では、顕著な違いがみられる。母親が常勤世帯の子どもは「共働きで育児・家事も共同で行う」が 42.7%と高く、母親が家事をしている専業主婦世帯では、「夫が働き妻は育児・家事に専念」が 24.4%となっている。共働き家庭の子どもは仕事の継続を志向し、専業主婦の家庭では、専業主婦志向が高くなる傾向にあり、母親が子どものライフコースに与える影響は大きい。

図表 Ⅳ-29 どのような夫婦になりたいか

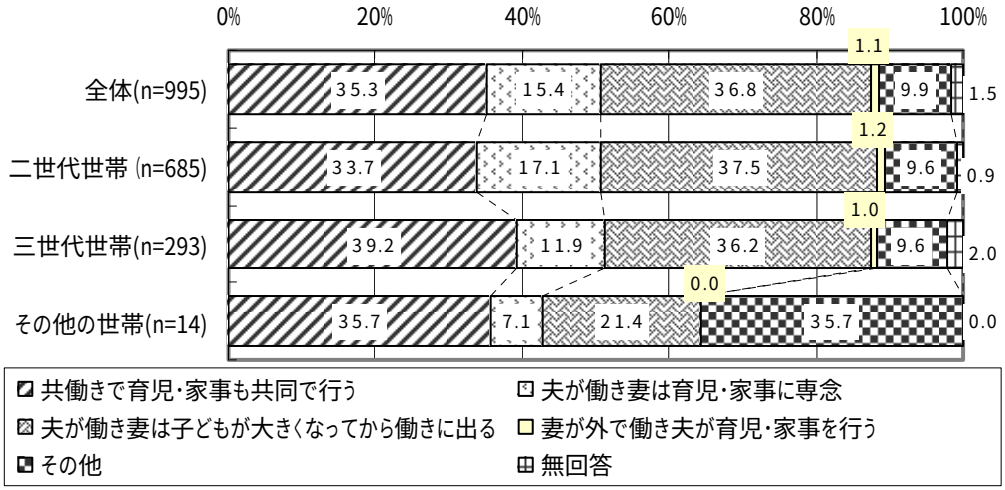
＜男女＞



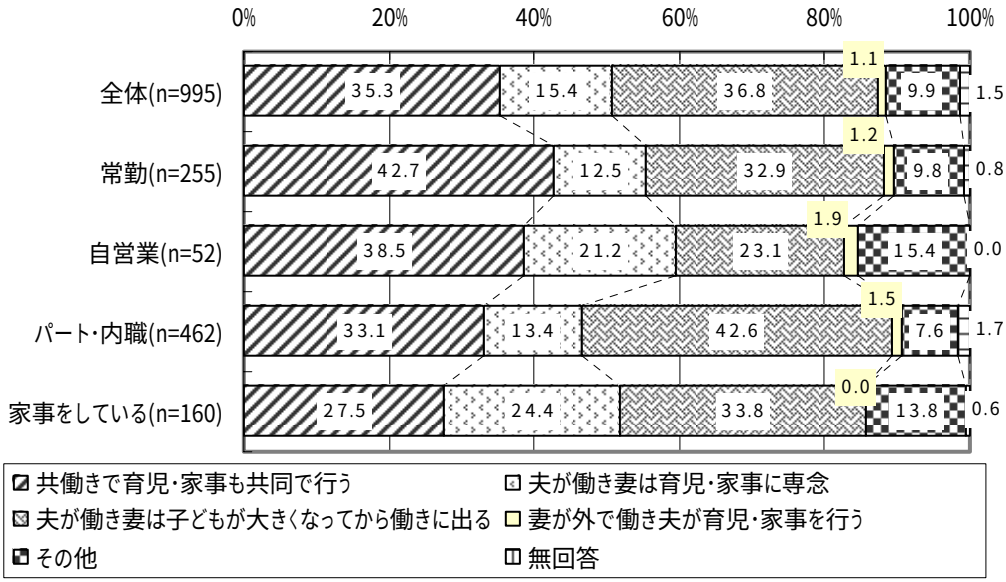
(再掲参考図表:中学生のどのような夫婦になりたいかの回答)



＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体(n=995)
35.3
15.4
36.8
1.1
9.9
1.5
常勤(n=255)
42.7
12.5
32.9
1.2
9.8
0.8
自営業(n=52)
38.5
21.2
23.1
1.9
15.4
0.0
パート・内職(n=462)
33.1
13.4
42.6
1.5
7.6
1.7
家事をしている(n=160)
27.5
24.4
33.8
0.0
13.8
0.6
共働きで育児・家事も共同で行う
夫が働き妻は育児・家事に専念
夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る
妻が外で働き夫が育児・家事を行う
その他
無回答

3　学校生活について

☺　学校行事や係等における男子向き・女子向きに対する考え方は、小学生や中学生と同様であり、「重いものを運ぶ」「運動会の応援団長」については「男子に向いている」役割と捉えられており、女子向きの役割は、「下級生や新入生のめんどうをみること」となっており、固定的な考え方がみられる。一方、学校の生徒会会長や班長など、従来は男子の役割と考えられがちであった役割については、どちらでもよいとする割合が８割程度に高い。

☺　好きな教科については、男女の違いが顕著であり、男子は理論的・社会的な教科を好み、女子は、感覚的・現実的な教科を好む傾向がみられる。

☺　進学への希望については、「４年制大学」とした割合が男女ともに多く、男子は、54.8%、女子が 38.5%である。女子は短期大への進学希望が 15.5%あることから、これを合わせると大学等への進学希望率は、54.0%と高い。

3-1. 学校の係等について

問 9　学校の行事や係･委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。(a～h のそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a　生徒会や委員会の会長や委員長	1	2	3	4
b　生徒会や委員会の副会長や副委員長	1	2	3	4
c　運動会の応援団長	1	2	3	4
d　学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e　重いものを運ぶこと	1	2	3	4
F　下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
G　名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

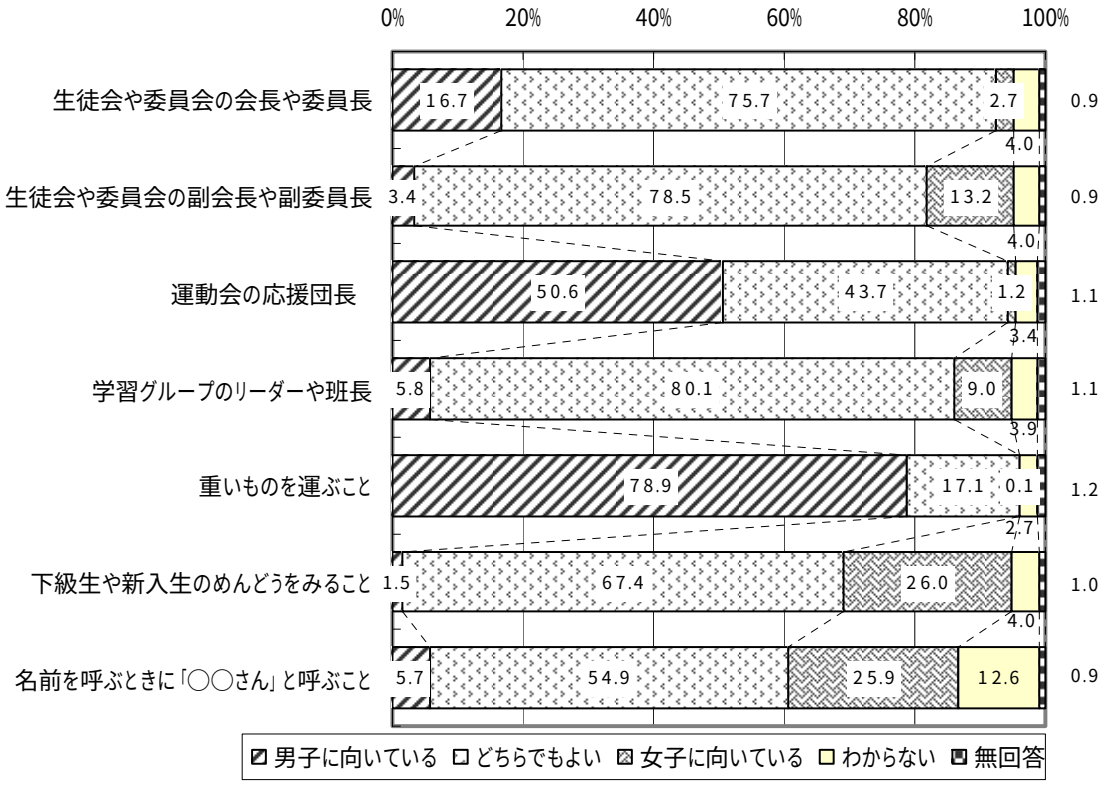
(1)　全体的傾向

学校行事や係等における男子向き・女子向きに対する考え方は、「重いものを運ぶ」（78.9%）、「運動会の応援団長」（50.6%）については「男子に向いている」役割と捉えられており、女子向きの役割は、「下級生や新入生のめんどうをみること」（26.0%）と考えられている。この結果は、小学生や中学生と同様であり、力を出す仕事やリーダーシップが期

待される役割は男子向き、年少者のめんどうをみるなど家庭的役割については女子向きという意識が強くうかがえる。

近年、学校の生徒会会長や班長など、女子が就くことが多いといわれており、考え方でも「生徒会や委員会の会長や委員長」「学習グループのリーダーや班長」「生徒会や委員会の副会長や副委員長」については「どちらでもよい」の割合が７割を超えて高く、男子がリーダー的な役割を担うという固定的な意識はなくなりつつある。また、「運動会の応援団長」について中学校では男子向きが 68.7%であったが、高校生は、男子向きが 50.6%に減少し、応援団長についても男子に向いているという固定観念は薄らいできている。

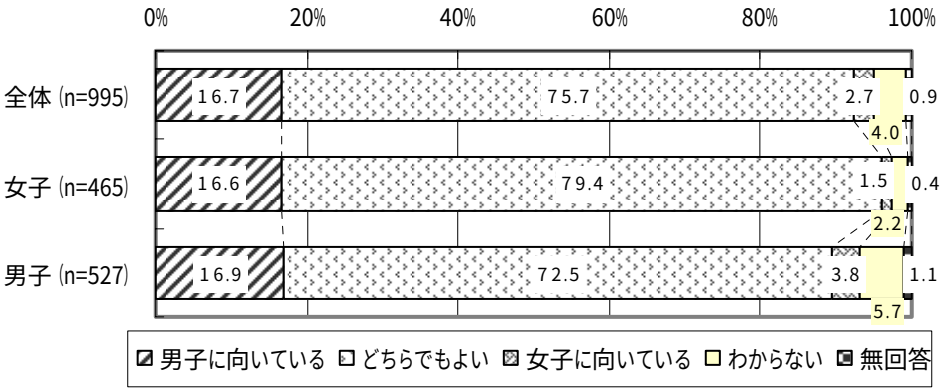
図表 Ⅳ-30 学校での役割



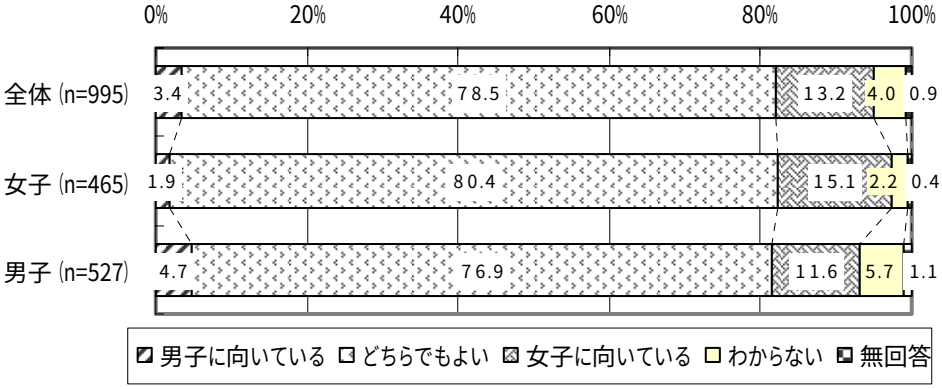
(2) 男女別傾向

学校の係等の役割について男女差をみると、「学習グループのリーダーや班長」で 7.4 ポイント、「運動会の応援団長」で 5.8 ポイントあるものの、他の項目について男女差はほとんどみられなくなっている。学校での役割についての男女の意識差は、小学校より中学校、中学校より高等学校となるに従って縮小している。高等学校にいたって、男子向き･女子向きという固定観念に縛られず行動しているということが考えられる。一方で、重いものを運ぶのは男子、会長や委員長は男子向き、副会長や副委員長は女子向き、下級生のめんどうをみるのは女子向きという固定的観念を持ち続ける層が一定程度あり続けることも明らかとなった。

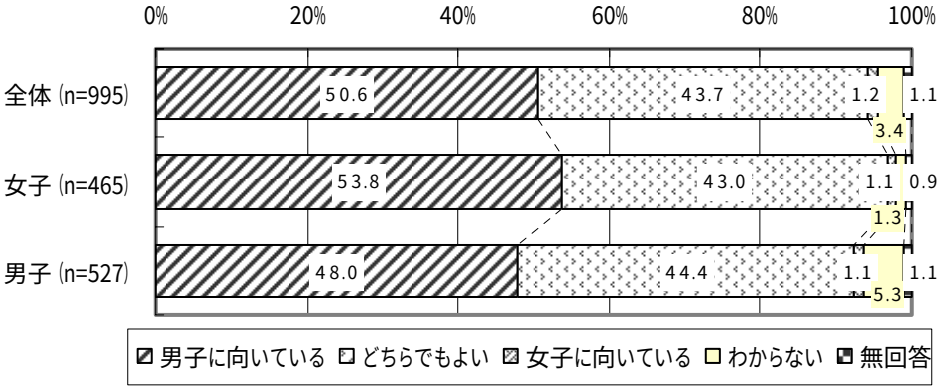
図表 Ⅳ-31 学校での役割:生徒会や委員会の会長や委員長



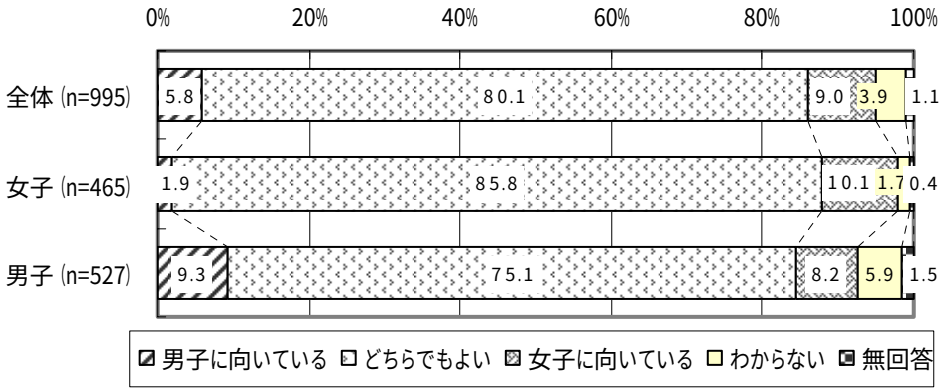
図表 Ⅳ-32 学校での役割:生徒会や委員会の副会長や副委員長



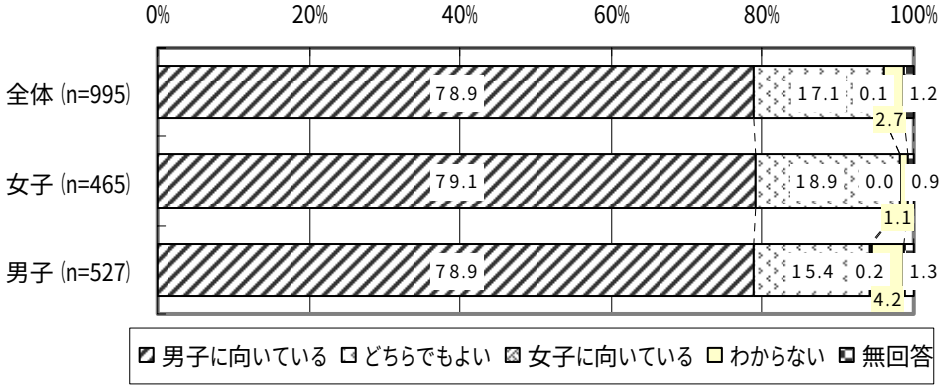
図表 Ⅳ-33 学校での役割:運動会の応援団長



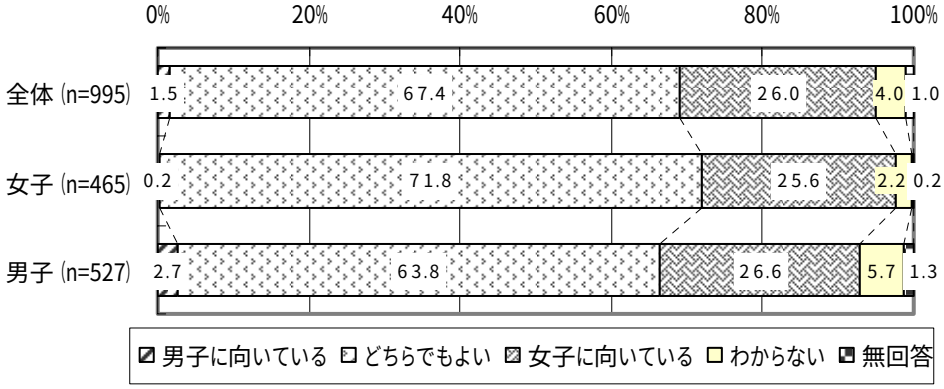
図表 **IV-34** 学校での役割:学習グループのリーダーや班長



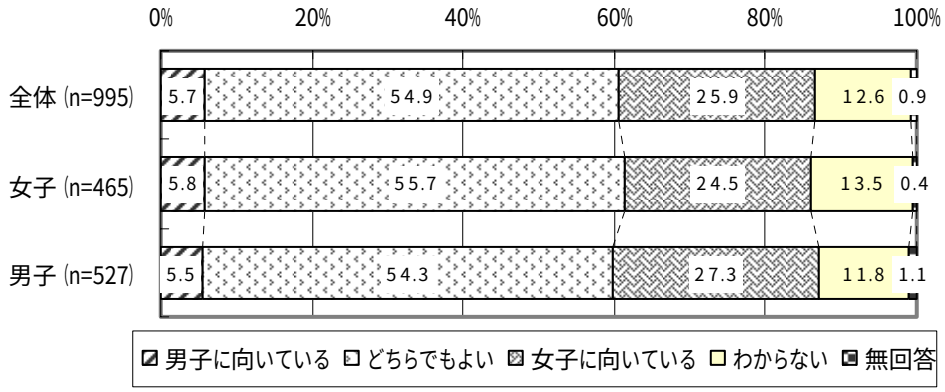
図表 **IV-35** 学校での役割:重いものを運ぶこと



図表 **IV-36** 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること



図表 **IV-37** 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと



3-2. 学校の教科について

問 10　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ3つ以内で答えてください。

a　好きな教科の番号			
b　嫌いな教科の番号			
c　得意な教科の番号			
d　苦手な教科の番号			

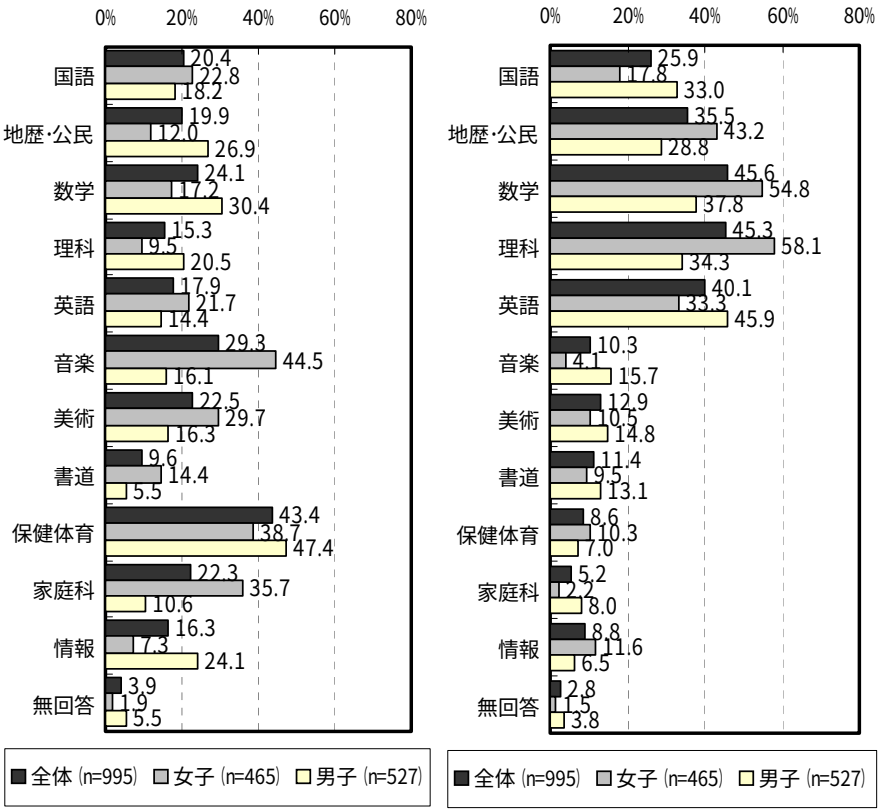
1　国語	**2　歴史・公民**	**3　数学**
4　理科（物理・科学・生物・地学）	**5　英語**	**6　音楽**
7　美術	**8　書道**	**9　保健体育**
10　家庭科	**11　情報**	

高校生の好きな教科についてみると、女子は「音楽」（44.5%）、「保健体育」（38.7%）、「家庭科」（35.7%）であり、男子は、「保健体育」（47.4%）、「数学」（30.4%）、「歴史・公民」（26.9%）となって、保健体育以外は男女の違いが顕著に現われた。女子は音楽や家庭科のように現実的・感性的な教科を、男子は、数学や歴史・公民のように、理論的・社会的な教科を好む傾向がみられる。

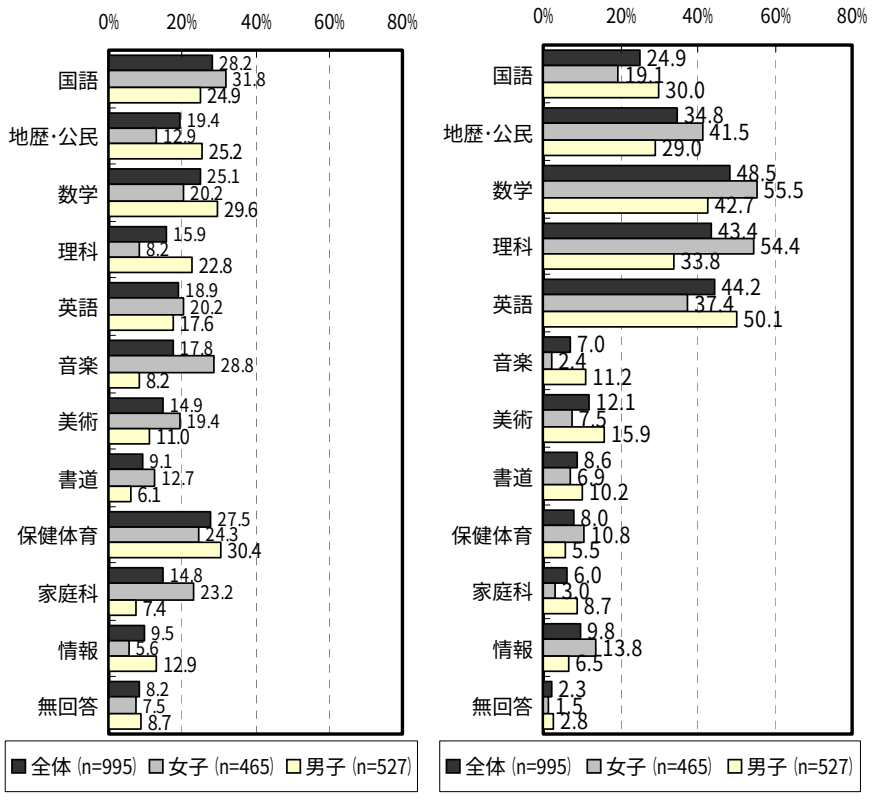
嫌いな教科については、女子は「理科」(58.1%)、「数学」（54.8%）、「歴史・公民」（43.2%）であり、理論的・社会的な教科を嫌う傾向がみられる。男子は、「英語」（45.9%）、「数学」（37.8%）、「理科」（34.4%）であり、数学・理科については、好きな教科でも上位であることから、男子においてはこれら教科の好き・嫌いが二極化しているものと考えられる。

得意と好きな教科についてみると、女子は得意な教科を「国語」(31.8%)、「音楽」（28.8%）、「保健体育」(24.3%)、男子は「保健体育」（30.4%）、「数学」（29.6%）、「歴史・公民」（25.2%）であり、好きな教科と得意な教科はほぼ似た傾向にある。また苦手な教科についても嫌いな教科が苦手な教科となっている。

図表 Ⅳ-38 好きな教科・嫌いな教科（複数回答）



図表 Ⅳ-39 得意な教科・苦手な教科（複数回答）



3-3. 進学の希望

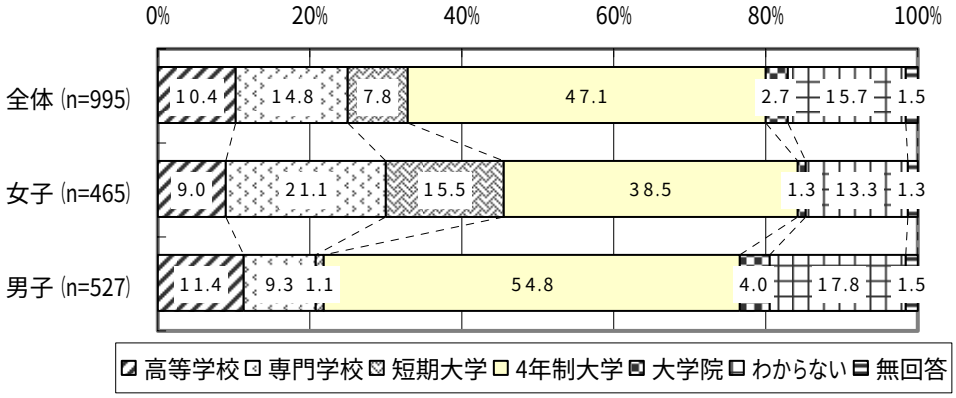
問 11　あなたは、次のうちどこまで進学したいと思っていますか。(あてはまる番号1つに○)

1　高等学校	2　専門学校（高卒後の専門学校）	3　短期大学
4　4年制大学	5　大学院	6　その他

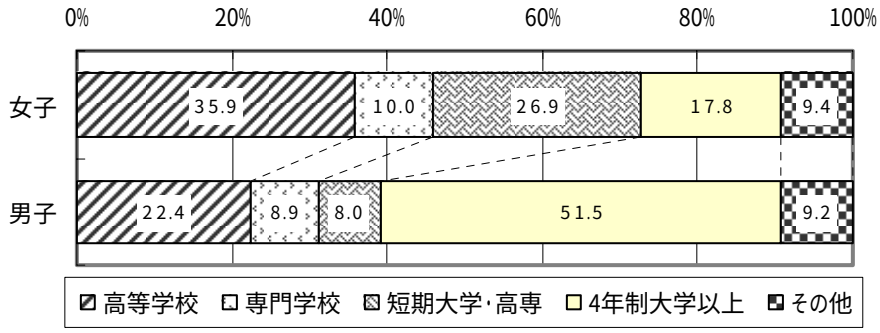
進学の希望についてみると、「4年制大学」とした割合が男女ともに多く、特に男子は、54.8%が4年制大学とし、女子が 38.5%となった。女子は短期大学への進学希望が 15.5%であり、これを合わせると大学等への進学希望率は、54.0%と高い。通常、高等学校卒業者の大学等への進学先は、男子は4年制大学が主流であるが、女子については、31%程度が短期大学へ進学（学校基本調査）していることを考えれば、豊田市の女子の進学傾向は特に短期大学に偏っているとはいえない。

平成 10 年度に実施した男女共同参画に関する意識調査（20 歳以上の市民対象）において、男子は4年制、女子は短期大学という意識が高く、こうした意識が根強く残っていることが懸念されたが、高校生の進学傾向にはその影響は特にみられず、一般的な進学傾向といえる。

図表 IV-40　どこまで進学を希望するか



＜再掲参考：平成 10 年度　豊田市男女共同参画に関する意識調査＞



4　『女の子･男の子だから』と言われること

☺　『女の子だから・男の子だから』と言われた経験についてみると、男子が 33.4%（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）であるのに対して女子は、64.1%と高い。特に女子は、小学生から中学生に至る段階で「女の子だから」と言われることが増え、高校生になってもその割合はほぼ同程度となっている。

☺　『女の子だから・男の子だから』と言われる相手は、「母」が最も多く、次いで「父」となっている。また、女子は「祖母」も多い。これらの結果は小学生・中学生と同様の傾向となっている。

☺　どのような時に『女の子だから・男の子だから』と言われたかをみると、「ことばづかいが悪いとき」が最も高い割合であり、「行儀の悪い座り方をしたとき」「家事などの手伝いをしないとき」「整理整頓ができないとき」が続く。これらの傾向は、小学生･中学生と同様な傾向である。また、男女差が大きいことも小中学生と同傾向である。

☺　女子については、男子に比べ、家庭の手伝いをする割合が高く、ことばづかいなどで『女の子だから』と言われることも多く、ライフコースでは専業主婦や再就職型を志向するという女性像を描くことができる。

4-1.『女の子だから･男の子だから』と言われた経験について

問 12　あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「男の子だから○○しなさい」「男の子のくせに○○」「女の子だから○○しなさい」「女の子のくせに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号1つに○）

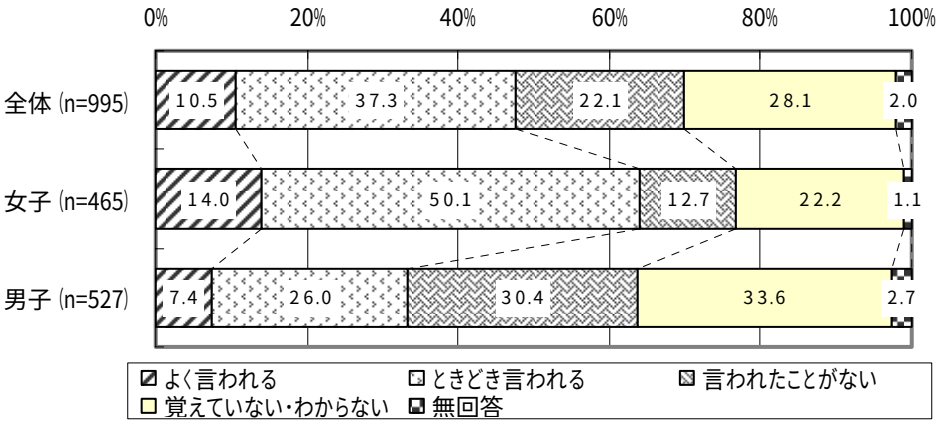
1　よく言われる
2　ときどき言われる　→「1」「2」と答えた人は、問１３に進んでください。

3　言われたことがない
4　覚えていない・わからない　→「3」「4」と答えた人は、問１５に進んでください。

『女の子だから・男の子だから』と言われた経験についてみると、男子が 33.4%（「よく言われる」「ときどき言われる」の合計）であるのに対して女子は、64.1%と高い割合となっている。

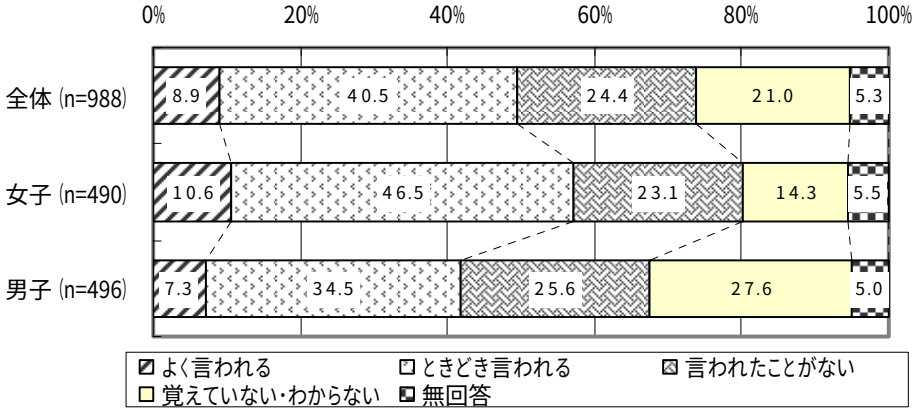
これらの結果を小学生･中学生と比較すると、男子は言われない割合が高くなっているのに対して、女子は、小学生で 57.1%、中学生で 69.4%へと 12.3 ポイント増え、高校生で 64.1%に若干減少したとはいえ、６割を超える女子が『女の子だから』と言われている。中学生以上の年齢が上がったことにより、女らしいふるまい等について、周囲から言われることが常態化していることがわかる。

図表 Ⅳ-41 『女の子だから・男の子の〈せに』などといわれた経験

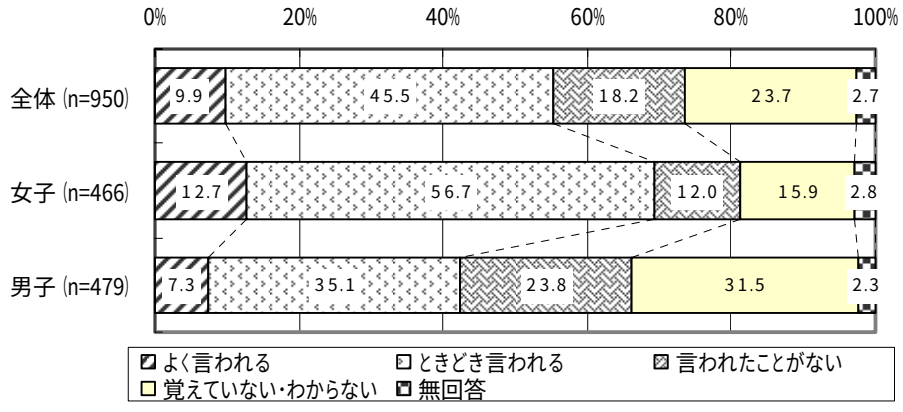


(再掲:参考図表 『女の子だから・男の子の〈せに』などといわれた経験)

＜小学生＞



<中学生＞



4-2.『女の子だから・男の子だから』といわれた相手

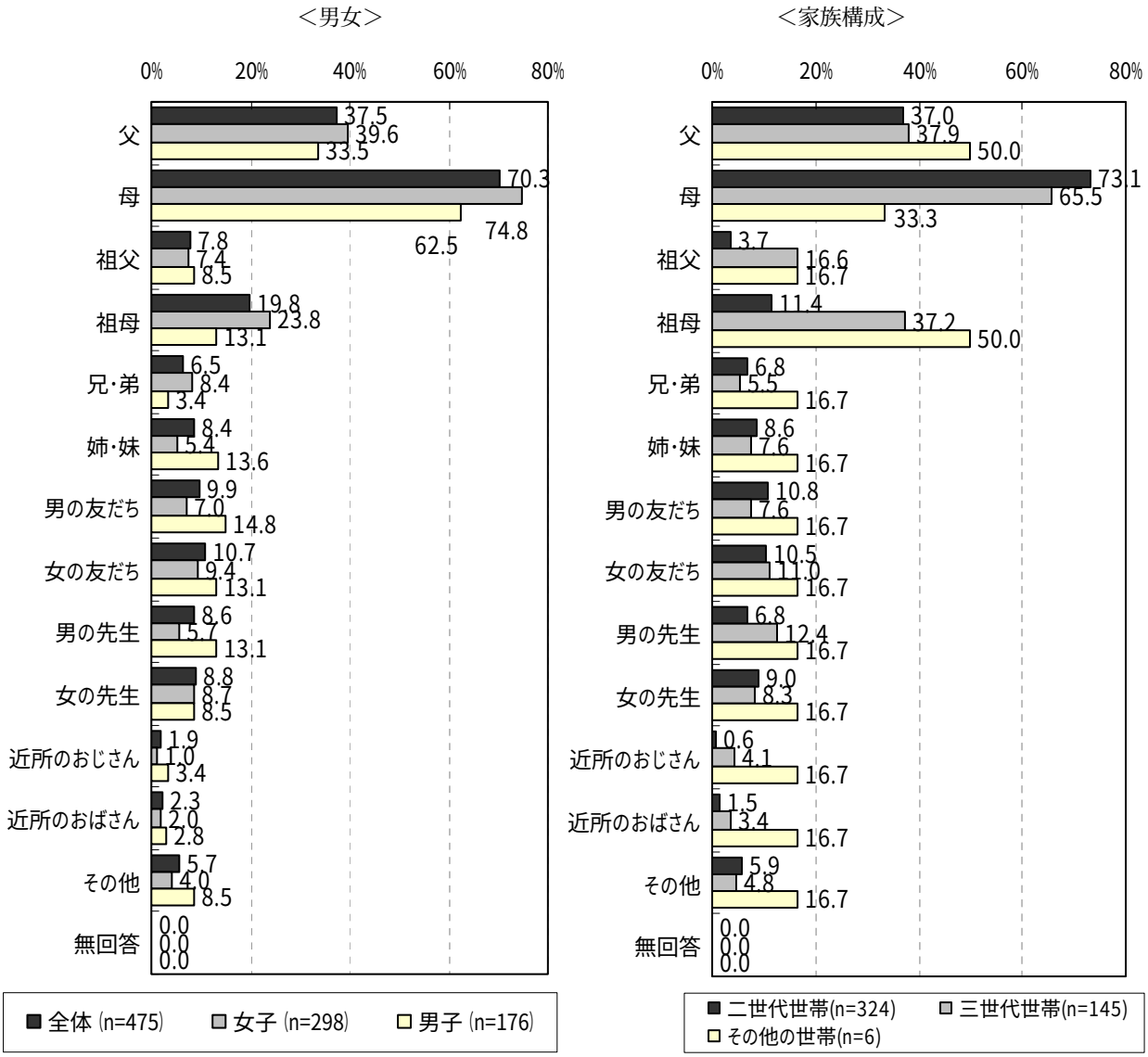
問 13　問 12で「1　よく言われる」「2　ときどき言われる」と回答した人におたずねします。だれから言われることが多いですか。(あてはまる番号全てに○)

1　父	2　母	3　祖父	4　祖母
5　兄・弟	6　姉・妹	7　男の友だち	8　女の友だち
9　男の先生	10　女の先生	11　近所のおじさん	12 近所のおばさん
13　その他			

『女の子だから・男の子だから』と言われる相手をみると、「母」と回答した割合が、女子の 74.8%、男子の 62.5%と高い。母親に次いで「父」となっており、女子が 39.6%、男子が 33.5%となっている。さらに「祖母」も女子は 23.8%と比較的高く、全体的にみて、小学生・中学生と言われる相手と傾向は同様である。

高校生の特徴としては、女子が母親･父親の両親から言われる割合が高い点、また三世代世帯では、祖母から言われる割合が、小学生で 27.5%、中学生で 33.0%であるが、高校生では 37.2%と高くなっている点があげられる。

図表 Ⅳ-42 だれから言われることが多いか（複数回答）



問 14 **問 13 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」と回答した人**におたずねします。どのようなときに言われましたか。（あてはまる番号全てに○）

1 ことばづかいが悪いとき	**2 家事などの手つだいをしないとき**
3 整理整頓ができないとき	**4 あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき**
5 勉強ができないとき	**6 運動ができないとき**
7 泣いたとき	**8 無駄づかいをしたとき**
9 夜の帰り時間が遅いとき	**10 けんかに負けたとき**
11 その他	

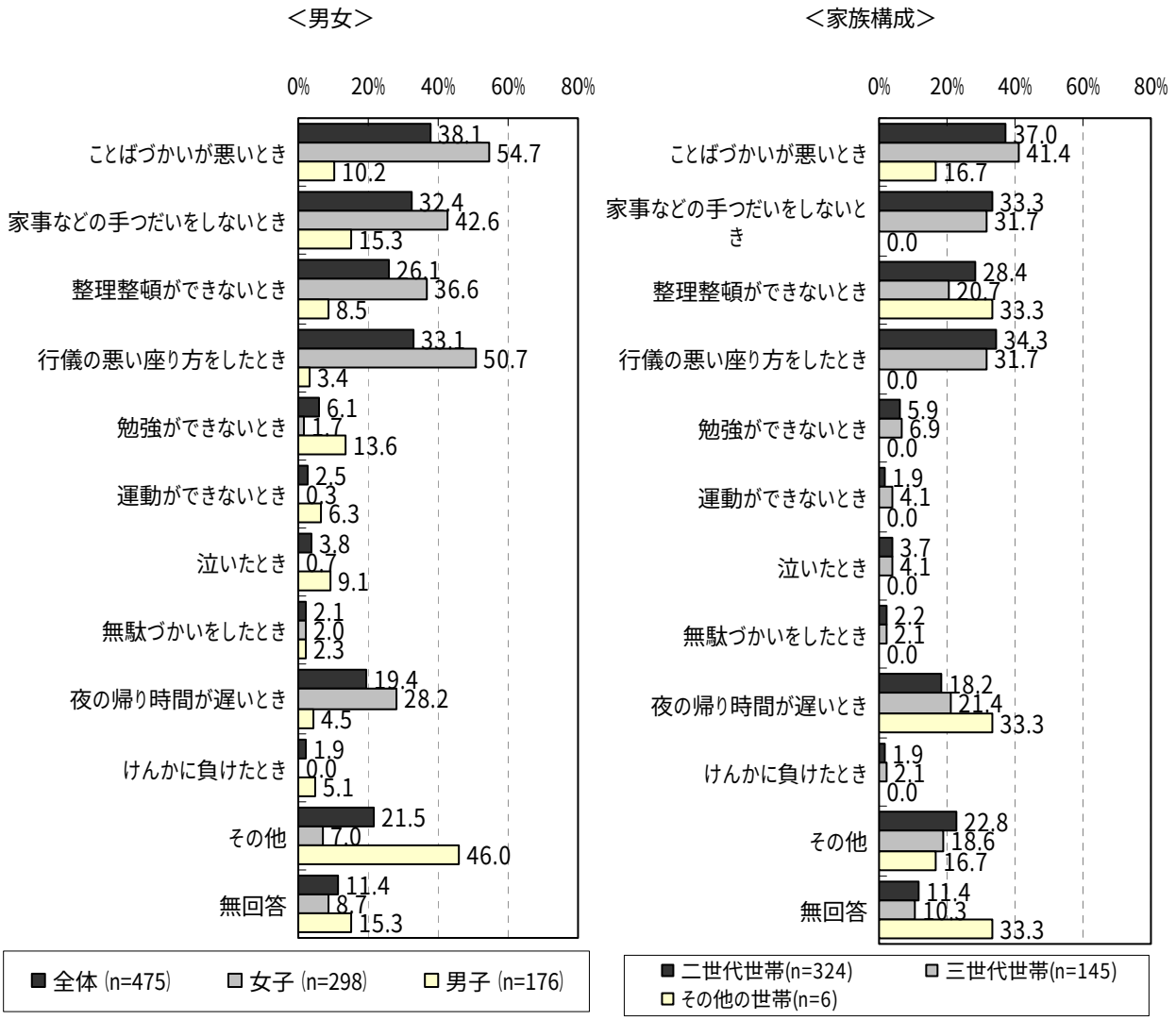
どのような時に『女の子だから・男の子だから』と言われたかをみると、「ことばづかい

が悪いとき」（38.1%）が最も高い割合であり、「行儀の悪い座り方をしたとき」（33.1%）、「家事などの手伝いができないとき」（32.4%）、「整理整頓ができないとき」（26.1%）が続く。これらの傾向は、小学生・中学生と同様な傾向である。

また、男女差が大きいことも小中学生と同傾向であり、「ことばづかいが悪いとき」については、女子が 54.7%と高いのに対して、男子は 10.2%と男女差が大きい。また、「行儀の悪い座り方をしたとき」についても、男女差は 47.3 ポイントにおよぶ。この男女差は、小学生や中学生より大きく、男子に比べ女子は『女だから』と特に言われていることがわかる。

大人にとって、ことばづかいや手伝い、行儀等が年長になるにしたがって『女の子らしさ』の上で重要と認識されていることがわかる。

図表 Ⅳ-43 どのようなときに言われたか（複数回答）



5 将来の姿

☺ どのような人になりたいかについては、男女とも第１位は「やさしい人」であり、第２位は「心が広い」があがっている。

☺ 『男は男らしく･女は女らしく』という考え方についてみると、全体的にみて賛成傾向（「そのとおりだと思う」「そうかもしれないと思う」の合計）が、反対傾向よりも高い割合となっており、特に男子は、賛成する傾向が強い。逆に女子は反対傾向が強い。

5-1. どのような人になりたいか

問 15　全員にお聞きします。あなたは、どのような人になりたいと思いますか。（◯は5つまで）

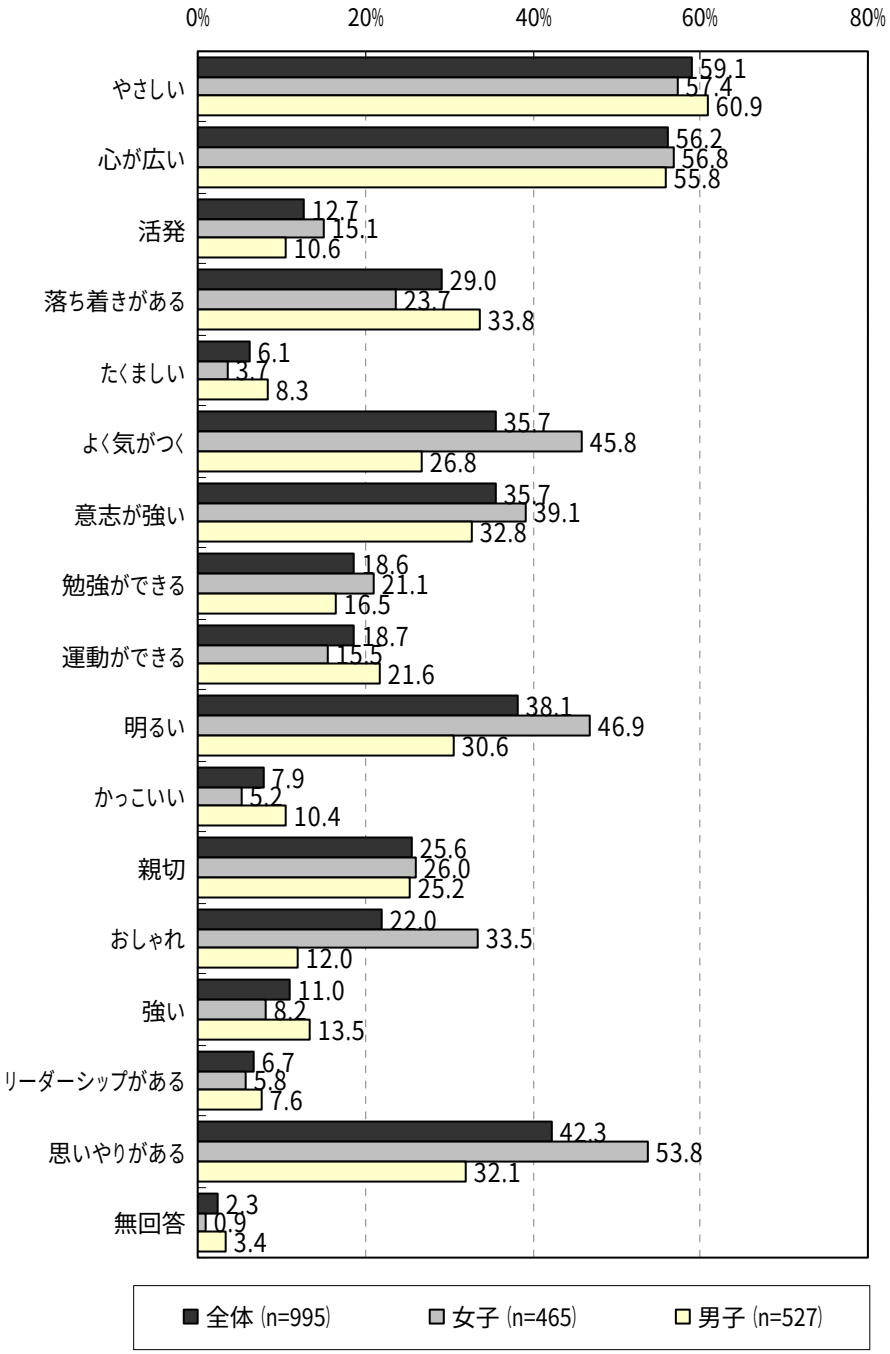
1　やさしい	**2　心が広い**	**3　活発**
4　落ち着きがある	**5　たくましい**	**6　よく気がつく**
7　意思が強い	**8　勉強ができる**	**9　運動ができる**
10　明るい	**11　かっこいい**	**13　親切**
14　おしゃれ	**15　強い**	**16　リーダーシップがある**
17　思いやりがある		

どのような人になりたいかについてみると、男女とも第１位は「やさしい人」であり、第２位は「心が広い」があがっている。また女子の第３位の「思いやりがある」は、男子の５位に上がっており、男女とも、自分がなりたい姿は共通した点をもっている。

小学生で上位に上がっていた「運動ができる」「勉強ができる」は、高校生では上位に位置づけられなかった。また、男子は強さやリーダーシップ、女子はやさしさや思いやりがある人が望ましい姿になると想定したが、男子については「強さ」「リーダーシップ」は全く選択されず、男女とも、やさしさや明るさ、思いやりなどが選択される傾向となっている。

図表 Ⅳ-44　どのような人になりたいか-上位5つ（複数回答）

図表 Ⅳ-45 どのような人になりたいか（複数回答）



5-2.『男らしく・女らしく』についての考え方

問 16 「男は男らしくする・女は女らしくする」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1 まったく、そのとおりだと思う	**2 まあ、そうかもしれないと思う**
3 あまりそう思わない	**4 まったくそう思わない**
5 どちらでもない	

『男は男らしく・女は女らしく』という考え方についてみると、全体では賛成傾向（「そのとおりだと思う」「そうかもしれないと思う」の合計）が 48.7%であるのに対して、反対傾向（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計）は 34.6%であり、全体的には賛成傾向にある。

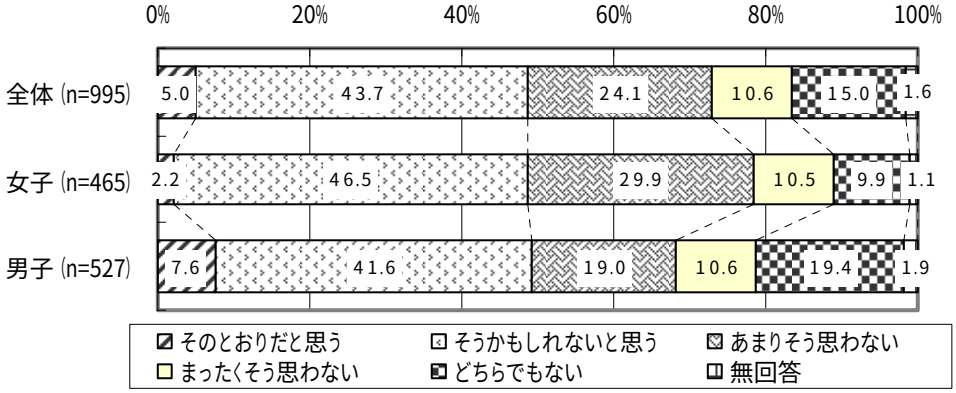
しかし男女別にみると、女子は賛成傾向が 48.7%に対して、反対傾向は 40.4%で、約８ポイント賛成傾向にあるのに対して、男子は、賛成傾向が 49.1%、反対傾向が 29.6%であり、賛成傾向が強い。

『男らしく・女らしく』の考え方へのこだわりは、特に男子にその傾向が強く、逆に女子は半数弱が賛成していない。中学生も高校生も女子の場合、例えば家庭において手伝いをする割合が高いこと、日常の行動において『女だから』と言われることが男子に比べて圧倒的に多いことなど、固定的な性別役割分業意識による男女差を経験することが影響していると考えられる。一方、前出のとおり、子どもの年齢が高くなるに従って、祖母が『女らしく・男らしく』と言う割合が高くなっているが、三世代・二世代世帯の意識格差は少なく、家族構成の影響はほとんどみられない。

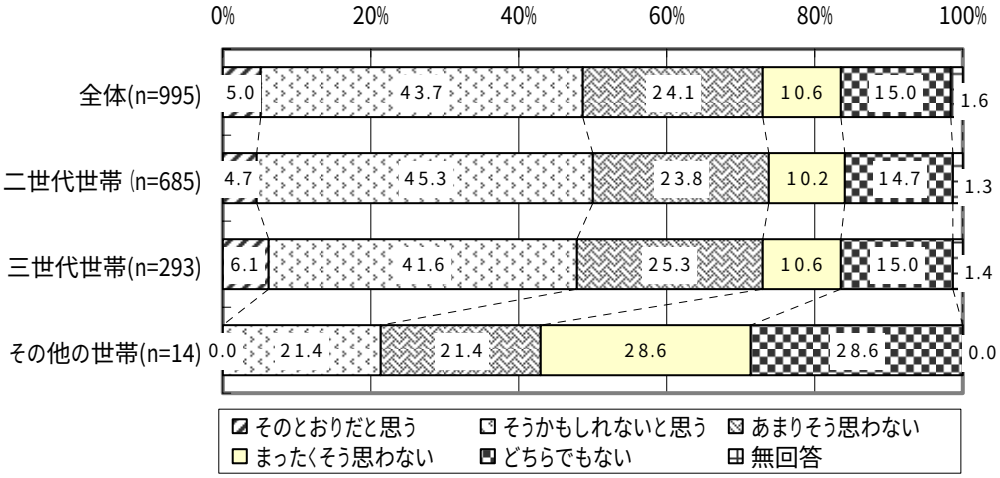
後段において、女子のライフスタイルやライフコースの選択志向をみているが、専業主婦・再就職によって、家庭や家族を大切にする生活（後段の「仕事と家庭のバランス」参照）、というタイプを志向する傾向がみられ、『女らしく』という周囲からの力によって、女子のライフコースの幅が狭められていかないよう留意することが必要である。

図表 Ⅳ-46 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方について

＜男女＞



＜家族構成＞



6 ライフスタイル･ライフコースについての考え方

☺ 仕事と家庭のバランスに対する考え方では、「仕事と家庭のバランスがとれた生活」を志向する傾向が強く、男女別にみてもその傾向は同様である。ただし、女子は、「仕事は生活できる程度にして、家庭や家族を重視した生活」が 32.5％と高い。

☺ 女性のライフコースに対する考え方は、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」、『専業主婦』（「結婚したら専業主婦となる」「子どもができたら専業主婦になる」の合計）が高い割合であり、再就職型、専業主婦型が支持されている。女子の半数が、再就職型、４分の１が専業主婦型、４分の１が継続型となっている。

☺ 女子のライフスタイルやライフコースの選択志向は、再就職型を志向しているが、「女らしく」という周囲からの力によってライフコースの幅が狭められていかないよう留意が必要である。

6-1. 仕事と家庭のバランスについて

問 17 結婚したという前提で答えてください。あなたは将来、仕事とそれ以外の生活をどのようにしたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1 仕事を中心とした生活
2 仕事と家庭のバランスがとれた生活
3 仕事は生活できる程度にして、家庭や家族と過ごすことを重視した生活
4 家事を中心とした生活
5 その他

仕事と家庭のバランスに対する高校生の考え方をみると、全体的に「仕事と家庭のバランスがとれた生活」（65.5%）を志向する傾向が強くなっており、「家庭や家族を重視した生活」（23.3%）や「仕事を中心とした生活」（3.8%）のように、仕事か家庭かどちらかを重視する生活は望まれていない。

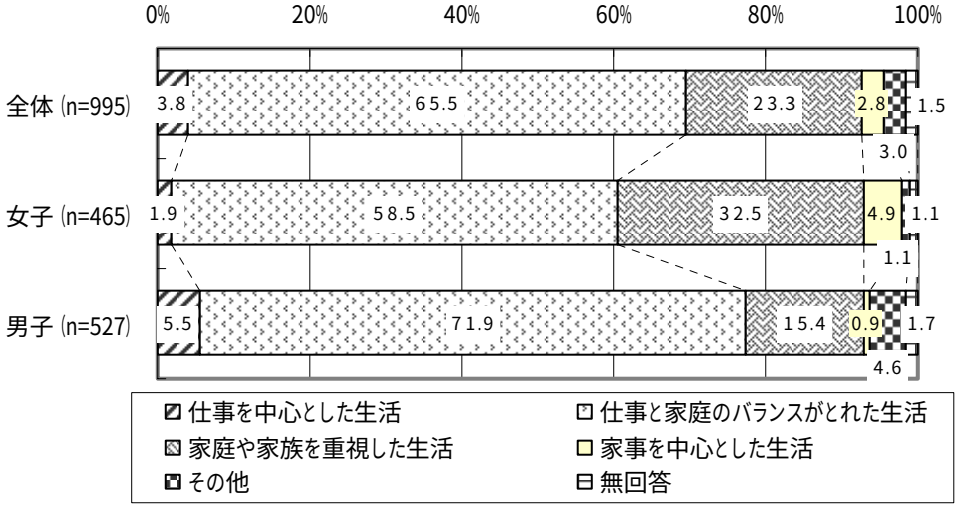
男女別にみても「仕事と家庭のバランスがとれた生活」が高い割合を占めている。しかし、女子の場合は男子に比べ仕事と家庭の両立型の割合が少なくなり、「家庭や家族を重視した生活」が 32.5%と高くなっている。

前出の夫婦の役割分担では、「夫が働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る」の割合が特に高く、また「夫が働き、妻は育児・家事に専念」するという専業主婦への志向性もみられたことから、女子には自らの生き方を重視するというより、家庭や家族を中心としたライフコース意識が浸透していることがうかがえる。また、「家庭や家族を重視した生活」を選択した女子の割合は、中学生より高校生の方が高く、中学生より高校生の方が女性のライフコースへの固定的な考え方が浸透しているとみることができる。

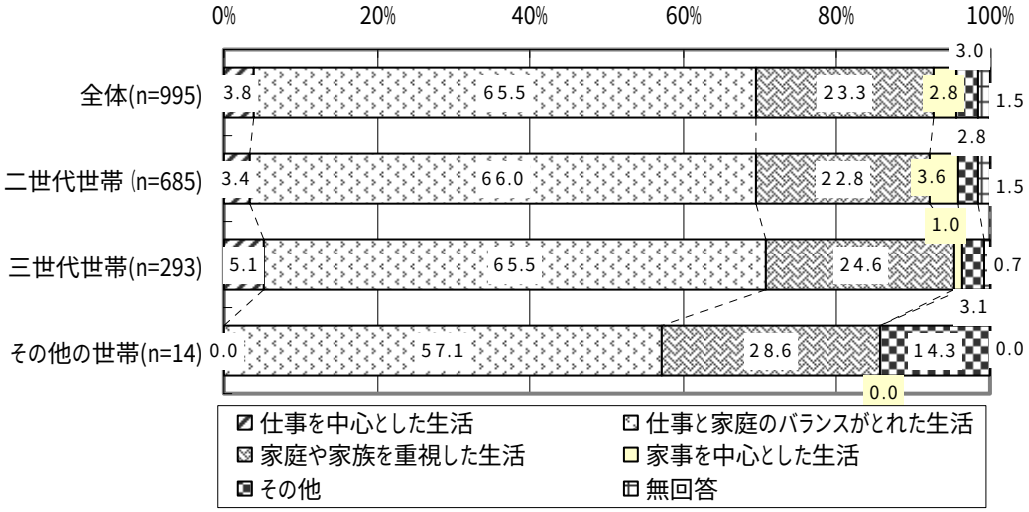
仕事と家庭のバランス意識と家族構成や母親の就労状況との関係をみると、母親が自営業の子どものみ「家庭や家族を重視した生活」が高い割合になっているが、それ以外の属性による大きな違いはみられない。

図表 Ⅳ-47 将来、仕事とそれ以外の生活をどうしたいか

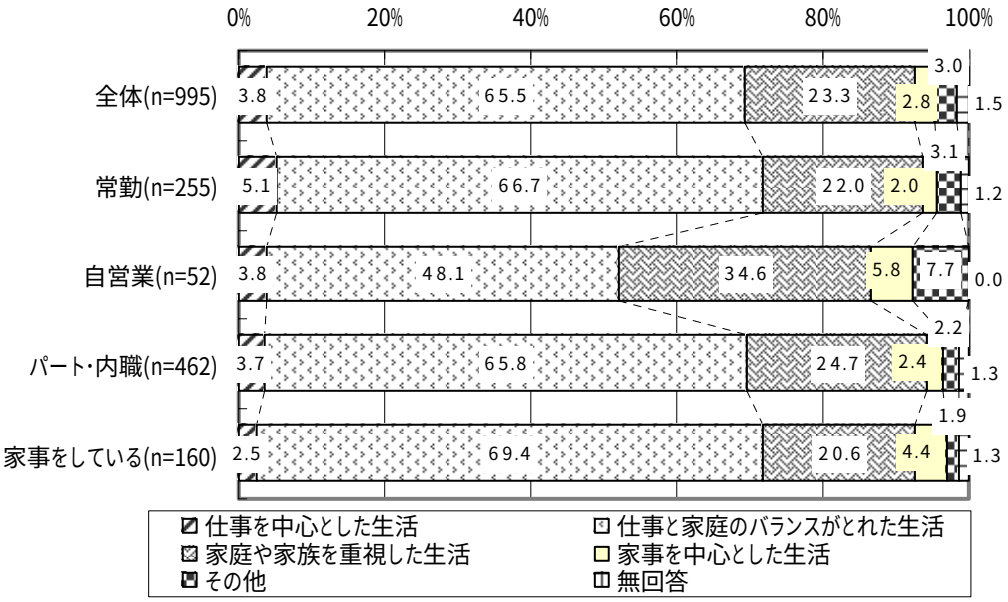
＜男女＞



＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体(n=995)
3.8
65.5
23.3
2.8
3.0
1.5
常勤(n=255)
5.1
66.7
22.0
2.0
3.1
1.2
自営業(n=52)
3.8
48.1
34.6
5.8
7.7
0.0
パート･内職(n=462)
3.7
65.8
24.7
2.4
2.2
1.3
家事をしている(n=160)
2.5
69.4
20.6
4.4
1.9
1.3
仕事を中心とした生活
仕事と家庭のバランスがとれた生活
家庭や家族を重視した生活
家事を中心とした生活
その他
無回答

6-2. 女性のライフコースについて

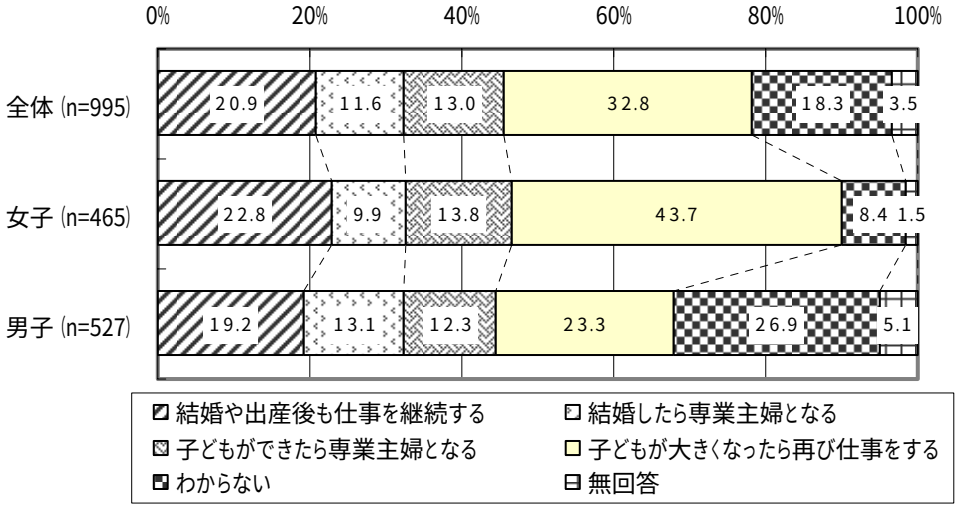
問 18　結婚して子どもができるという前提で答えてください。あなたは、女性の生き方として、どれが望ましいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　結婚や出産などがあっても、仕事も継続していく生き方
2　結婚するまで仕事をするが、結婚したら家庭にはいって専業主婦となる生き方
3　結婚しても仕事は続けるが、子どもができたら家庭にはいって専業主婦となる生き方
4　結婚したり、子どもができたりしたら仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする生き方
5　わからない

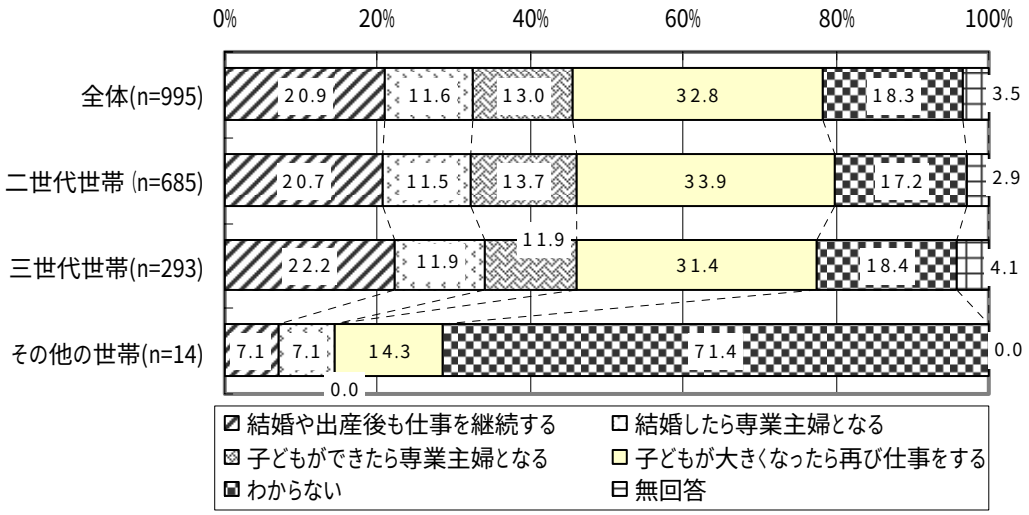
女性のライフコースに対する考え方についてみると、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」割合が全体で 32.8%と高く、専業主婦となる（「結婚したら専業主婦となる」（11.6%）、「子どもができたら専業主婦になる」（13.0%）の合計）が 24.6%であり、再就職型、専業主婦型が支持されている。

男女別にみると、女子は特に「子どもが大きくなったら再び仕事をする」の割合が高く、43.7%に達し、わからないと回答したものを除くと、女子のほぼ半数が「子どもが大きくなったら再び仕事をする」という再就職型を志向し、４分の１が専業主婦志向、４分の１が継続志向となっている。また、男子は「わからない」ものが多いものの、専業主婦（25.4%）、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」（23.3%）、「結婚や出産後も仕事を継続する」（19.2%）が拮抗しており、男子より女子の方が、従来の女性の生き方を支持する傾向がみられる。

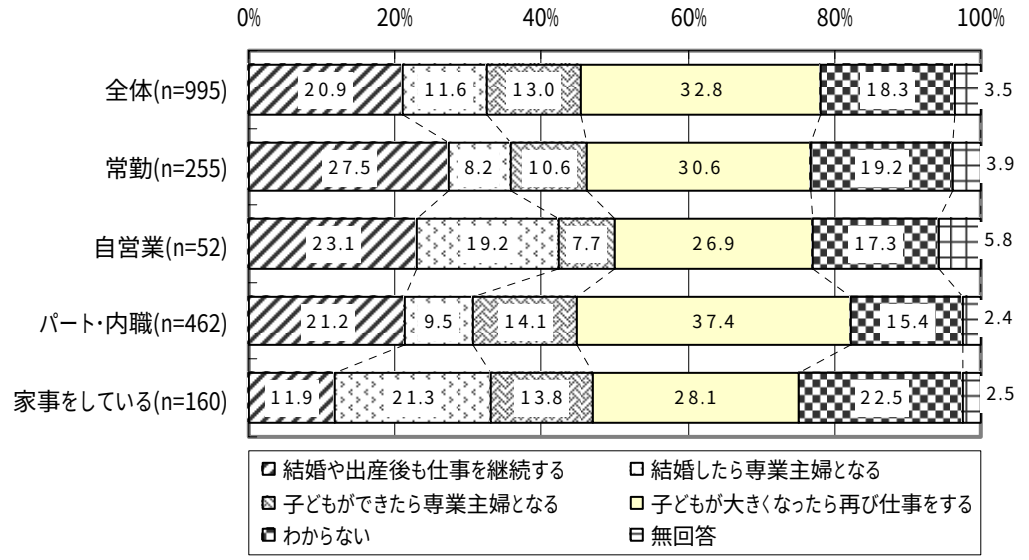
図表 Ⅳ-48　女性の生き方としてどれが望ましいか
＜男女＞



＜家族構成＞



＜母親の就労状況＞



6-3. 両親の関係について

問 19　ご両親と同居している人にお聞きします。あなたのご両親は、家庭で次のようなことがありますか。
（あてはまる番号全てに○）

1	**父が母を怒鳴りつけたり、ばかにしたり批判する**
2	**母が父を怒鳴りつけたり、ばかにしたり批判する**
3	**父が母を蹴ったり、叩いたりする**
4	**母が父を蹴ったり、叩いたりする**
5	**父が母に生活費以外のお金を渡さない**
6	**母が父に生活費以外のお金を渡さない**
7	**父は、母が友人などと外出したり、帰りが遅くなったりすることを許さない**
8	**母は、父が友人などと外出したり、帰りが遅くなったりすることを許さない**
9	**父は、母が苦しんだり、悲しんだりするようなことをわざとする**
10	**母は、父が苦しんだり、悲しんだりするようなことをわざとする**

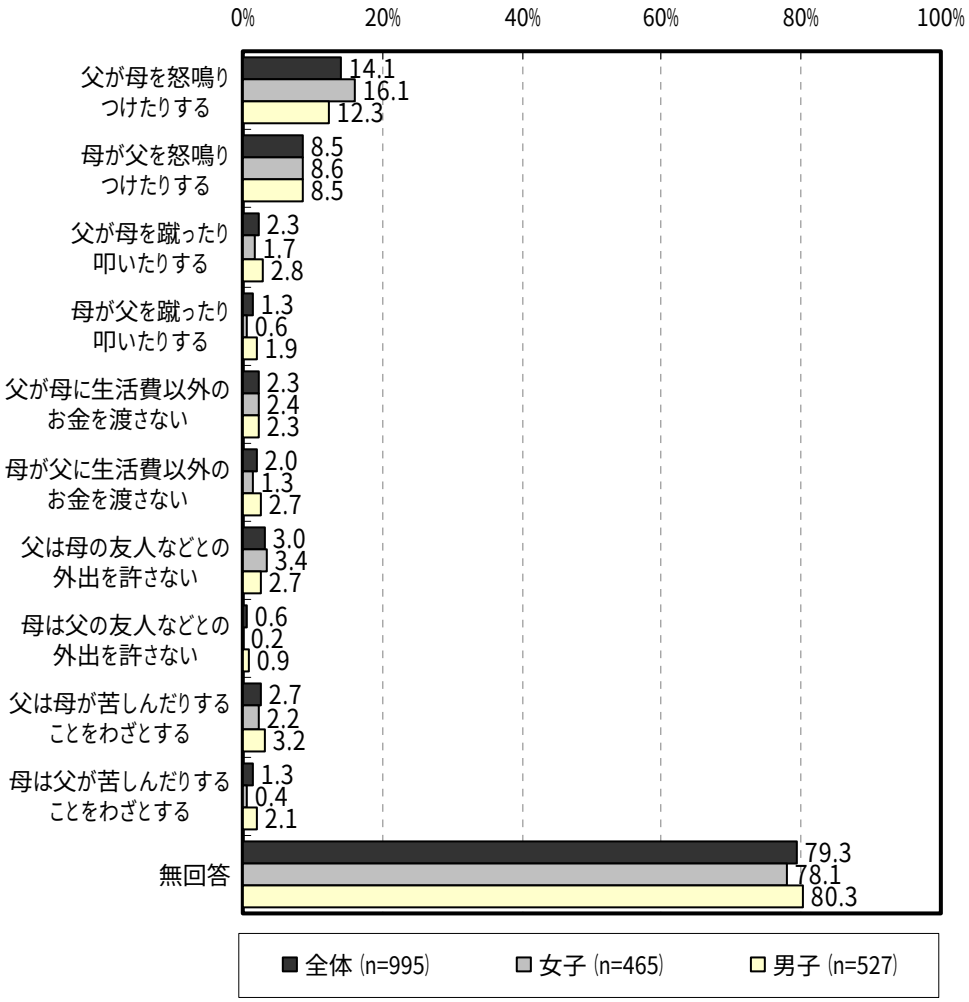
高校生の目からみた家庭における夫婦間の暴力についてみると、８割は夫婦間の暴力を認識していないが、２割は、何らかの暴力を目にしていることがわかる。

特に、「父が母を怒鳴りつけたりする」は１割を超え、それ以外の身体的暴力、経済的暴力、精神的暴力についても数%ずつ発生している。

一方、並行して実施したドメスティック・バイオレンス（以下、ＤＶ）に関する市民へのアンケート調査においては、女性の３割が何らかの身体的暴力の被害を受けていることが明らかとなっている。

このようなことから、大人間にあるＤＶの数%は子どもが目の当たりにしていることが想定できる。子ども期に目にしたり、体験したＤＶは、それを遠因として、子どもが大人になった時に、ＤＶの加害者・被害者になる可能性もあると考えられることから、大人のＤＶ意識を高め、その発生を根絶するための努力をすることが必要といえる。

図表 IV-49 自分の家庭であてはまるもの（複数回答）



V. 比較とまとめ

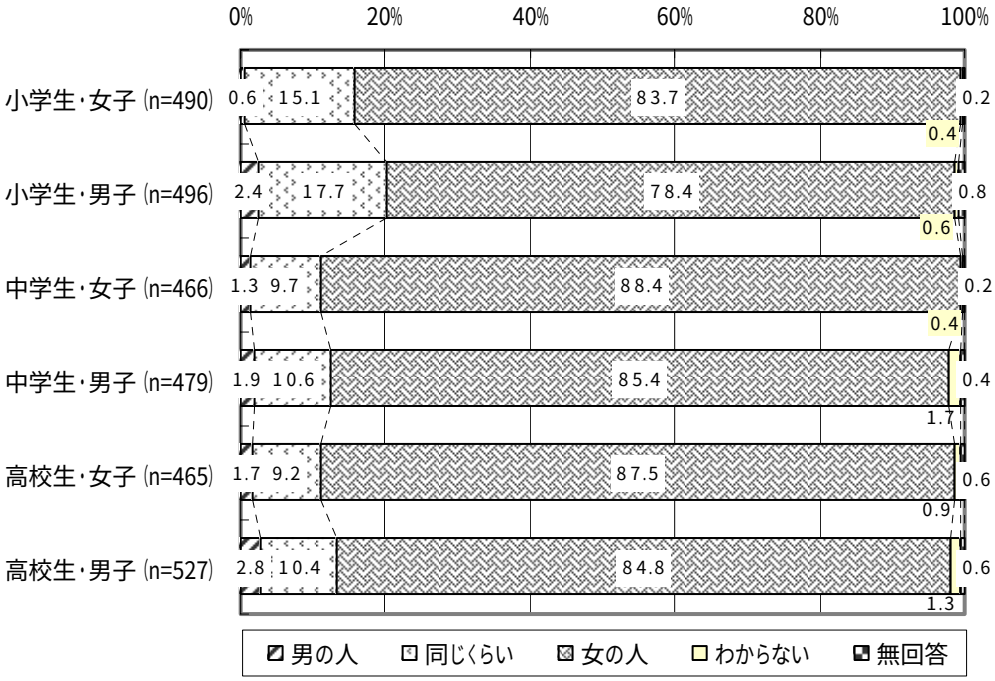
1 家庭生活

1-1. 家庭における役割分担

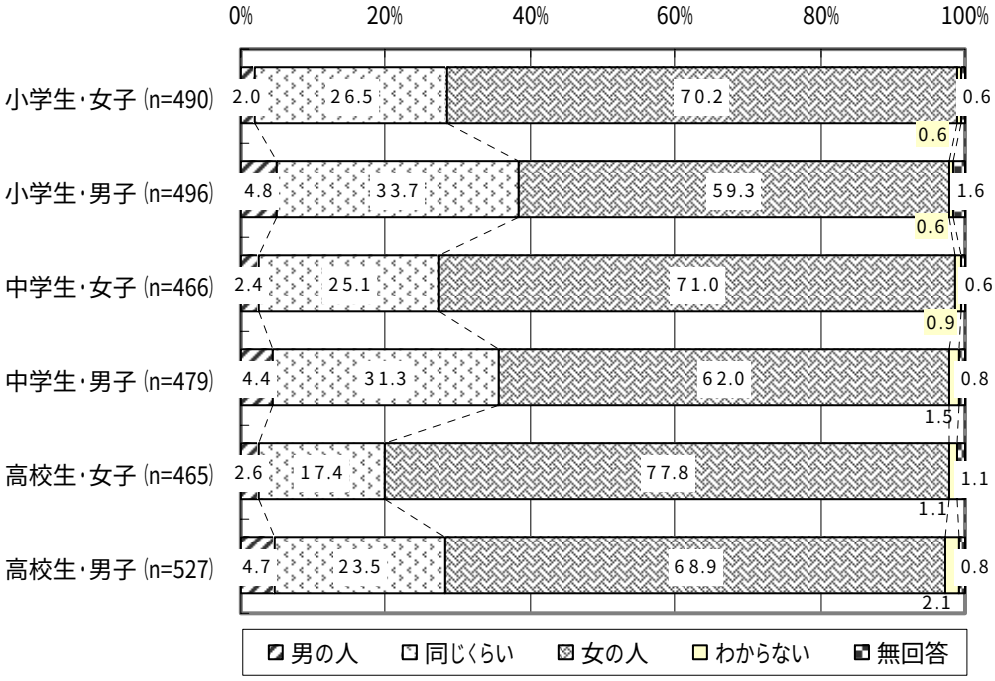
■家事など家庭の仕事の多くは女性の役割。こうした性別による固定的な役割分業は、子どもに『女性は家事をするもの』という潜在的な意識を伝えることにつながる。

- 「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「家の中のそうじ」「洗濯・洗濯物を干す」「洗濯物の取り入れ・たたむこと」「普段の日の食事の買い物」は、性・学年にかかわらず、いずれにおいても「女の人」が主に分担している。男女が同程度に分担している項目としては、「ごみ出し」が 20～30%程度、「学校行事への参加」が 25～45%程度となり、「男の人」の分担割合が高い項目は、「蛍光灯の取りかえ」のみで、60%前後となっている。
- 家庭の仕事の役割分担と家族構成や母親の就労状況との関係からみると、二世代世帯より、祖父母と同居する三世代の世帯の方が、「女の人」の割合が高い傾向にある。また、母親の就労状況との関係では、専業主婦家庭では、女性が担う割合は高く、一方で、外に仕事を持つ常勤女性の家庭でも、女性の分担は決して低くないなど、全般的にみて、女性の就労状況にかかわらず、家庭の仕事は女性が担っている傾向が強い（14ページ、44ページ、82ページ参照）。さらに、「女の人」が主に家庭の仕事を担っている家庭では、子どもの手伝いの種類（数）が少ない傾向もみられた（19ページ、49ページ、87ページ参照）。
- こうした状況は、子どもが家庭の仕事は女性の仕事という潜在的な意識を抱かせることにつながると考えられ、家庭における役割の共同化を進めることが必要といえる。

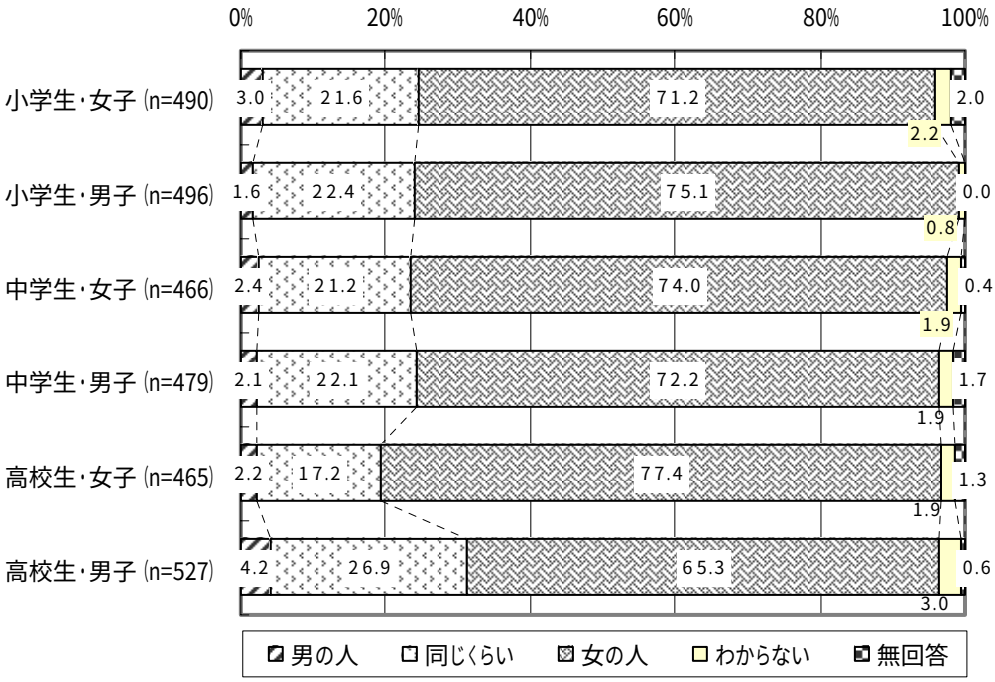
図表 V-1 家での役割:夕食のしたく



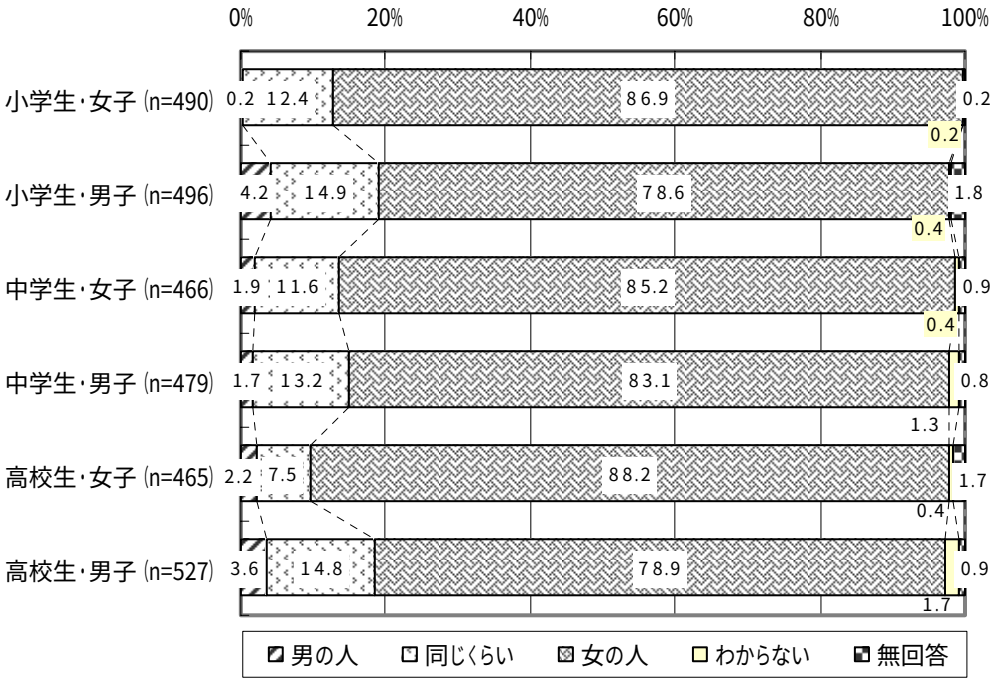
図表 V-2 家での役割:夕食のあとかたづけ



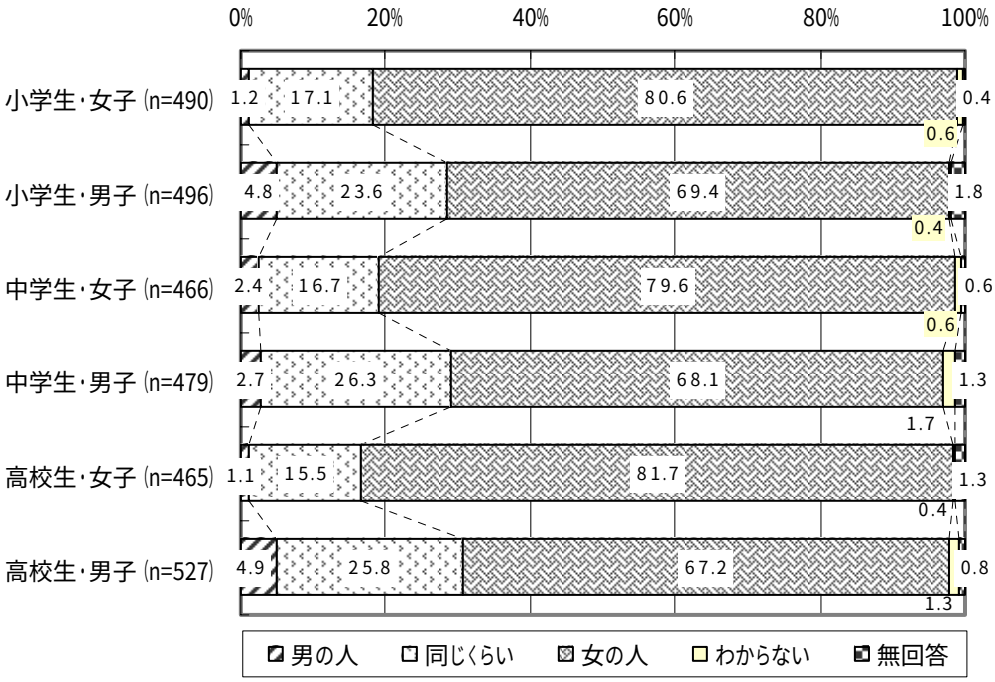
図表 V-3 家での役割:家の中のそうじ



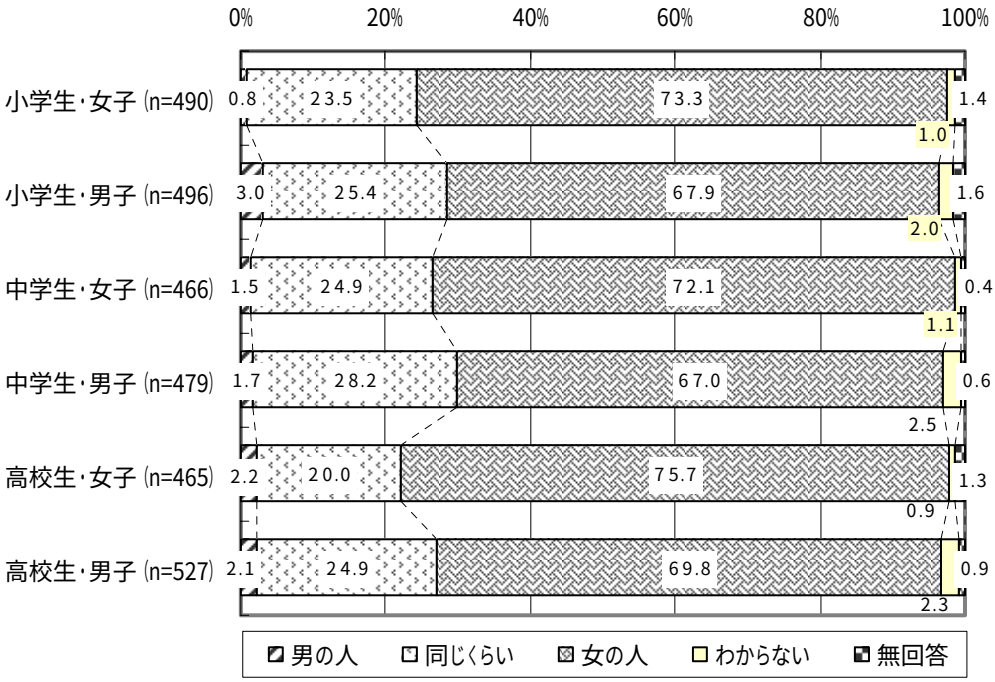
図表 V-4 家での役割:洗濯・洗濯物を干すこと



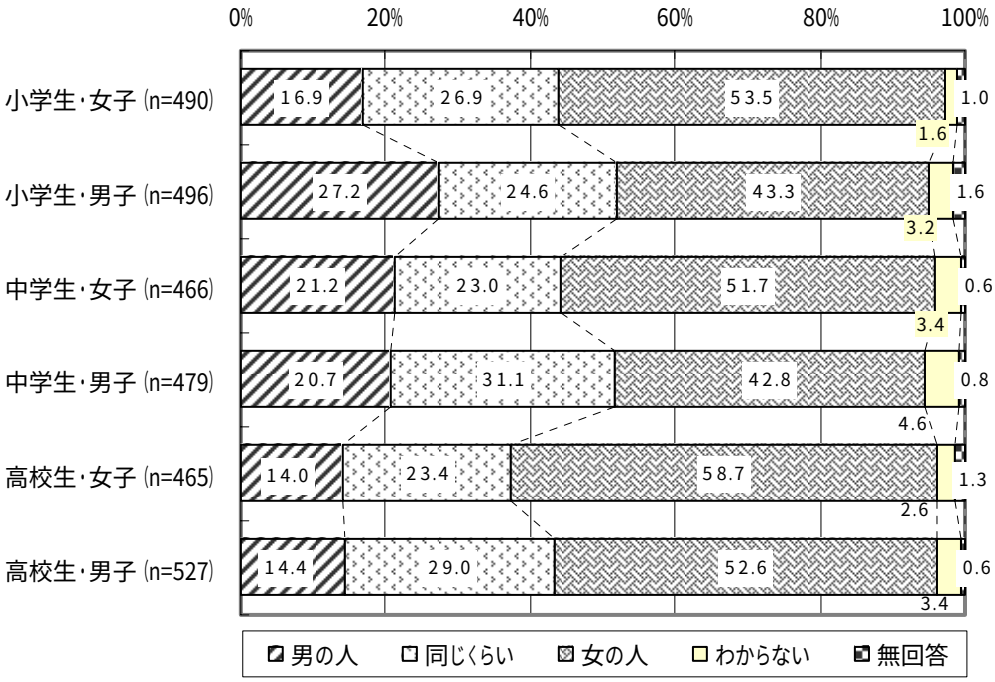
図表 V-5 家での役割:洗濯物の取り入れ・たたむこと



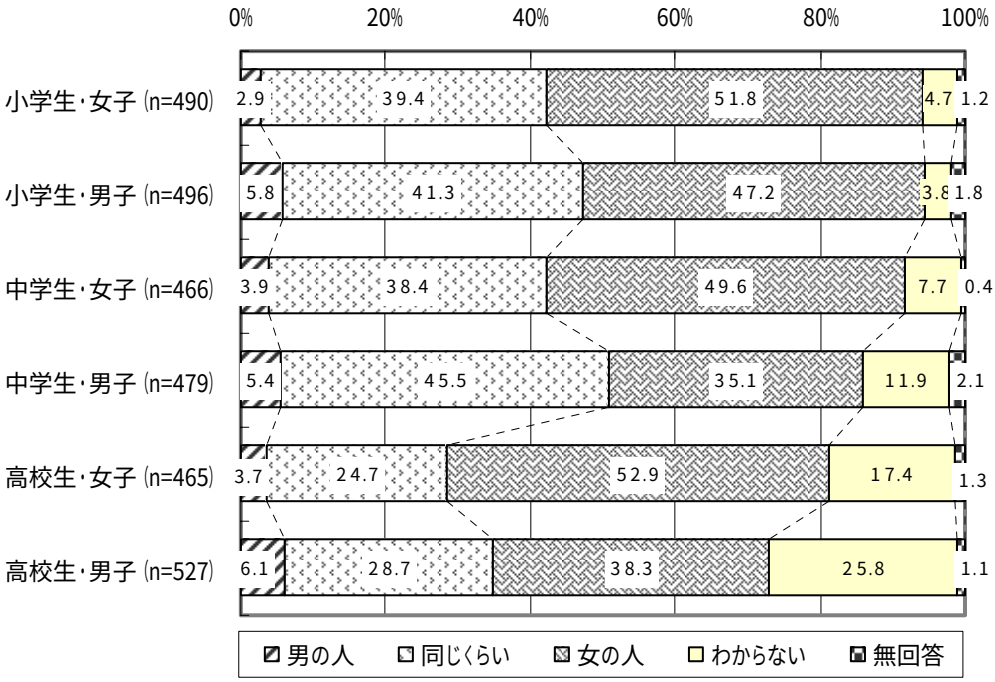
図表 V-6 家での役割:普段の日の食事の買い物



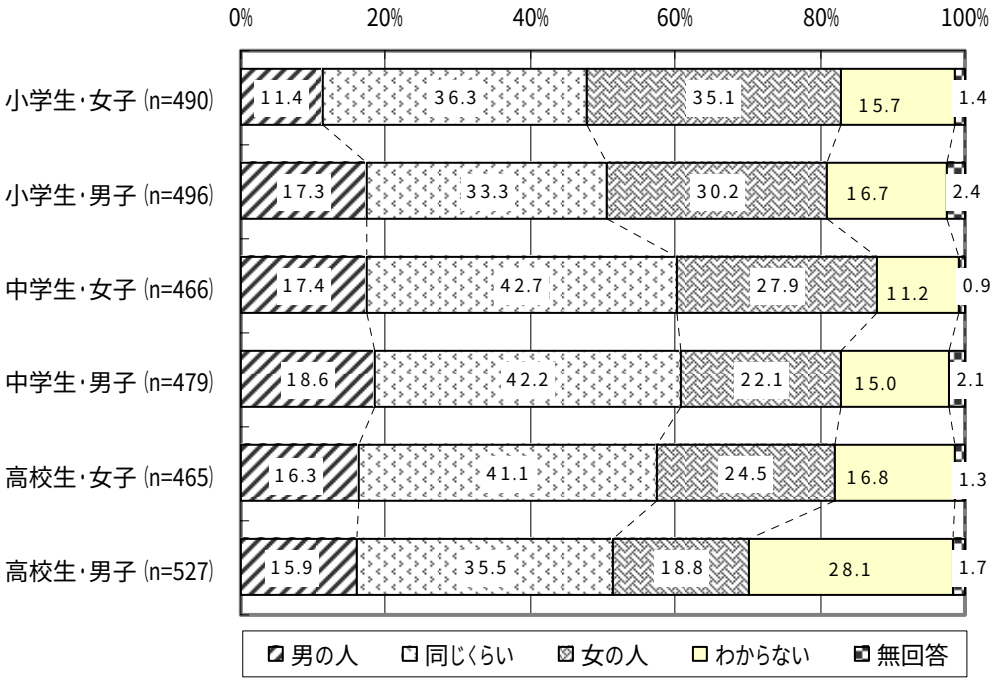
図表 V-7 家での役割:ごみ出し



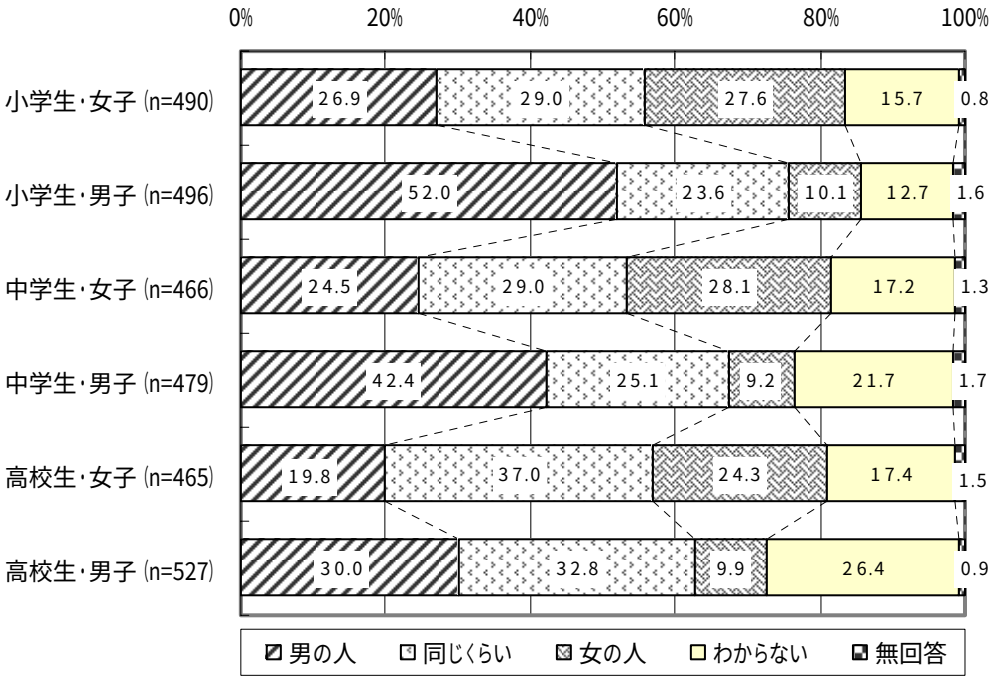
図表 V-8 家での役割:学校行事への参加



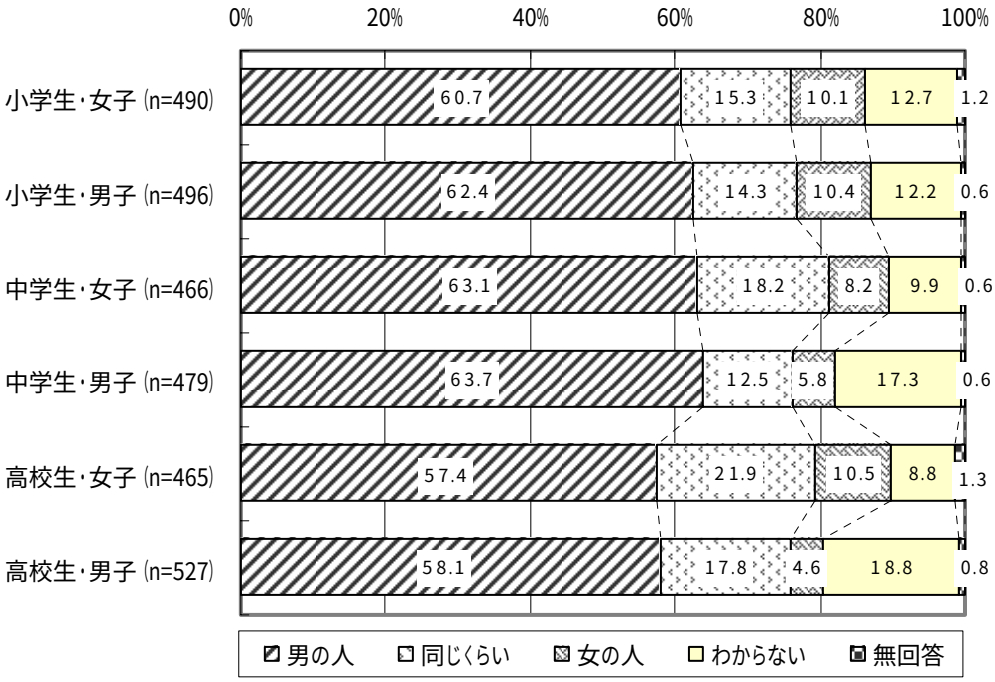
図表 V-9 家での役割:地域の活動



図表 V-10 家での役割:風呂に一番先に入ること



図表 V-11 家での役割:蛍光灯の取りかえ



1-2. 手伝いの種類

■年長の子どもより小学生が、男子より女子の方が家庭の手伝いをよくしている。同じ年代でも男女に差があることは、子どもの時から家事＝女性という意識を与えることにつながる。

- 子どもが家でしている手伝いは、「夕食のしたく」「夕食のあとかたづけ」「洗濯物の取り入れ・たたむ」「ごみ出し」が主な手伝いとなっている。
- しかし、男子より女子の方が、また学年が低い子ども方が家庭の手伝いをしている割合が高く、中学生の段階で、女子に比べ、男子の手伝い割合が低くなり、さらに高校生になると、男子の手伝いをしている割合は著しく低下する。
- 一人当たりの手伝いの種類（家でやっている手伝いとして回答した手伝いの数）をみると、学年が上がるほど手伝いの種類（数）は減少する傾向にあり、また、男女で比較すると男子と比較して女子の方が多い。同年代でも家庭における手伝いの数は男女によって異なっており、特に女子の方が家庭での手伝い数が多く、子どもの時から家事は女性という意識を与えることが懸念される。

図表 V-12 自分が家の中でやっている手つだい（複数回答）

	小学生		中学生		高校生	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子
全体	490	496	466	479	465	527
夕食のしたく	51.8	34.5	45.9	26.3	39.4	18.4
夕食のあとかたづけ	50.0	48.2	49.6	39.9	46.0	32.1
家の中のそうじ	34.3	28.8	25.1	25.5	20.0	19.9
洗濯・洗濯物を干す	20.4	13.7	25.1	16.1	23.9	15.2
洗濯物の取り入れ・たたむ	50.0	31.9	50.2	30.7	41.5	27.5
買い物	21.8	20.4	14.6	16.1	9.7	9.9
ごみ出し	33.7	42.9	15.7	27.6	13.8	20.3
妹・弟、介護が必要な人の世話	22.9	12.9	17.4	11.5	7.1	5.3
その他	26.1	24.4	15.5	16.5	10.3	10.8
無回答	5.3	9.7	7.9	12.5	11.6	23.7
一人当たりの手伝いの種類（数）	3.28	2.85	2.81	2.40	2.39	2.09

1-3. 勉強と手伝いの重きの置き方

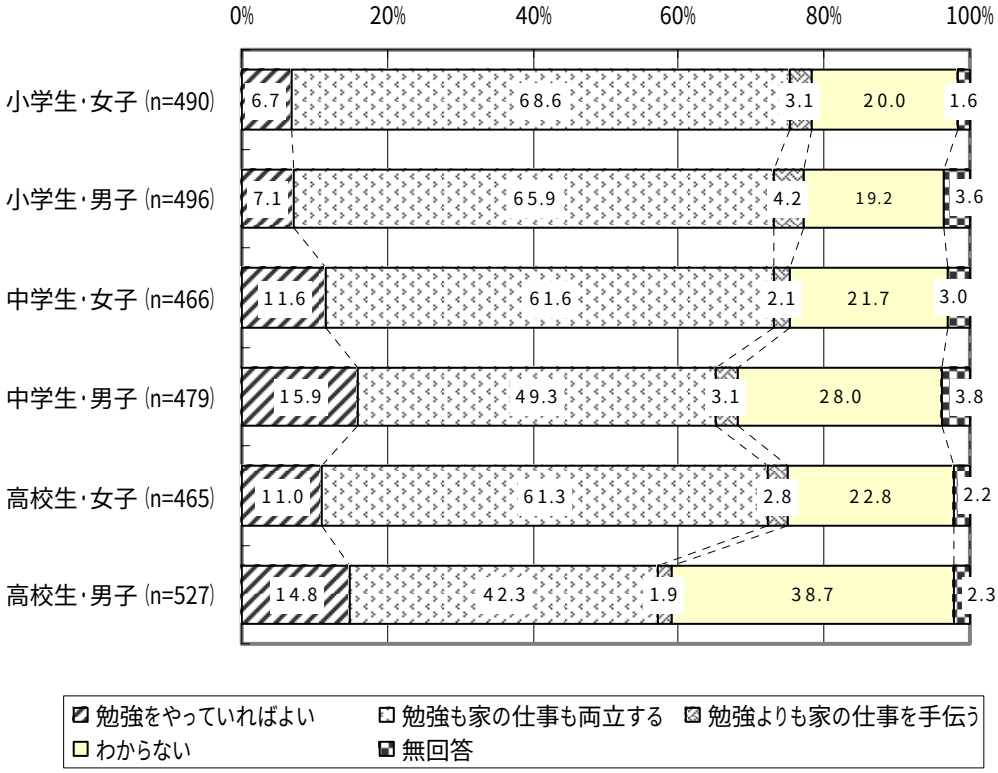
（1） 家族の考え方

■『勉強も家の仕事も』と家族は考えている。しかし、実際は高校生の男子がしている手伝いは極めて少ない。

- 勉強と家の手伝いについて、家族がどのように考えているのかの認識をみると、いずれの性・学年ともに「勉強も家の仕事も両立する」の割合が高い。
- ただし、小学生より中学生・高校生、女子より男子の方が「勉強をやっていればよい」の割合が高い傾向がみられ、勉強に対する男子への期待がうかがえる。

•前出の家での手伝いの状況では、学年が上がるほど家の手伝いの割合が減少すること、また女子と比較して、男子の手伝いの割合が低いことが明らかとなっている。これらを総じてみると、男子に対する将来の男性役割への期待、例えば、手伝いができることより、勉強をして、しっかりとした就職をすることが重要という意識につながっていくものと考えられる。

図表 V-13 家族の考え



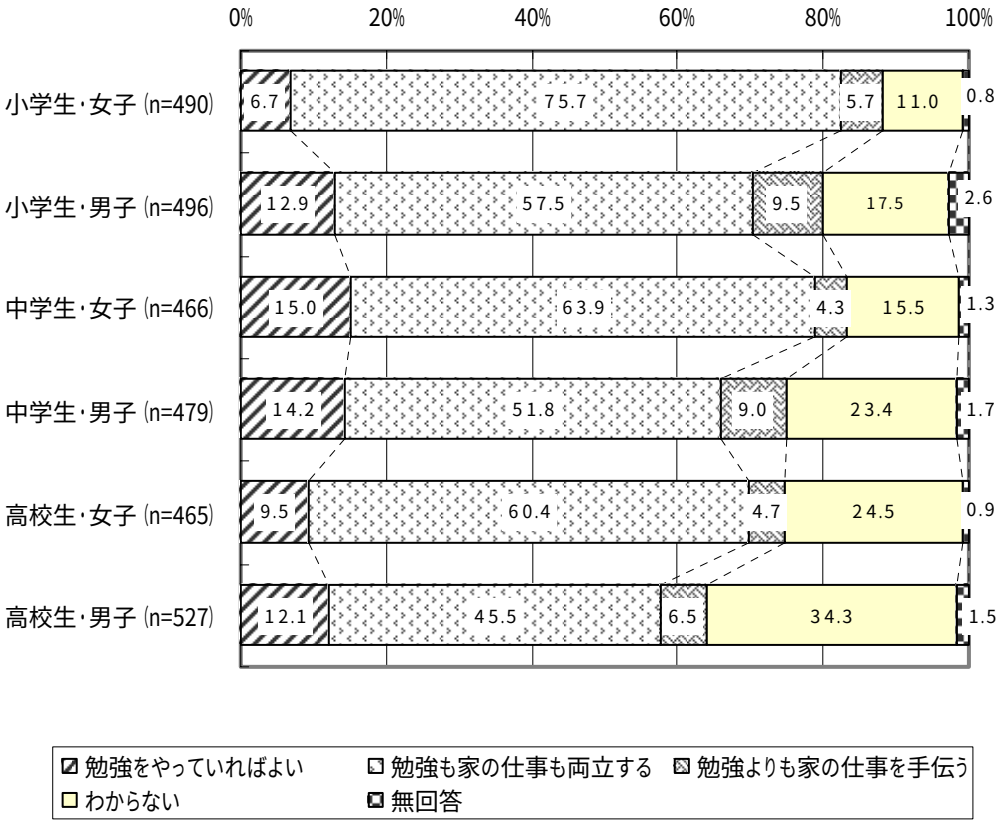
(2) 自分の考え方

■男子も女子も『勉強も家庭の手伝いも』と考えている。家族が男子・女子の区別なく、手伝いの分担をもたせることが重要である。

•自分自身で考える勉強と家の仕事の関係については、いずれの性・学年ともに「勉強も家の仕事も両立する」の割合が高い。

•家族の考え方では、「勉強をやっていればよい」の割合が、小学生より中高校生の方が高く、女子より男子の方が高い傾向にあった。しかし、自分自身の考えでは、「勉強をやっていればよい」割合は中学生が最も高く、また男女の顕著な違いはみられない。

図表 V-14 自分の考え


0%
20%
40%
60%
80%
100%
小学生・女子 (n=490)
6.7
75.7
5.7
11.0
0.8
小学生・男子 (n=496)
12.9
57.5
9.5
17.5
2.6
中学生・女子 (n=466)
15.0
63.9
4.3
15.5
1.3
中学生・男子 (n=479)
14.2
51.8
9.0
23.4
1.7
高校生・女子 (n=465)
9.5
60.4
4.7
24.5
0.9
高校生・男子 (n=527)
12.1
45.5
6.5
34.3
1.5
勉強をやっていればよい
勉強も家の仕事も両立する
勉強よりも家の仕事を手伝う
わからない
無回答

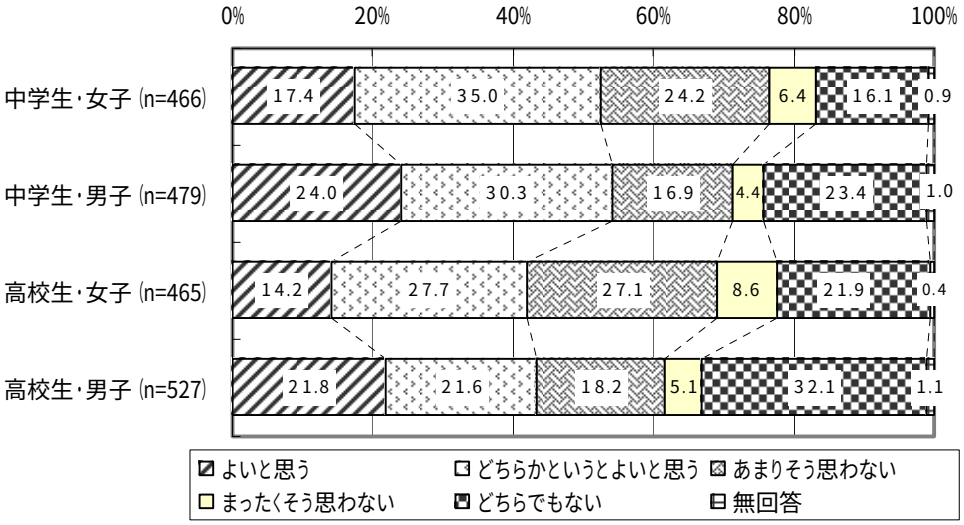
2 男女の役割分担について

2-1. 将来の『男･女』の役割分担の考え方

■中高生にも、男女の固定的な役割分業意識が浸透している。子どもの周りの日常生活における性別役割分業の実態について見直すことが必要である。

- 『男は仕事・女は家庭』という固定的性別役割分業に対する考え方では、中学生は男女ともに半数以上が賛成（「よいと思う」「どちらかというと良いと思う」）の傾向となっている。それに対して、高校生は、男女とも賛成傾向は 40%程度に減少する。特に、高校生の女子は、賛成が 41.9%であるのに対して、反対（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」）が 35.7%であり、賛成と反対がほぼ拮抗する。
- 男女の性別にみると、女子と比較して男子は、『男は仕事・女は家庭』を「よいと思う」という全面的な賛成傾向が強く、中学生男子で 24.0%、高校生男子で 21.8%と女子と比較して７ポイント程度高い。
- 中高生にも、男女の固定的な性別役割分業意識が浸透しており、男女共同参画社会の基本であるこうした意識について、正しい理解を促していくことが必要といえる。

図表 V-15 『男は仕事･女は家庭』という考え方について

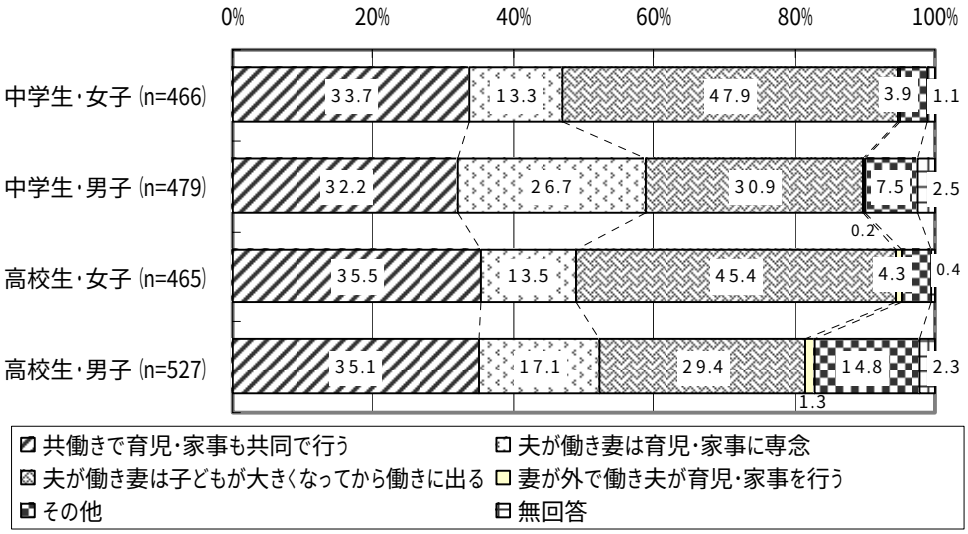


2-2. 女性の働き方についての考え方

■両親、特に女性の生き方は子どもの将来の生き方の選択に大きな影響を与える。

- 働き方についての考え方は、いずれの性・学年ともに「共働きで育児・家事も共同で行う」という共働き志向が 30～35%程度を占めている。
- 男女別でみると、女子は「夫が働き妻は子どもが大きくなってから働きに出る」という再就職型を志向しているのに対して、男子は再就職型と同じ程度に共働き型を志向する傾向がある。
- 共働き型志向は、母親の就労状況が常勤である場合が多く、両親のライフスタイルやライフコースが子どもに大きく影響を与えることが想定される（55ページ、93ページ参照）。

図表 V-16 どのような夫婦になりたいか



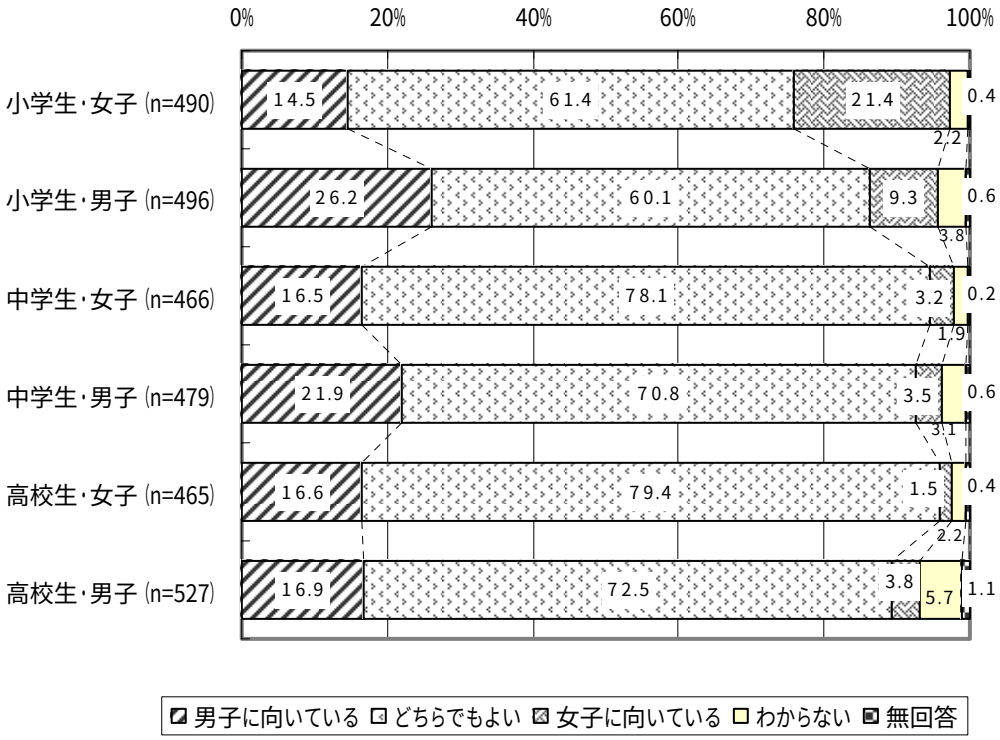
3 学校生活について

3-1. 学校の係等について

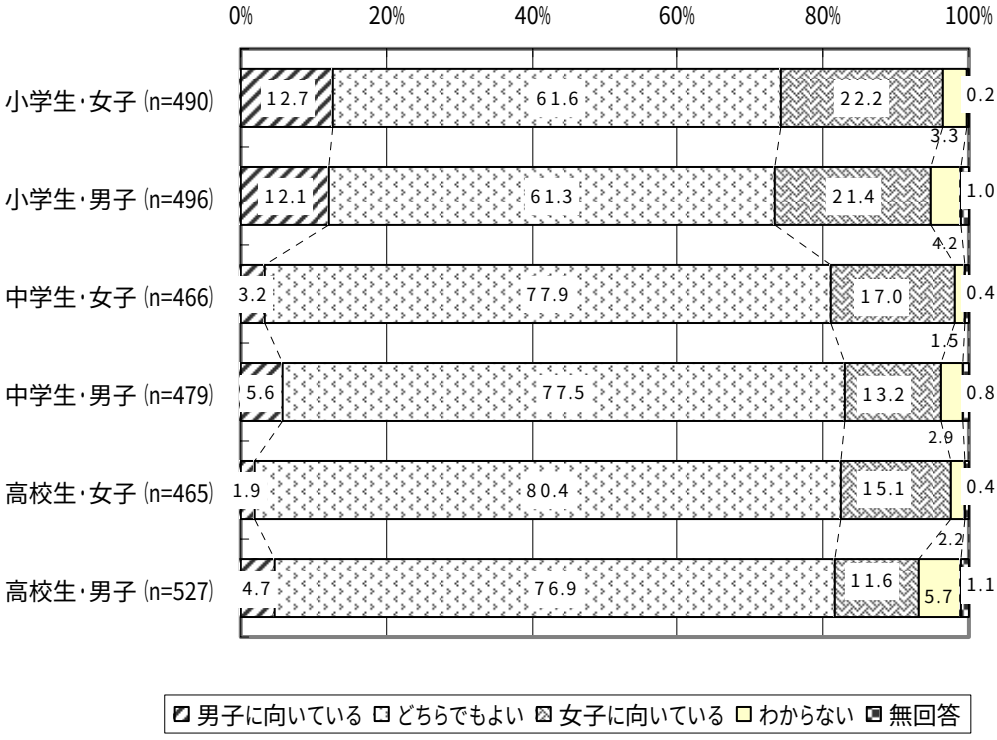
■性別による役割分業はなくなってきている。しかし、潜在的な意識には、男女各々が性役割に対する暗黙の期待が見られる。

- 学校での役割に関する男子向き・女子向きの違いについてみると、「委員会の委員長」「委員会の副委員長」「学習グループのリーダーや班長」については、性・学年を問わず、「男女どちらでもよい」の割合が高く、従来のように委員長は男子、副委員長は女子のような固定的な役割分業意識はみられない。
- その一方、「運動会の応援団長」「重い物を運ぶこと」は男子向き、「下級生や新入生のめんどうをみること」「名前を呼ぶときに○○さんと呼ぶ」ことは、女子向きと捉えられる傾向があり、学習活動や委員会活動以外の、学校生活においては、女子・男子各々に対する性役割への暗黙の期待が残っている。
- このような相手の性役割への期待は否定するものではないが、本来の性差や社会的に作られた性差などを理解し、敏感な視点で、学校での役割分担と共同が進められる事が望まれる。

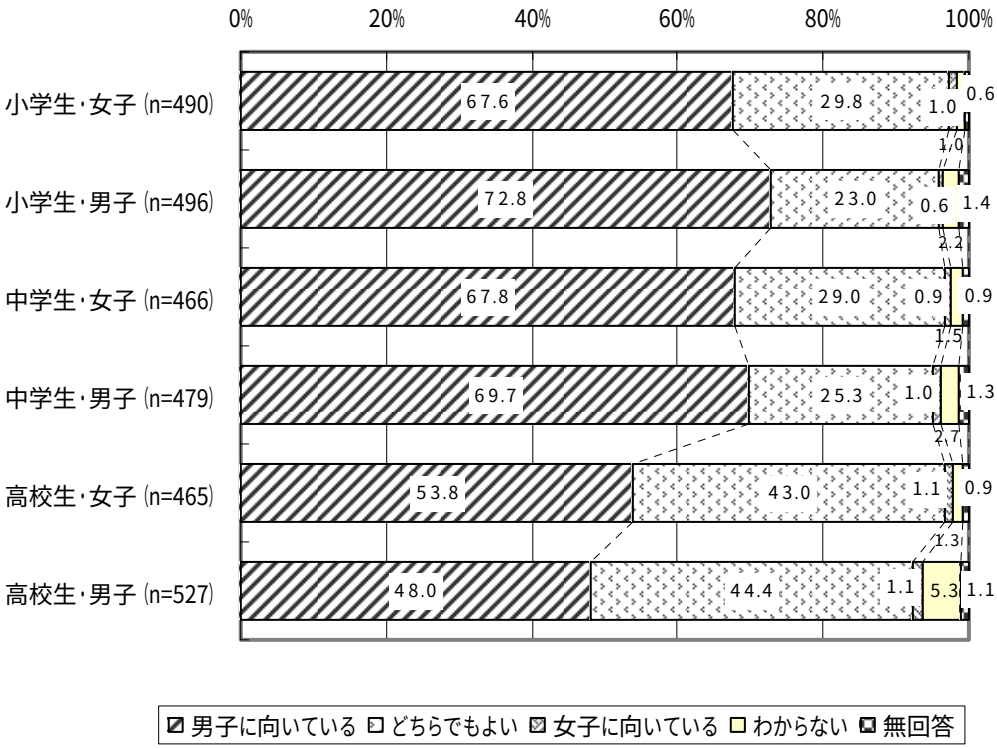
図表 V-17 学校での役割:委員会の委員長



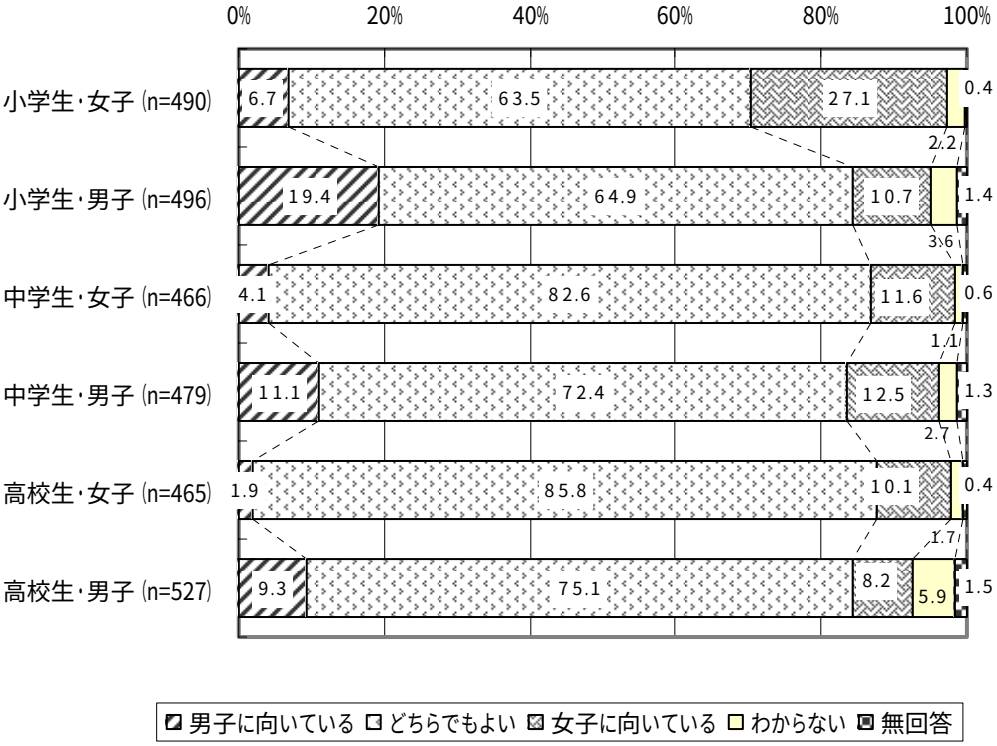
図表 V-18 学校での役割:委員会の副委員長



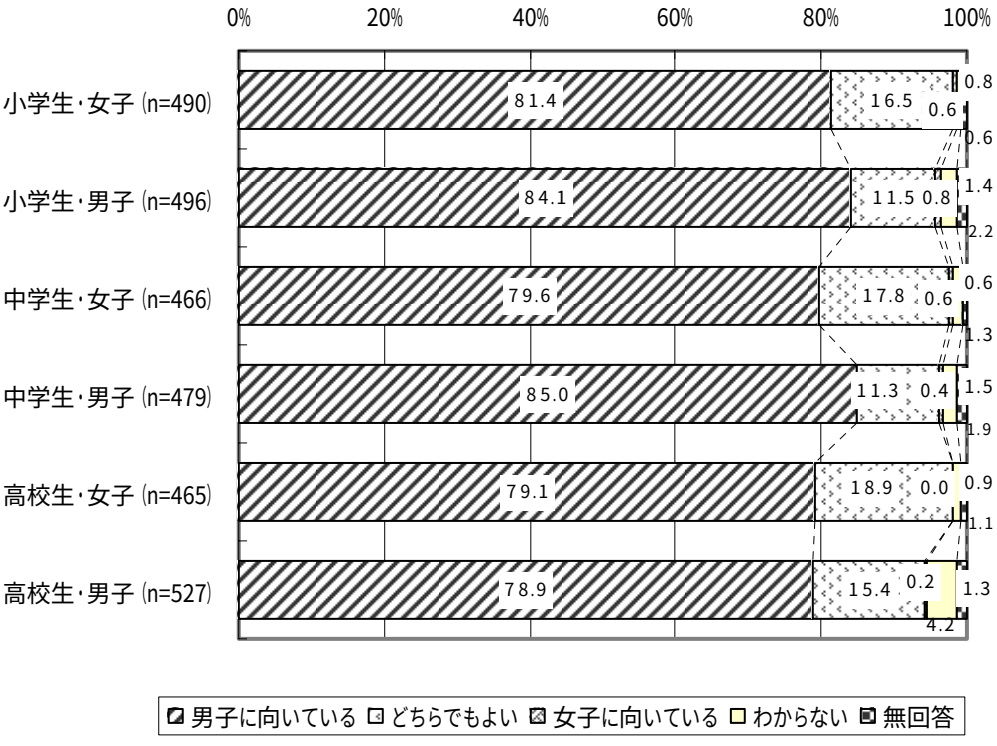
図表 V-19 学校での役割:運動会の応援団長



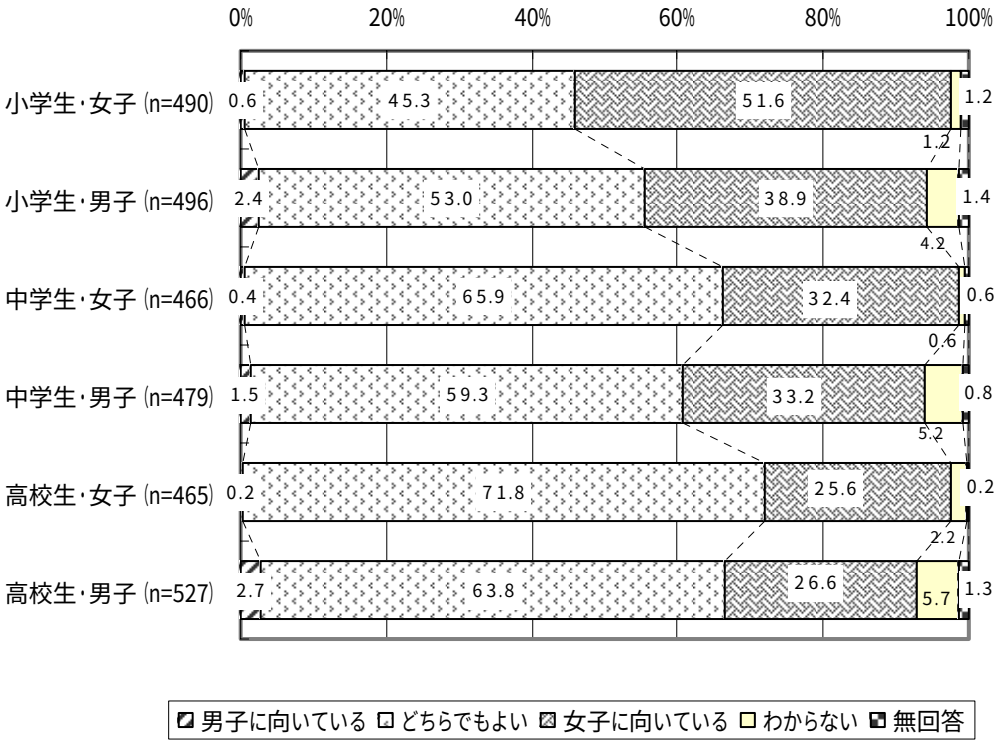
図表 V-20 学校での役割:学習グループのリーダーや班長



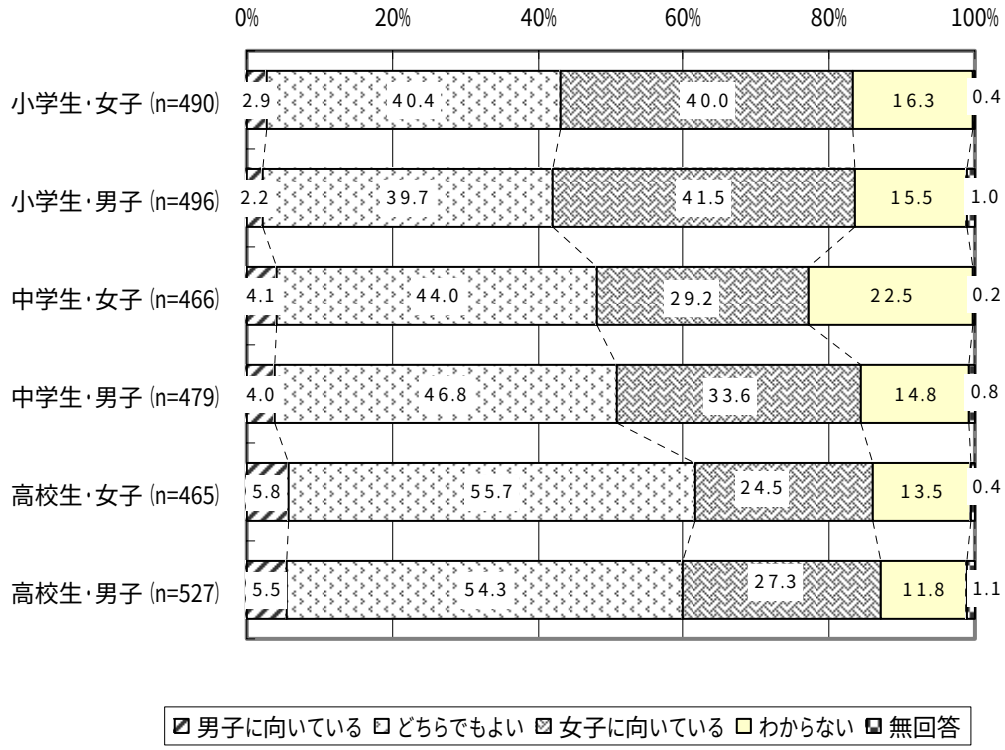
図表 V-21 学校での役割:重いものを運ぶこと



図表 V-22 学校での役割:下級生や新入生のめんどうをみること



図表 V-23 学校での役割:名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと

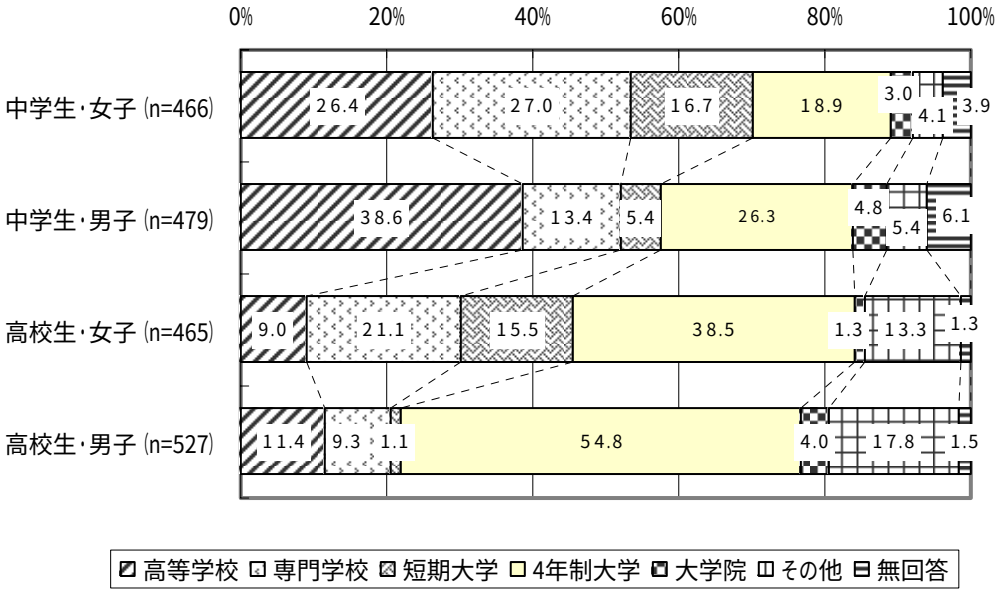


3-2. 進学の希望

■高校生は男女ともに４年制大学への希望割合が高い。進学については、男女の差とともに、男子なら４年制大学へ進学することが当然という精神的圧力も考慮していくことが必要である。

- 中学生男子は「高等学校」、女子は「専門学校」とする割合が高いが、高校生は、男女とも「４年制大学」という割合が高くなる。また、「４年制大学」への進学希望は、中学生の女子が最も低く、中学生男子、高校生女子、高校生の男子と、大学への進学希望割合は高まる。
- 女子については、短期大学や専門学校への進学希望の割合が高いのが特徴となっている。この選択が、社会に出て即座に実践力となるための学問・能力を身に付けることを目的としているのか、あるいは、女子は４年制大学で学ぶ必要はないという潜在的な考えからくるのかは不明である。
- 子どもが男女の性別によらず、自分自身の将来像を描き、そのための学問や能力を身に付けようとする姿勢を重視し、大人は、性別によらない自由な進路の決定がなされるよう指導していくことが必要である。

図表 V-24 どこまで進学を希望するか



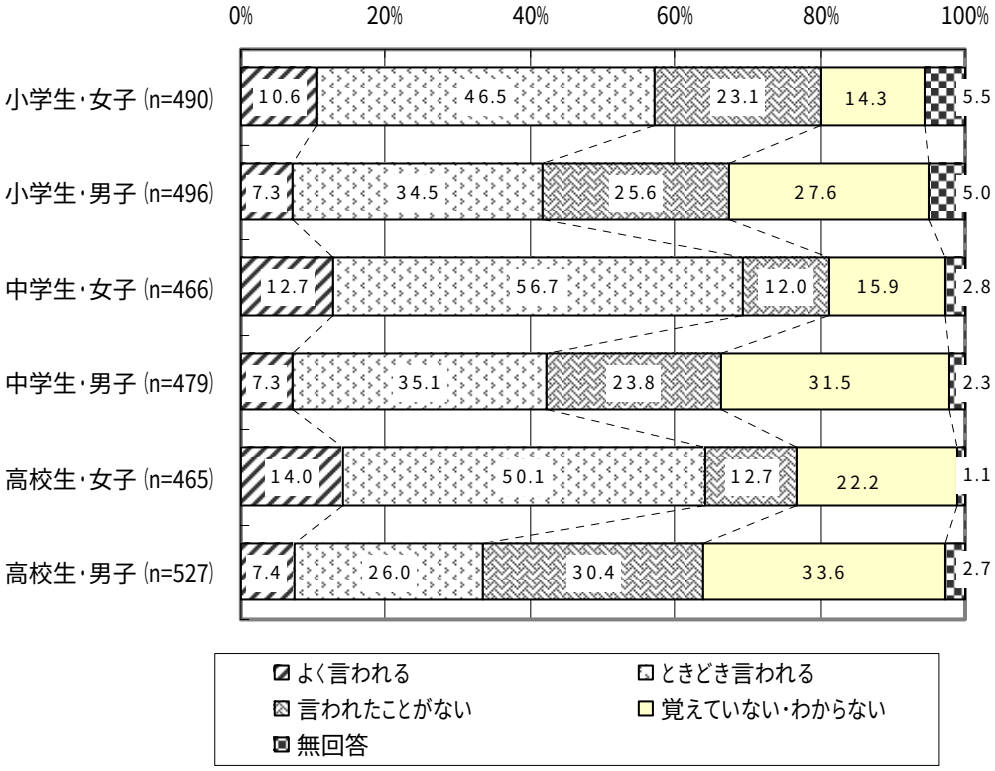
4 『女の子だから･男の子だから』と言われること

4-1.『女の子だから･男の子だから』と言われた経験について

■女子の中高生は『女の子だから』といわれる経験が多い。『女らしさ』という固定的な意識は深く浸透しており、女子の言動を制限することが懸念される。

- 『女の子だから、男の子だから』といわれた経験は、小学生、中学生、高校生ともに男子より女子の割合が高い。
- また男子は、小学生、中学生、高校生となるにしたがって言われる割合が低下していくのに対して、女子は、小学生で 57%であるが、中学生・高校生では 60%を超えており、年齢があがった方が『女の子だから』という型を押しつけられる傾向が強い。

図表 V-25 『女の子だから･男の子の〈せに』などといわれた経験



4-2.『女の子だから･男の子だから』といわれた相手

■『女の子・男の子だから』は、母親・父親から言われることが多い。影響力が大きい家庭のあり方の見直しが必要である。

- 『女の子･男の子だから』と言われる相手は、男女ともに母親が圧倒的に高く、父親が続く。また三世代世帯では、祖母が言う割合が高くなっているのが特徴である。
- 『女の子・男の子だから』と言われる内容は、「ことばづかいが悪いとき」「手伝いをしないとき」「行儀の悪い座り方をしたとき」「整理整頓ができないとき」が多く、男子より女子が言われる割合が高い。これらは、女子が『女の子』らしく振る舞うために必要な条件と

して大人には捉えられていると考えられる。

- ことばづかいや整理整頓など、性別によって異なるものではなく、正しいことばづかいをすること、家の手伝いや整理整頓をすることなど、生活上の必要な要素である。子どもへの注意を促す大人がまず理解することが必要といえる。

図表 V-26 だれから言われることが多いか（複数回答）

	全体	父	母	祖父	祖母	兄･弟	姉･妹
小学生･女子	280	32.5	74.3	5.7	17.9	8.2	11.4
小学生･男子	207	42.5	62.8	8.7	15.0	7.2	10.1
中学生･女子	323	34.1	75.5	9.0	26.6	13.3	11.1
中学生･男子	203	37.4	61.1	10.8	15.8	7.9	14.3
高校生･女子	298	39.6	74.8	7.4	23.8	8.4	5.4
高校生･男子	176	33.5	62.5	8.5	13.1	3.4	13.6

	男の友だち	女の友だち	男の先生	女の先生	近所のおじさん	近所のおばさん	その他	無回答
小学生･女子	9.6	6.8	1.8	7.1	0.4	1.4	3.6	0.7
小学生･男子	18.4	9.7	2.9	11.1	2.4	1.9	4.8	1.4
中学生･女子	7.4	11.8	5.0	5.0	0.3	0.6	2.8	0.6
中学生･男子	11.8	11.3	12.3	4.4	1.5	2.0	5.4	1.0
高校生･女子	7.0	9.4	5.7	8.7	1.0	2.0	4.0	0.0
高校生･男子	14.8	13.1	13.1	8.5	3.4	2.8	8.5	0.0

図表 V-27 どのようなときに言われたか（複数回答）

	全体	ことばづかいが悪いとき	家事などの手つだいをしないとき	整理整頓ができないとき	行儀の悪い座り方をしたとき	勉強ができないとき	運動ができないとき
小学生･女子	280	51.8	29.3	36.1	45.4	9.6	2.1
小学生･男子	207	23.7	18.4	15.5	6.8	11.6	10.1
中学生･女子	323	54.8	42.7	39.6	48.3	8.4	1.5
中学生･男子	203	11.3	15.8	9.4	4.9	16.3	8.9
高校生･女子	298	54.7	42.6	36.6	50.7	1.7	0.3
高校生･男子	176	10.2	15.3	8.5	3.4	13.6	6.3

	泣いたとき	無駄づかいをしたとき	夜の帰り時間が遅いとき	けんかに負けたとき	その他	無回答
小学生･女子	5.7	13.9	8.2	3.9	13.9	4.3
小学生･男子	37.7	11.6	7.2	8.2	31.4	4.3
中学生･女子	0.6	3.4	13.3	0.6	8.4	10.8
中学生･男子	20.7	5.4	5.4	6.9	31.0	12.8
高校生･女子	0.7	2.0	28.2	0.0	7.0	8.7
高校生･男子	9.1	2.3	4.5	5.1	46.0	15.3

5 将来の姿

5-1. どのような人になりたいか

■『男の子は強く、女の子はやさしく』という固定的な志向性はみられない。

- 理想像についてみると、男の子に期待される「たくましさ」「リーダーシップ」、女の子なら「親切」などの割合は低く、性・学年に関わりなく、「やさしい」「心が広い」「明るい」が上位にあがっている。
- 小学生では、男子は「運動ができる」女子は「勉強ができる」が上位にあるが、中学生ではいずれも中位に落ち、さらに高校生では 15～20%程度に低下する。勉強や運動への期待は、小学生までで、中学生や高校生では現実的なところに人間像を求めていることがわかる。

図表 V-28 どのような人になりたいか（複数回答）

	全体	やさしい	心が広い	活発	落ち着きがある	たくましい	よく気がつく	意志が強い	勉強ができる
小学生･女子	490	65.9	31.8	13.7	19.6	2.9	17.8	11.6	48.8
小学生･男子	496	41.3	31.7	22.6	22.0	14.9	17.5	16.5	40.1
中学生･女子	466	64.4	48.5	14.4	17.6	3.2	29.6	22.5	37.1
中学生･男子	479	54.9	48.0	12.9	22.8	15.7	22.8	23.4	28.0
高校生･女子	465	57.4	56.8	15.1	23.7	3.7	45.8	39.1	21.1
高校生･男子	527	60.9	55.8	10.6	33.8	8.3	26.8	32.8	16.5

	運動ができる	明るい	かっこいい	親切	おしゃれ	強い	リーダーシップがある	思いやりがある	無回答
小学生･女子	41.6	54.1	6.1	38.4	28.8	8.4	11.4	37.6	1.8
小学生･男子	55.4	34.1	14.5	29.8	2.8	24.8	12.1	20.4	2.8
中学生･女子	26.4	59.0	5.4	34.5	28.8	7.7	9.2	41.8	1.3
中学生･男子	39.7	37.8	12.5	27.3	8.1	15.7	9.4	28.2	3.1
高校生･女子	15.5	46.9	5.2	26.0	33.5	8.2	5.8	53.8	0.9
高校生･男子	21.6	30.6	10.4	25.2	12.0	13.5	7.6	32.1	3.4

5-2.『男らしく･女らしく』についての考え方

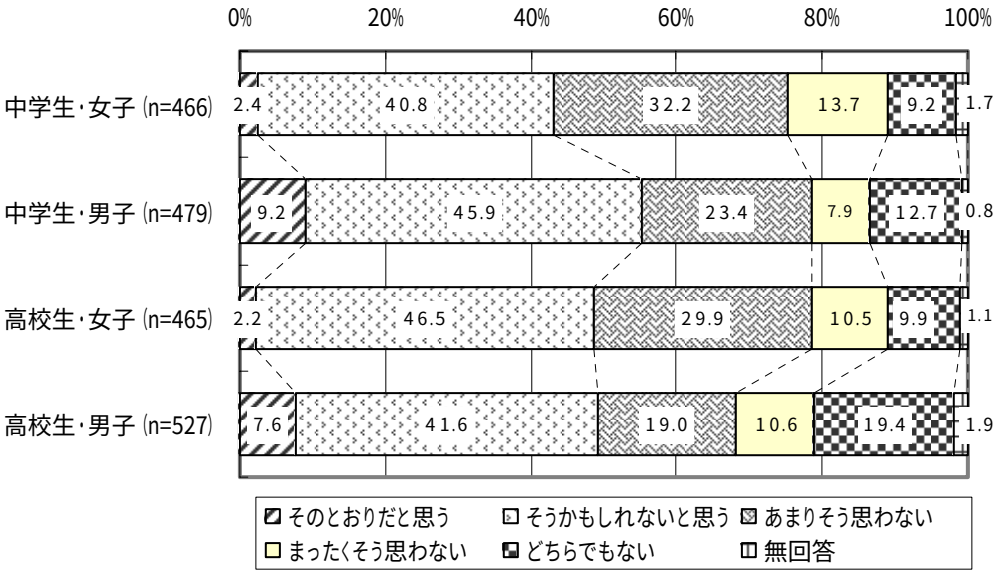
■『女らしく』を期待され、振る舞いや言動が制約される女子は、反対する傾向が強い。

- 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方に対する賛成傾向（「そのとおりだと思う」「そうかもしれないと思う」）は、最も低い中学生女子で約 40%、最も高い中学生男子で約 55%となっており、高校生は男女共約 50%弱程度となっており、総じてみれば、賛成傾向にあるといえる。
- しかし、反対傾向（「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」）については、中学

生女子が約 46%、高校生女子が約 40%となっており、賛成、反対がほぼ半数程度となっている。

•女子の場合、家庭の仕事の手伝いをする割合が高いこと、振る舞いや言動では『女だから』と言われることが多いことなど、生活の中で『女らしさ』を期待されたり、押しつけられることに起因していると推察される。

図表 V-29 『男は男らしく・女は女らしく』という考え方について



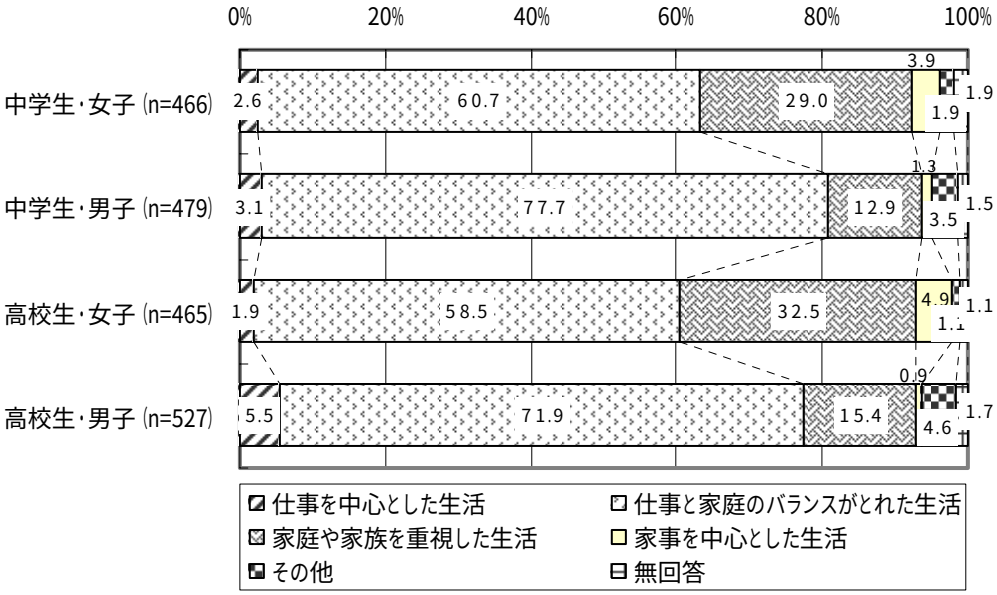
6 ライフスタイル･ライフコースについて

6-1. 仕事と家庭のバランスについて

■仕事と家庭のバランスある生活が強く志向されている。

- 男女ともに「仕事と家庭のバランスがとれた生活」の割合が極めて高い。特に女子より男子が「仕事と家庭」のバランスを志向している点が特徴であり、中学生男子で約 78%、高校生男子で約 72%といずれも 7 割を超えて支持されている。
- 父親世代は、仕事第一の生活をしており、その生活を経験した子ども世代には、仕事と家庭のバランスの重要性が深く浸透していると考えられる。

図表 V-30 将来､仕事とそれ以外の生活をどうしたいか

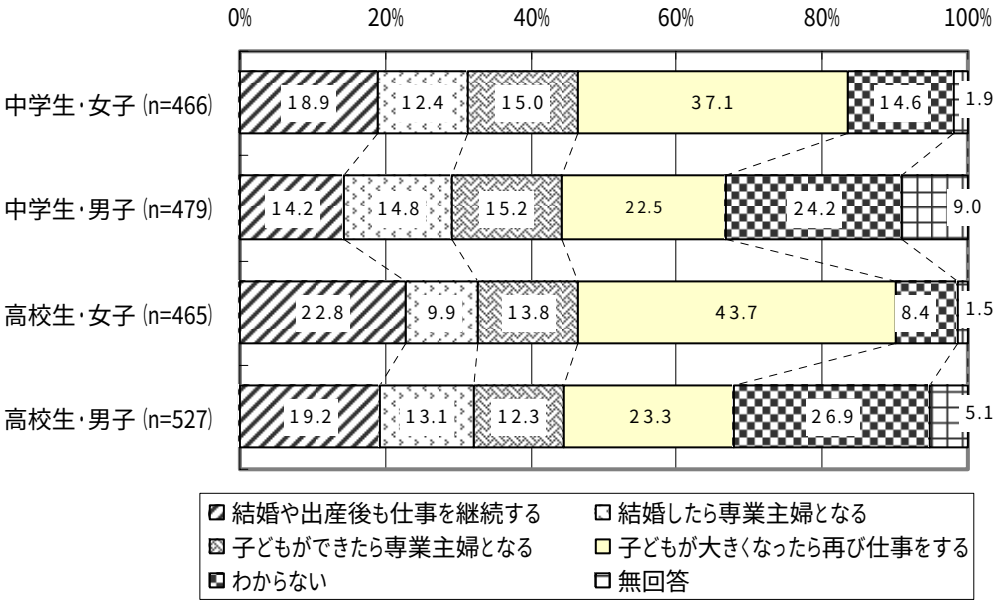


6-2. 女性のライフコースについて

■家族の姿や生き方、子どもへの接し方が子どもの将来のライフコースに影響を与える。

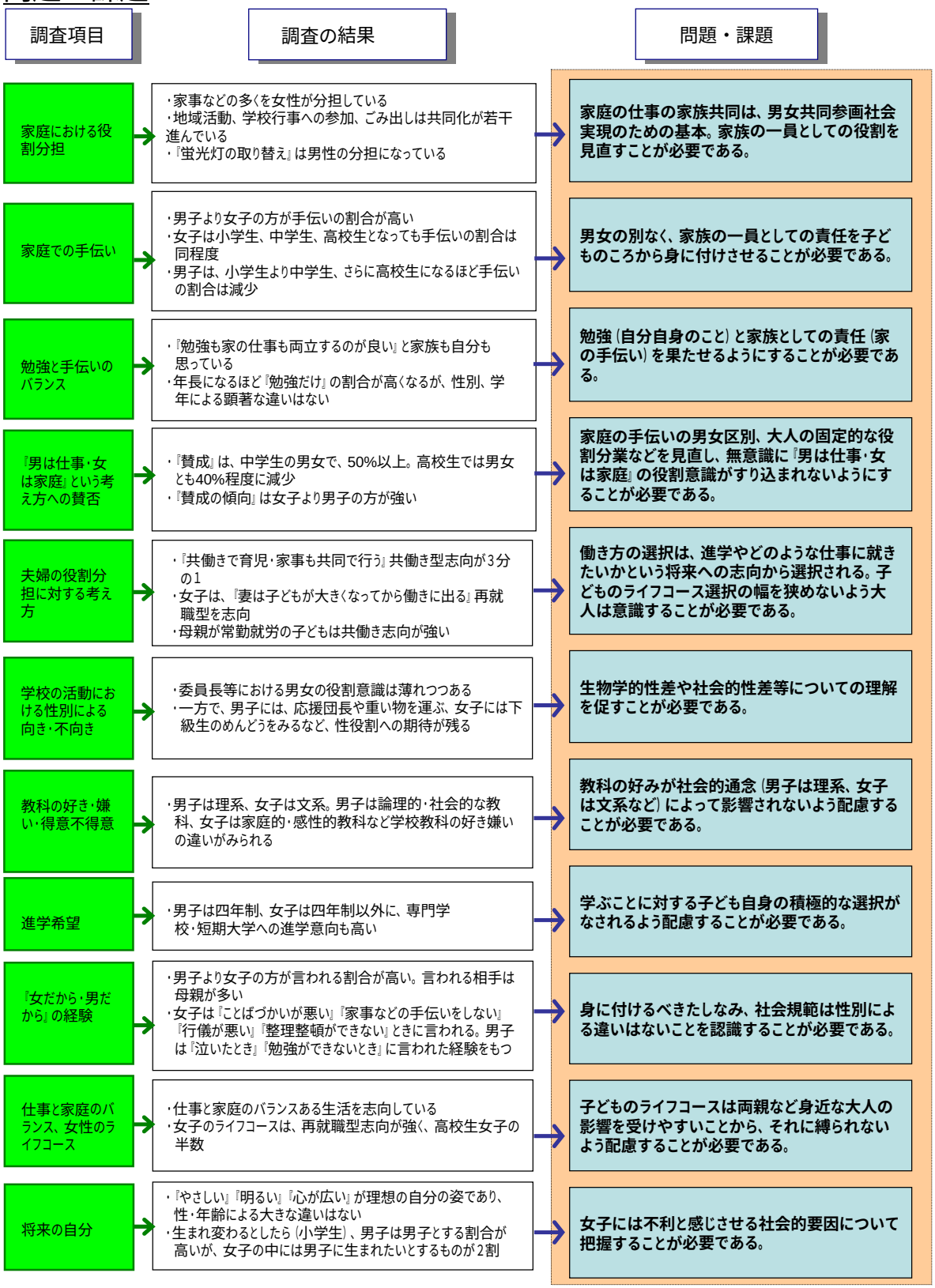
- 女性のライフコースについてみると、「子どもが大きくなったら再び仕事をする」再就職型の志向性が強く、特に中学生女子で約 37%、高校生女子では約 44%であり、男子が中学生・高校生共に 29%程度であることと比較して、高い割合となっている。
- 女性のライフコースの志向は、身近な大人である母親の影響が強いとみられ、母親が常勤世帯の子どもは、専業主婦世帯の子どもと比較して継続型を志向する傾向がある。
- 子どもが自分のライフコースをどのように選択するかは自由であるべきだが、手本となる大人が、女性は再就職が望ましいということを無意識のうちに伝えているとすれば、子どもの将来の選択肢は極めて限定され、多様な可能性を発揮する機会を失うことになる。
- 家庭における両親の振るまいや言動は、子どもの可能性を引き出しもするが、つぶすこともあることを認識しておくことが必要である。

図表 V-31 女性の生き方としてどれが望ましいか



Ⅵ.　問題･課題と今後の取組の方向性

問題・課題

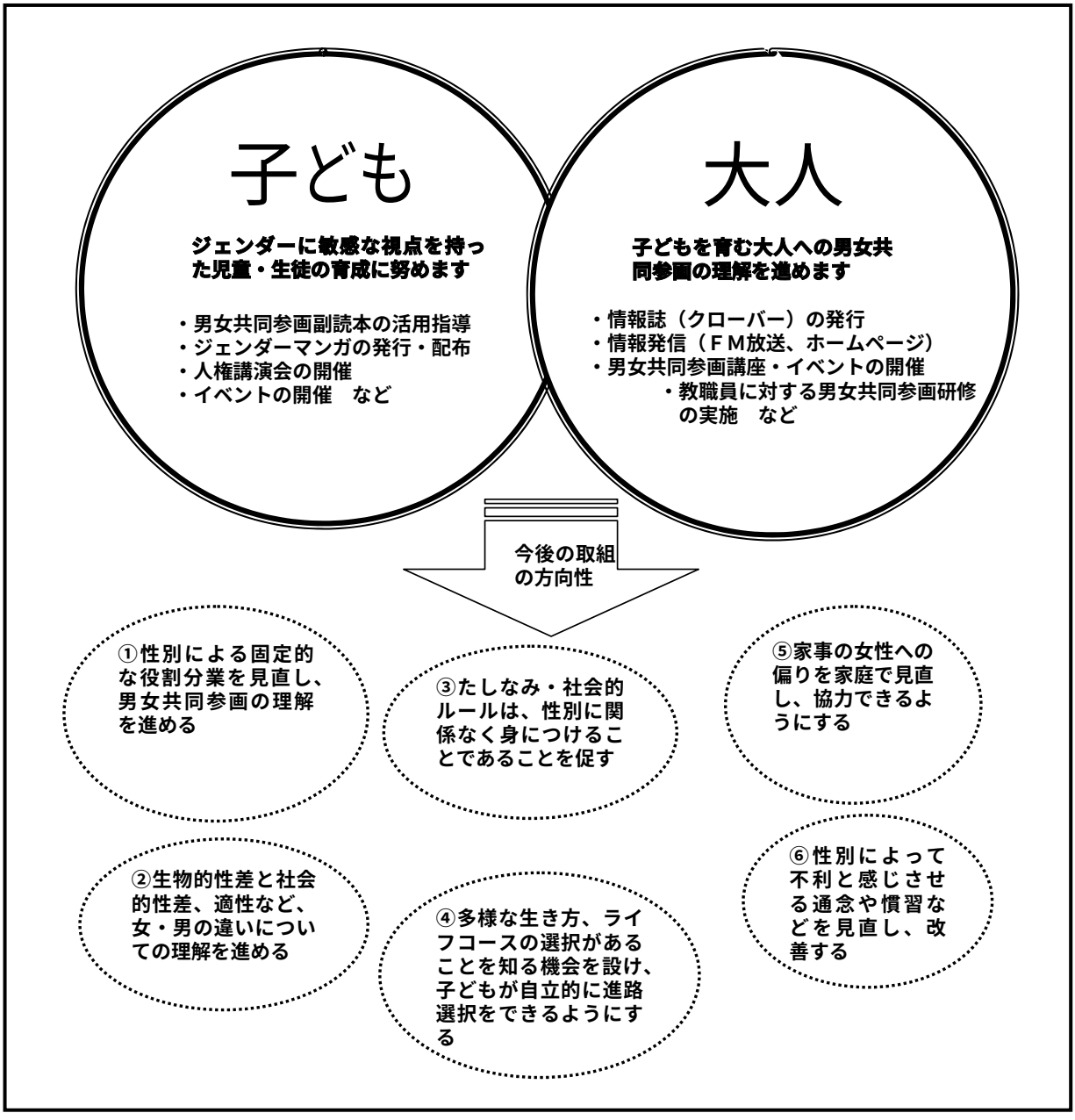


取組の現状と今後の方向性

子どもたちは、親や大人の姿を手本として育ちます。子どもたちが男女共同参画に関する正しい知識が持てるよう、大人自身が自らの考え方や行動について、女・男という従来からの固定的な役割分業を見直していくことが必要です。そして、子どもたちが家庭や学校での生活や将来に向け、あらゆる選択をするときには性別にとらわれず、個性と能力に応じた進路を選択してほしいものです。

本市としては、今回調査を行い導き出した次の６つの方向性をもとに、現在進めている事業をより実効性のあるものとし、新たな取組（事業）への指針としていきます。

男女共同参画プランにおける現在の取組



参考：子どもの男女共同参画に関する意識調査

－「学校・家庭における経験や意識に関するアンケート調査」より－

調査票

□小学生アンケート調査票

□中学生アンケート調査票

□高校生アンケート調査票

学校･家庭における経験や意識に関するアンケート調査

小学生用

【調査協力のお願い】

市役所では、男でも女でもみんながお互いの良いところをいかして、いきいきとくらしていける社会（男女共同参画社会）になるように、いろいろな取組みをしています。そこで今回、みなさんの思っていることなどを聞き、これからの計画づくりの参考にしたいのでご協力をお願いします。

みなさんが答えた内容は、この調査の目的以外には使いません。また、名前は書かないため、誰が書いたかは分かりませんので、あなたが思うことをありのままに答えてください。答えたくない質問や答えられない質問については、答えなくてもよいです。

平成１９年９月

豊田市長　鈴木公平

1　はじめに、あなたの性別、家族について教えてください。

問1　性別（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　男子　　2　女子

問2　あなたの家族の構成は次のうちどれですか（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　二世代世帯（親とあなたや兄弟姉妹）
2　三世代世帯（祖父母と親とあなたや兄弟姉妹）
3　その他の世帯

問3　お父さん、お母さんの主な仕事は何ですか。いくつかの仕事をしている場合には、もっともよくやっている仕事について回答してください。（お父さん、お母さん、それぞれ、あてはまる番号１つに○を付けてください。）

	お父さん	お母さん
1　会社員・公務員（正社員として仕事をしている）	1	1
2　自営業（農業、店などを自ら経営している）	2	2
3　パートや内職の仕事をしている	3	3
4　仕事をもたず家事をしている	4	4
5　わからない	5	5

2　家での生活について教えてください。

問4　あなたの家では、次のことはだれが主にしていますか。（ａ～ｋのそれぞれについてあてはまる番号１つに○）

	男の人	男の人も女の人も同じくらい	女の人	わからない
a　夕食のしたく	**1**	**2**	**3**	**4**
b　夕食のあとかたづけ	**1**	**2**	**3**	**4**
c　家の中のそうじ	**1**	**2**	**3**	**4**
d　せんたく・せんたく物を干すこと	**1**	**2**	**3**	**4**
e　せんたく物の取り入れ・たたむこと	**1**	**2**	**3**	**4**
f　普段の日の食事のかいもの	**1**	**2**	**3**	**4**
g　ごみ出し	**1**	**2**	**3**	**4**
h　学校行事への参加	**1**	**2**	**3**	**4**
i　地域の活動	**1**	**2**	**3**	**4**
j　風呂に一番先に入ること	**1**	**2**	**3**	**4**
k　蛍光灯の取りかえ	**1**	**2**	**3**	**4**

問５　あなたが、家の中でやっている手つだいはどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

1　夕食のしたく	2　夕食のあとかたづけ
3　家の中のそうじ（自分の部屋以外）	4　せんたく・せんたく物を干す
5　せんたく物の取り入れ・たたむ	6　買い物（家族といっしょの場合を除く）
7　ごみ出し	8　妹・弟、または介護を必要とする人の世話
9　その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）	

問６　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号　［　　］

b　自分の考えの番号　［　　］

1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手伝うべきだ
4　わからない

3　学校での生活について教えてください。

問 7　学校の行事や係・委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。（a～hのそれぞれについてあてはまる番号１つに○）

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a 委員会の委員長	1	2	3	4
b 委員会の副委員長	1	2	3	4
c 運動会の応援団長	1	2	3	4
d 学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e 重いものを運ぶこと	1	2	3	4
f 整理整頓をすること	1	2	3	4
g 下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
h 名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

問 8　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ３つ以内で答えてください。

a　好きな教科の番号			
b　嫌いな教科の番号			
c　得意な教科の番号			
d　苦手な教科の番号			

1　国語	2　社会	3　算数
4　理科	5　音楽	6　図画工作
7　体育	8　家庭科	

４　あなたの日常の経験や考え方を教えてください。

問 9　あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「女の子だから○○しなさい」「女の子のくせに○○」「男の子だから○○しなさい」「男の子くせに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号１つに○）

1　よく言われる 2　ときどき言われる	→「１」「２」と答えた人は、問１０に進んでください。
3　言われたことがない 4　覚えていない・わからない	→「３」「４」と答えた人は、問１２に進んでください。

「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と答えた人は次の質問に答えてください。

問 10　問９で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と答えた人にお聞きします。だれから言われることが多いですか。（あてはまる番号すべてに○）

1　お父さん	2　お母さん	3　おじいさん	4　おばあさん
5　兄・弟	6　姉・妹	7　男の友だち	8　女の友だち
9　男の先生	10　女の先生	11　近所のおじさん	12 近所のおばさん
13　その他			

問 11　問９で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と答えた人にお聞きします。どのようなときに言われましたか。（あてはまる番号すべてに○）

1　ことばづかいが悪いとき	2　家事などの手つだいをしないとき
3　整理整頓（せいりせいとん）ができないとき	4　あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき
5　勉強ができないとき	6　運動ができないとき
7　泣いたとき	8　無駄（むだ）づかいをしたとき
9　夜の帰り時間が遅いとき	10　けんかに負けたとき
11　その他	

問 12　全員にお聞きします。あなたは、どのような人になりたいと思いますか。（○は５つまで）

1　やさしい	2　心が広い	3　活発（かっぱつ）
4　落ち着きがある	5　たくましい	6　よく気がつく
7　意思（いし）が強い	8　勉強ができる	9　運動ができる
10　明るい	11　かっこいい	13　親切（しんせつ）
14　おしゃれ	15　強い	16　リーダーシップがある
17　思いやりがある		

問 13　あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。

1　ぜったい男子	2　どちらかといえば男子	
3　ぜったい女子	4　どちらかといえば女子	5　どちらでもよい

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

学校･家庭における経験や意識に関するアンケート調査

中学生用

【調査協力のお願い】

市役所では、男女が平等な立場に立ち、個性と能力を活かし、充実した生き方を選択できる男女共同参画社会の実現に向けて各種の事業を推進しているところです。そこで今回、みなさんの意識と現状を聞き、今後の計画づくりの基礎資料としたいのでご協力をお願いします。

みなさんが答えた内容は、全て統計的に処理し調査の目的以外には使用しませんので、みなさんにご迷惑のかかることは一切ありません。また、氏名は書かないため、誰が書いたかは分かりませんので、あなたが思うことをありのままに答えてください。答えたくない質問や答えられない質問については、答えなくても結構です。

平成１９年９月

豊田市長　鈴木公平

1　はじめに、あなたの性別、家族について教えてください。

問1　性別（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　男性	2　女性

問2　あなたの家族の構成は次のうちどれですか（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　二世代世帯（親とあなたや兄弟姉妹）
2　三世代世帯（祖父母と親とあなたや兄弟姉妹）
3　その他の世帯

問3　お父さん、お母さんの主な仕事は何ですか。いくつかの仕事をしている場合には、もっともよくやっている仕事について回答してください。（お父さん、お母さん、それぞれ、あてはまる番号１つに○を付けてください。）

	父	母
1　常勤（フルタイムで仕事をしている）	1	1
2　自営業（農業、店などを自ら経営している）	2	2
3　パートや内職の仕事をしている	3	3
4　仕事をもたず家事をしている	4	4
5　わからない	5	5

2　家での生活について教えてください。

問 4　あなたの家では、次のことは誰が主にしていますか。（ａ～ｋのそれぞれについてあてはまる番号１つに○）

	男の人	女の人も男の人も同じくらい	女の人	わからない
a　夕食のしたく	1	2	3	4
b　夕食のあとかたづけ	1	2	3	4
c　家の中の掃除	1	2	3	4
d　洗濯･洗濯物干すこと	1	2	3	4
e　洗濯物の取り入れ･たたむこと	1	2	3	4
f　食事のかいもの	1	2	3	4
g　ごみ出し	1	2	3	4
h　学校行事への参加	1	2	3	4
i　地域の活動	1	2	3	4
j　風呂に一番先に入ること	1	2	3	4
k　蛍光灯の取替え	1	2	3	4

問 5　あなたが、家の中でやっている手伝いはどれですか。（あてはまる番号全てに○）

1　夕食のしたく	2　夕食のあとかたづけ
3　家の中の掃除（自分の部屋以外）	4　洗濯･ 洗濯物干し
5　洗濯物の取り入れ･ たたむ	6　買い物（家族といっしょの場合を除く）
7　ごみ出し	8　妹･ 弟、または介護を必要とする人の世話
9　その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）	

問 6　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号　[　　]

b　自分の考えの番号　[　　]

1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手伝うべきだ
4　わからない

問 7　『男性が外で仕事をして収入を得て、女性は家庭にいて、育児や家事などを分担する』という考え方があります。
あなたは、こういう考え方をどう思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　よいと思う（賛成）
2　どちらかというとよいと思う（どちらかというと賛成）
3　あまりそう思わない（どちらかというと反対）
4　まったくそう思わない（反対）
5　どちらでもない

問 8　あなたは将来、結婚した場合にはどのような夫婦になりたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　二人とも働きながら、育児や家事なども共同で行う
2　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなっても育児・家事に専念する
3　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る
4　妻が外で働き、夫が育児・家事を行う
5　その他

3　学校での生活について教えてください。

問 9　学校の行事や係・委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。（a～h のそれぞれについてあてはまる番号１つに○）

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a　生徒会や委員会の会長や委員長	1	2	3	4
b　生徒会や委員会の副会長や副委員長	1	2	3	4
c　運動会の応援団長	1	2	3	4
d　学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e　重いものを運ぶこと	1	2	3	4
f　整理整頓（せいりせいとん）をすること	1	2	3	4
g　下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
h　名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

問 10　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ３つ以内で答えてください。

a　好きな教科の番号			
b　嫌いな教科の番号			
c　得意な教科の番号			
d　苦手な教科の番号			

1　国語	2　社会	3　数学
4　理科	5　英語	6　音楽
7　美術	8　保健体育	9　技術･家庭科

問 11　あなたは、次のうちどこまで進学したいと思っていますか。（あてはまる番号１つに○）

1　高等学校	2　専門学校（高卒後の専門学校）	3　短期大学
4　４年制大学	5　大学院	6　その他

４　あなたの日常の経験や考えを教えてください。

問 12　あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「男の子だから○○しなさい」「男の子のくせに○○」「女の子だから○○しなさい」「女の子のくせに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号１つに○）

1　よく言われる
2　ときどき言われる　→「１」「２」と答えた人は、問１３に進んでください。
3　言われたことがない
4　覚えていない･わからない　→「３」「４」と答えた人は、問１５に進んでください。

「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人は次の質問に答えてください。

問 13　問１２で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人におたずねします。だれから言われることが多いですか。（あてはまる番号全てに○）

1　父	2　母	3　祖父	4　祖母
5　兄･弟	6　姉･妹	7　男の友だち	8　女の友だち
9　男の先生	10　女の先生	11　近所のおじさん	12 近所のおばさん

13　その他

問 14　<u>問 13 で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人におたずねします。</u>どのようなときに言われましたか。（あてはまる番号全てに○）

1　ことばづかいが悪いとき	2　家事などの手つだいをしないとき
3　整理整頓（せいりせいとん）ができないとき	4　あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき
5　勉強ができないとき	6　運動ができないとき
7　泣いたとき	8　無駄（むだ）づかいをしたとき
9　夜の帰り時間が遅いとき	10　けんかに負けたとき
11　その他	

問 15　<u>全員にお聞きします。</u>あなたは、どのような人になりたいと思いますか。（○は５つまで）

1　やさしい	2　心が広い	3　活発
4　落ち着きがある	5　たくましい	6　よく気がつく
7　意思が強い	8　勉強ができる	9　運動ができる
10　明るい	11　かっこいい	13　親切
14　おしゃれ	15　強い	16　リーダーシップがある
17　思いやりがある		

問 16　「男は男らしくする・女は女らしくする」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　まったく、そのとおりだと思う	2　まあ、そうかもしれないと思う
3　あまりそう思わない	4　まったくそう思わない
5　どちらでもない	

5　将来の生き方に対する考えを教えてください。

問 17　結婚したという前提で答えてください。あなたは将来、仕事とそれ以外の生活をどのようにしたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　仕事を中心とした生活
2　仕事と家庭のバランスがとれた生活
3　仕事は生活できる程度にして、家庭や家族と過ごすことを重視した生活
4　家事を中心とした生活
5　その他

問 18　結婚して子どもができるという前提で答えてください。あなたは、女性の生き方として、どれが望ましいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　結婚や出産などがあっても、仕事も継続していく生き方
2　結婚するまで仕事をするが、結婚したら家庭にはいって専業主婦となる生き方
3　結婚しても仕事は続けるが、子どもができたら家庭にはいって専業主婦となる生き方
4　結婚したり、子どもができたりしたら仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする生き方
5　わからない

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

学校･家庭における経験や意識に関するアンケート調査

高校生用

【調査協力のお願い】

市役所では、男女が平等な立場に立ち、個性と能力を活かし、充実した生き方を選択できる男女共同参画社会の実現に向けて各種の事業を推進しているところです。そこで今回、みなさんの意識と現状を聞き、今後の計画づくりの基礎資料としたいのでご協力をお願いします。

みなさんが答えた内容は、全て統計的に処理し調査の目的以外には使用しませんので、みなさんにご迷惑のかかることは一切ありません。また、氏名は書かないため、誰が書いたかは分かりませんので、あなたが思うことをありのままに答えてください。答えたくない質問や答えられない質問については、答えなくても結構です。

平成１９年９月

豊田市長　鈴木公平

1　はじめに、あなたの性別、家族について教えてください。

問1　性別（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　男性　　2　女性

問2　あなたの家族の構成は次のうちどれですか（あてはまる番号１つに○を付けてください。）

1　二世代世帯（親とあなたや兄弟姉妹）
2　三世代世帯（祖父母と親とあなたや兄弟姉妹）
3　その他の世帯

問3　お父さん、お母さんの主な仕事は何ですか。いくつかの仕事をしている場合には、もっともよくやっている仕事について回答してください。（お父さん、お母さん、それぞれ、あてはまる番号１つに○を付けてください。）

	父	母
1　常勤（フルタイムで仕事をしている）	1	1
2　自営業（農業、店などを自ら経営している）	2	2
3　パートや内職の仕事をしている	3	3
4　仕事をもたず家事をしている	4	4
5　わからない	5	5

2　家での生活について教えてください。

問 4　あなたの家では、次のことは誰が主にしていますか。（a～kのそれぞれについてあてはまる番号１つずつに○）

	男の人	女の人も男の人もくらい同じ	女の人	わからない
a 夕食のしたく	1	2	3	4
b 夕食のあとかたづけ	1	2	3	4
c 家の中の掃除	1	2	3	4
d 洗濯･洗濯物干すこと	1	2	3	4
e 洗濯物の取り入れ･たたむこと	1	2	3	4
f 食事のかいもの	1	2	3	4
g ごみ出し	1	2	3	4
h 学校行事への参加	1	2	3	4
i 地域の活動	1	2	3	4
j 風呂に一番先に入ること	1	2	3	4
k 蛍光灯の取替え	1	2	3	4

問 5　あなたが、家の中でやっている手伝いはどれですか。（あてはまる番号全てに○）

1　夕食のしたく	2　夕食のあとかたづけ
3　家の中の掃除（自分の部屋以外）	4　洗濯･ 洗濯物干し
5　洗濯物の取り入れ･ たたむ	6　買い物（家族といっしょの場合を除く）
7　ごみ出し	8　妹･ 弟または、介護を必要とする人の世話
9　その他（あなたの家庭での役割を具体的に記入：　　）	

問 6　勉強と家の手つだいについて、家族はどのような考えをもっているとあなたは思いますか。また、自分はどう思っているかそれぞれ答えてください。

a　家族の考えの番号　［　　］

b　自分の考えの番号　［　　］

1　勉強をいっしょうけんめいやっていれば、家の手つだいはやらなくてもよい
2　勉強も家の仕事も両方するのがよい
3　勉強よりも、家の仕事を手伝うべきだ
4　わからない

問 7　『男性が外で仕事をして収入を得て、女性は家庭にいて、育児や家事などを分担する』という考え方があります。
あなたは、こういう考え方をどう思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　よいと思う（賛成）
2　どちらかというとよいと思う（どちらかというと賛成）
3　あまりそう思わない（どちらかというと反対）
4　まったくそう思わない（反対）
5　どちらでもない

問 8　あなたは将来、結婚した場合にはどのような夫婦になりたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　二人とも働きながら、育児や家事なども共同で行う
2　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなっても育児・家事に専念する
3　夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る
4　妻が外で働き、夫が育児・家事を行う
5　その他

3　学校での生活について教えてください。

問 9　学校の行事や係・委員などで、次のものは男女のどちらに向いていると思いますか。（a～gのそれぞれについてあてはまる番号１つに○）

	男子に向いている	どちらでもよい	女子に向いている	わからない
a　生徒会や委員会の会長や委員長	1	2	3	4
b　生徒会や委員会の副会長や副委員長	1	2	3	4
c　運動会の応援団長	1	2	3	4
d　学習グループのリーダーや班長	1	2	3	4
e　重いものを運ぶこと	1	2	3	4
f　下級生や新入生のめんどうをみること	1	2	3	4
g　名前を呼ぶときに「○○さん」と呼ぶこと	1	2	3	4

問 10　下の枠の中から、好きな教科、嫌いな教科、自分で得意だと思う教科、苦手だと思う教科をそれぞれ３つ以内で答えてください。

a　好きな教科の番号			
b　嫌いな教科の番号			
c　得意な教科の番号			
d　苦手な教科の番号			

1　国語	2　地歴･公民	3　数学
4　理科（物理･化学･生物･地学）	5　英語	6　音楽
7　美術	8　書道	9　保健体育
10　家庭科	11　情報	

問 11　あなたは、次のうちどこまで進学したいと思っていますか。（あてはまる番号１つに○）

1　高等学校	2　専門学校（高卒後の専門学校）	3　短期大学
4　４年制大学	5　大学院	6　わからない

４　あなたの日常の経験や考え方を教えてください。

問 12　あなたは家族や友人、学校の先生などまわりの人から「男の子だから○○しなさい」「男の子のくせに○○」「女の子だから○○しなさい」「女の子のくせに○○」と言われたことがありますか。（あてはまる番号１つに○）

1　よく言われる
2　ときどき言われる　→「１」「２」と答えた人は、問１３に進んでください。
3　言われたことがない
4　覚えていない･わからない　→「３」「４」と答えた人は、問１５に進んでください。

「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人は次の質問に答えてください。

問 13　問１２で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人におたずねします。だれから言われることが多いですか。（あてはまる番号全てに○）

1　父	2　母	3　祖父	4　祖母
5　兄･弟	6　姉･妹	7　男の友だち	8　女の友だち
9　男の先生	10　女の先生	11　近所のおじさん	12 近所のおばさん

13　その他

問 14　問 13 で「１　よく言われる」「２　ときどき言われる」と回答した人におたずねします。どのようなときに言われましたか。（あてはまる番号全てに○）

1　ことばづかいが悪いとき	2　家事などの手つだいをしないとき
3　整理整頓ができないとき	4　あぐらなど行儀の悪い座り方をしたとき
5　勉強ができないとき	6　運動ができないとき
7　泣いたとき	8　無駄づかいをしたとき
9　夜の帰り時間が遅いとき	10　けんかに負けたとき
11　その他	

問 15　全員にお聞きします。あなたは、どのような人になりたいと思いますか。（○は５つまで）

1　やさしい	2　心が広い	3　活発
4　落ち着きがある	5　たくましい	6　よく気がつく
7　意思が強い	8　勉強ができる	9　運動ができる
10　明るい	11　かっこいい	13　親切
14　おしゃれ	15　強い	16　リーダーシップがある
17　思いやりがある		

問 16　「男は男らしくする・女は女らしくする」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　まったく、そのとおりだと思う	2　まあ、そうかもしれないと思う
3　あまりそう思わない	4　まったくそう思わない
5　どちらでもない	

5　将来の生き方に対する考えを教えてください。

問 17　結婚したという前提で答えてください。あなたは将来、仕事とそれ以外の生活をどのようにしたいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　仕事を中心とした生活
2　仕事と家庭のバランスがとれた生活
3　仕事は生活できる程度にして、家庭や家族と過ごすことを重視した生活
4　家事を中心とした生活

5　その他

問 18　結婚して子どもができるという前提で答えてください。あなたは、女性の生き方として、どれが望ましいと思いますか。（あてはまる番号１つに○）

1　結婚や出産などがあっても、仕事も継続していく生き方
2　結婚するまで仕事をするが、結婚したら家庭にはいって専業主婦となる生き方
3　結婚しても仕事は続けるが、子どもができたら家庭にはいって専業主婦となる生き方
4　結婚したり、子どもができたりしたら仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする生き方
5　わからない

問 19　ご両親と同居している人にお聞きします。あなたのご両親は、家庭で次のようなことがありますか。（あてはまる番号全てに○）

1　父が母を怒鳴りつけたり、ばかにしたり批判する
2　母が父を怒鳴りつけたり、ばかにしたり批判する
3　父が母を蹴(け)ったり、叩いたりする
4　母が父を蹴(け)ったり、叩いたりする
5　父が母に生活費以外のお金を渡さない
6　母が父に生活費以外のお金を渡さない
7　父は、母が友人などと外出したり、帰りが遅くなったりすることを許さない
8　母は、父が友人などと外出したり、帰りが遅くなったりすることを許さない
9　父は、母が苦しんだり、悲しんだりするようなことをわざとする
10　母は、父が苦しんだり、悲しんだりするようなことをわざとする

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

子どもの男女共同参画に関する意識調査報告書

「学校・家庭における経験や意識に関するアンケート調査」より

平成２０年３月

キラリ☆と輝くことのできる社会を目指して
キラッ☆とよた
とよた男女共同参画センター

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-25
豊田産業文化センター2階（月曜休館）
TEL 0565-31-7780 ／ FAX 0565-31-3270
Eメール clover@city.toyota.aichi.jp
ホームページ http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/